

647-199



1200501568569

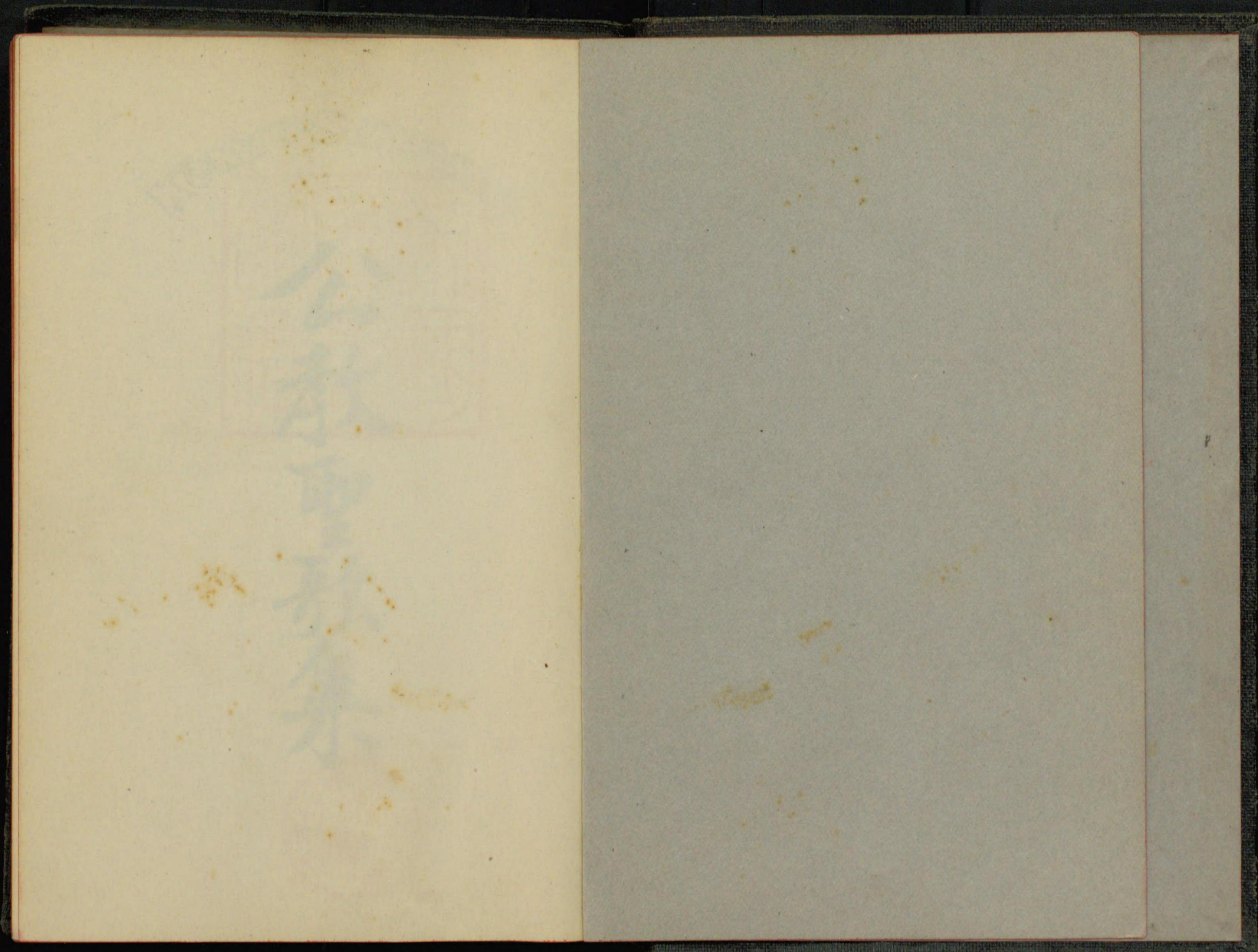
47
199



199

納

車



KŌMYŌ-SUKASIMŪ



聖歌集



KŌMYŌ-SUKASIMŪ

647-199

序

靈あるもの誰か歌なかるべき。況んや心琴の處るべきに處り、靈感の呼應、聖心の交響、その時に適へるに於いてをや。聖使徒は曰へり。

聖靈に満たされよ

詩詠、讚美の聖歌の中に互ひに語れ

心々に主に歌うたひ奏でまつれ、と。

聖アウグスチノは其の入信の楔を自ら曰はずや。

妙に調ひし爾の聖會の歌の如何に我が心を打ちしか。その讚美の聲に我が泣きしこと幾許ぞ。耳朶に流れ入るその響き。眞理は忽ちにしてわが胸底に滴り落ちて、敬虔の念慮率然として湧き、たぎつ涙、また止まるを知らず。あゝ、われは爾の福祉の中に漂ひたりしよ、と。

これや寔に人の心境に一味相貫の自然、超自然交錯の尊き姿にあらずして何ぞや。されば敬虔の徒は聖詩歌の靈城を守るに吝ならず。實に旦には神を稱へ、夕にはシオンを想ひて、

IMPRIMATUR.

Sapporo, die 17. Martii (in festo B. Mariae V. de inventione Christianorum) 1936.

† Wenceslaus KINOLD O. F. M.

Epps. Panemot. et Vic. Apost. de Sapporo.



われ若し、神を想起せず

其の都をば歡びの極きはみとなさずんば

いで我が舌よ、顎あごに附け

いで我が右手よ、藝術たくみを忘れよかし

と、ヘブレアの歌人の泣きしぞ思ほゆる。

今や藝術の母なる聖會、いや榮えに榮えて、讚美の歌の絶ゆる隙なし。聖教の移植、我が邦土に、日や淺き、人や稀なる、歌草の繁り、尙未だ豊饒を告ぐるに到らずといへど、茲に「聖歌集」一卷をものして聖用に供ふ。

神よ、冀くば心よりなる信證の實のりと受け給へかし。謹みて御名を崇めまつり、聖會のみ恵みに答ふるになむ。

新墾しんぺんの野のにかぎろひの草の花 摘みて結びて手むけつるかも

一九三三年 望月 聖母被昇天の日

編纂者識

凡例

一 往年の日本公教會司教會議において、全教區共通用のカトリック聖歌集編纂のことが議決せられ、昭和七年其の依頼を受けた數名の委員の手によつて、編纂が開始せられたのであるが、半途にして時期尙早との意見に遭遇し、一轉して公式聖歌集出版までの豫備として結成されたものが本書である。

一 曲譜は邦人の手に成つたものも數種採つたが、多くは各國の異種多様の物を選集し、主として従來日本に於いて用ゐられた一切の中から、適當と思はれるものを蒐集した。又、歐洲に於て數百年前より使用し來つた恰ど古典的價値を有する曲をそのまま採つたのも可成ある。随つて各歌曲は重厚、輕快、夫々の趣きを有してゐる。それ故に各教會にては、收められた多數の中から好む所の曲譜を自由に選んで用ゐられたい。

一 歌詞に至つては根本的に訂正、新作せられてゐるが、勿論完璧とは信じてゐない。日本にはカトリック聖歌が用ゐられてから年尙淺く、随つて歌詞についても未だ深く留意されてゐない。それだけに又歌詞に對する種々な異見もあり得ることであらう。

一 一體聖歌の價値なるものは、その歌曲と歌詞とが藝術的の香りを含むことのみに依る

のではなくして、實に敬虔の精神に添ふか否かに依るのである。之は各國の經驗が證明してゐる事實である。

一 カトリック聖歌の眞義を悟るにはミサ典禮の精神を味得ることが肝要である。乃ち典禮が客觀的の性質を有つてゐる如く、聖歌も同様の性質を多分に有してゐるのである。其處に時代と作者とを超越した或ものが認められる。

一 本書に收めた聖歌の作曲者、作詞者等、一々その名を記入しない方針をとつたのも、このカトリック典禮の客觀性に照應するものがあるからである。この點は世間一般の歌集や詩書と自ら撰を異にする。

一 典禮に於て許される限り日本語聖歌が一層頻繁に用ゐられることを望みたい。又歌隊のみに限られず、信徒一般が敬虔の念もて齊唱する善習慣の擴まらん事をも併せて希望する。その理由に依つて本書に收められたラテン語聖歌の曲譜も、多くの種類の中から殊更に齊唱に適する簡単なものを選んだ。

一 本書は此の聖歌集の發行に至るまでの多くの人々の勞作、第一に曲譜の選集、第二に歌詞の修正と作詩、第三に印刷と其の困難な校正、其の他の事務等々に於ける夫々の擔任者の必死の努力に就いて、特に第一、第二の點に於いては東京にある公教大神學校に深き感謝を表明し、神がその働きに酬い給はんことを祈る。

「附記」

一 聖歌の唱方うたひかたに就ては緩慢ならぬ様注意を乞ひたいと思ふ。總じて流暢輕快がよい。

二 「折り返し」が最初に置かれてある歌は、本歌と交互に歌ひつゝも、最後にも必ず今一度これを歌つて歌の結びとすることを忘れぬ様に願ひたい。

三 殊に日曜日の「讀誦のミサ」の場合には、一番から十七番までのミサ聖祭の歌のみでなく、聖體の部にあるもの、或は祝日、季節に應じての他の歌をも適宜に用ゐられたい。その聖歌と聖歌との間に、夫々の部分に相當するミサの祈りを挟みつゝ齊誦するのは非常に望ましい事である。然し、又聖體拜領前には共同に或は個人的にその準備の祈禱を爲し得る幾許かの時間が残る様に、聖歌を加減して用ゐる事も大切である。

四 二〇六番の歌は洗禮の時のみではなく、初聖體拜領や堅振の秘蹟の時、又信徒一般の特別の集會の際に信仰宣言を表明するために用ゐる得る。

一〇八番（テ・デウム）の歌は感謝を表す機會に用ゐるに最も適當である。
一九四番より一九九番までの死者と葬禮との歌は、勿論通夜の時などにも用ゐる得られるものである。

五 本書の卷末には一般の便宜に具へて歌詞の簡単な解説を附しておいた。

目次

| | |
|-------|-------|
| 序 | 一頁 |
| 凡例 | 三頁 |
| 目次 | 六頁 |
| 初行索引 | 八頁 |
| ミサ聖祭 | 一—一七 |
| 待降節 | 一八—二二 |
| 御降誕 | 二三—四一 |
| 罪なき嬰兒 | 四一A |
| 新年の歌 | 四二A |
| 聖名 | 四二—四三 |
| 三王來朝 | 四四—四六 |
| 四旬節 | 四七—六二 |
| 悔悛 | 四七—五〇 |
| 御苦難 | 五一—五六 |

| | |
|---------|---------|
| 十字架 | 五七—五九 |
| 悲しみの聖母 | 六〇—六二 |
| 枝の主日 | 六三 |
| 御復活 | 六四—七二 |
| 御昇天 | 七三—七四 |
| 聖靈 | 七五—八一 |
| 三位一體 | 八二 |
| 聖體 | 八三—九四 |
| 聖心 | 九五—一〇七 |
| 主に對する歌 | 一〇八—一一八 |
| 主に對する讚美 | 一〇八—一一〇 |
| 主に求む | 一一一 |
| 主禱文 | 一一二—一一三 |
| 信望愛 | 一一四—一一五 |
| 攝理 | 一一六 |
| 奉獻 | 一一七—一一八 |

| | |
|-----------|---------|
| キリストに對する歌 | 一一九—一二八 |
| キリストに對する歌 | 一一九 |
| 我が主を愛する歌 | 一二〇 |
| 愛の歌 | 一二一 |
| 熱き願ひ | 一二二 |
| 御主を慕ふ | 一二三 |
| 葡萄の樹 | 一二四 |
| 善き牧者 | 一二五 |
| 信賴 | 一二六 |
| 熱心 | 一二七 |
| 王なるキリスト | 一二八 |
| 聖母 | 一二九—一七二 |
| 無原罪の聖母 | 一六〇—一六二 |
| 聖母月 | 一六三—一六六 |
| 聖母の被昇天 | 一六七—一六八 |
| 聖母の御名 | 一六九—一七一 |
| 聖母(小兒用) | 一七二 |

| | |
|---------------|---------|
| 天使 | 一七三—一七七 |
| 大天使聖ミカエル | 一七三 |
| 天使 | 一七四—一七七 |
| 聖人 | 一七八—一九三 |
| 聖ヨゼフ | 一七八—一八〇 |
| 聖ペトロ | 一八一—一八二 |
| 日本聖殉教者 | 一八三—一八五 |
| 聖フランチスコ・ザヴエリオ | 一八六—一八八 |
| アシジの聖フランチスコ | 一八九 |
| 聖アロイジオ | 一九〇 |
| 小さき花の聖テレジア | 一九一 |
| 諸聖人 | 一九二—一九三 |
| 死者 | 一九四—一九五 |
| 葬禮 | 一九六—一九九 |
| 天國 | 二〇〇—二〇一 |

| | |
|----------|---------|
| 雑 | 二〇二—二二二 |
| 聖家族 | 二〇二—二〇三 |
| 聖會 | 二〇四 |
| 救靈の水 | 二〇五 |
| 奉教の誓ひ | 二〇六 |
| 邦國の歌 | 二〇七 |
| 幼兒の歌 | 二〇八 |
| 夕べの歌 | 二〇九 |
| 善き終りを願ふ | 二一〇 |
| 勤行を了へて | 二一一 |
| 聖堂を出づる時 | 二一二 |
| ラテン語聖歌 | 二二三—二三一 |
| パンジエリングア | 二二三 |
| オエスカ | 二二四 |
| アドロテオパニス | 二二五 |
| オサルタリス | 二二六 |

| | |
|------------|---------|
| 附録 | 二二七—二二八 |
| 歌詞小註 | 二六九頁 |
| アドロテデヴォテ | 二二七 |
| パニスアンジエリクス | 二二八 |
| タントウムエルゴ | 二二九—二三四 |
| アドレムス | 二二五—二二六 |
| アレルヤ | 二二七 |
| 聖母 | 二二九—二三一 |
| アヴェマリスステラ | 二二九 |
| インヴァイオラタ | 二三〇 |
| スプトウウム | 二三一 |

初行索引

あ

| | | | |
|-------------|-----|------------|-----|
| あはれみのみこころ | 一〇六 | あやにくすしき | 一七一 |
| あふぐもかしこ | 一〇二 | あらたまのとし | 四二A |
| あふぐもたふと | 四二 | あれきこゆる | 二七 |
| あふげやあふげ | 三六 | アンナのみこ | 一三三 |
| あまつみはは | 一三〇 | い | |
| あめつちをつくり | 一二八 | イ)エズスのみこころ | 一〇三 |
| あめつちの主 | 一六 | いけにへ | 一三 |
| あめつちのわかれし | 一六二 | いざいざよろこべ | 六六 |
| あめなるきさいの | 一四七 | いざやこよ | 九八 |
| あめなるきさいよろこび | 七二 | いざゆかな | 一七〇 |
| あめなるみかみ | 一一八 | いざよのとも | 三五 |
| あめにはみさかえ | 二八 | いざわがのぞみ | 七 |
| あめにみさかえ | 二 | いたましくもたてる | 六〇 |
| あめにますみちち | 一一三 | いとしもきよき | 五 |
| あめにますわれらのちち | 一一二 | いとたかきみはは | 一三六 |
| あめのかど | 一四一 | いにけるそのたま | 一九六 |
| あもりきます | 四五 | いのちのかて | 八七 |
| あはれみのみこころ | 一〇六 | | |
| あふぐもかしこ | 一〇二 | | |
| あふぐもたふと | 四二 | | |
| あふげやあふげ | 三六 | | |
| あまつみはは | 一三〇 | | |
| あめつちをつくり | 一二八 | | |
| あめつちの主 | 一六 | | |
| あめつちのわかれし | 一六二 | | |
| あめなるきさいの | 一四七 | | |
| あめなるきさいよろこび | 七二 | | |
| あめなるみかみ | 一一八 | | |
| あめにはみさかえ | 二八 | | |
| あめにみさかえ | 二 | | |
| あめにますみちち | 一一三 | | |
| あめにますわれらのちち | 一一二 | | |
| あめのかど | 一四一 | | |
| あもりきます | 四五 | | |

いのりする 一五三
 いはへやうたへ 六四
 いばらのかむり 五一
 いまはのゆふげ 九

お)おマリアうましき 一四六
 をさなきをめで 二〇八
 をさなごら 四一A
 おそれなき 四九
 をはりのやすみ 一九七
 オリヅのやま 七三

きけたへなる 二四
 きませすくひぬし 二二
 きませみたまよ 七六
 きみならで 四八
 きよきをとめ 一五五
 きよくたふとき 四
 きよけき主のあい 九六
 きよけきみからだ 八四

うけしみめぐみ 一二
 うけましし 五三
 うつしよ 一四五

かをしたかみ 一五四
 かぜもかをりて 一六四
 かたくなびと 一八三
 かのをかこえ 一三九
 かみこそ 八三
 かみにはみさかえ 三〇
 かみにませば 一一五
 かみのこ 一八二
 かみよみやを 二一二

けがしきめにこそ 一四
 けがれもあらなく 一六一
 けふしいくちよ 一九二
 けふみあるじは 三三

うるはしきよけし 一三一
 うるはしくも 一三二
 うるはしの 一一九
 うるはしき 一六五
 うれしきこのとの 一五〇
 うれひかなしみ 二〇三

お)おを 一八四
 ををししくも 一八四
 お)おせいなる 一八八

こころもきよけき 一六〇
 こよなきめぐみ 五七
 こよひ 二〇九

お

お)おを 一八四
 ををししくも 一八四
 お)おせいなる 一八八

お)おを 一八四
 ををししくも 一八四
 お)おせいなる 一八八

お)おを 一八四
 ををししくも 一八四
 お)おせいなる 一八八

さ

さかえもさちも
ささぐるうた
さつきのきさい
さんみのみかみ

し

シオンよながうた
しきしま
しづけき
しのはり
主こそわがほまれ
主にたのみまつる
しらべもたへ
しらゆり
しろたへのきぬ

す

すくひのみこはくだり

すくひのみこはけふ

そ

そらのかなた

た

たかくたふとく
たがたてつる
たふときつとめ
たふときみやぬち

ち

ちちなるみかみ
ちよろづに
つみびと

と

とどめたまひける

な

なつかしのはは

なべてのたみ

なべてのひと

なみだのかわく

なやみしげき

なやみつかれまし

は

はしきみこ

はしらになひつ

はるはうばら

ひ

ひいづるくに

ひかりもくすし

ひさかたのあまつみそら

ひさかたのあめ

ひさかたのくもる

三二

一四〇

一三四

一八一

二一一

八五

一七九

一六六

八〇

八二

六

八九

一四三

一〇九

二九

一一一

一〇一

五六

四六

五四

一〇〇

二〇七

四四

七八

三九

七四

ひさかたのそのみやこ

ひじり

ひせきにこもり

ひせきにこもれる

ひとごと

ひのもと

ふ

ふけゆくしじま

ふりさけみれば

ほ

ほめよたたへよかみの

ほめよたたへよちよよろづ

ま

まづしきをもとめて

ましてしばし

まなかひに

まぼろしのかげ

マリアさま

み

みいつかぎりなき

みかみのたまひし

みかみはみづから

みこころ

みこそいぶせき

みことそのはは

みこのじふじか

みさかえきみに

みすくひのみづ

みそらにきこゆる

みそらゆく

みたまよあもり

みたまよくだり

みたまよゆたけき

みつかひあきのみやる

一七二

八

一一四

一八〇

一一二

二五

一七八

六一

六三

二〇六

一一六

二六

七七

八一

七五

一六八

みつかひのパン

みつかひののりたまへば

みつかひのをさ

みはくぎうたれ

みはは

みまやのともしび

みめぐみふらせよ

みもたまも

みよやゲツセマニ

め

めでたきかな

めでたし

めにこそ

も

ものみなねむる

もろびとこそぞり

もろびとひれふし

九一

一五七

一七三

五五

一四八

三七

二〇

一一七

一五八

一三七

一五六

八六

三四

九九

一〇

1 ミサ 聖 祭 (一)

ミサの始まる時

さーん みのみかみのみまへーにふし

みーいつかしこみへりーだりて

くーしきみまつりをたーたーたてまつる

ちちなるみかーみこのみこのたーま

きよめてみちびーきませ

三位^{さん}のみかみの
 御稜威^みかしこみ
 奇^くしき聖^み奠^{まつり}を
 ちちなるみかみ
 この身^みこの靈^{たま}
 きよめて
 みちびきませ

やさしきみはは
 やすみしし
 やまとしまね
 やまとには
 やみぢ
 やみにすむひと
 ゆく
 ゆくて
 ゆふづつのかげ
 ゆふやみかげくらく
 ゆふやみせまる
 よ
 よきまきもり
 よにありしとき
 よにたまはりし
 よのいくさ

よろこびたたへよ
 よろこびのいづみ
 よろこびのくに
 よろこべけふぞ
 よろづのくにたみ
 よろづのくに
 よをさるとも
 らうたきみこ
 わ
 わかきひじり
 わがきみイエズス
 わがしゆ
 わがたまのかて
 わがたまのひとりし
 わがたまのみくに
 わがためじふじか

七〇
 一八
 九三
 六七
 六九
 一〇七
 一九八
 四〇
 一九〇
 六八
 一六七
 一一
 一五一
 二一〇
 一二〇

わがとも
 わがみのまもり
 わがみはは
 わがみわがたま
 わたしのむね
 わびしきひのとも
 われをあいして
 われこそひときの
 われらかみをほめ
 われらのはは
 (初行索引終り)

一一六
 一七五
 一六九
 一二七
 一七
 五九
 一一一
 一二四
 一〇八
 一三五

よにたまはりしあめなるさち

くらきをてらすおとづれなり

みことたふとみこころおきて

ちからのかぎりまもりゆかなん

ちからのかぎり
 御言^{みこと}たふとみ
 くらきを照^てらす
 世^よにたまはりし
 あめなるさち
 おとづれなり
 ころおきて
 まもりゆかなん

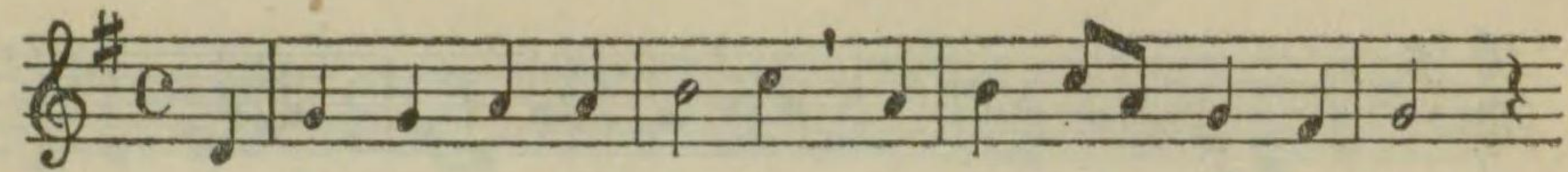
あめにみさかえみかみにあれ

ちはよきひとにやすけさあれ

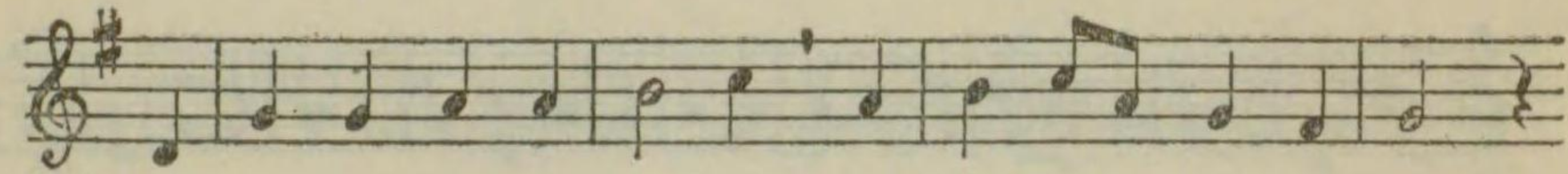
いざみつかひのうたにそへて

われらもみいつあがめまつる

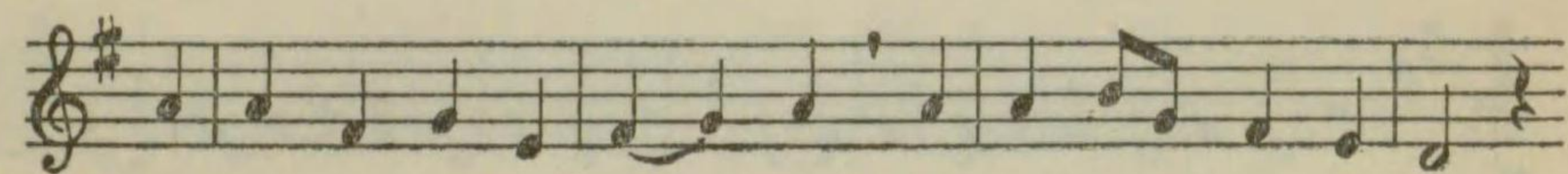
あがめまつる
 われらもみいつ
 いざみつかひの
 うたに添^そへて
 やすけさあれ
 地^ちはよきひとに
 みかみにあれ
 あめにみさかえ



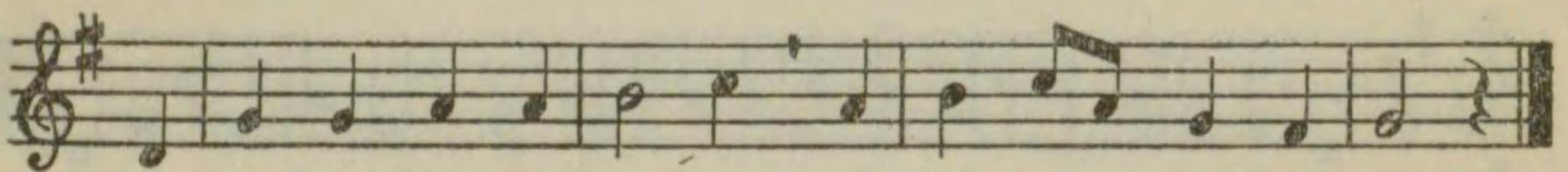
いとしもきよきあまつみかみ



みさかえよよにあまねくあれ

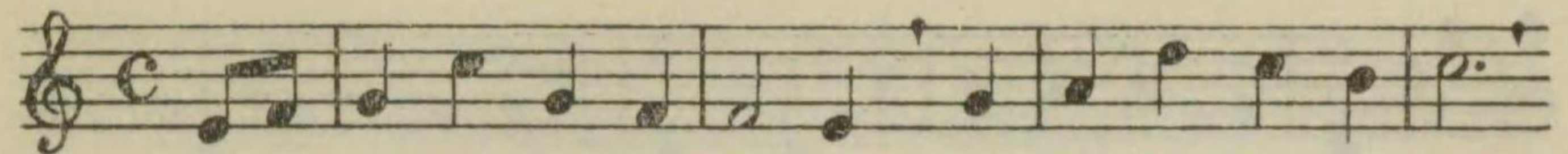


たへなるみい一つあめに一つちに

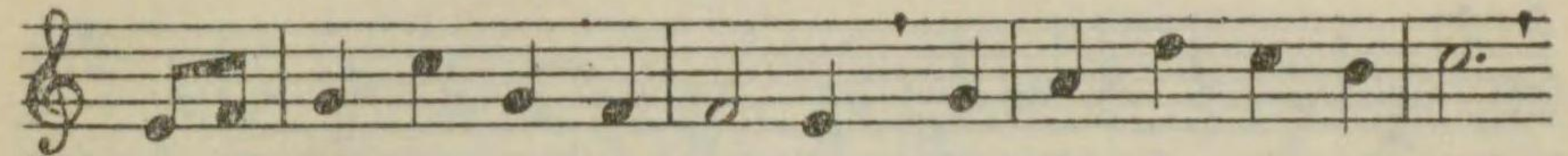


みちみちぬるをあふぎまつる

| | | | | | | | | |
|----|----|----|---|---|----|---|---|---|
| いと | しも | きよ | き | あ | まつ | み | か | み |
| あ | ふ | ぎ | ま | つ | る | あ | ま | ね |
| く | あ | れ | た | へ | な | る | み | い |
| つ | ち | に | あ | め | に | つ | つ | ち |
| に | あ | ふ | ぎ | ま | つ | る | あ | ま |
| つ | る | を | あ | ま | ね | く | あ | れ |
| あ | め | に | つ | つ | ち | に | あ | ま |
| つ | る | を | あ | ふ | ぎ | ま | つ | る |



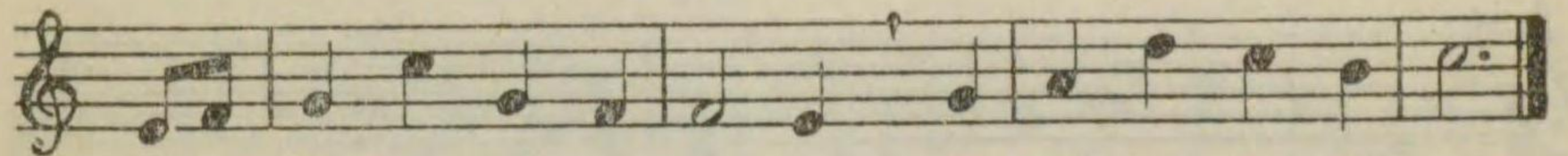
1. きよくたふとき みいけにへを
 2. にへとともみぞ いまささぐる



ささぐるみざに うけたまひて
 わがみわがたま わがわざみな

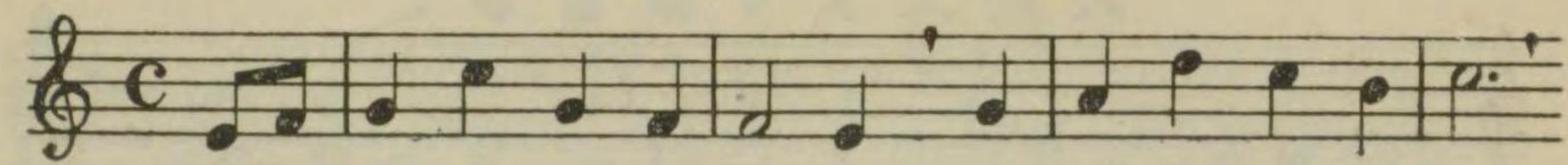


わがつみゆるしとこよのいのち
 きよめたまひてみくらにをさめ

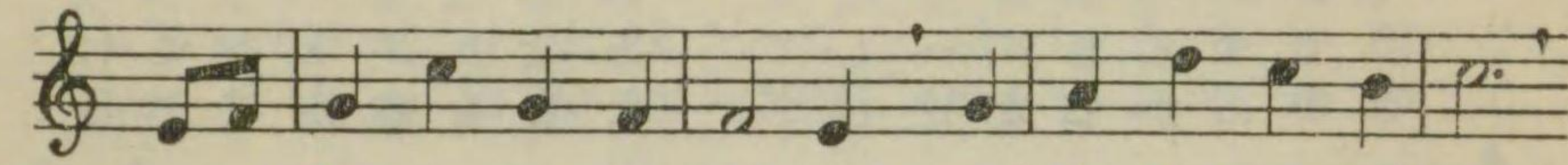


ちちなるかみよさづけたまへ
 あめにゆくみちもらせたまへ

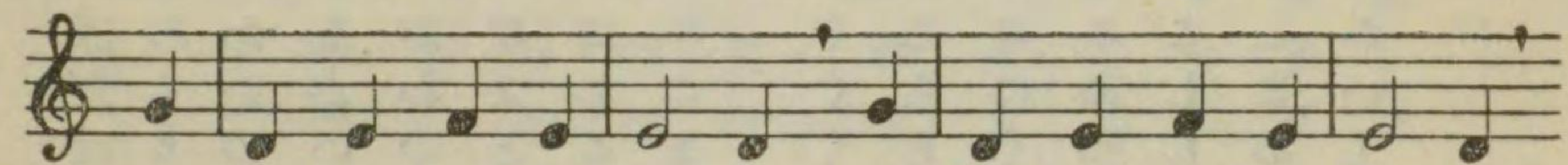
| | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| いと | しも | きよ | く | た | ふ | と | き | み | い | け | に | へ | を |
| あ | ふ | ぎ | ま | つ | る | あ | ま | ね | く | あ | れ | た | へ |
| あ | め | に | つ | つ | ち | に | あ | ま | ね | く | あ | れ | た |
| あ | め | に | つ | つ | ち | に | あ | ま | ね | く | あ | れ | た |
| あ | め | に | つ | つ | ち | に | あ | ま | ね | く | あ | れ | た |
| あ | め | に | つ | つ | ち | に | あ | ま | ね | く | あ | れ | た |
| あ | め | に | つ | つ | ち | に | あ | ま | ね | く | あ | れ | た |
| あ | め | に | つ | つ | ち | に | あ | ま | ね | く | あ | れ | た |
| あ | め | に | つ | つ | ち | に | あ | ま | ね | く | あ | れ | た |



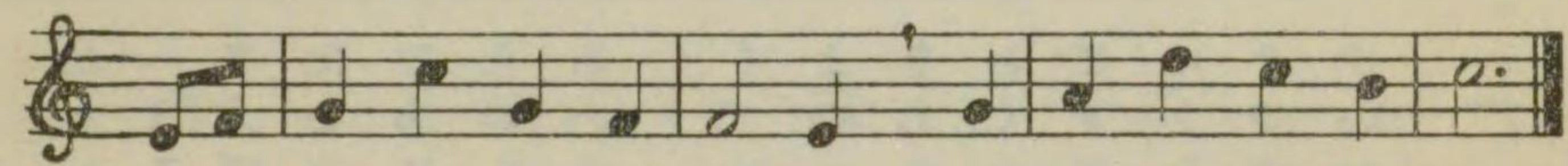
いざわがのぞみ わがいのちよ



いさをしもなく 主をむかへなん

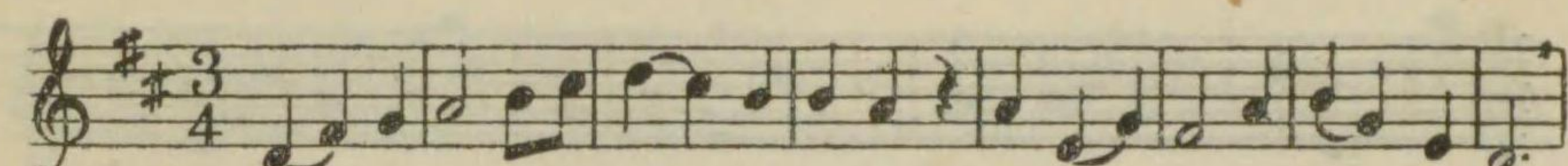


みをふさはしく きよめたまひて

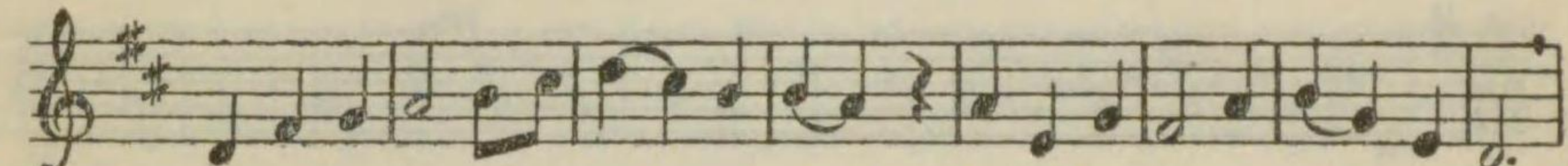


こよなきめぐみ さづけたまへ

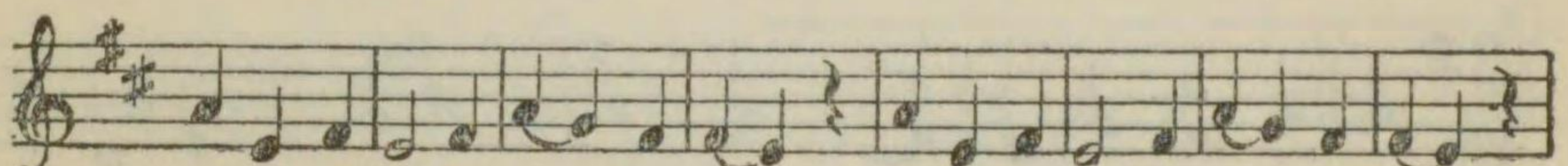
| | | | |
|---|-----------------|---|----|
| こ | 身 ^み | い | い |
| よ | を | さ | ざ |
| な | ふ | を | わ |
| き | さ | し | が |
| め | は | も | いの |
| ぐ | し | な | ち |
| み | く | く | よ |
| | | | |
| さ | 主 ^{しゅ} | | |
| づ | を | | |
| け | 迎 ^{むか} | | |
| た | へ | | |
| ま | な | | |
| へ | ん | | |



つみびとなるみを すくはんためにと



じふじかにつきてながしまししちを

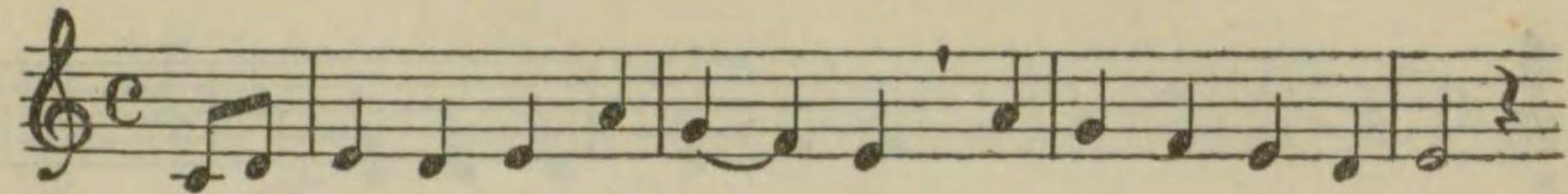


をしへのまにまにひごとささげつつ

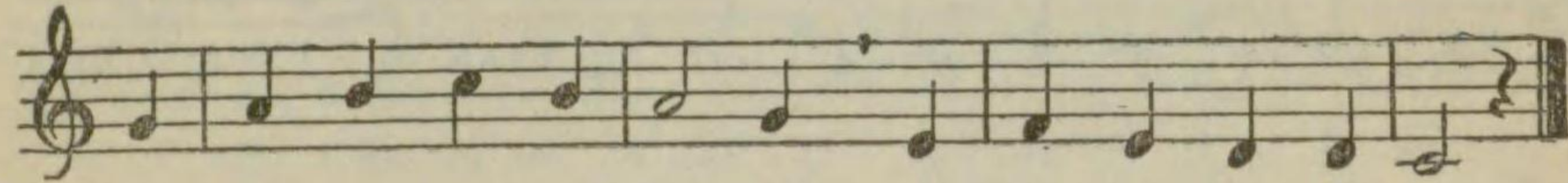


すくひのみめぐみを こひねがひまつる

| | | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|-----------------|
| こ | 救 ^{すく} | 日 ^ひ | 教 ^き | 十 ^じ | つ |
| ひ | ひ | 毎 ^{まい} | へ | 字 ^じ | み |
| 願 ^{ねが} | の | さ | の | 架 ^か | 人 ^{ひと} |
| ひ | み | さ | ま | に | な |
| ま | 恵 ^{めぐ} | さ | に | つ | る |
| つ | み | げ | ま | き | 身 ^み |
| る | を | つ | に | て | を |
| | | つ | 血 ^ち | と | |
| | | | を | | |

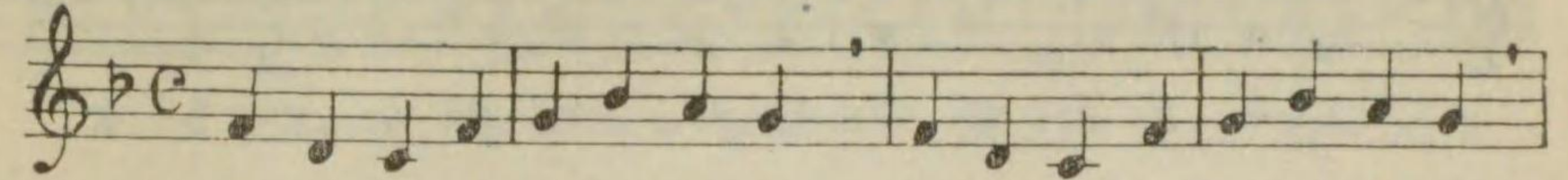


1. いーまはのゆふーげをはりまして
 2. こーはわがからーだこはちしほぞ
 3. かーみのひとりーごはしらつかせる
 4. 主ーよ主よゆめーなわすれやす

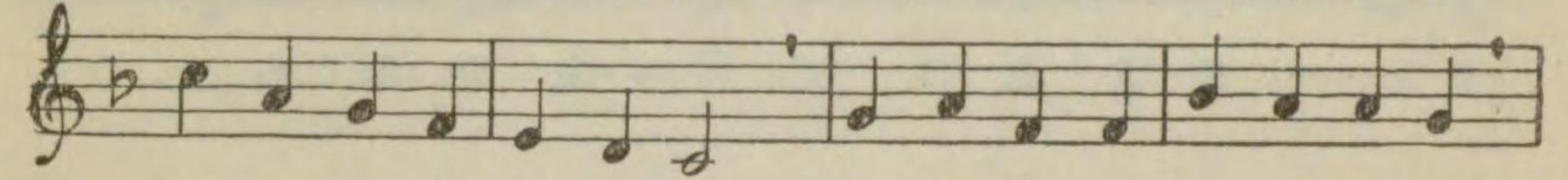


かとのこひつじのりてたまふと
 みこはのなまつかきつらなそくのひみこ
 かいしましめしつぐらくまこ
 あいしなまつかきつらなそくのひみこ

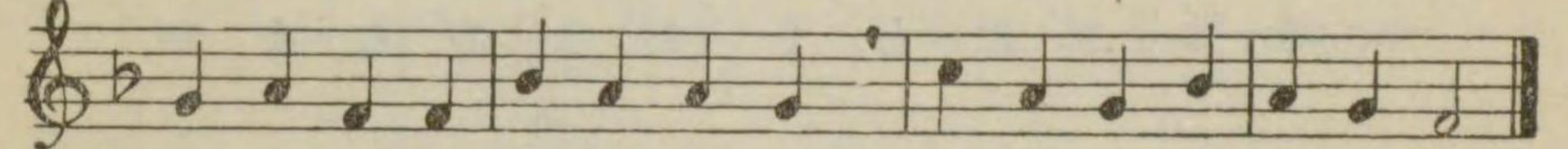
一 いまはのゆふげをはりまして
 二 「こは我がからだこはちしほぞ
 とこはのかたみ守り繼げ」と
 三 かみのひとり子はしら附かせ
 いさをなき身をすくひたまふ
 四 主よ主よゆめなわすれやす
 あいしまつらなそのみことば
 五 すくひのみかみくしき犠牲よ
 わが身わがたまきよめたまへ



1. みいつかぎりなきあめなるみちちよ
 2. くすしきにへしてあなたふとみこは
 3. みあかしさゆらぎたきもののけぶり

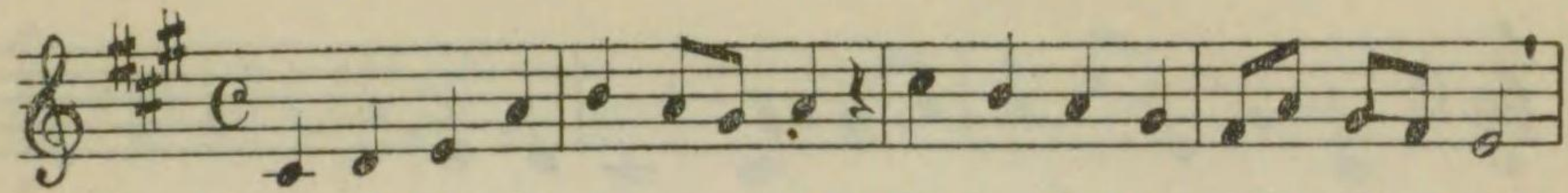


かしましめしつぐらくまこ
 かいしましめしつぐらくまこ
 しめしつぐらくまこ



ゆきのごりとくきよくてあいらひたまへと
 いおほみごのまへにともへのぼると

一 みいつ限りなきあめなるみ父よ
 かしこみ禱らく身は穢しかれば
 雪のごときよくあらひたまへと
 二 奇しき犠牲してあな尊と御子は
 いましめ宣らくこれよわが身體
 いで取り喰ひていのちを得よと
 三 御燈光さゆらぎ燠もののけぶり
 しめし告ぐらくまことの祈りは
 大御座のまへにともへのぼると

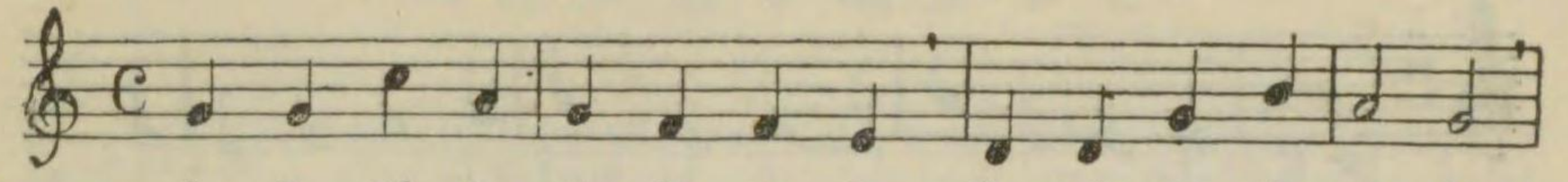


1. わがたまのかてとこしへの主を
 2. 主にありいくるかよわきわれは
 3. きみわがためにじぶじかのうへに

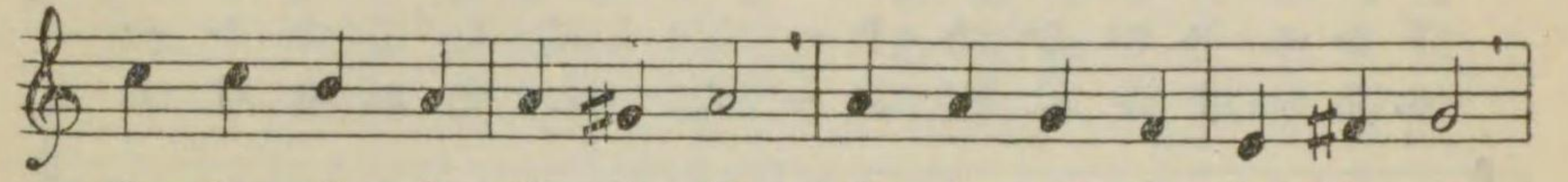


こころにうけていのちえまほし
 そのちとにくにちからえまほし
 いけにへとなりたまひしちかひ

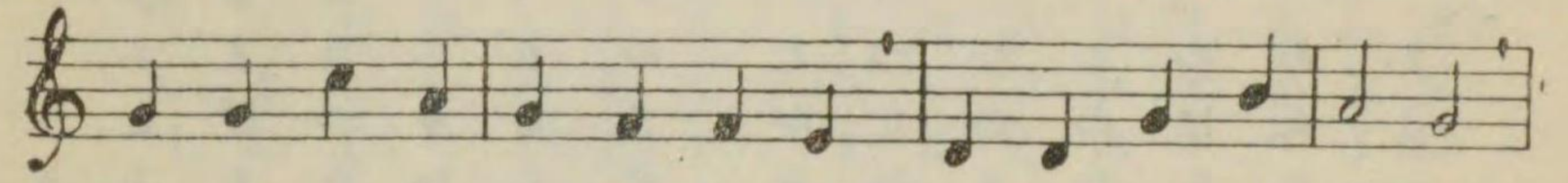
| | | | | | |
|----------------------|--------------------|------------------------|-----------------------|-------------------------|-------------------------|
| 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 |
| 主よ あらねがはくは つくり | いざ主よ 来ませ て | かくもけがれし きよめたすけて | きみ我が ために なり | 主にあり 生くる に | わがたまの かて |
| 全 生かしめたまへ | そなへは なりぬ ん | いやしき われを | 十字架の うへに | かよわき われは | とこしへの 主を |
| | 新 たに 生 きな | 賜 ひ し いの ち | 賜 ひ し 誓 詞 | ちから 得 ま ほ し | いのち 得 ま ほ し |



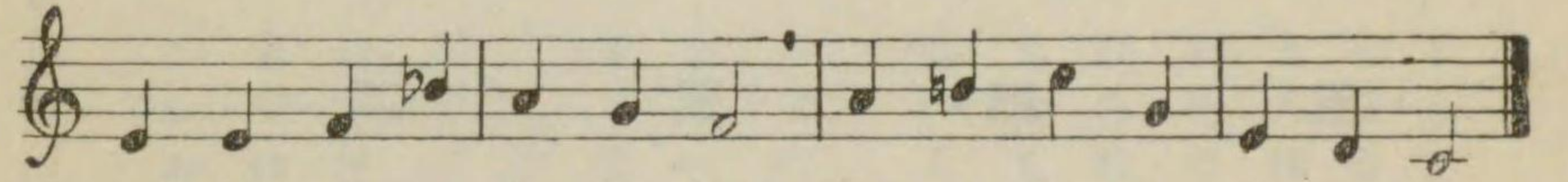
もろびとひれふしをがみまつれ



あもりきませるすくひぬしなり

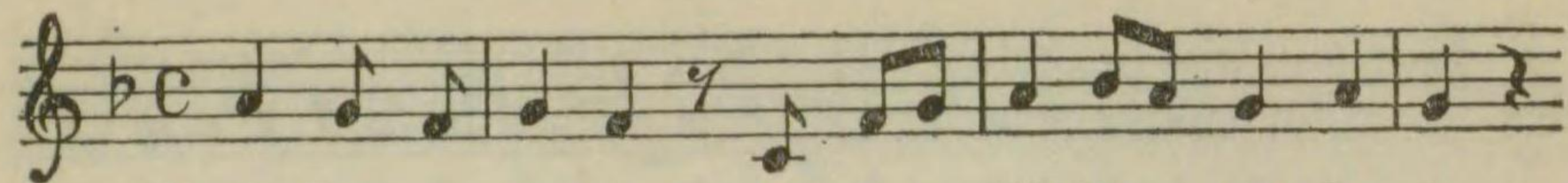


すくひといのちをたまへる主ぞ

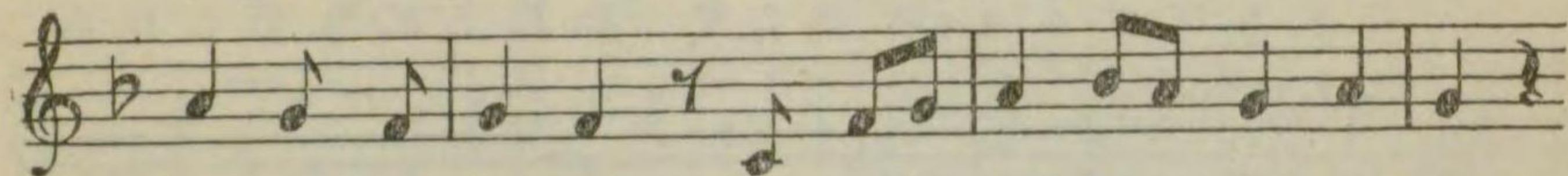


いかでかわれらまつろはでやは

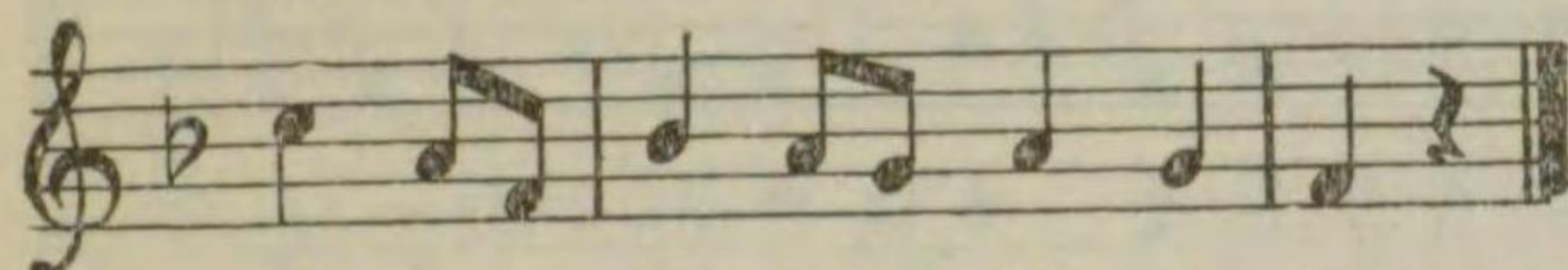
| | | | | | |
|----------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| 奉 ろ は で や は | い か で か わ れ ら | 救 ひ と い の ち を | 天 降 り 來 ま せ る | を が み ま つ れ | も ろ 人 ひ れ ふ し |
| | た ま へ る 主 ぞ | す く ひ 主 な り | | | |



1. いけにへを ささげまつらふて
 2. わがためにいのちをさす
 3. あさごとくにささぐるにへに
 4. じふじかのにへのためし

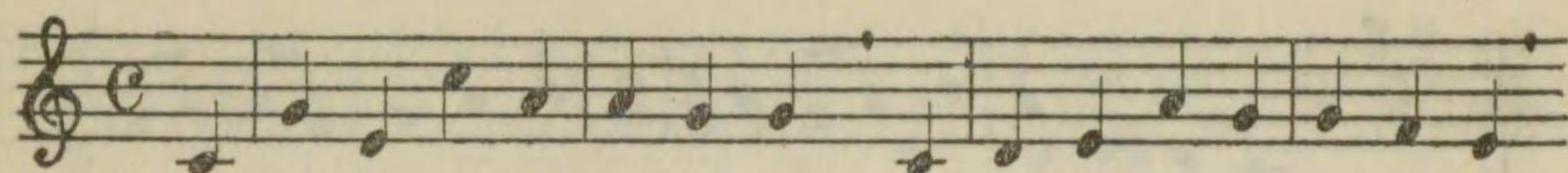


みあるじのみにかをらくなむるのよ
 すくひまのすめぐるみむねのよ
 わがつみぎをたえせぬミサ

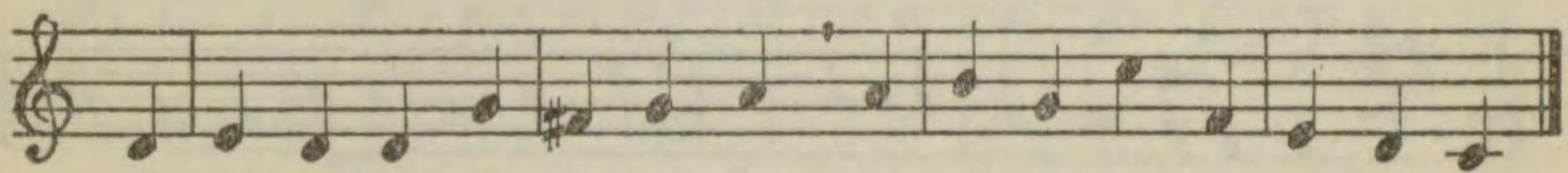


ちよにやちよにきき
 いけにへたふとつ
 あやにたふとつ

一 いけにへを ささげまつらふ
 二 わがために いのちうち棄て
 三 あさごとに ささぐる犠牲に
 四 十字架の へのためしを
 五 そら焼きの けぶりのかをり
 神の家ぬち



1. うけしめぐみの 主のにくとちしほ
 2. わがたまめさめて みたまのみつるぎ
 3. わが主わが かみよ われをばまもりて



けがしきこの身を きよめ生かしめぬ
 かがしたたかはな きよきみいくさよ
 きがしきこの身を きよめ生かしめぬ

一 受けしめぐみの 主のにくとちしほ
 二 わが靈魂めさめて みたまのみつるぎ
 三 わが主わが かみよ われをばまもりて
 けがしきこの身を きよめ生かしめぬ
 かがしたたかはな きよきみいくさよ
 きがしきこの身を きよめ生かしめぬ

きみをとこしへに たたへさせたまへ

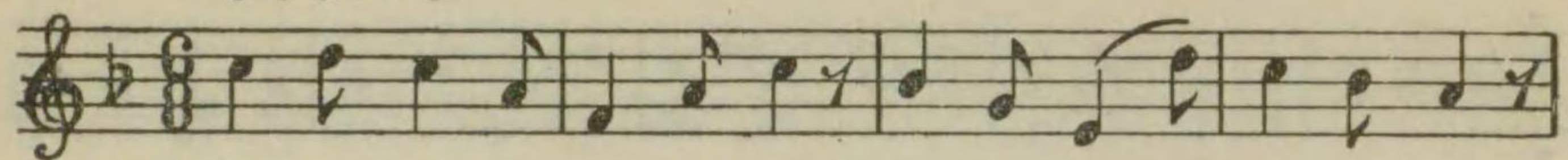
1. あいの主よー いまぞきーたりーて
 たたなーはるー つみのくもがきー
 うーちはーらひーまーせー
をりかへし
 ああ イエズース きよきさがもて
 いくーそたび そーむきしわーれをー
 ちちーのてに かーへしたまーひしー

三 しろたへの 尊たふとし我が神かみ 觸ふれて來きますか
 二 わがかみよ 身みの卑いやしけば 見みこそ奉まうらね
(をりかへし)
 ああイエズス ちちの手てに かくそたび 我われを
 きよき性さがもて 罪つみの雲くも垣がき
 一 あいの主しゆよ いまぞ來きたりて
 たたなはる 打ち拂はらひませ

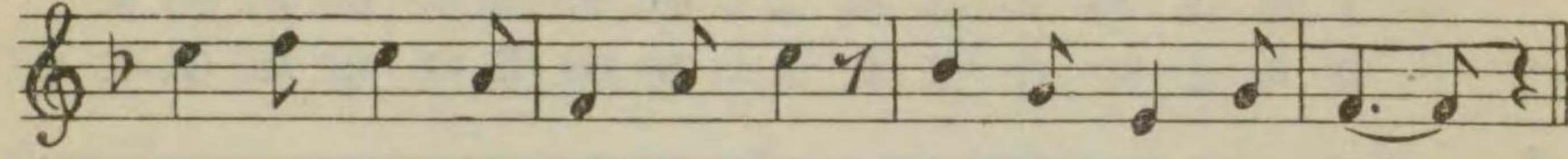
1. けがしきめにこそ見えね われらのかてとなり
 こもりませるイエズスこそ われらにきましけれ
をりかへし
 かしこし主ぞきます いざむかへまつらん
 われをぞわがころをぞ きよけくそなへして

一 汚けがしき眼めにこそ見みえね 我われらの糧かてとなり
 籠こもり在まるイエズスこそ 我われらに來きましけれ
(をりかへし)
 かしこし主しゆぞ來きます いざ迎むかへまつらん
 われをぞわが心こころをぞ きよけく備そなへして
 二 水みづなきあら野ののはなよ 萎しをるるわが心こころ
 ひでりに待まつ雨あめのごと 我わが身に降くだりませ
 三 ちからのかぎりぞ備そなへ 慎つとしみ盡つくさめど
 うたて我わが靈たまいのらな 母ははよ助たすけませ

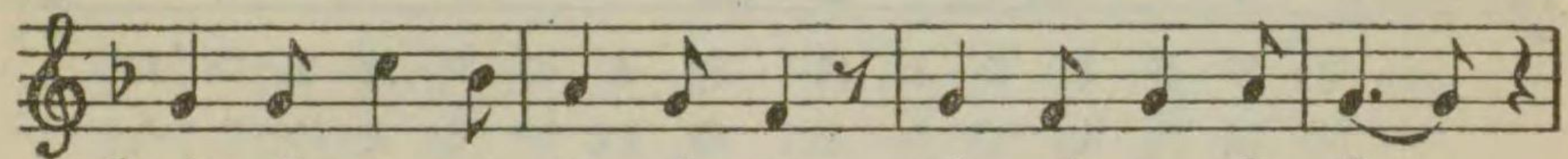
をりかへし



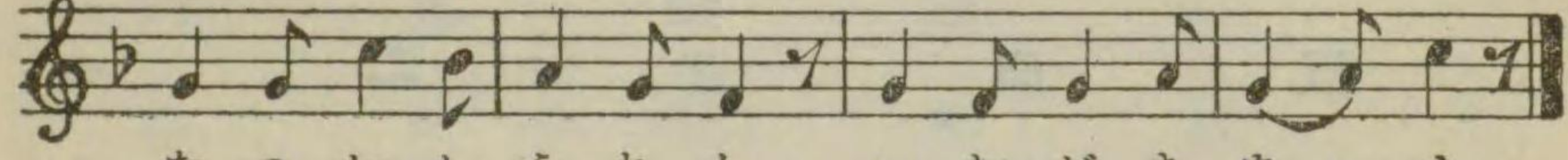
わたしのむねにきてちやうだいな



いつもなつかし イエズスさま



1. しろいホスチア イエズスさま
2. ここのおうち はかみさまの
3. わたしのこころ をりをりに



なつかしうれし いただきまーす
いつもおいでの おうちですーね
わるくなりま す なほしてちやうだい

(をりかへし)

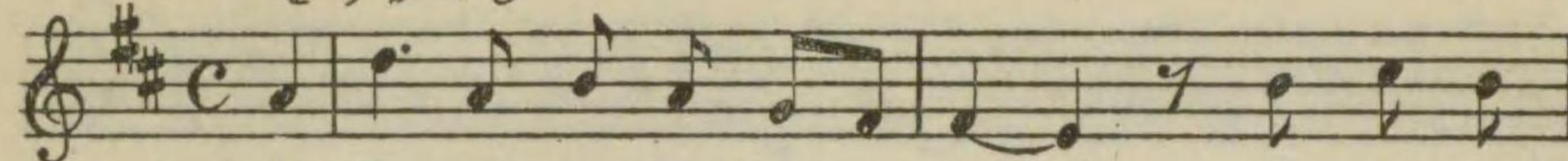
四 さみしいときも はなれずに
わたしのそばに ゐてちやうだい

三 わたしのこころ をりをりに
わるくなります 直して頂戴

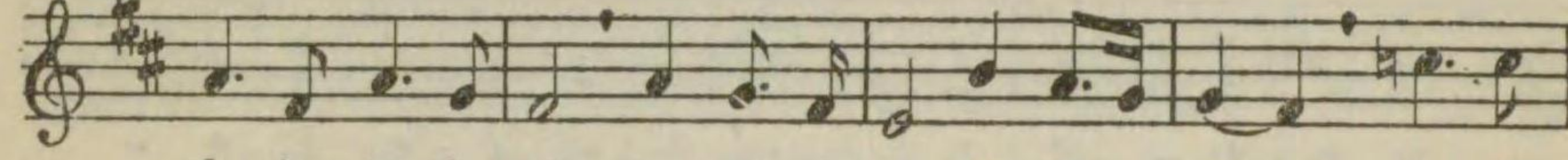
二 ここのおうちは おうちですな
いつもおいでの

一 しろいホスチア イエズスさま
なつかしうれし いただきます

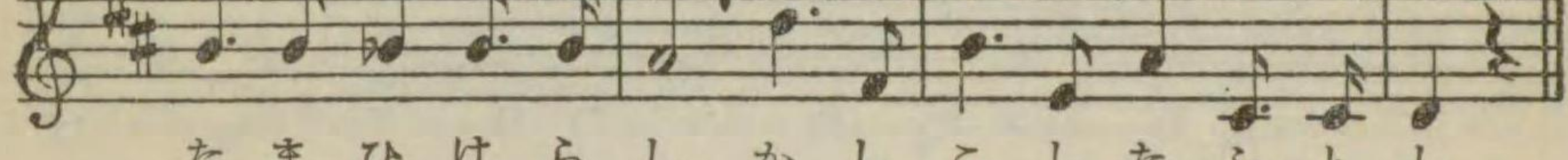
をりかへし



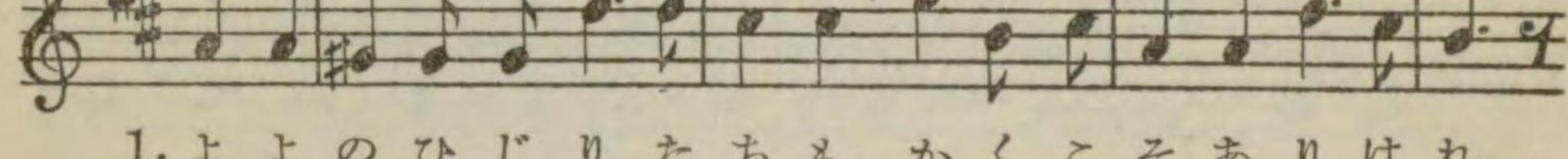
あめつちの主ーよー いまぞ



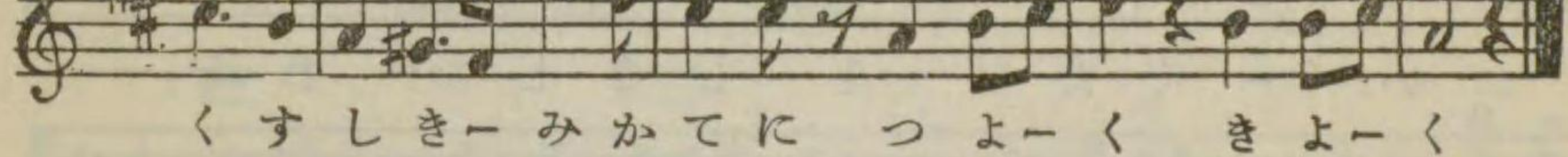
われにきていのちのかてーとー なり



たまひけらしかしこしたふとし



1. よよのひじりたちもかくこそありけれ



くすしきーみかてにつよーく きよーく

(をりかへし)

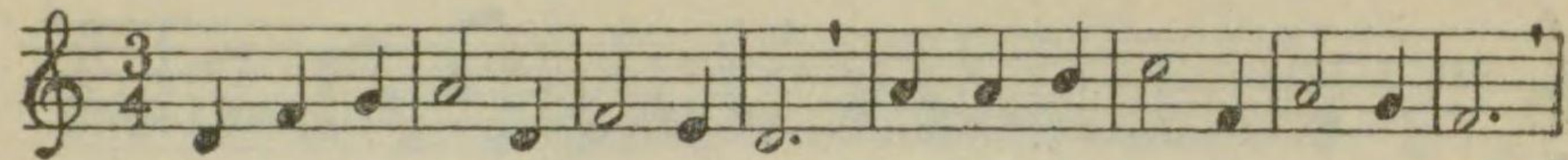
一 世々の聖者達も 斯こそありけれ
くすしき御糧に つよく きよく

二 飢ゑにし我靈も ちから彌まさり
行く手の仇をば うちて 勝なん

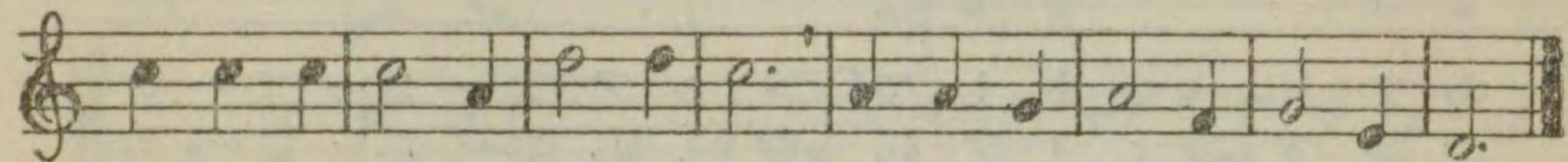
三 犠牲となりにし きみと共に死に
きよらなる生命 生なん とはに

四 舊き我は去りて あらたなる我ぞ
君のみこころに いつき かへる

あめつちの主よ 今ぞわれに來て
いのちのかてと なり給ひけらし
かしこし尊とし

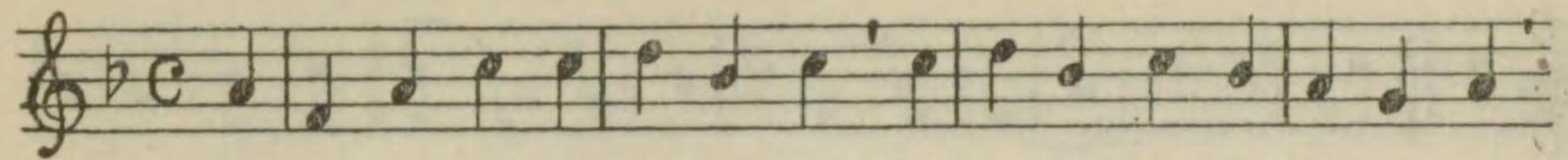


1. やみぢにさまよひ いためるわれらは
 2. なみだのたにをば あへぎゆくぞうき
 3. あめなるみちちよ かなしむわれらの

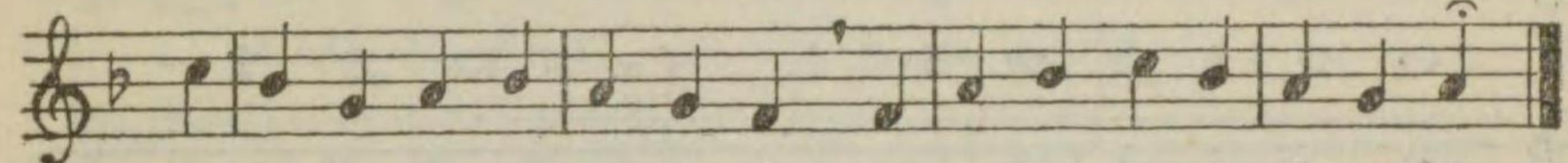


すくひのひかりを かわきまのぞむ
 すくひのきみはも いづこにおはす
 せちなるいのりに みかほなそむけそ

| | | | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------------------------|
| 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 |
| われらの望みよ 永久の慰さめよ とく降したまへ | 世はさながらなる たたかひの巷 響くぞ待たるる | 絶えざるみ光り ぬばたまの闇に | 切なるいのりに かなしむ我等の | なみだの谷をば 喘ぎゆくぞ憂き | 闇路にさまよひ 傷めるわれらは かわき待ち望む |

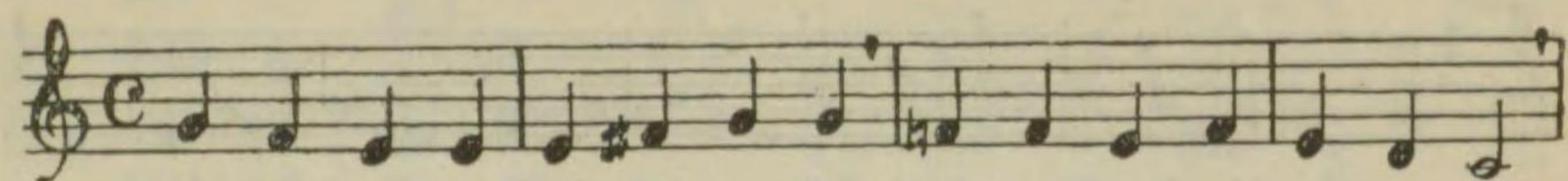


1. よろこびのいづみはやとくわきいで
 2. さきはひのあめよいまかふりしきり
 3. まことのひじりよあけぼのもたらし

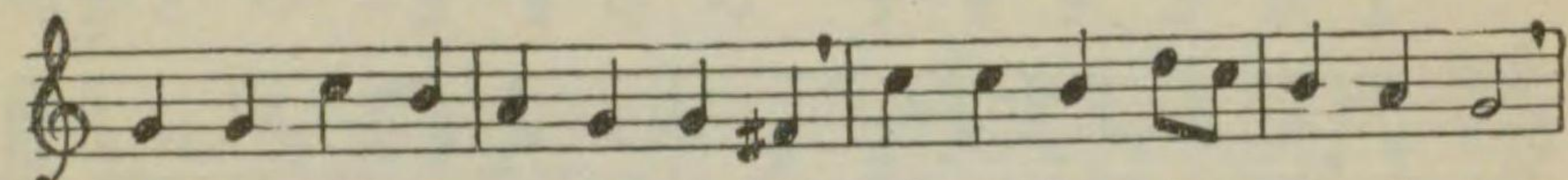


かわけるころに おとづれたまひね
 のろはれしつちを あがひきよめこそ
 とよひかりしめせ めもあやにさやに

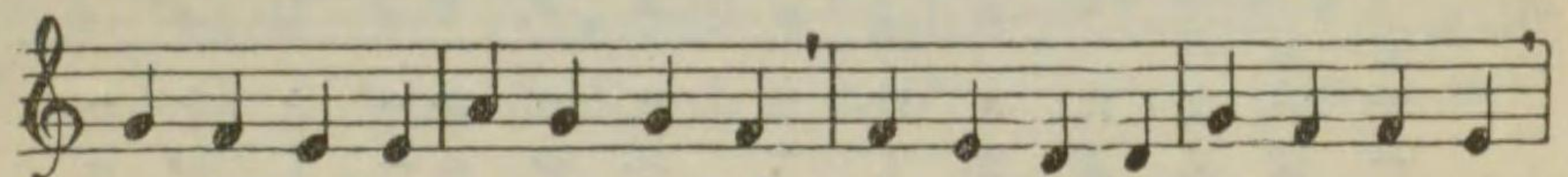
| | | | | |
|-------------------------------|------------------------------|------------------------------|---|--|
| 五 | 四 | 三 | 二 | 一 |
| 天なるひかりよ 望みいやたかく 我等まつものを | 露はみめぐみの 青人草はも 息づきてあらなん | まことの日知よ とよ光り示せ 眼もあやに明に | さきはひの雨よ 誚はれし土を 今か降りしきり 贖ひきよめこそ | よろこびの泉 早とく湧きいで 渴けるころに おとづれ給ひね |



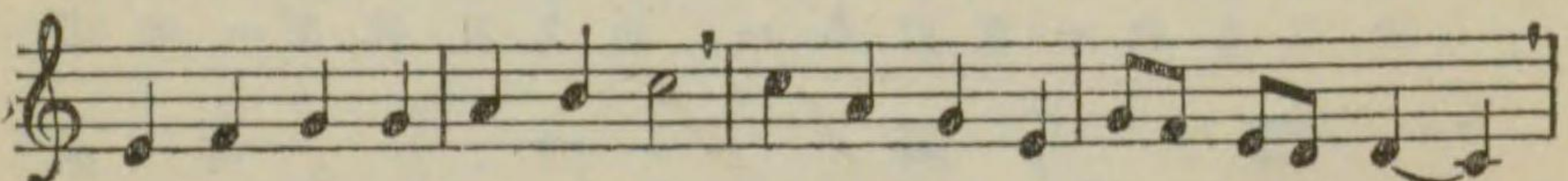
1. みめぐみふらせよ おほぞらのくも
 2. ひじりらのいのり あめにひびかひ
 3. あいといのちなる あめつゆしじに



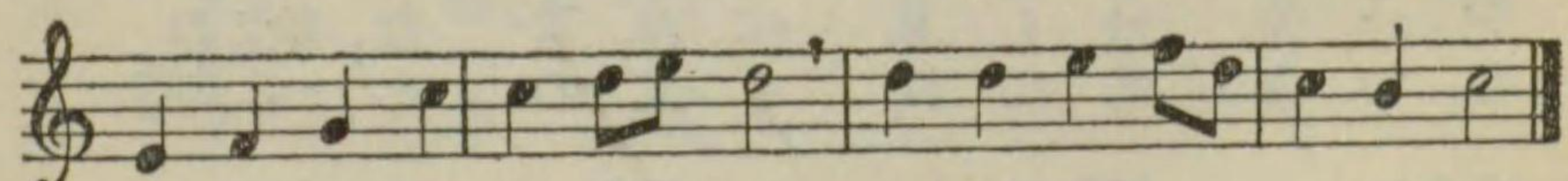
あまといでまして メシアよーきませ
 つかひはマリアに おくられーにけり
 しんりのまひかり あさひとーてりぬ



けがれにしづめる よをあがひたまふ
 みたまのちからやをとめにやどりて
 やよしのゆふかげ なげくこらはしも

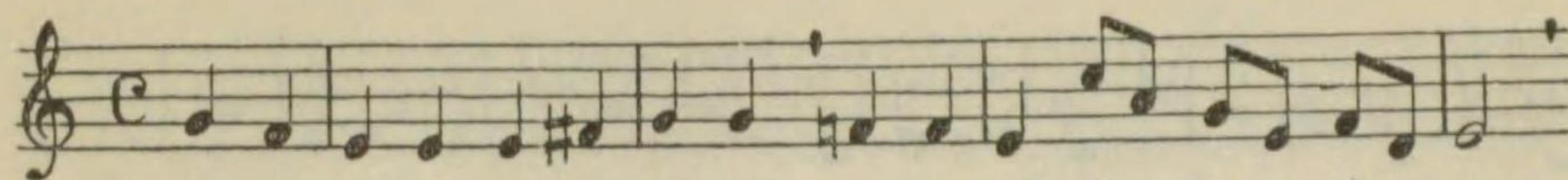


きみをばみまく たみのいのれーばー
 かみのみここそ あもりましーしーかー
 きたりいきづけ このにはのーべーにー

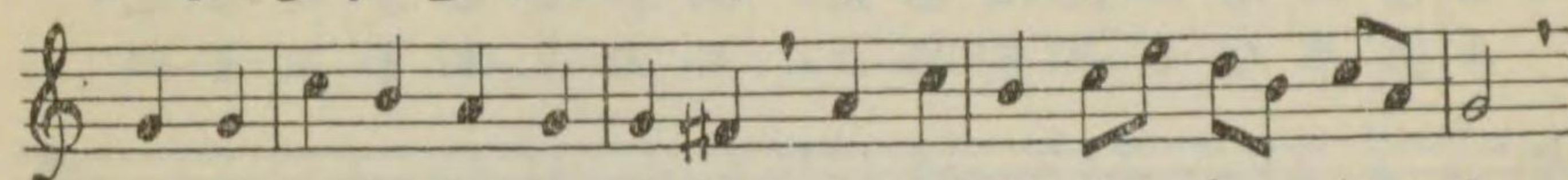


きみをばみまーく たみのいーのれば
 かみのみここーそ あもりまーししか
 きたりいきづーけ このにはーのべに

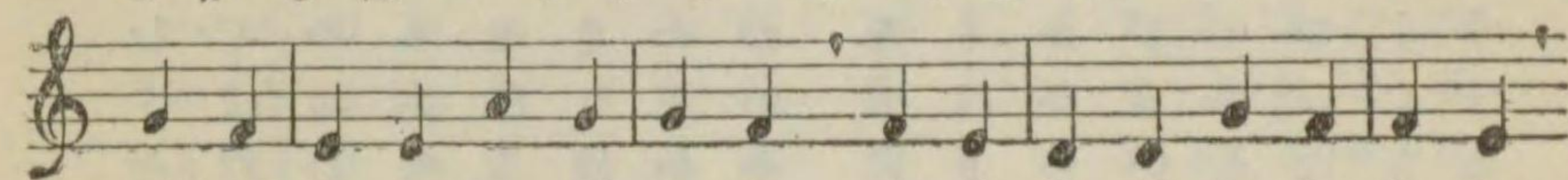
歌詞は前頁に同じ (但し各節の四行目は復唱)



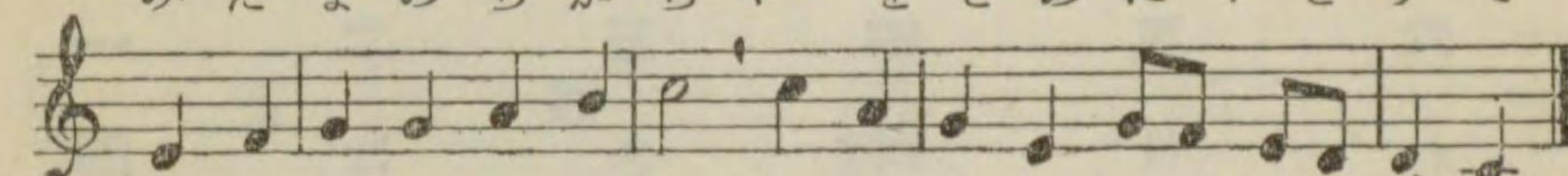
1. みめぐみふらせよ おほぞらーのーくーも
 2. ひじりらのいのり あめにひーびーかーひ



あまといでまして メシアよーきーまーせ
 つかひはマリアに おくられーにーけーり



けがれにしづめる よをあがひたまふ
 みたまのちからやをとめにやどりて



きみをばみまく たみのいのれーばー
 かみのみここそ あもりましーしーかー

| | | |
|---|--|---|
| 三 | 二 | 一 |
| 来 ^き たりいきづけ | や ^や 死 ^し の夕 ^ゆ かけ | 眞 ^{しん} 理 ^り のまひかり |
| この庭 ^{には} の邊 ^べ に | 歎 ^{なげ} く子 ^こ 等 ^ら はしも | あ ^あ めつゆ繁 ^し に |
| 神 ^{かみ} の御 ^み 子 ^こ こそ | 聖 ^み 霊 ^{たま} のちからや | 天 ^つ 使 ^{つかひ} はマリアに |
| 天 ^あ 降 ^お りまししか | 處 ^を 女 ^と にやどりて | あ ^あ めに響 ^{ひび} かひ |
| きみをばみまく | 汚 ^け れにしづめる | 天 ^{あま} 戸 ^と いでまして |
| たみのいのれば | 世 ^よ を贖 ^{あが} ひたまふ | 救 ^{すく} 世 ^せ 主 ^{しゅ} よ來 ^き ませ |
| きみをばみま | きみをば見 ^み まく | み ^め 恵 ^{めぐ} み降 ^ふ らせよ |
| たみのいーのれば | あ ^あ めに響 ^{ひび} かひ | 大 ^{おほ} ぞらのくも |

破れしを見む 禍津國の門 おときかば 天の扉あくる ひさかたの
 君にしあれば 率ゐたまはる するべして あまつ御國へ 世のひとを

五

四

22

待降節

1. きませすくひぬし あめのかどいでて
 みめぐみもたらし よびとすくひませ
 よろこびはわきて 涙のまゆひらかん

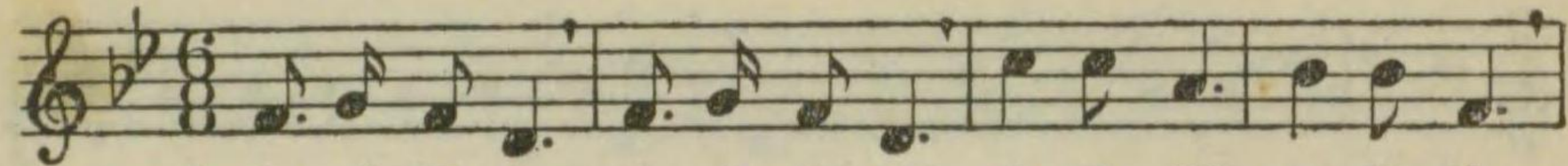
三 來ませ救ひ主 我等を育くみ 涙ぬぐひませ
 二 來ませ救ひ主 道ゆき惑へる 民を照しませ
 一 來ませ救ひ主 喜びは湧きて 笑の眉開かん
 (をりかへし)
 三 來ませ救ひ主 天の門いでて
 二 來ませ救ひ主 世人救ひませ
 一 來ませ救ひ主 喜びは湧きて 笑の眉開かん

待降節

21

あはれみのかみとくきたりたまへ
 よはこぞりていつきま一つらなん
 あめなるみこ 1. ぬばたまの
 2. みいかりは
 やみよにさけぶよのひとを
 やはらぎましてみゆるしの
 あめにみちびくみすくひなれば
 みことたまはるたよりにませ

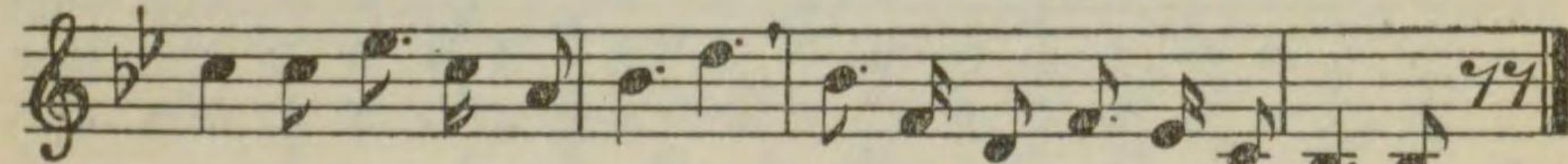
三 世のなやみ 春日にとけて 涙ぞ消ゆる 幸の日なれば
 二 和らぎまして 御言たまはる 便りにませば
 一 ぬばたまの 闇夜にさけぶ 天にみちびく 世のひとを
 (をりかへし)
 あはれみの神 世はこぞりて
 とく來り給へ 齋き奉らなん 世はこぞりて
 あめなる御子 世のひとを
 み救ひなれば 世のひとを
 みゆるしの 便りにませば
 ひとみな 幸の日なれば



1. しづけき まよなか まきばのそら
 2. しづけき まよなか うまやのうち
 3. しづけき まよなか きたりあふげ



はるかにきこえくる みつかひのほぎうた
 みにしむさむさをもしらぬがほにねむる
 たふときみどりごのいつくしみのひかり



すくひぬしこそいままあれませと
 みこのすがたのいとみかをし
 いとみじくもやみをぞてらす

三

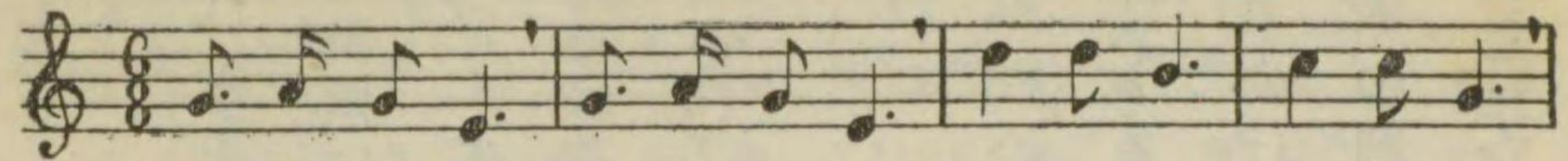
静けき まよなか 来たりあふげ
 尊ときみどり子の いつくしみの光
 いとみじくも やみをぞ照らす

二

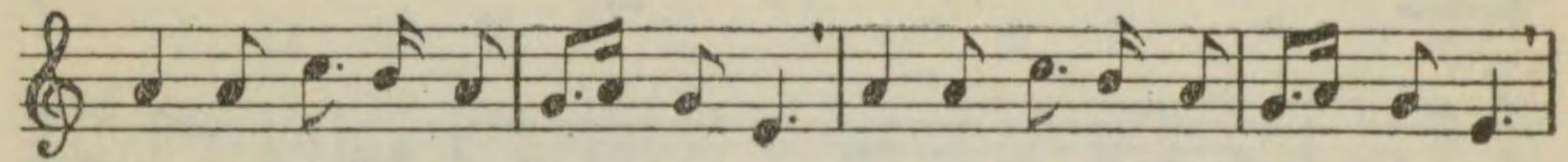
静けき まよなか うまやのうち
 身に浸む寒さを 知らぬ顔に睡る
 御子のすがたの いともかしこし

一

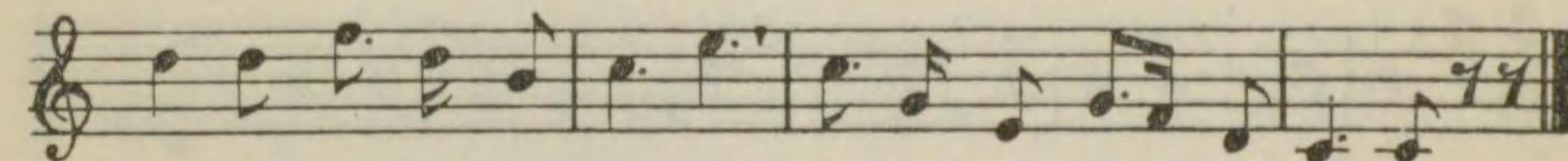
静けき まよなか まきばのそら
 はるかに聞えくる みつかひの祝歌
 「すくひ主こそ 今あれませ」と



1. ふけゆく しじまを まきのそらゆく
 2. かみには みさかえ ちには やすき
 3. たふとき みこはも いまは まやの



はるかにきこえく たへなるほぎうた
 とこしへなれとふ うたごゑしるけみ
 まぶねにおはして うまいぞやすけき



みつかるひやうたふしらべぞよき
 はすめるまきもり主をやしりし
 ゆめなやぶりそよるのあらし

四

いく年かぞへて 代々の其日
 おもひ出うれしみ 主を偲ぶ我等
 うたひや明かす 直にあふまで

三

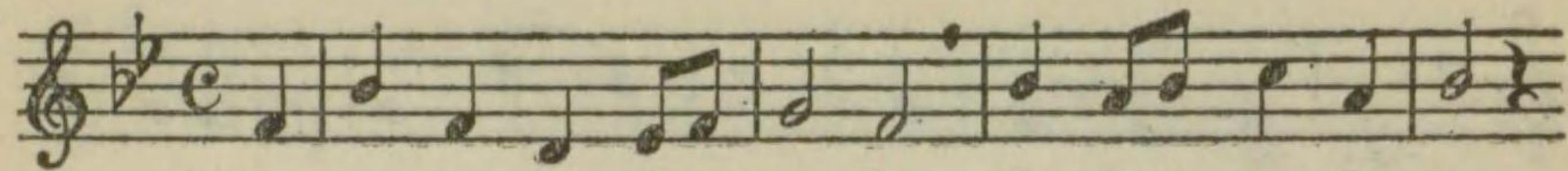
尊とき 御子はも 今馬屋の
 まぶねに在はして 熟睡ぞ安けき
 ゆめなやぶりそ 夜のあらし

二

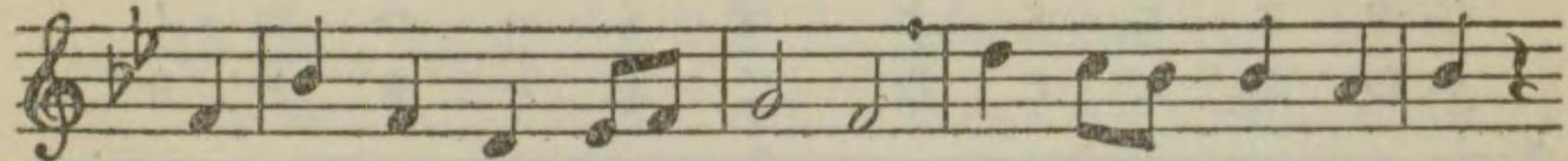
「神にはみさかえ 地には安き
 常しへなれ」とふ 歌ごゑ著けみ
 走するまきもり 主をや知りし

一

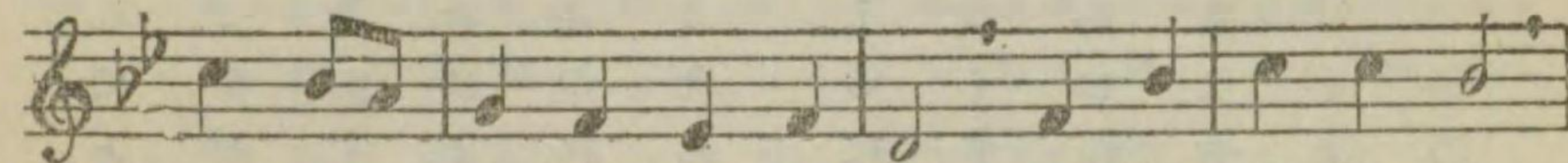
更けゆく 静寂を まきの空ゆ
 はるかにきこえく 妙なる祝ぎ歌
 みつかひやうたふ しらべぞよき



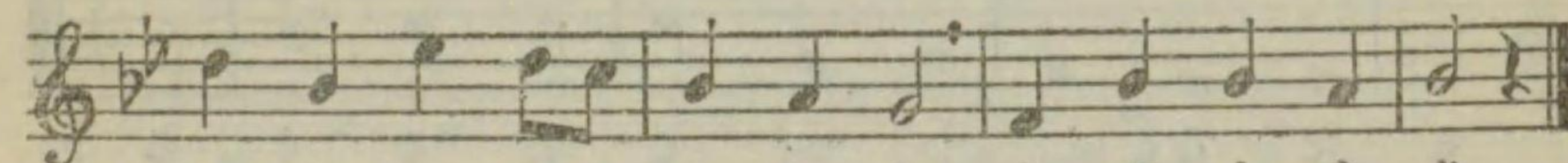
1. みこそいぶせきまやにあれ
2. なはわがまなご主はのりぬ



あまつみくにかみなれや
けふぞうみけりちちのみの



たへなるひかりかがやきて
ちちこそはかみははそばの

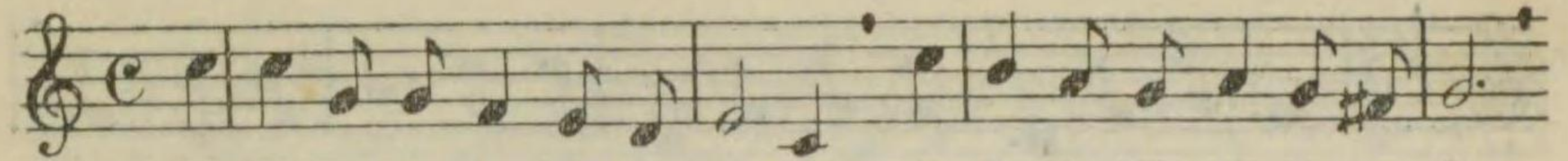


よもはめでたきしるしあり
みはははマリアとこをとめ

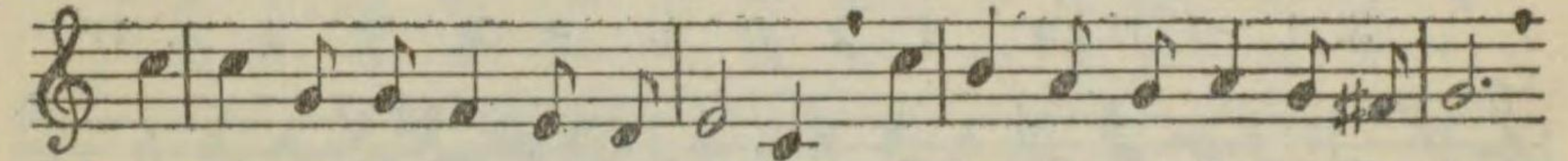
一 身こそいぶせき 馬屋にあれ
あまつみくにかみなれや
たへなるひかり かがやきて
四方はめでたき するしあり

二 「なはわが愛子」 主は宣りぬ
「けふぞ生けり」 ちちのみの
父こそは神 にはそばの
み母はマリア とこをとめ

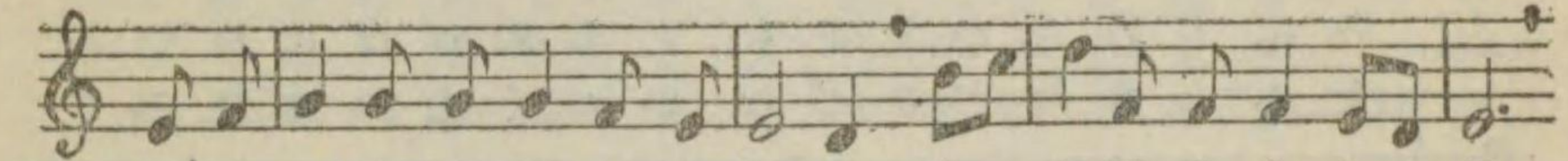
三 なみだに充てる うつそみの
世は咲くはなの さにづらふ
わがおほぎみの しろしめす
御代とはなりぬ ほぎまつれ



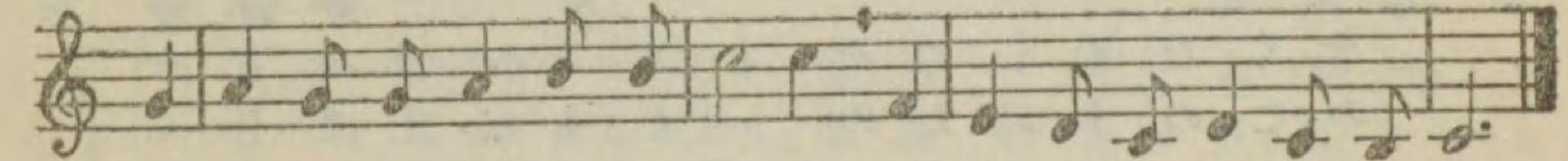
1. きけたへなるしらべ よろこびのこゑを
2. をとめこそはマリア まづしきうまやに



ひなにもみやこにも ひびかふそのうた
たびのやどりさむみ みこはあれましぬ



ちちのみちかひなりて きよけきをとめ
あめつちつくりしきみ かよわきたみの

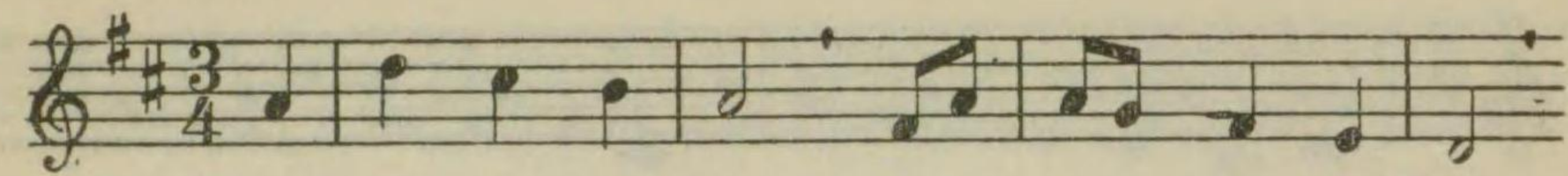


うるはしきみこをぞあげさせたまひしき
こころにきたりてしみやゐぞかしこ

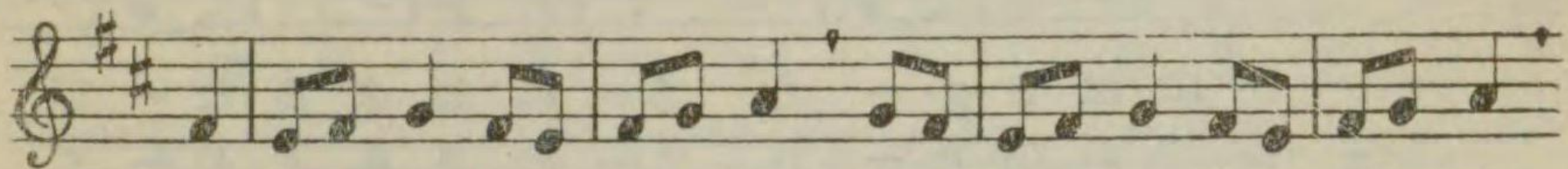
一 きけ妙なるしらべ よろこびの聲を
鄙にもみやこにも 響かふそのうた
父のみ誓ひなりて きよけきをとめ
麗はしき御子をぞ あげさせ給ひし

二 處女こそはマリア 貧しきうまやに
たびのやどり寒み み子は生まれぬ
天地つくりし君 かよわきたみの
こころに來りてし 宮居ぞかしこき

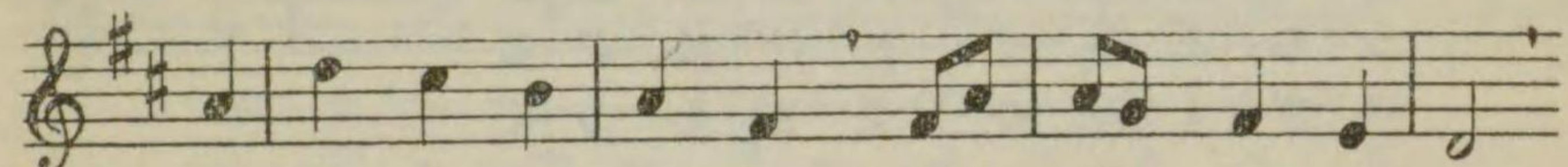
三 曙光ほのぼのと 夜は明はなれて
御民のかなしみは よろこびに變り
望みと愛と信 ゆたけくそだち
世は常しなへなる 春をぞことほぐ



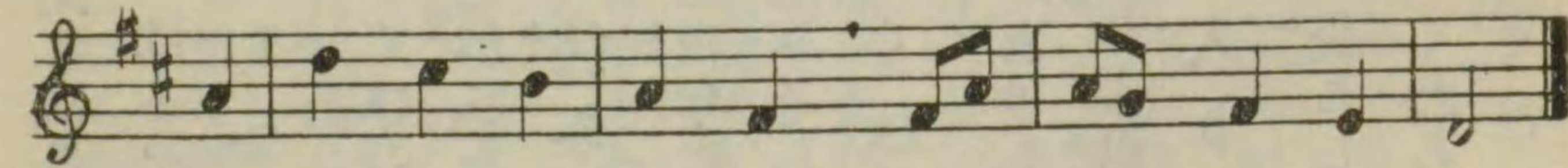
1. みそらゆく みつーかひの
 2. よるののにとーきーならで
 3. やよこらよすーくーひぬし
 4. わがこころくーらーきとき



つばさかーはーしよーきーおとーづーれ
 かーがーよひーくーるそーのーひかーりーに
 うまーやぬーちーにあーれーますーぞーと
 みつーかひーこーよひーかーりいーでーよ

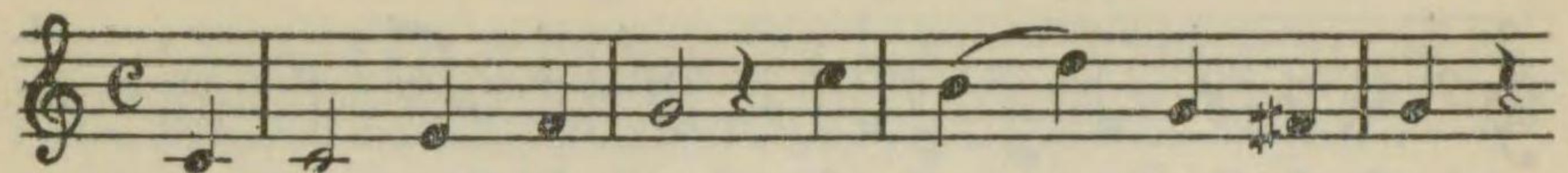


もたらしつ つくーだーりくる
 ゆめややぶるまーきーばもり
 つぐるはたぞあーまーつかひ
 へりくだりてわーがーまてば

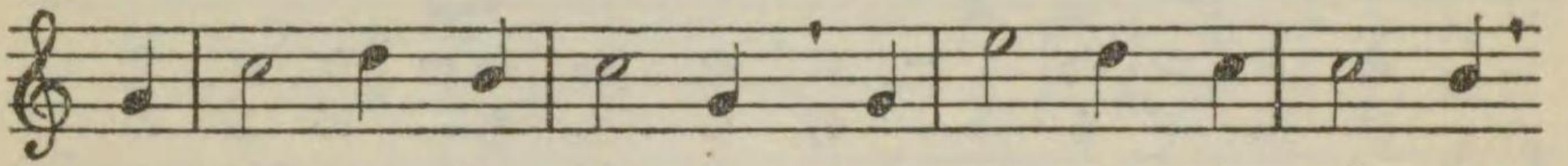


もたらしつ つくーだーりくる
 ゆめややぶるまーきーばもり
 つぐるはたぞあーまーつかひ
 へりくだりてわーがーまてば

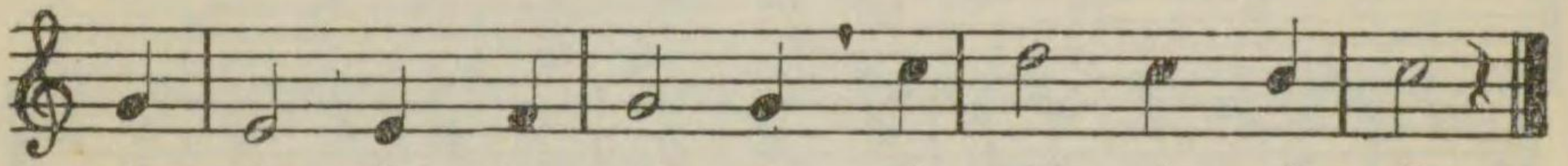
歌詞は前頁に同じ (但し各節の三行目は復唱)



1. みそらゆく みつーかひの
 2. よるののにとーきーならで
 3. やよこらよすーくーひぬし
 4. わがこころくーらーきとき



つばさか はしよ きおと づれ
 か がよ ひくる そのひか りに
 う まやぬ ちに あれま すぞと
 み つか ひこよ ひか りいでよ



も たら し つ つ くだり くる
 ゆ め や や ぶ る ま き ば も り
 つ ぐ る は た ぞ あ ま つ か ひ
 へ り く だ り て わ が ま て ば

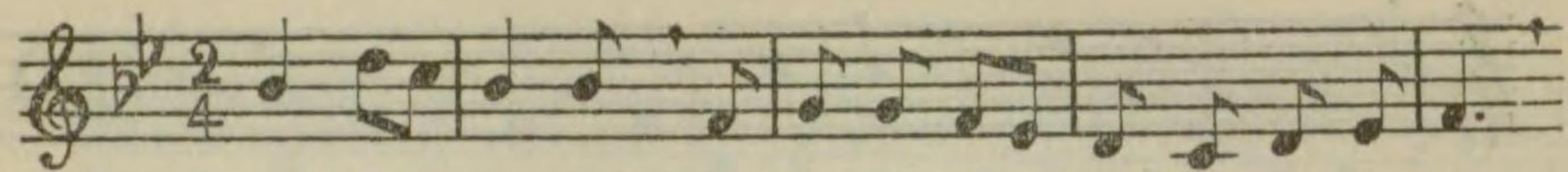
四

三

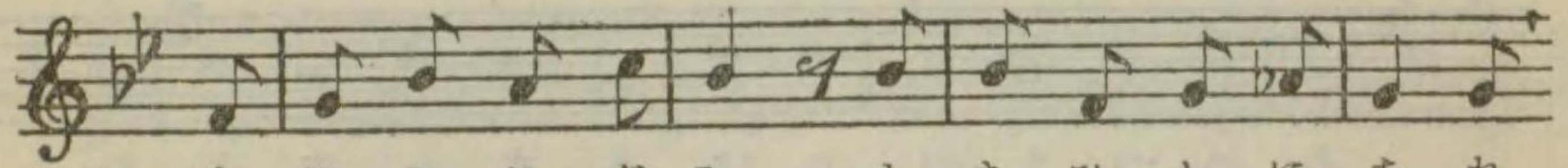
二

一

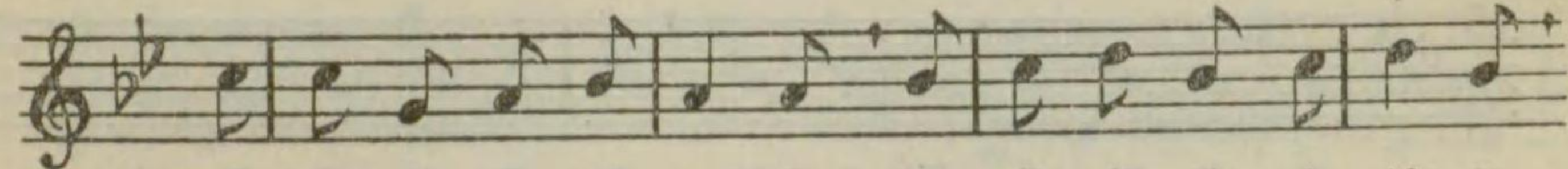
| | | | |
|--|---|---|---|
| 謙 ^へ み ^つ わ ^が 告 ^つ 馬 ^う 「 ^や ゆ ^め 輝 ^か 夜 ^よ 齋 ^も つ ^ば み ^み り ^下 使 ^ひ が ^こ る ^は 屋 ^ま や ^の し ^ら さ ^そ 下 ^り ひ ^こ が ^こ 誰 ^た ぬ ^ち に ^に 交 ^か ゆ ^く り ^て 来 ^こ よ ^に ぞ ^と ち ^に し ^つ し ^つ く ^く 吾 ^わ 光 ^ひ く ^ら あ ^ま 生 ^お す ^く ま ^ま そ ^の と ^き く ^だ み ^つ が ^待 り ^出 く ^ら あ ^ま す ^く ま ^ま そ ^の と ^き く ^だ み ^つ て ^ば で ^よ き ^と か ^ひ と ^と ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま ば | 「 ^や ゆ ^め 輝 ^か 夜 ^よ 齋 ^も つ ^ば み ^み や ^の し ^ら さ ^そ に ^に 交 ^か ゆ ^く ち ^に し ^つ し ^つ く ^く と ^と ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま と ^と ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま | 「 ^や ゆ ^め 輝 ^か 夜 ^よ 齋 ^も つ ^ば み ^み や ^の し ^ら さ ^そ に ^に 交 ^か ゆ ^く ち ^に し ^つ し ^つ く ^く と ^と ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま と ^と ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま | 「 ^や ゆ ^め 輝 ^か 夜 ^よ 齋 ^も つ ^ば み ^み や ^の し ^ら さ ^そ に ^に 交 ^か ゆ ^く ち ^に し ^つ し ^つ く ^く と ^と ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま と ^と ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま ま ^ま |
|--|---|---|---|



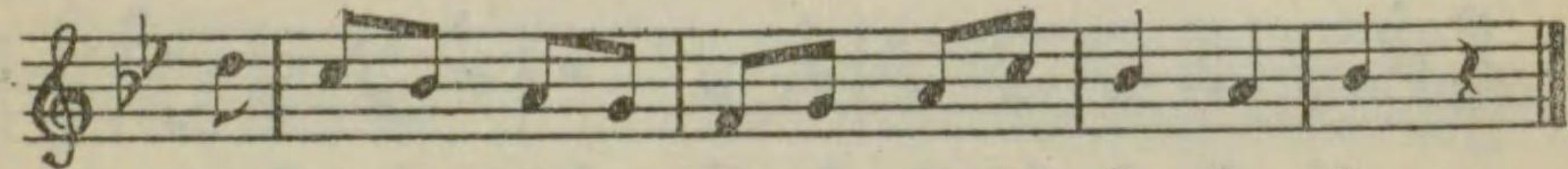
1. あ め - に は み さ か え - か み に あ れ
2. か し - こ し か み の ひ - と り ぞ な る



ち に み め ぐ み よ き ひ と に あ れ
主 は う ま れ ぬ み く ら を す て て

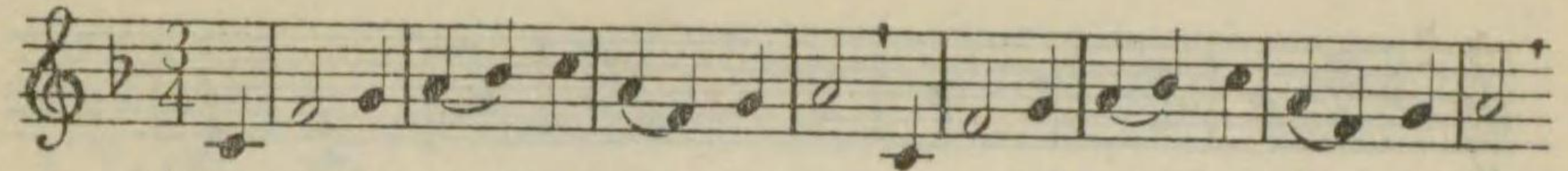


へ い わ こ そ い ま の ら し ま し け め
ひ と と な り し ぞ と も よ こ と ほ げ

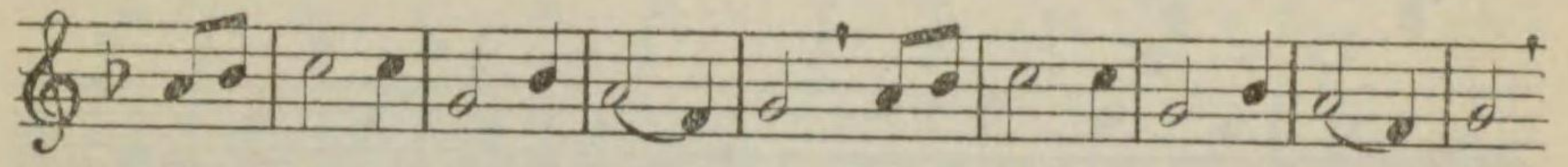


み つ - か - ひ - の - う た ふ
い ざ - や - も - ろ - と も に

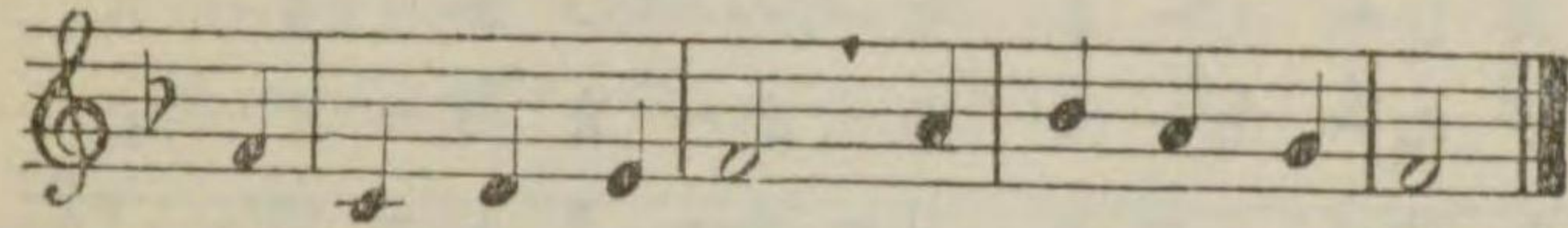
| | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 三 | 二 | 一 |
| 世のひと 憂きは去りて 眠ります御子 まぶねに在はせば | かしこし 主はうまれぬ 人となりしぞ いざやもろともに | あめには 地にみめぐみ 平和こそいま みつかひのうたふ |
| 歌ひ奉れ永久に よろこび來ぬと 拜みまつれよ | 神の獨り子なる 御座をすてて 友よことほげ | み榮え神にあれ よき人にあれ 宣らしましけめ |



1. あ れ き こ - ゆ る - う た あ め よ り - ぞ も - る
2. よ を す く - ひ の - か み け ふ あ れ - ま し - ぬ と
3. み あ れ の - よ は - に は ひ つ じ は - の に - あ り

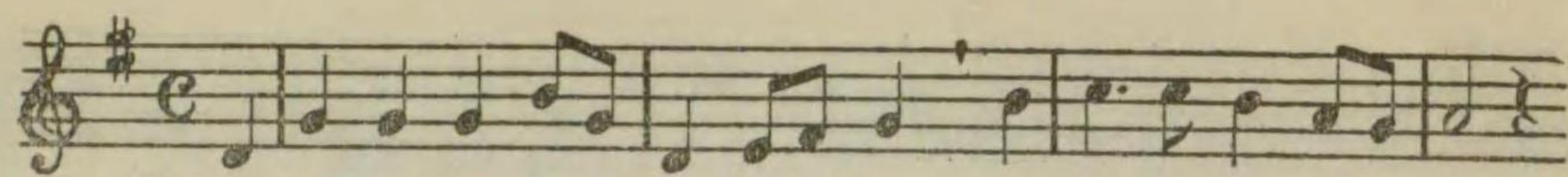


か - み に は さ か - え ち - に は よ る こ - び
ひ - つ じ か ひ た - ち し - め さ れ し め - し
ほ - し は み そ ら - に あ - は れ と き よ - の

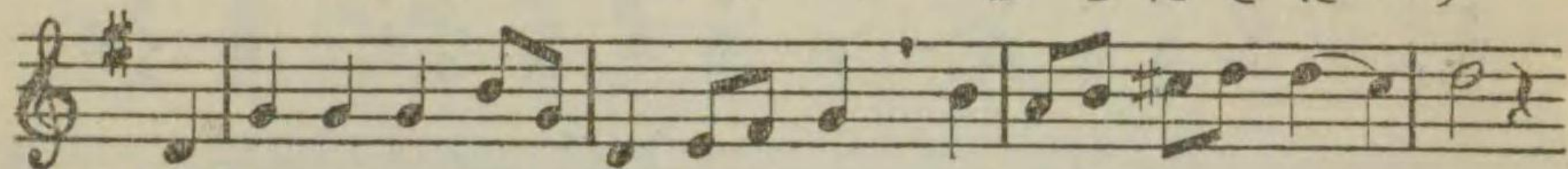


と こ し へ に あ れ か し と
う ち 互 み て か け め ぐ る
み す く ひ の さ ち を つ ぐ

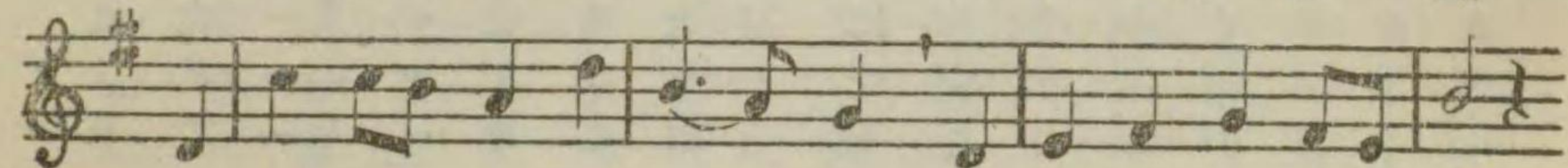
| | | | | |
|-----------------------------|------------------------------|---|--|--|
| 五 | 四 | 三 | 二 | 一 |
| あやに畏かしと ぬかつくわらべ きよくこそ | いざ入りて 見よ見よ御母 御子の稜威ほめ | み生 <small>おれ</small> のありしは 降誕 <small>み</small> の夜半 <small>は</small> には ほしはみそらに みすくひの | 世 <small>よ</small> をすくひの神 <small>かみ</small> ひつじかひたち うち笑みて 羊 <small>ひつじ</small> は野 <small>の</small> にあり あはれ時 <small>とき</small> 世 <small>よ</small> の | 神 <small>かみ</small> にはさかえ とこしへに 天 <small>あめ</small> よりぞもる 地 <small>ち</small> にはよろこび あれかし」と |
| なみだや落つる ささきくこそ | 御子の稜威ほめ 御子ともに在す ふしをがまん | さちを告ぐ この御 <small>み</small> 既 <small>ま</small> なりや 御子ともに在す ふしをがまん | けふ生 <small>おれ</small> ましぬと 示 <small>しめ</small> されしめし かけめぐる | 天 <small>あめ</small> よりぞもる 地 <small>ち</small> にはよろこび あれかし」と |



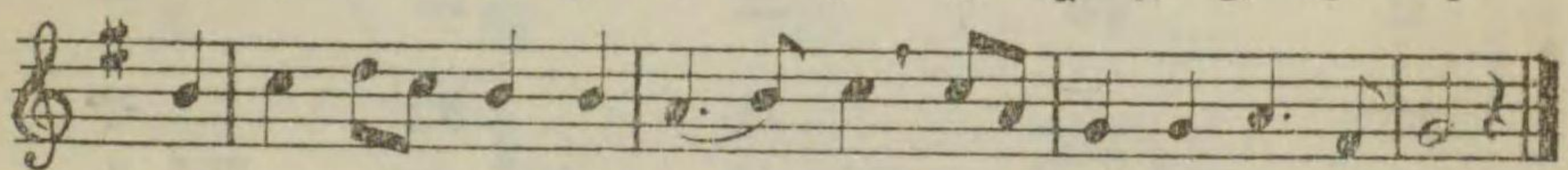
1. かみにはみさかえ ちはやすき
2. つかれしこのよにあしたきたり



うましきころに ぬばたまの
かなしむみやこにはるはきぬ

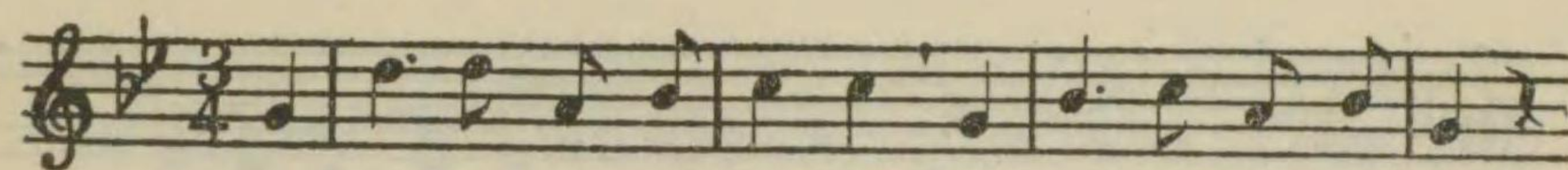


よはほのぼのと あけゆくみよ
なぐさめまてゐる ひなよるこび

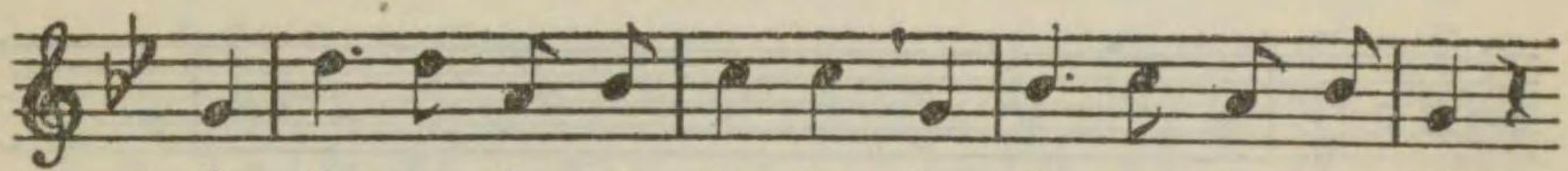


あまつつかひのきよきこゑに
みつかひのこゑいとどうらら

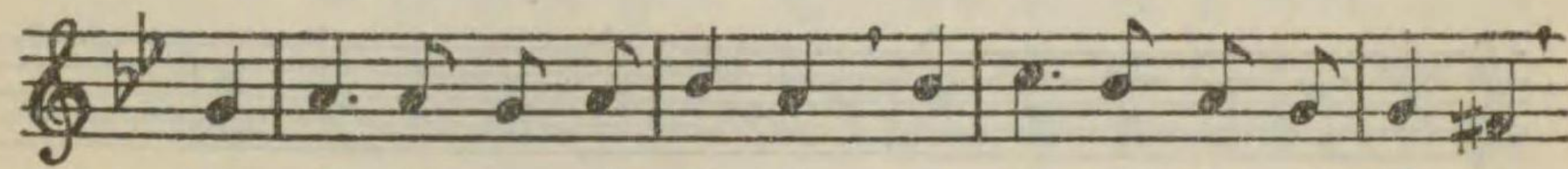
| | | | |
|--|---|---|---|
| 四 | 三 | 二 | 一 |
| 老いも若きも いまのぞみしぞ 代々の聖者の みづかひの歌ふ このころゆくまで | 見るがうれしさ 行きぞなやむ海 いざ世の悩みに つかれし子等 | みつかひのこゑ なぐさめ待てる かなしむ都に はるは來ぬ あした來たり | 疲れしこの世に あまつつかひの 夜はほのぼのと あまつつかひの 美しきところに 神にはみさかえ 地にはやすき ぬばたまの 明けゆく見よ きよきこゑに |



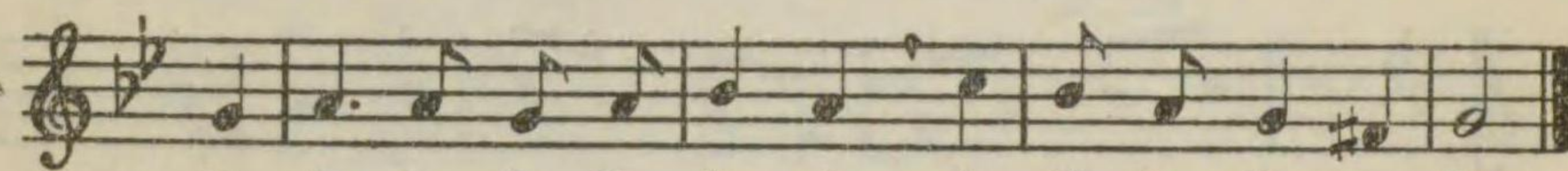
1. なべてのひとをすくふために
2. あめをもつちもみてにつくり



あめつちの主は うまれましぬ
よろづをさむる かみにませど

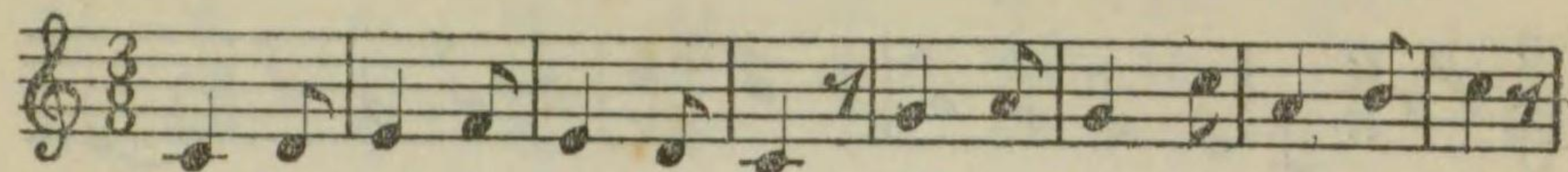


やよひつじかひま やのまをけに
あがなひせまく よにくだりきて

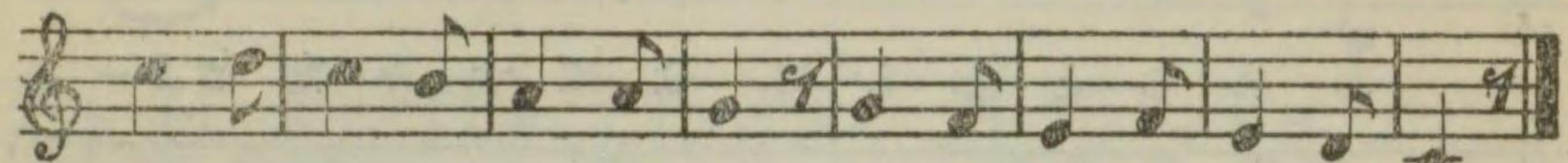


はやとくゆきて をがみまつれ
なほびとこそ なりましけれ

| | | | |
|--|--|---|---|
| 四 | 三 | 二 | 一 |
| みあとしたひて 憂さも辛苦さも 父にならへる しづがふせ屋も こがねしろがね | いぶせき馬屋に こころなきひと 世のたからをば 直人とこそ | あがなひ爲まく よろづ治むる あめをもつちも はやとく行きて | なべてのひとを あめつちの主は やよひつじかひ はやく行きて |
| ゆくうれしさ もの數かは 子にあらば たまのうてな ひかりぞなき | 神すみたまふ ゆきて見すや ひたにしたふ なりましけれ | かみに在せど 世に降り來て み手につくり をがみまつれ | すくふために うまれましぬ まの馬槽に をがみまつれ |

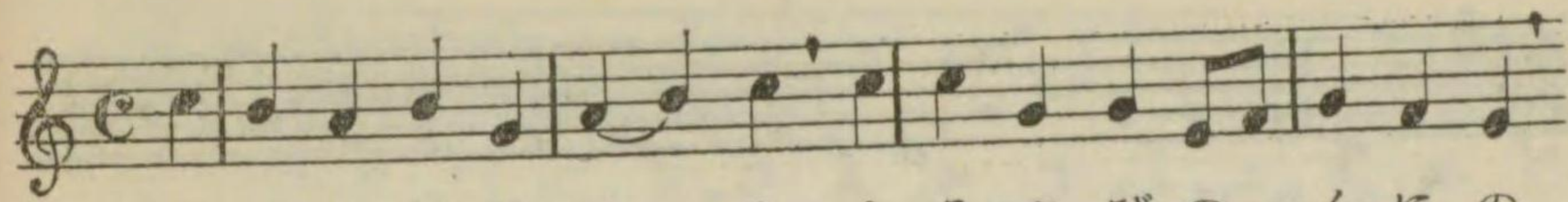


1. すくひのみこは けふあれましぬ
 2. まぶねはちさく うまやはせまし
 3. あまつみくにの さかえすてぞ

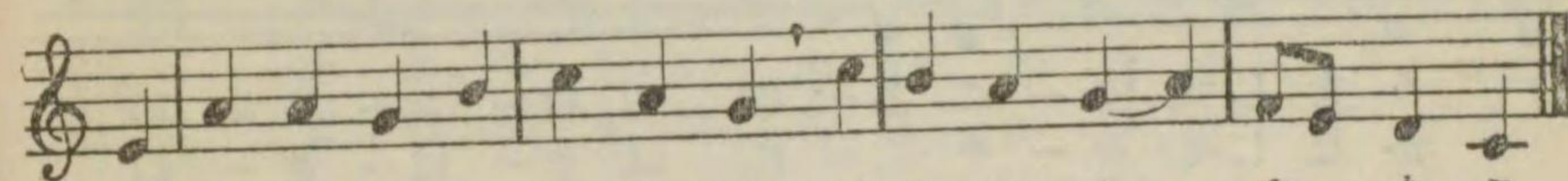


わがよのつみのあがなひのため
 わらをまくら のしあま ねやさ りむき
 しづがふせや にあま くだり たる

一 すくひの御子は 今日あれましぬ
 わが世のつみの あがなひのため
 二 まぶねは小さく うまやはせまし
 わらをまくらの しとねやさむき
 三 あまつみくにの さかえ棄ててぞ
 しづが伏屋に あまくだりたる
 四 すさめるこころ このとに來て
 まぶしきとみに まなこ見はるか
 五 小百合にまがふ みどり子のはだ
 しづのあらぎぬ 覆ひ兼ねつも



1. やみにすむひとよろこびのくにの
 2. しかげゆくひといのちのしみづの
 3. ただしきとあいのもたらしたまへる



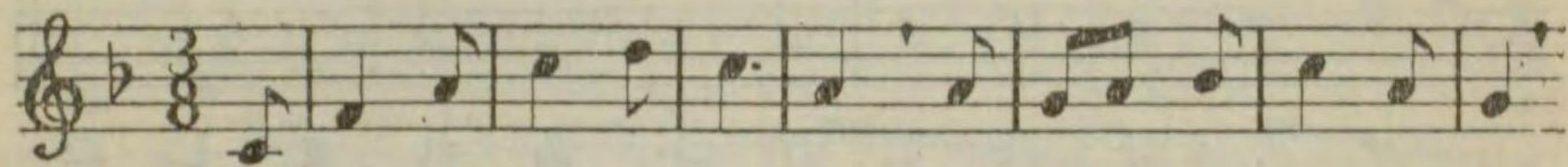
あけゆくみるそらにやはなすてよまな
 わきいづるみこ やそと はすびの きーみな
 すくひの みここ そは とはの 王なれ

一 やみに棲むひと よろこびの國の
 明けゆくみ空に 放てよまなこ
 二 死蔭ゆくひと いのちの清水の
 湧出づる見ずや 掬びて吞めよ
 三 ただしきとあい もたらし給へる
 救ひの御子こそ とはの王なれ
 四 「神にはさかえ 人には恵み」と
 聲もたからかに うたふを聞けや
 五 愛しけやし御子 たのしき國をば
 石づゑしかたく まもりたまひね

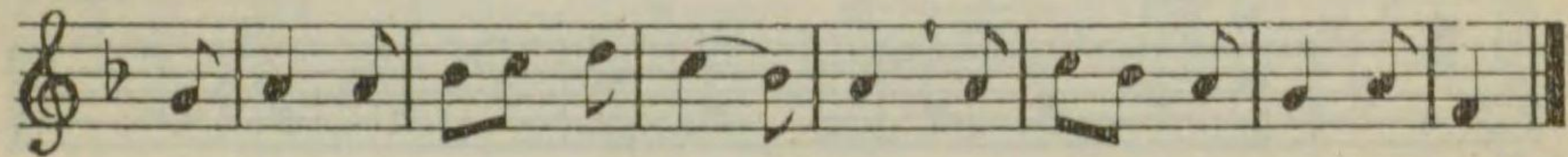
あはれ目覚めば
おどろいばら
つみなき君に
せまり來らし
いとほしの御子
わがつみゆるし
仕へまつるべき
道しめしませや
その尊ときみち

四

御降誕



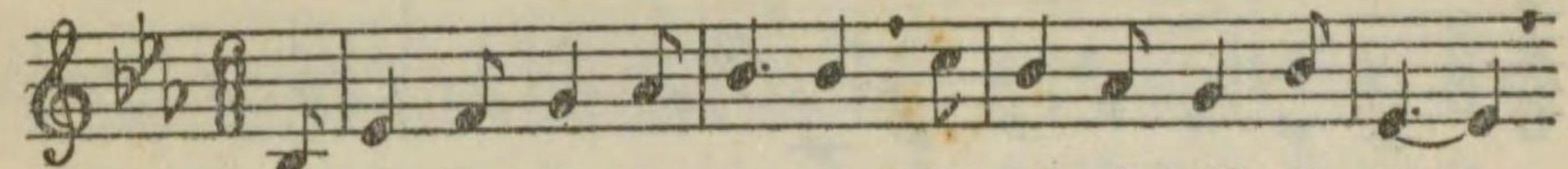
1. ものみなねむるしづけきよは
2. そのほぎうたにまきばもりら
3. かみのみくにをとはにしらす



かみのまなごぞよにあれます
こころをどりつゆきてがむ
みこなりわれもいつきまつらん

一 ものみな眠る
神のまな子ぞ
世に生れます
二 そのほぎ歌に
まきばもり等
このころ躍りつ
行きてをがむ
三 かみの御國を
御子には統治す
齋きなり我も

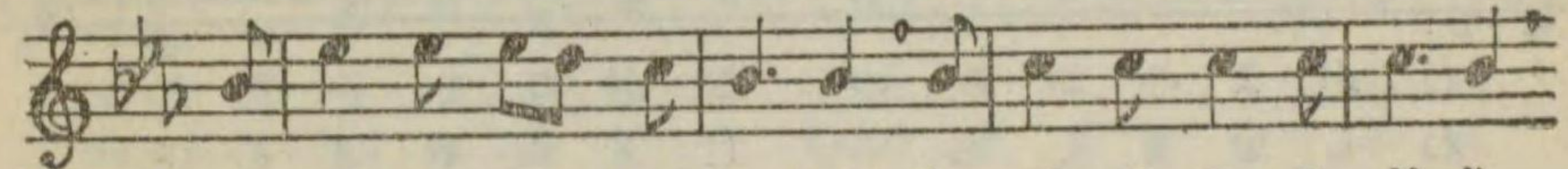
御降誕



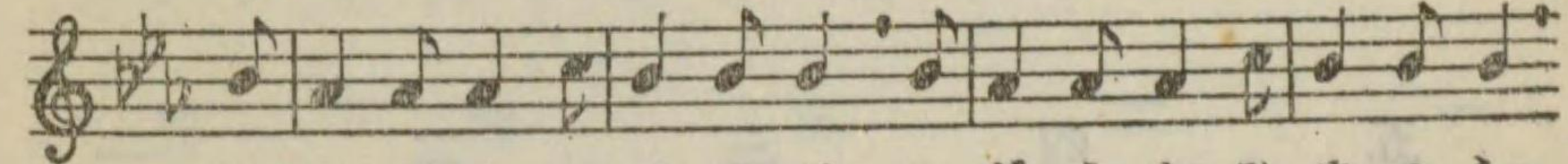
1. けふみあるじはあまくだりて



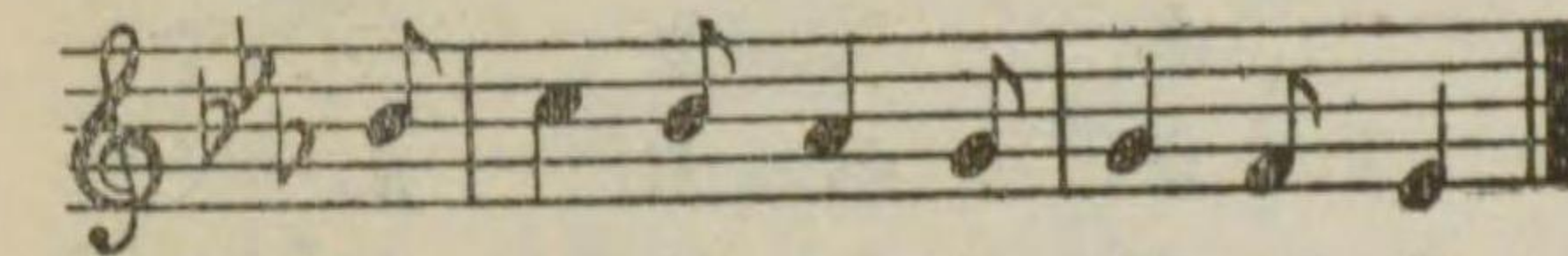
われらとともによにすみたまふ



あまつみつかひなべてのひじり



われひとともにぞいざうたひまつらん



このうれしきひを

一 けふみあるじはあまくだりて
われらとともに世にすみたまふ
あまつみつかひなべてのひじり
我人ともにぞいざ歌ひ奉らん
この嬉しき日を
二 夜べ生まれませる御子を見れば
あまつみかみのきよきまな子
眉目うるはしく世の憂き知らに
熟睡いと安らみかたち句ひて
傷なの小ひつじ
三 ああみどりごよくらき世には
禍福みだれなやみおほし
もろびとかわきあへぎあへぎて
求め乞ひにたり汝が愛のいづみ
とこしへの國に

1. あふーげやあふーげや やみーにすむひーと
 2. あめーつちのきーみは いまーぞあれまーす

あさーひとのぼーりて メシーアきませーり
 よきーうたささーげて ことーほぎまつーれ
 をりかへし

グロ

ー リ ア イン エク チ エ ル シ ス デ オ デー オ

一 あふげや仰げや やみに住むひと
 朝日とのぼりて 救世主来ませり
 (をりかへし)
 (グ)ロリア イン エク チ エ ル シ ス デ オ
 (復唱)

二 あめつちの君は いまぞ生れます
 よき歌ささげて ことほぎまつれ

三 とこしへの生命 ほろびの子等に
 與へてその身は 死ぬるみかみぞ

四 處女にやどりて いやしきすがた
 いとひまさぬ君 あいぞたふとき

五 みちかひ違はず すぐひはなりぬ
 天地よこぞり よろこびあげよ



1. いざよのとも うからやから
 うちむれつどへ ベートレエム
 すくひぬしけふ あれましぬ
 をりかへし
 きたりてをがめ きたりてをがめ
 きたりてをがめ キリストぞ

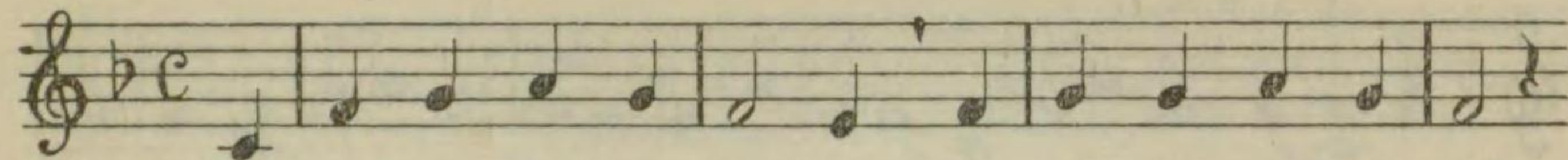
一 いざ世のとも 親族 家族
 打ちむれ集へ ベトレエム
 すくひぬし けふ生ましぬ
 (をりかへし)

二 来りてをがめ 来りてをがめ
 きたりて拜め キリストぞ

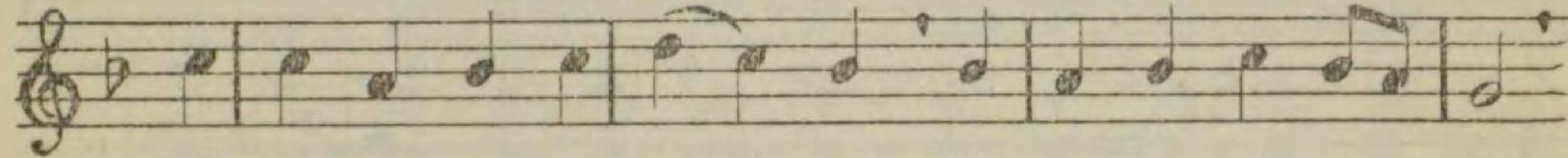
三 待ちにし主ぞ いそぎ来たれ
 御馬屋の馬槽 初のとこ
 人と なり 神ぞ来ませる

四 日の御子いで 夜は明けゆき
 死かげの闇は あともなし
 ひかりより いでし光りを
 世の悪しきは 後方に退き
 愛のみかみぞ すぐべ統らす
 かがやきの 國こそ建てれ

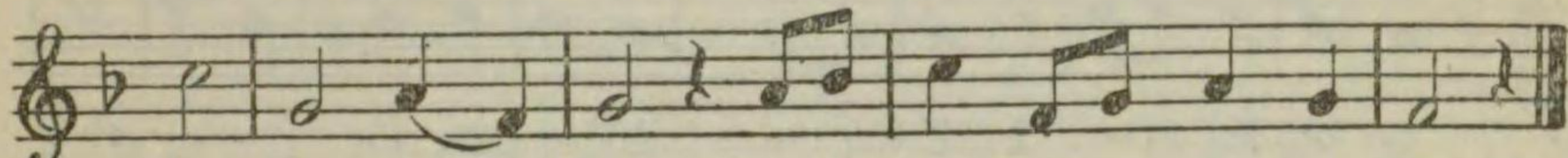




1. すくひのみこはくだりませり
 2. あまつみかみのみめぐみをば
 3. まぶねにいますかみのみこを

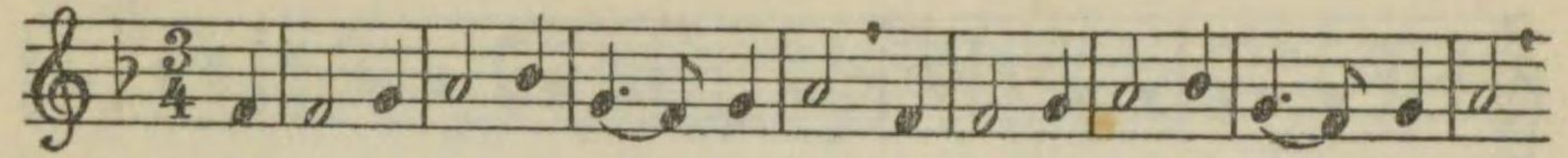


いざもろともーにうたひまつらん
 こぞりてわれーらたたへまつらん
 ときはかきはーにあいしまつらん

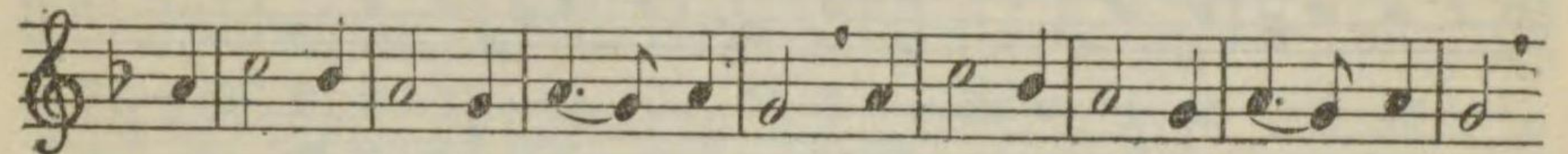


よろこびーうたひまつらん
 よろこびーたたへまつらん
 よろこびーあいしまつらん

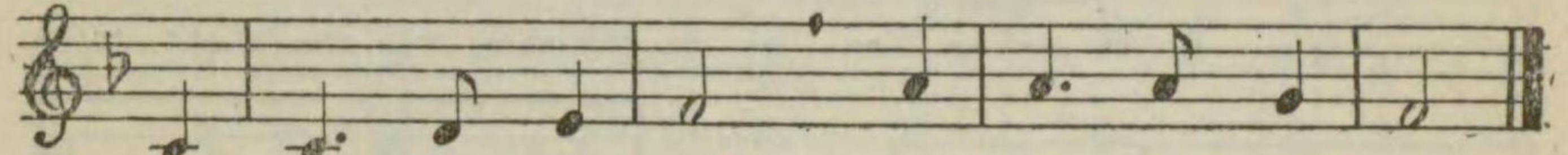
| | | | |
|---|----------------------------|---------------------------|---|
| 四 | 三 | 二 | 一 |
| 尊 <small>たふ</small> とき御 <small>み</small> 子の | 馬槽 <small>まぶね</small> にいます | あまつみ神 <small>かみ</small> の | 救 <small>すく</small> ひの御 <small>み</small> 子は |
| わが身 <small>み</small> わが靈 <small>たま</small> | ときは堅磐 <small>かきよ</small> に | 舉 <small>こぞ</small> りてわれら | いざもろ共 <small>とも</small> に |
| よろこび | よろこび | よろこび | よろこび |
| 捧 <small>ささ</small> げまつらん | かみの御 <small>み</small> 子を | みめぐみをば | くだりませり |
| ささげ奉 <small>まつ</small> らん | 愛 <small>あい</small> しまつらん | 讚 <small>たた</small> へまつらん | 歌 <small>うた</small> ひまつらん |
| | あいし奉 <small>まつ</small> らん | たたへ奉 <small>まつ</small> らん | うたひ奉 <small>まつ</small> らん |
| | | | |



1. みまやのともーしびかそけくゆらーぎて
 2. あとにはちちーははめぐしみこまーもり
 3. あらしなさわーぎそなみなうちよーせそ



ひつじかひたーちはみかみをほめーつつ
 さしくるなみーだもとどめあへまーさで
 まづしくはあーれどよろこびあふーるる



かへりゆくよはしづか
 たふとしと宣のらせたまふ
 さしくる涙なみだも止とどめあへまさで
 かたきよきささきくあれ

| | | |
|----------------------------|--|----------------------------|
| 三 | 二 | 一 |
| 嵐 <small>あらし</small> なさわぎそ | あとには父 <small>おち</small> 母 <small>はは</small> | みまやの燈火 <small>ともしび</small> |
| 貧 <small>まつし</small> くはあれど | さしくる涙 <small>なみだ</small> も | 羊飼 <small>つじか</small> ひたちは |
| きよきささち | 「たふとし」と | かへりゆく |
| | 宣 <small>の</small> らせたまふ | 夜 <small>よ</small> はしづか |
| | 波 <small>なみ</small> なうちよせそ | み神 <small>かみ</small> をほめつつ |
| | 愛 <small>め</small> ぐし御 <small>み</small> 子 <small>こ</small> 守 <small>まも</small> り | 幽 <small>かそ</small> けくゆらぎて |
| | 止 <small>とど</small> めあへまさで | |
| | | |

1. らうたきみこのみまへにふし
2. すくひのためにあれましける

かしこみあふぎをがみまつる
しるひともなきわびしきまや

あめよりくだりていぶせきこのよに
みちちみははのみかしづきおはせり

いまあれまししみこをたへなん
ひとみなはなほふかくやねむる

三

二

一

いざもろびとよ ゆきて禮まへ
みよ羊牧ひら 御子をや拜める
あめのみつかひ よろこび告ぐ
愛しきみどり兒 生れましぬと
人みなはなほ ふかくやねむる
御養父御母のみ 侍づきおはせり
知るひともなき わびしき馬屋
すくひのために 生れましける
いま生れましし 御子を稱へなん
天よりくだりて いぶせき此世に
かしこみあふぎ をがみまつる
らうたき御子の みまへに伏し

をりかへし

ひさかたのあめにもとよむ
ことほぎのうたごゑなれや
かみのこあれぬ 1. みちかひは
つゆたがはじととこしへの
へいわのきみぞくにたたしたる

(をりかへし)

一

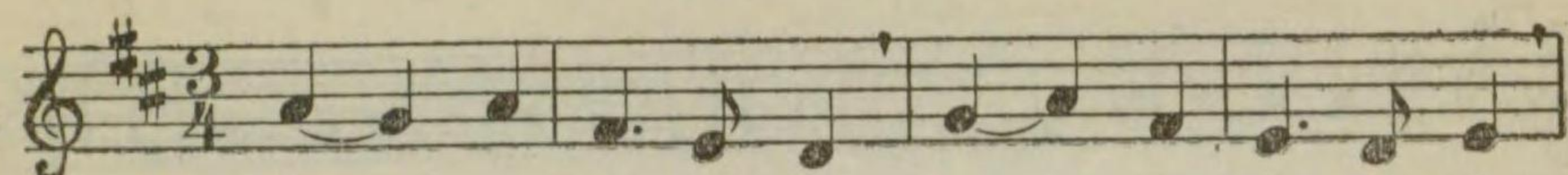
二

三

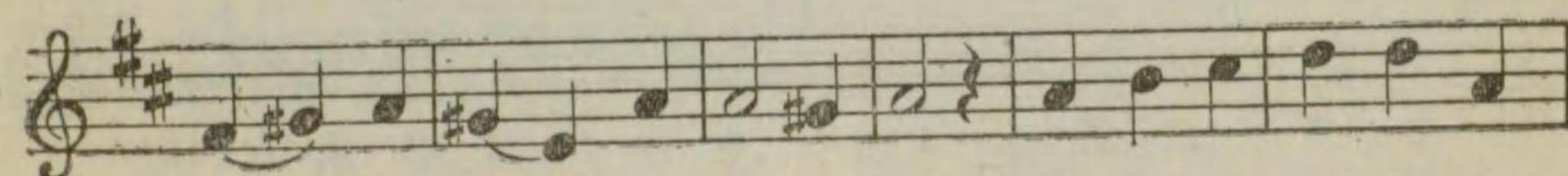
ひさかたの ことほぎの
あめにも響む 神の子生れぬ
うた聲なれや
みちかひは ところしへの
露たがはじと 國立たしたる
平和の王ぞ
つみの子は たぎつせに
悔のなみだの み赦し乞へる
生くる術なみ
おほぎみは なほなほに
賤の馬屋ぬち 愛をしめしつ
愛の御國の

41A

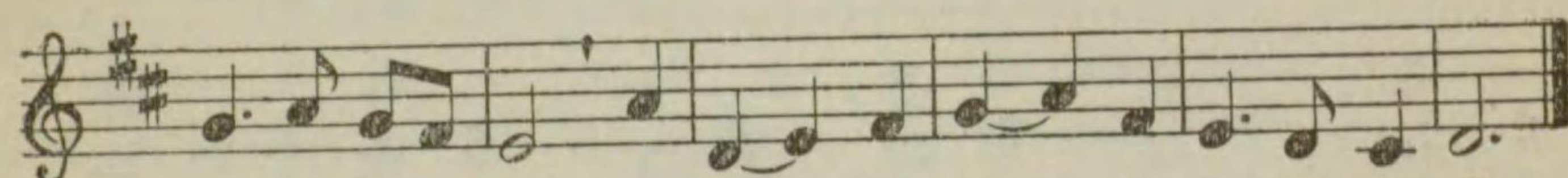
罪なき嬰兒



1. を - さ な ご ら い - た ま し く
 2. こ - こ ろ な き を - さ な ご ら
 3. つ - み も な く き - よ ら な る
 4. を - さ な ご よ を - さ な ご よ



み - こ に - か は り て あ は れ け が れ
 へ - ロ デ - の て よ り み こ イ エ ズ ス
 を - さ な - ご ら こ そ あ ら し に は な
 な - が ほ - ま れ を ば か た り つ ぎ



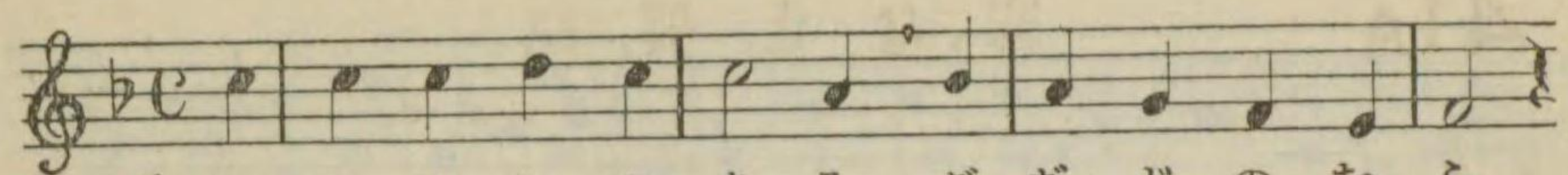
な き み - を や い - ば に - た ふ れ た り
 を す く - ひ て き よ - き に - へ と な り
 と ち り - て か を - り も - ゆ か し け
 ひ つ ぎ - て た か - き な - を ゑ ほ む

四 幼をさなご兒ごよ ををさな兒ごよ
 汝ながなほまれをば
 高たかきな名なををぞを稱ほむる

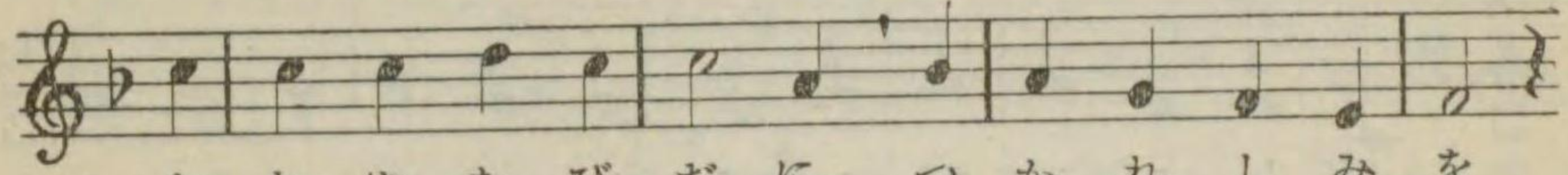
三 罪つみももななくくききよよららななるる
 ああららししにに花はなとと散ちりりて
 香かりりもも床ゆかししけけれ

二 心こころななききををさな兒ごらら
 へへロロデデのの手てよより
 聖み子こイイエエズズををすすくくひ
 清きよきき贅いへととななりりぬ

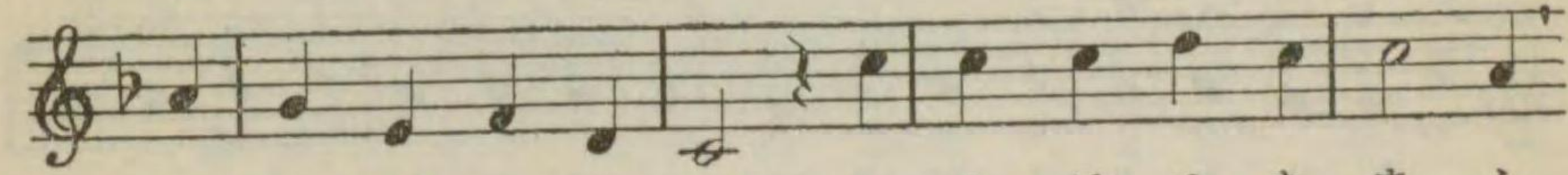
一 幼をさなご兒ごらら いたいままししくく
 聖み子こににかかははりりて
 ああははれれけけががれれななきき身みをを
 双やいはににたたふふれれたりり



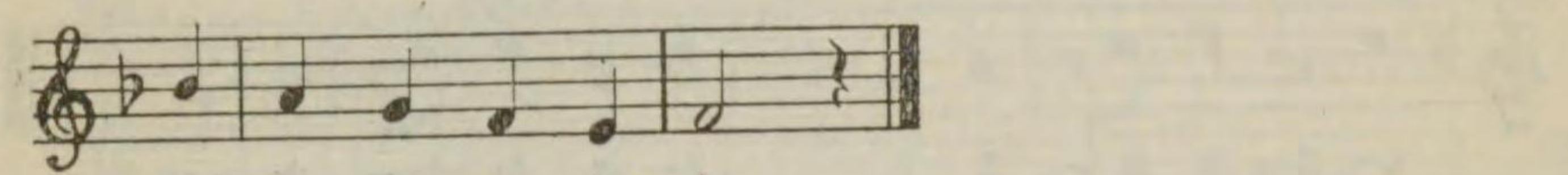
1. ゆ ふ や み せ ま る ダ ヴ ィ ド の む ら
 2. と も し び き え て さ と び と い ね



な れ ぬ た び ぢ に つ か れ し み を
 た ま の ひ か り は さ し い で き ぬ



を と め マ リ ア い こ は せ た ま ふ
 か み の み こ ぞ マ リ ア は え あ る



う ま や の う ち
 は は た り た ま ふ

四 語かたりりつつたたへへななん
 たたへへななるるわわざざ

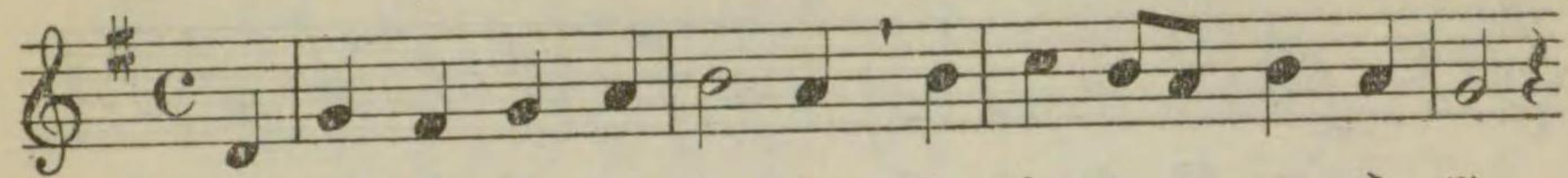
三 ほほししかかげげつつええて
 そそららよよりり告つぐぐるる
 すすくくひひぬぬししぞぞ
 ひひつつじじかかひひ等らはは

二 ともともししびび消きええて
 靈たまののひひかかりりはは
 かかみみのの御み子こはは
 ママリリアア榮はるるぞぞ
 母はたたりりたたままふ

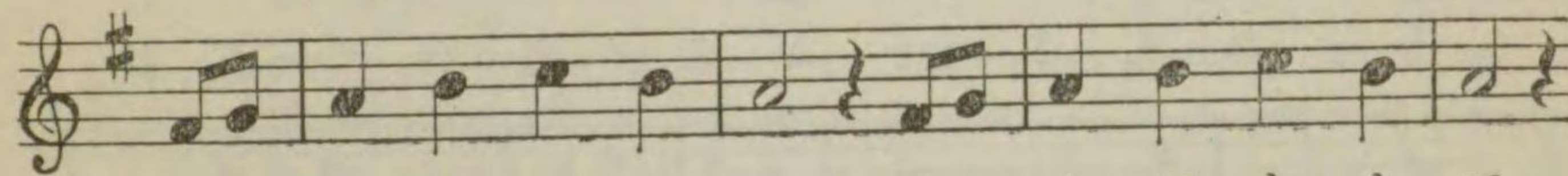
一 ゆゆふふややみみまませせるる
 ななれれぬぬたたびびぢぢにに
 ををととめめママリリアア
 いいここははせせたたままふ

ダダヴヴイイドドのの村むら
 つつかかれれしし身みをを
 ううままややののううち
 ささととびびとと寝いねね
 ささしし出いでで來きぬぬ
 ふふけけゆゆくく夜よ半はん
 そそののよよろろここび
 ををががみみままつつる

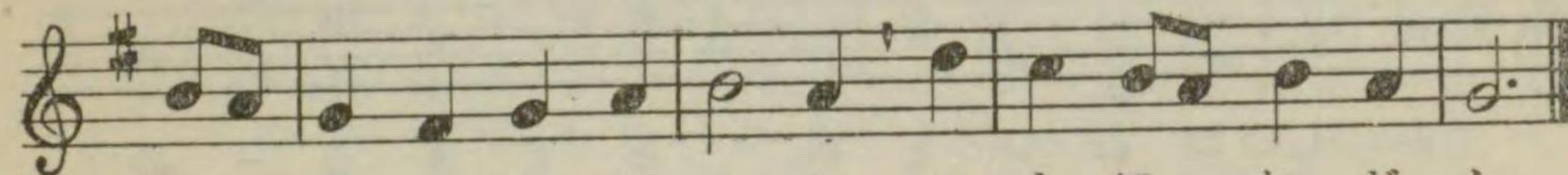
ううたたひひままつつれ
 美うしし母ははよよ
 ととここししななへへに



1. あらたまのとし たちかへらひ
 2. ふるきはさりて いまにひどしの
 3. わがたましひは きよきぬと



いりのごころ むねにわきて
 のぞみはわきこころいさむて
 主キリストを あらたにきて

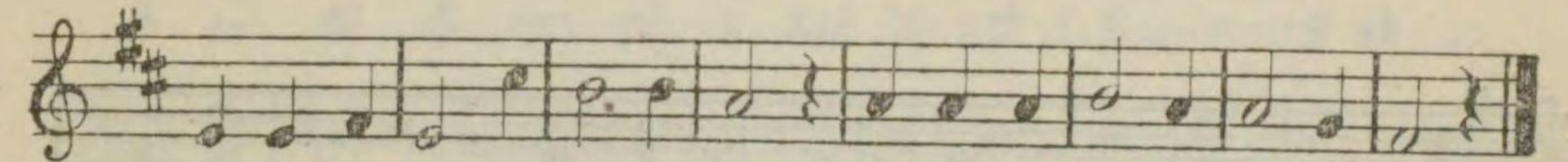


主のみめぐみをせちにねがふ
 ああ主よまなくぞとみはにきく
 ぬぐことなくぞとみはにきく

| | | | |
|---|---|--|--|
| <p>四 主の手に受け また一年を 神につかへん</p> | <p>三 わが靈魂は 主キリストを 脱ぐ事なくぞ</p> | <p>二 古きは去りて のぞみは湧き 噫主よ守らひ</p> | <p>一 あらたまの年 いのりごころ 主のみ恵みを</p> |
| <p>ひとひひとひの 靈魂の糧を やしなはれて</p> | <p>たましひは きよき衣と あらたに著て 永遠に生くる</p> | <p>いま新年の こころいさむ みちびきませ</p> | <p>立ち歸へらひ むねに湧きて せちにねがふ</p> |

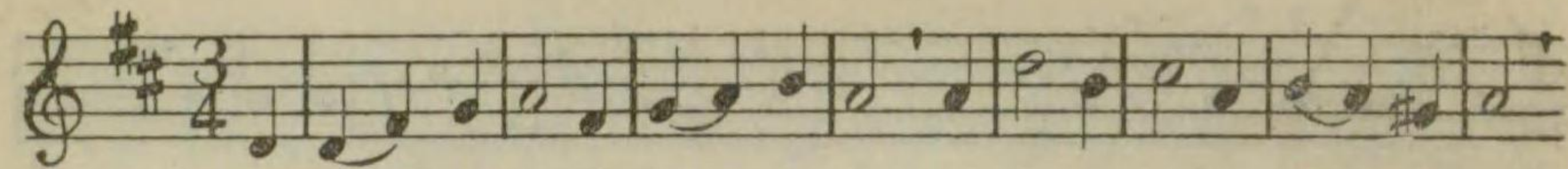


1. あふぐもたふとし みこイエズスのみな
 2. うたへどつきせぬ こほしきそのみな
 3. わするるときなく よもひもおもひて

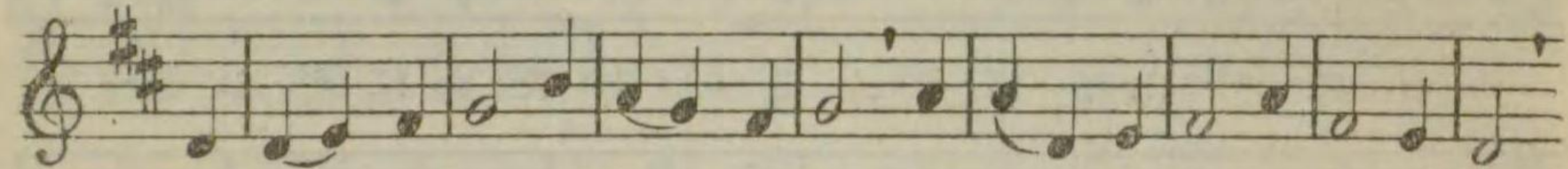


いづこにあるべき きみにまさるなは
 うたへど うたへど あかぬことばかも
 わがむねをどるよ かみのみななれば

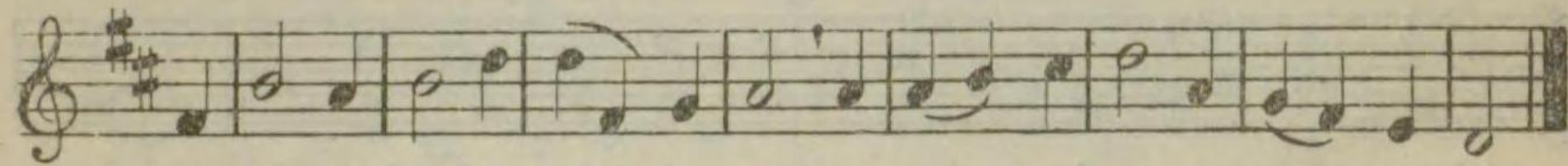
| | | | | | |
|--|--|--|--|---|--|
| <p>六 ちちみこみたまの かみの御名にこそ</p> | <p>五 斯ばかりたふとき すくひのちからと</p> | <p>四 その名はいく千代 むねよりむねより</p> | <p>三 わするるときなく わがむねをどるよ</p> | <p>二 うたへどつきせぬ うたへど うたへど</p> | <p>一 あふぐもたふとし いづこにあるべき</p> |
| <p>三つのくらゐなる 世々みさかえあれ</p> | <p>イエズスの御名をば われら仰ぎゆかん</p> | <p>へりくだる人の ひびかひ響かふ</p> | <p>夜も日もおもひて かみの御名なれば</p> | <p>戀ほしきその御名 あかぬ「言」かも</p> | <p>み子イエズスの御名 きみにまさる名は</p> |



1. ひかーりもくすーしき ほしにみちびーかれ
 2. はるーけきたびーぢを ベトレエムにーこし
 3. みくーさのゐやーしろ みたりにかしこーみて



みたーりのはかーせら きたーりまみえたり
 もゆーるそののぞみ そのーあいたふとし
 おもーひもゆかーしく たてーまつりしごと



われらもきみーをぞ たづーねをがまーまし
 われらもきみーにぞ ここーろささげーまし
 われらももーのみな ささーげまつらーまし

四

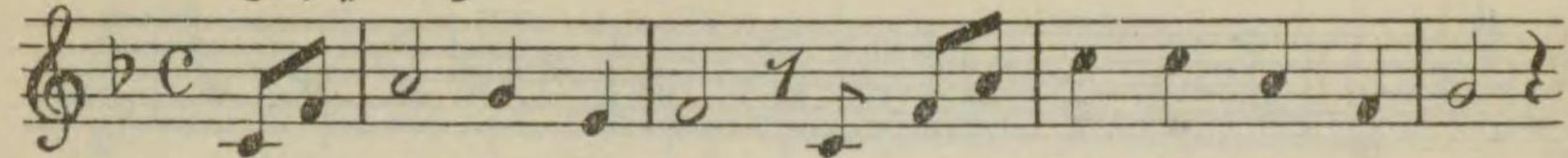
三

二

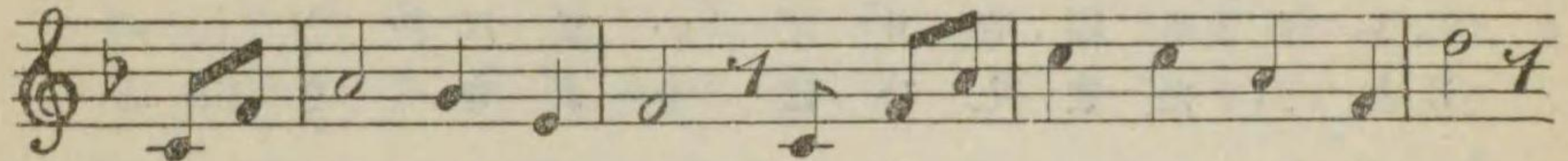
一

| | | | | | | | | | | |
|--|--|--------------------------------|--------------------------------|--|--------------------------------|--|--|--------------------------------|---|--------------------------------|
| 神 <small>かみ</small> の 正 <small>まさ</small> 道 <small>みち</small> に | 暗 <small>くら</small> き世 <small>よ</small> の たびぢ | われらも 物 <small>もの</small> みな | 思 <small>おも</small> ひも ゆかしく | 三 <small>みつ</small> 種 <small>くさ</small> の ゐやしろ | われらも 君 <small>きみ</small> にぞ | 燃 <small>も</small> ゆる その望 <small>のぞ</small> み | はるけ き旅 <small>たび</small> 路 <small>ぢ</small> を | われらも 君 <small>きみ</small> をぞ | みたりの 博 <small>はかせ</small> 士 <small>し</small> ら | 光 <small>ひか</small> りも くすしき |
| かがやく そのほし | 断 <small>た</small> え せずぞ 見 <small>み</small> まし | ささげ まつらまし | たて まつりし ごと | 三 <small>みつ</small> 人 <small>たり</small> かしこ みて | こころ ささげ まし | その愛 <small>あい</small> たふとし | ベ トレエ ムに 来 <small>こ</small> し | たづ ねを がま まし | 来 <small>き</small> たり まみ えたり | ほしに みち びか れ |

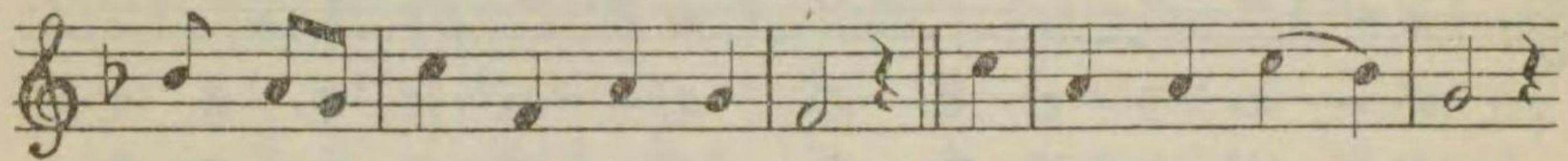
をりかへし



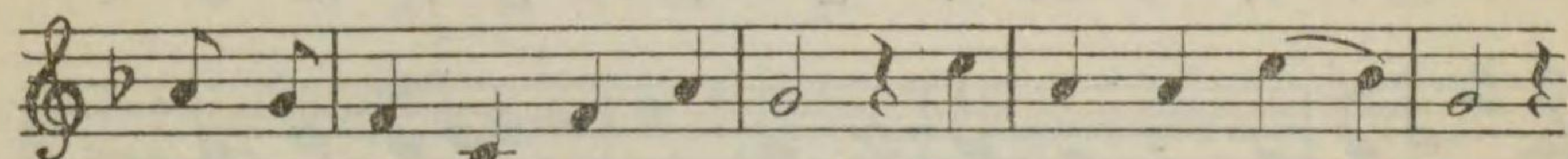
あーはれこのきみーがなをしる



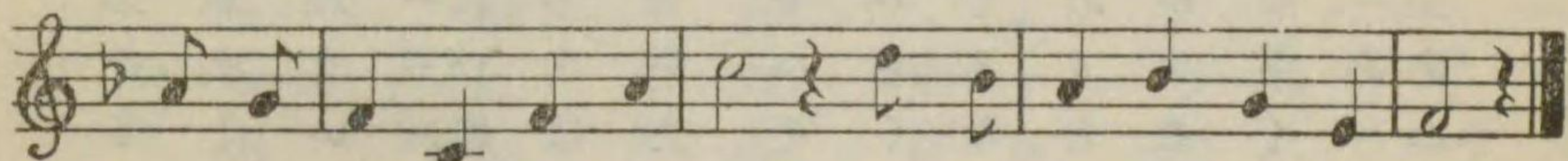
うーれしさをかたーらひつがね



よのーをはるまで 1.みなをこーそ



かしこむひとにとどまらーめ



のりのよろこび たとしへもなし

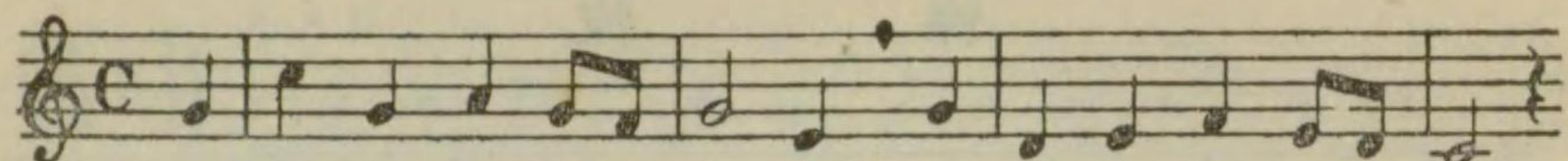
三

二

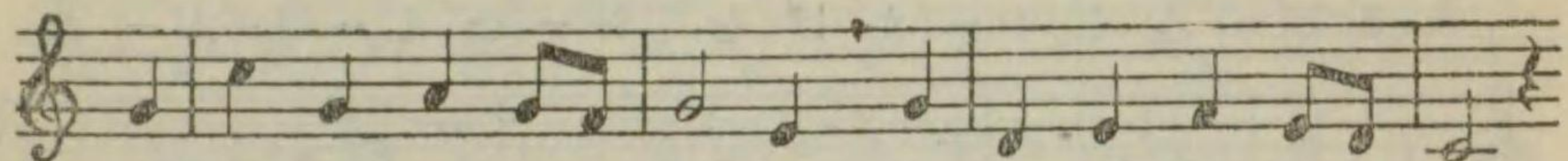
一

(をりかへし)

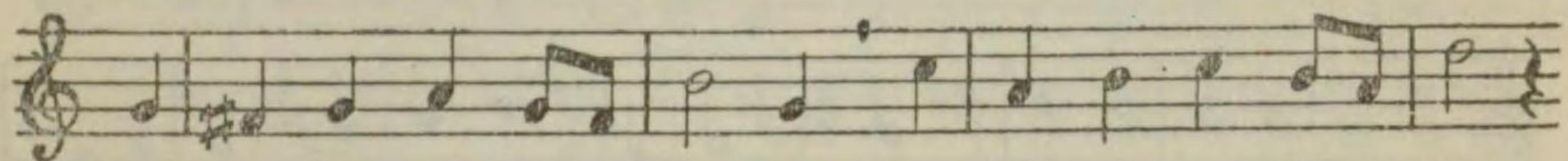
| | | | | | | | | | | |
|---|---|-----------|-----------------------------------|---|---------------|---|-----------------------------------|-----------------------------------|--|---------------|
| 燃 <small>も</small> ゆる 心 <small>こころ</small> に | 身 <small>み</small> は賤 <small>いや</small> し けれ | ちり ひぢの | あま るみ 恵 <small>めぐ</small> み | 愛 <small>め</small> づ る心 <small>こころ</small> に | みこ とば を | 御 <small>み</small> 名 <small>な</small> を こそ | か しこ む人 <small>ひと</small> に | 教 <small>のり</small> の よろ こび | 御 <small>み</small> 名 <small>な</small> を こそ | あ はれ この |
| 歌 <small>うた</small> の なが るる | き みを 思 <small>おも</small> ひ | | 包 <small>つつ</small> み あへ ねば | な みだ しぬ | | と どま らめ | 例 <small>たと</small> し へも なし | | 世 <small>よ</small> の 終 <small>は</small> る まで | う れし さを |



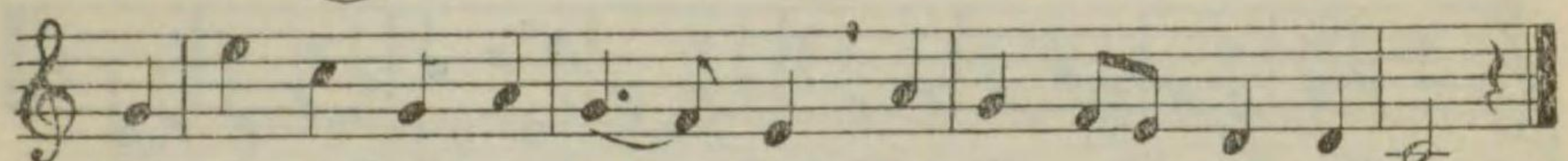
1. はしきみこーはもあもりいまーし
2. ひがしのはーかせゐやしろもーち



ベトレエムーなるかりのみやーゐ
みちはるけーくぞたづねきたーる



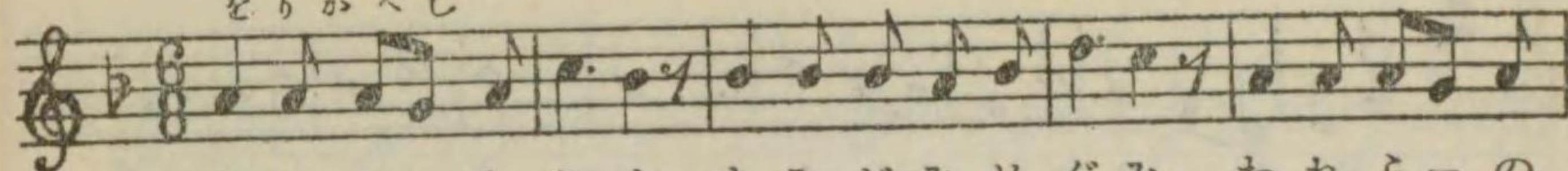
ゆきくのひーとのかげぞさびーし
にふかうもつーやくこがねのはーこ



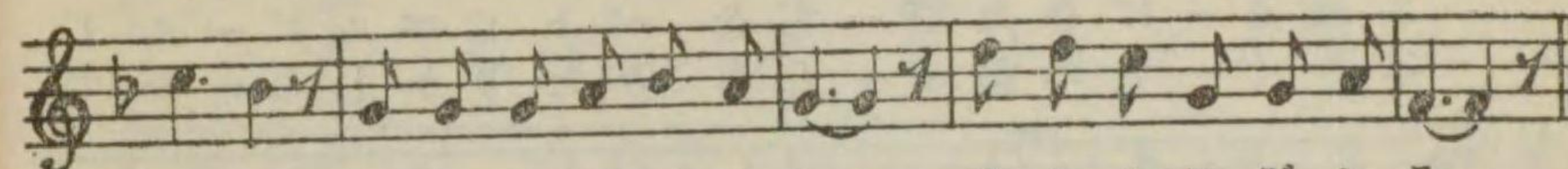
くらゐあらなーくなもひーなざと
なにをかしめーすとつくーにびと

| | | |
|--|---|--|
| 三 | 二 | 一 |
| やすみししきみ 憂き塵泥の 嘗むるもつやく こがねのかむり | ひがしのはかせ みちはるけくぞ 乳香もつやく なにをかしめす | 愛しき御子はも ベトレエムなる 行き來のひとの くらゐ有ら無く |
| さかえ棄てて 世のなやみを あいの乳香 | たづねきたる こがねのはこ とづくにびと | あもりいまし 假りの宮居 かげぞさびし 名もひなざと |

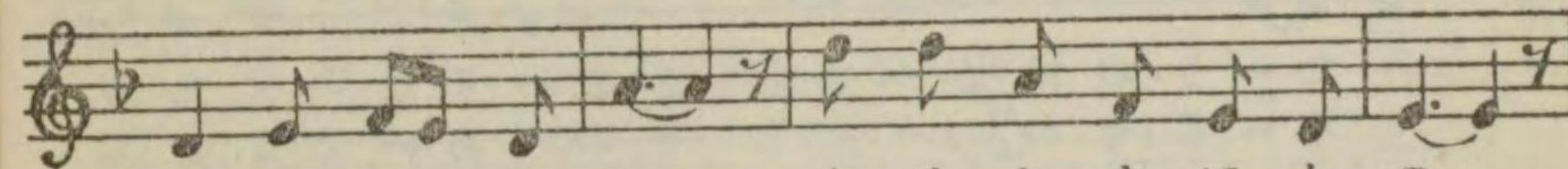
をりかへし



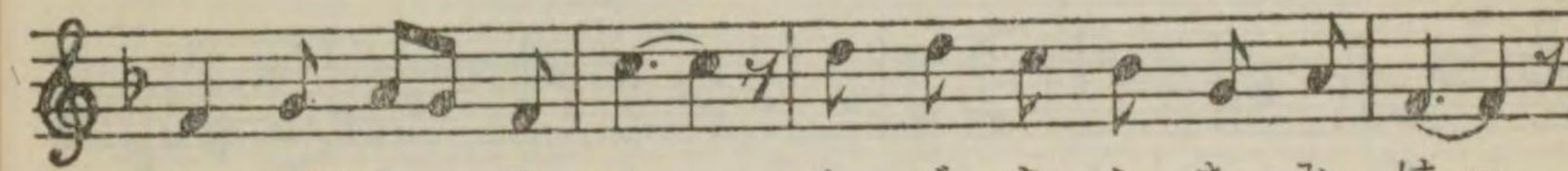
あもりーきますきみがみめぐみ われらーの



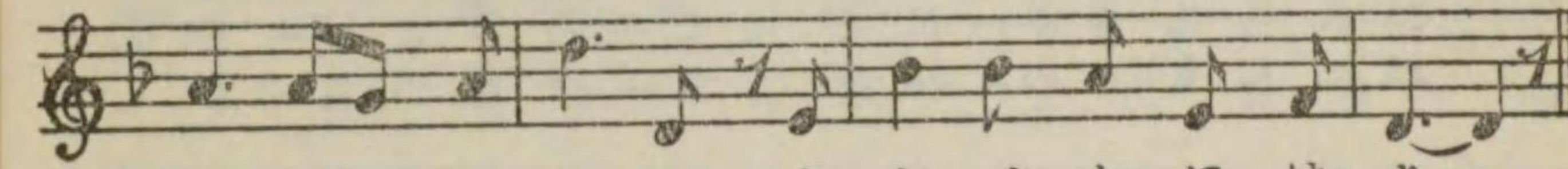
へにゆたかにぞふるー ゆたかにぞふるー



1. おんしーめしーくすしきほしーのー



かげみーえてーなづさふきみはー



ひなーざとに あれましにけりー

| | | | | |
|------------------------------------|----------------|-----------------------------|--|--|
| 四 | 三 | 二 | 一 | (をりかへし) |
| みどりある いちはやに かしこみささぐ 知らぬ國人 | ゆかりある 三つの禮物 | ひと知れず いのちやもとむ 教師等と呼びて | へロデらは なに狂ほしく 名をなつかしみ ほしをしるべに みやこにぞ來し | あもり來ます われらの上に 豊かにぞ雨る きみがみめぐみ ゆたかにぞ降る |

とりかへし

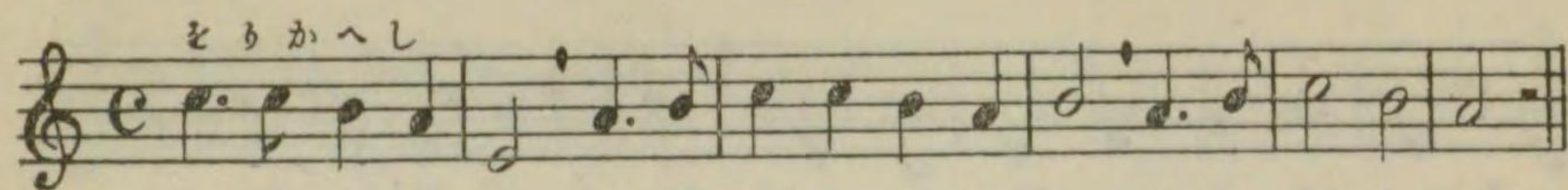
き - み なら - で た れ に か - ゆ か む
 と - こ し へ - の い の ち の - こ と ば
 よ に あ ら - な く に 1. い ざ さ ら - - ば -
 主 - に か へ ら - ま し - く い し み - - の -
 い - の ち こ ふ - べ き - か - た も あ ら - ね ば -

(をりかへし)

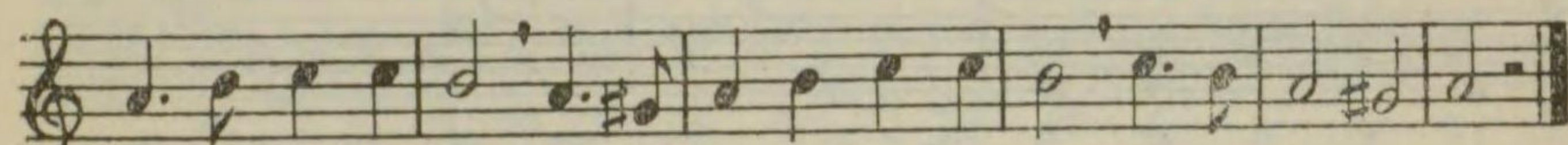
| | | |
|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 三 | 二 | 一 |
| か さ ね て は | 憂 し と 見 し | い ざ さ ら ば |
| 又 悔 い な む と | 日 も 有 け る を | 主 に 歸 ら ま し |
| 罪 を 犯 し ぬ | 悟 り な り し か | 命 乞 ふ べ き |
| 泣 き に つ つ | た ま ゆ ら の | 悔 い し 身 の |
| ま た さ ら に し て | ま た ま ど ひ る し | 方 も あ ら ね ば |
| | | 世 に あ ら な く に |
| | | と こ し へ の |
| | | 誰 に か ゆ か む |
| | | き み な ら で |

1. ま ぼ - ろ し の - か げ を お - ひ し - わ が - た
 ま - あ は き ゆ め さ め て い ま ぞ か な - し き
 主 よ こ ひ ね が は く つ - み の - み ゆ - る し -
 い ざ - か へ り - ゆ か な あ - い の - ふ る - さ と -

| | | |
|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|
| 三 | 二 | 一 |
| 悔 ゆる わ が 胸 に | み ち ち は 扉 に | ま ぼ ろ し の 影 を |
| 偲 ぶ み か む り の | わ が 名 呼 び 給 ふ | 追 ひ し わ が た ま |
| 血 潮 の い づ み に | み 旨 の ま に ま に | 淡 き ゆ め 醒 め て |
| み め ぐ み の 光 り | い ざ や 従 は な | 主 よ 乞 ひ 願 は く |
| 受 く る う れ し さ | き よ き み こ と ば | い ざ 歸 り 行 か な |
| | | 愛 の ふ る さ と |
| | | つ み の み ゆ る し |
| | | い ま ぞ か な し き |
| | | 十 字 架 を し る し |
| | | い ば ら 染 め た る |
| | | い の ち 汲 ま ま し |
| | | ゆ び 折 り ま ち て |
| | | う れ し き み こ と ば |



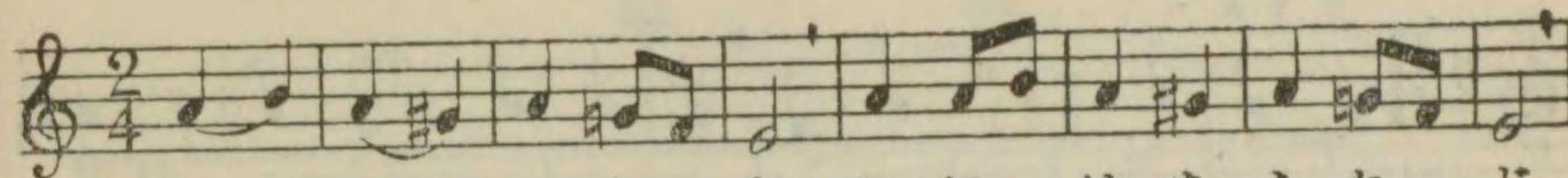
まなかひにみまつるときのちかければ



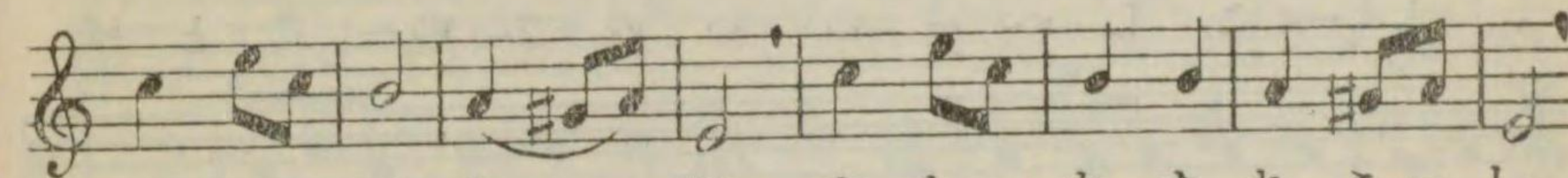
- 1. 主よきたりけがれしわれをきよめませ
- 2. よこしまのむくいにめぐるよみのくに
- 3. ところをばそなへせさせよひかりのこ
- 4. みさばきにををしくたたむところせむ

(をりかへし)

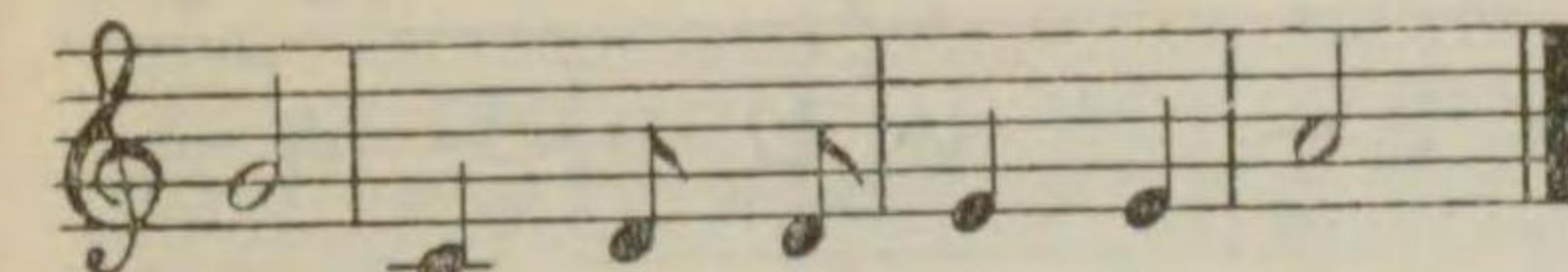
| | | | | |
|----|----------------|------------------|-------------------|-----------------|
| 四 | 三 | 二 | 一 | (をりかへし) |
| こみ | ひこ | 陰 ^ま よ | 主 ^{しほ} き | ま |
| こ | こ | 府 ^ま こ | よ | な |
| ろ | ろ | の | め | か |
| せ | を | く | ま | ひ |
| む | ば | に | せ | に |
| | 子 ^こ | | | 見 ^み |
| | | | | ま |
| | | | | つ |
| | | | | と |
| | | | | の |
| | | | | 雲 ^{くも} |
| | | | | る |
| | | | | こ |
| | | | | ころ |
| | | | | は |
| | | | | 晴 ^は |
| | | | | れ |
| | | | | ぬ |
| | | | | 身 ^み |
| | | | | は |
| | | | | 生 ^い |
| | | | | き |
| | | | | ぬ |
| | | | | か |
| | | | | く |
| | | | | て |
| | | | | ぞ |
| | | | | い |
| | | | | ま |
| | | | | は |
| | | | | の |
| | | | | ち |
| | | | | な |
| | | | | 惜 ^を |
| | | | | し |
| | | | | み |
| | | | | い |
| | | | | の |
| | | | | ち |
| | | | | な |
| | | | | 惜 ^を |
| | | | | し |
| | | | | み |
| | | | | の |
| | | | | 海 ^{うみ} |
| | | | | わ |
| | | | | た |
| | | | | る |
| | | | | 世 ^よ |
| | | | | の |
| | | | | 子 ^こ |
| | | | | 等 ^ら |
| | | | | 浮 ^う |
| | | | | き |
| | | | | し |
| | | | | づ |
| | | | | み |
| | | | | し |
| | | | | づ |
| | | | | ま |
| | | | | ぬ |
| | | | | 岩 ^{いは} |
| | | | | に |
| | | | | す |
| | | | | く |
| | | | | ひ |
| | | | | 得 ^え |
| | | | | さ |
| | | | | さ |
| | | | | ね |



- 1. おそれなきみにあらねど
- 2. いかぶりか主にかへらまく
- 3. うたがひののべのくまわを

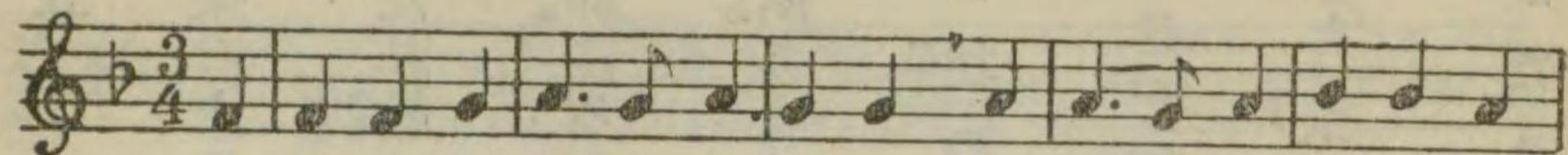


- たかぶりかに主をわすれこし
- にごりえのよどむころし
- たもとほりけふははれゆく

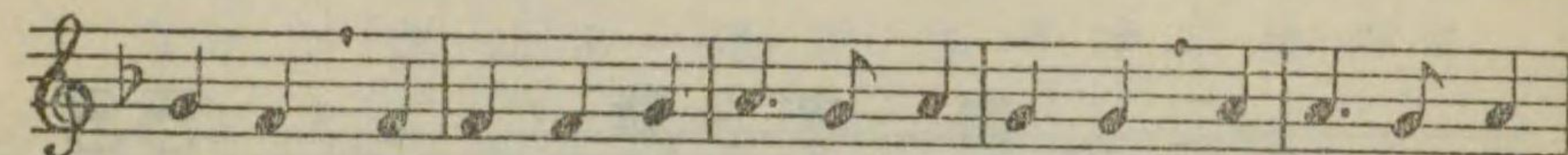


われにありしよく
いまでものたび

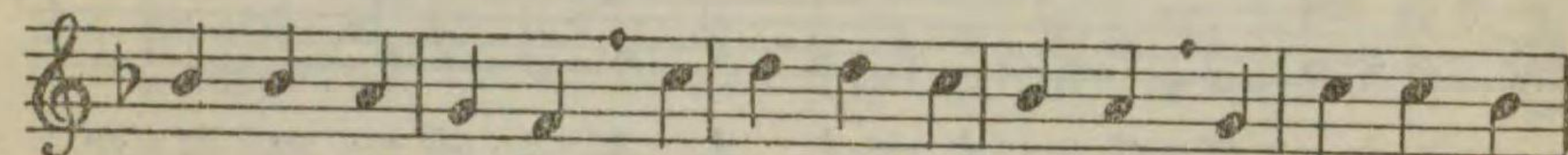
| | | | | |
|--------------------|-------------------|------------------|-------------------|-------------------|
| 五 | 四 | 三 | 二 | 一 |
| つみの海 ^{うみ} | 身の雲 ^{くも} | うたがひの | いくたびか | おそれなき |
| わたる世 ^よ | の雲 ^{くも} | 野邊 ^{のべ} | 主 ^{しほ} に | 身 ^み には |
| の子 ^こ | る | の隈 ^{くま} | 歸 ^{かへ} ら | あらねど |
| 等 ^ら | こ | 曲 ^{まわ} | ま | |
| 浮 ^う | ころ | を | く | |
| き | は | | | |
| し | 晴 ^は | | | |
| づ | れ | | | |
| み | ぬ | | | |
| し | か | | | |
| づ | く | | | |
| ま | て | | | |
| ぬ | い | | | |
| 岩 ^{いは} | ま | | | |
| に | は | | | |
| す | の | | | |
| く | ち | | | |
| ひ | な | | | |
| 得 ^え | 惜 ^を | | | |
| さ | し | | | |
| さ | み | | | |
| ね | い | | | |



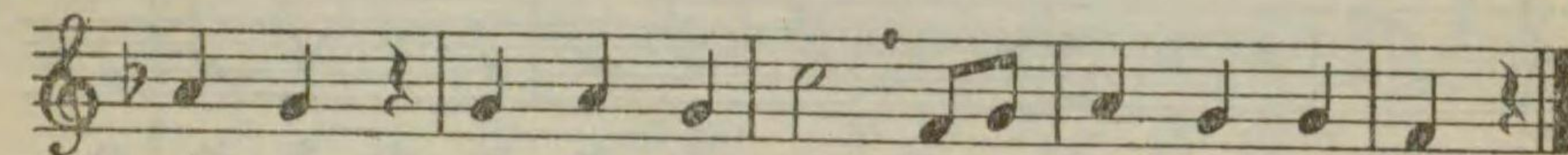
1. ゆふやみかげくらくゲッセマニのその



にしちのみあせしるけくいのみりま



せるみこゑしぬるばかりもだえた

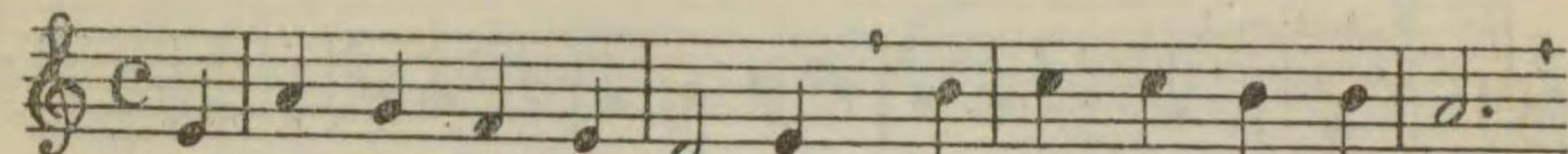


まふ ああこれ たーがためぞ

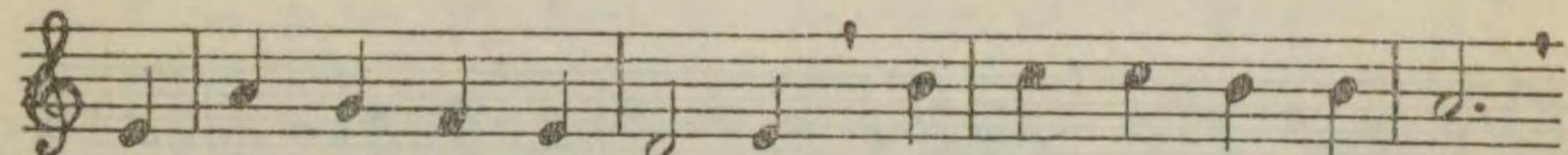
四 三 二 一

あ あ これ たがためぞ
 ちからよわみ たふれたまふ
 喘ぎのぼり給ふ 行きの進みにつれ
 十字架負まして カルワリオの山路
 ああ これ たがためぞ
 あなかしまし ののしるこゑ
 嘲りつ笑ひつ み顔につばきして
 答數終れば いばらの冠させ
 ああ これ たがためぞ
 みはだやぶれ ちしほながる
 繩目も厳しくぞ 鞭打たれたまへる
 看よ御衣は剥れ いやしき人の手に
 ああ これ たがためぞ
 死ぬるばかり もだえたまふ
 死ぬるばかり もだえたまふ
 血のみ汗著けく 祈りませる御こゑ
 夕闇かげくらく ゲッセマニの園にし

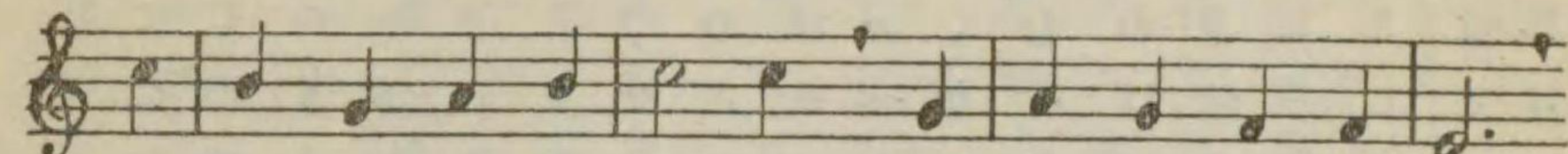
(次頁に續く)



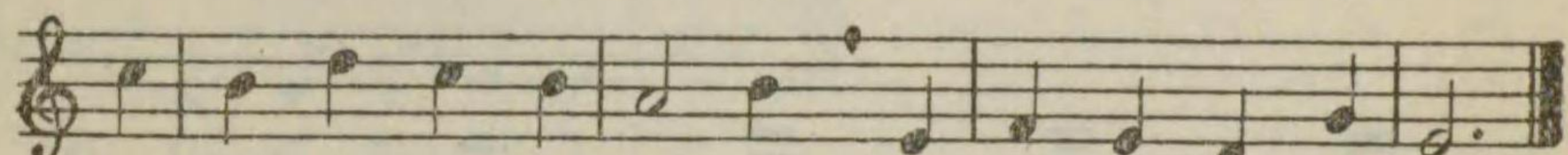
1. いばらのかむり おしかぶされ
2. き の ふ に か は る み か げ か こ み



し も と に ら た れ つ ば き せ ら れ
の の し り さ わ ぎ あ た む ら が り



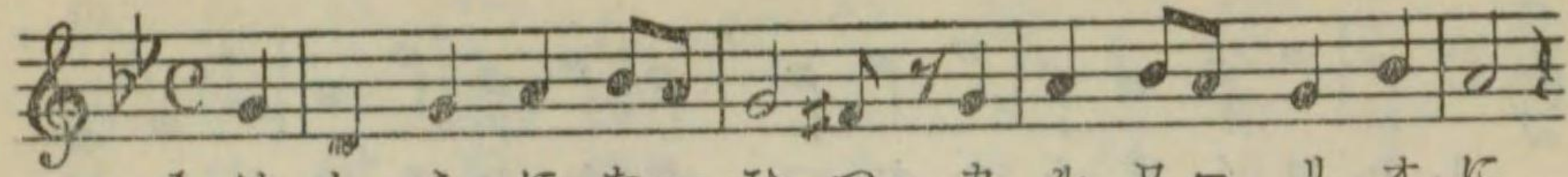
ち し ほ は な が る 主 の み か ほ よ
に く み や ま ぬ を い つ く し み の



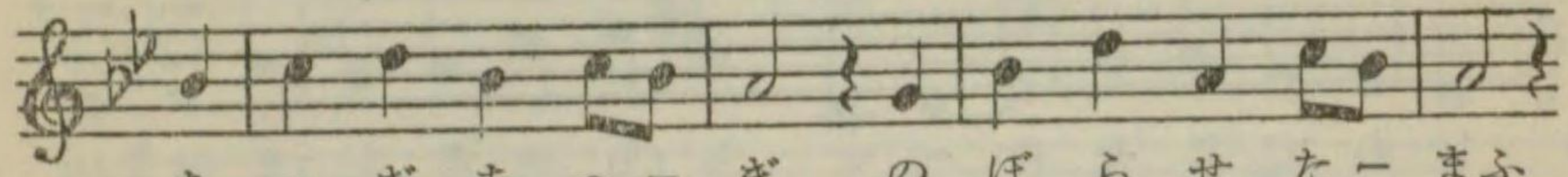
い た ま し き さ ま か な し き か も
ま な ざ し さ や に み そ な は せ る

四 三 二 一

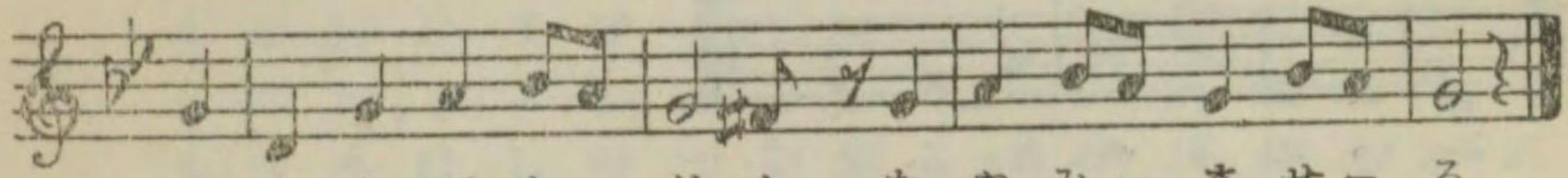
いばらのかむり おしかぶされ
 血潮は流る つばきせられ
 いたましきさま かなしきかも
 昨日にかはる 御影かこみ
 ののしりさわぎ 仇むらがり
 にくみ止まぬを いつくしみの
 まなざしさまに 見そなはせる
 主のみくるしみ 誰がためども
 よみに墮つべき 罪し負へる
 世のひとびとの すくひのため
 示させたまふ みむねにこそ
 わが身わがたま ささげまつり
 いかでめぐみに むくいでは
 身に十字架を ひたに負ひて
 御名かぐはしみ み跡行かなん



1. は し ら に な ひ つ カ ル ワ リ オ に
 2. ま だ は る あ さ く ニ サ ン の つ き
 3. み か ほ は あ け に ち り や ま み る



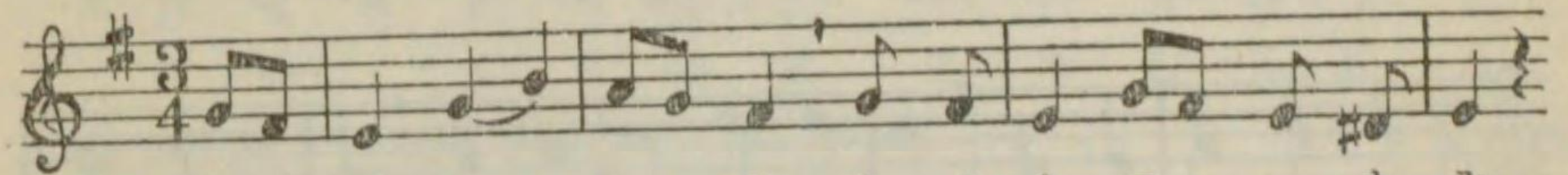
あ へ ぎ あ へ ぎ の ぼ ら せ た ま ふ
 や ま ぢ な や み た ふ れ ま し し
 あ せ つ は ぶ き い ば ら の き ず



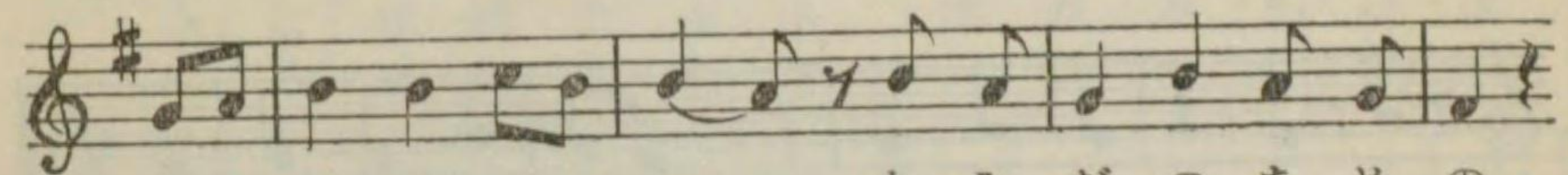
あ あ た が た め か な や み ま せ る
 い た ま し き さ ま か し こ き か も
 ら う が は し く も み た て ま つ る

| | | | | |
|-----------------------|-------------------|-------------------|------------------|-------------------|
| 五 | 四 | 三 | 二 | 一 |
| 主と共にかずはあれど しのごきゆかめ | 主よわが身はも うき世のきす | いつつのみきす あいのいづみ | み手み足よ みわきばらよ | 岡上のはしら なにを語る |
| | | らうがはしくも 見たてまつる | あせつはぶき いばらのきす | みかほは赤けに ちりやまみる |
| | | いたましきさま かしこきかも | やま路なやみ たふれましし | まだ春あさく ニサンのつき |
| | | ああ誰がためか なやみませる | あへぎあへぎ 登らせたまふ | はしらになひつ カルワリオに |

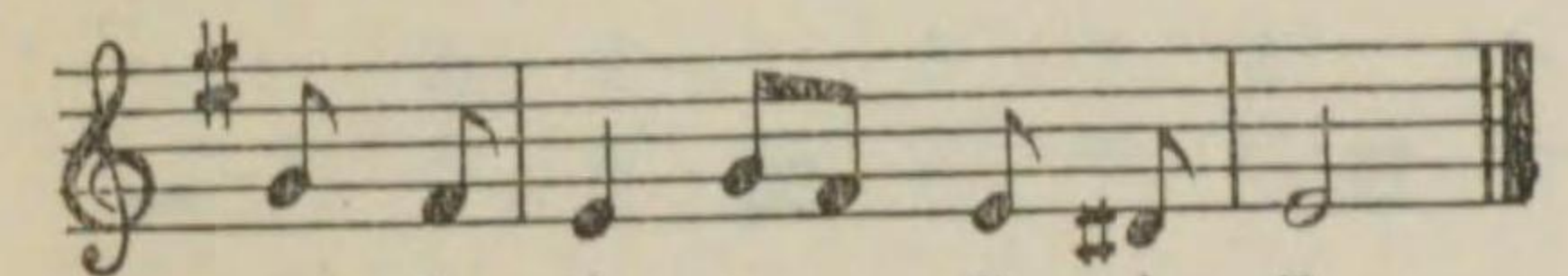
我 五
 が 十 字 架 の 上 に て
 た め ぞ
 め ぞ
 れ
 こ
 れ
 み
 な
 こ
 れ
 み
 わ
 き
 ぞ
 刺
 す
 み
 よ
 槍
 の
 穂
 父
 に
 祈
 り
 ま
 せ
 り
 仇
 の
 罪
 ゆ
 る
 し
 て
 釘
 う
 た
 れ
 給
 へ
 ど
 五



う け ま し し も と の い た み

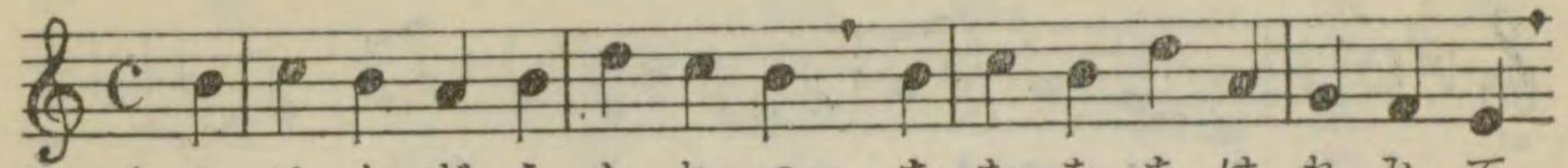


お も ひ つ つ な み だ の あ め の

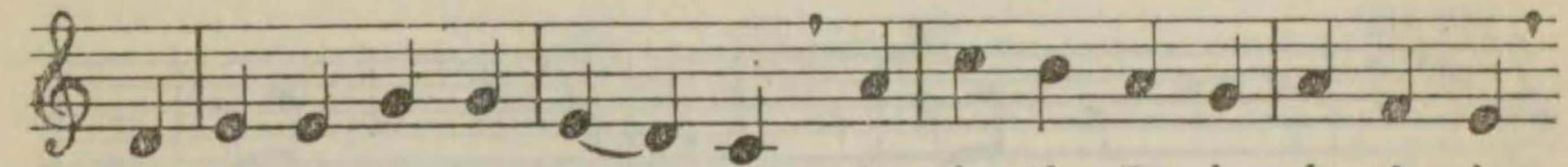


ま な く ふ り く る

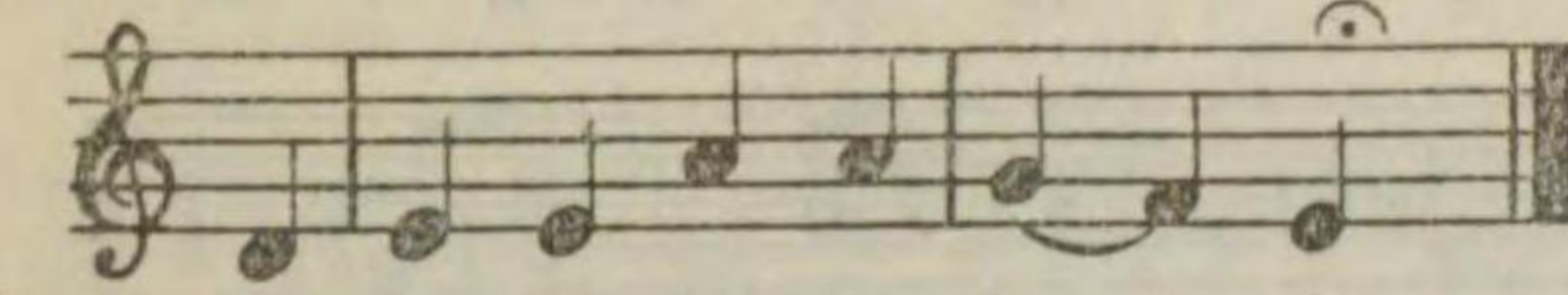
| | | | |
|---------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 四 | 三 | 二 | 一 |
| とはのさち得よ | たのみ来て たのしき國の | つみの子ら 君がいさをに | うけましし しもとの痛み |
| | すくひぬしはも | みはしらに 釘うたれます | おもひつつ なみだの雨の |
| | われわすれめや | カルワリオ 岡にのぼりて | 間なく降り来る |
| | とりましし み苦しみなり | 世のひとの 咎にかはりて | |



1. みはくぎうたれつ あたを あはれみ て
2. けふよいましこそ あまつくにはにあれ
3. こはきみのこなり こはながはははぞと



しらでこそな一せちちゆるとしませと
わはれとともにし一とちつみびとけいましぬ
みははみでし一に主はあづけま



みいのりやたふとり
すくはとれきるか一も
たふと

一 身は釘うたれつ 仇をあはれみて
「知らでこそなせ 父ゆるしませ」と
み祈りやたふと

二 「今日よ汝こそ あまつくににあれ
われとともに」と つみびとの臨終
すくはれにけり

三 「こは君の子なり」 「こは汝が母ぞ」と
み母み弟子に 主はあづけましぬ
たふときろかも

四 人となりましし 人の性もちて
「わが神などか 我をすてます」と
いたまし御こゑ

五 きみはみめぐみの いづみにしあれど
身はくるしみて たふとくも宣りぬ
「われよ濁く」と

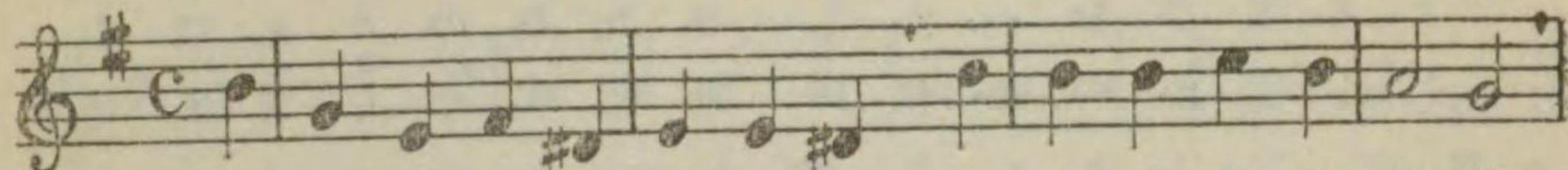
六

み誓ひことごと
その如くなりて
「事終りぬ」と
主は宣ひけり
臨終のときに

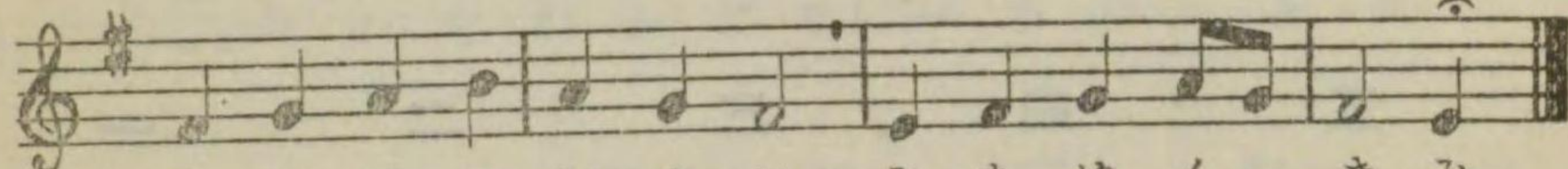
七 「父よわが靈を
御手にぞ委ぬ」と
御言けやけく
事切れ給ひし
すくひ主はも

56

御 苦 難



1. なやみつかれましかみこるもあかなく
2. せおひますかすじかくをみならはなちて
3. ゴルゴタかのつるぎかみわがため
4. つみはしのつるぎかみわがため



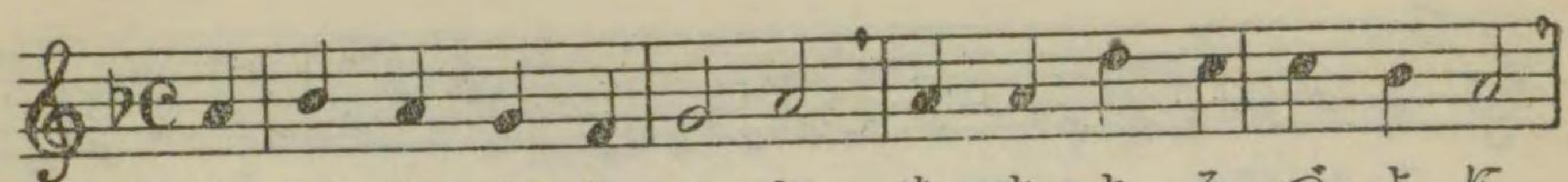
ちたおひ
にすひと
そけまた
みましび
たらしし
まらきに
ひすみて
みすかい
ちべかの
ゆをりち
くなまた
一 一 一
きみしま
みとぬふ

一 なやみ疲れまし みころも赤く
血に染みたまひ みち行くきみ

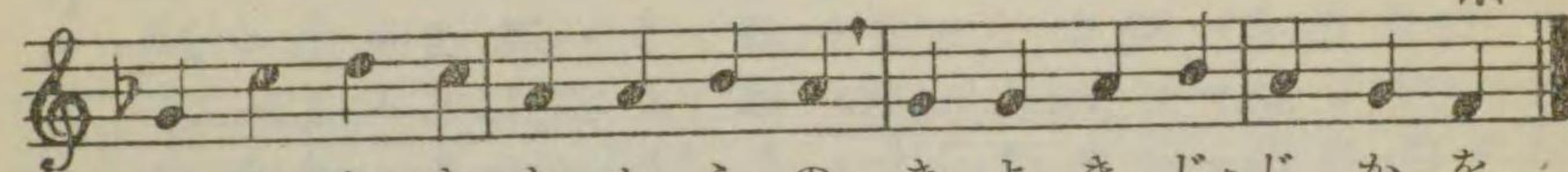
二 脊負ます十字架 婦人等は泣く
たすけまゐらす すべを無みと

三 ゴルゴタ哀しく 十字架は立て
負ひまししきみ かかりましぬ

四 罪は死のつるぎ 神わがために
ひとたび死にて いのちたまふ



1. ほ め よ た た へ よ ち よ よ ろ づ よ に
 2. あ ま つ み く に を あ こ が れ ゆ け ば
 3. よ の な み か ぜ は ふ き や あ る し し も
 4. せ め よ る あ た も あ ら ぶ る し し も
 5. あ め に ゆ く た ま で ま な く ひ ま な く

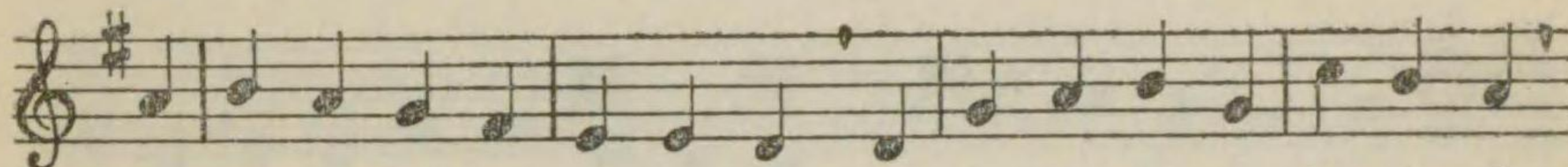


こ よ な き た か ら の き よ き じ じ か を
 じ じ か の は し だ て き よ く か が や く
 じ じ か の み ち び く み ち ぞ や す け き
 じ じ か に を の の き と く そ に ぐ れ
 じ じ か を か か げ な み ち の し を り に

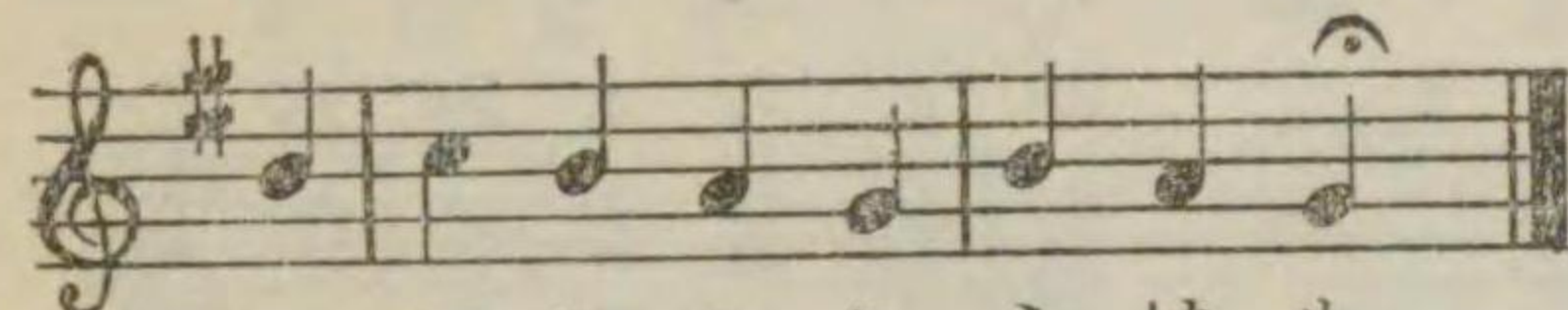
- 一 頌めよたたへよ 千代萬づ代に
- 二 あまつみくにを 清き十字架を
- 三 世のなみかぜは 吹や荒るとも
- 四 十字架の導びく みちぞ安けき
- 五 攻めよる仇も 荒ぶる獅子も
- 六 十字架に戦慄き 疾こそ逃ぐれ
- 七 あめにゆくまで 間なく暇なく
- 八 あまつみくにの みちの枝折に
- 九 開くは十字架の すくひの門を
- 十 あなたふとしや 血に染む鍵ぞ
- 十一 しるべも著けき すくひの道の
- 十二 聖教の十字架



1. こよなきめぐみの きみがじふじかを
 2. わきいでながるる いのちのましみづ



よるこびおへかしみたみのこらはも
 じふじかのかげにたえずぞくままし

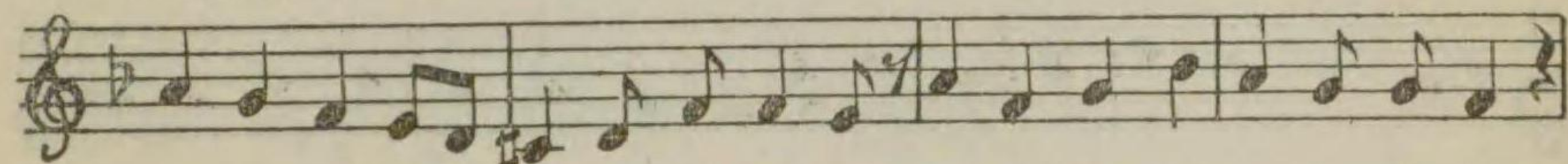


みたみこのこらはも
 たえぞくままし

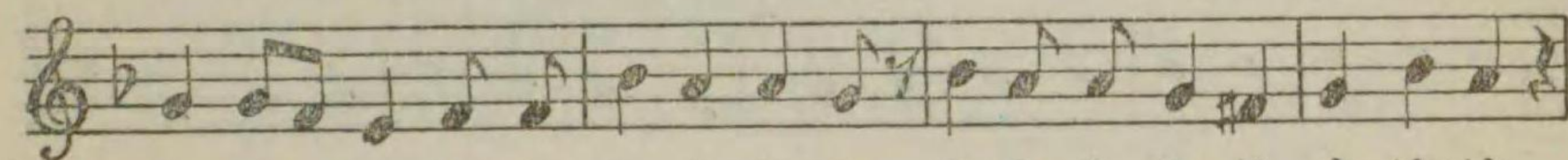
- 一 こよなきめぐみの きみが十字架を
- 二 よろこび負へかし み民の子等はも
- 三 湧き出でながるる いのちの眞清水
- 四 十字架のかけに 絶ずぞ汲ままし
- 五 三よろこびたのしみ 幸はふことごと
- 六 十字架よりこそ 醜の身に受けめ
- 七 とこ世とこ春の あめなるみ園に
- 八 標しゆくひかり ただ主の十字架
- 九 こよなくうれしき きみが十字架を
- 十 よろこび擔はなん いまはの時まで



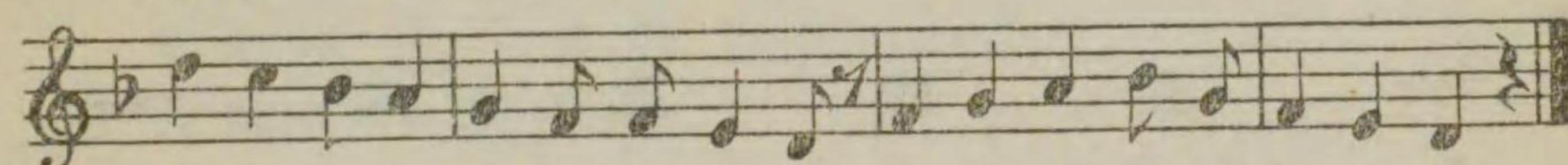
1. いたまし-くもたてる 主のじふじのきに
2. あがひの-みこころは ははのみしります



たたずみ-むかひます みははのみすがた
みでしら-はうちちり ヨハネのみありき

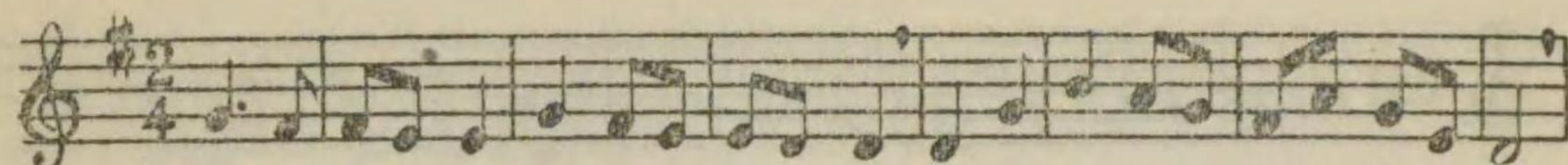


よの-つみをおふみこ かなしみめすはは
主は-ははをみでしに みでしをみははに

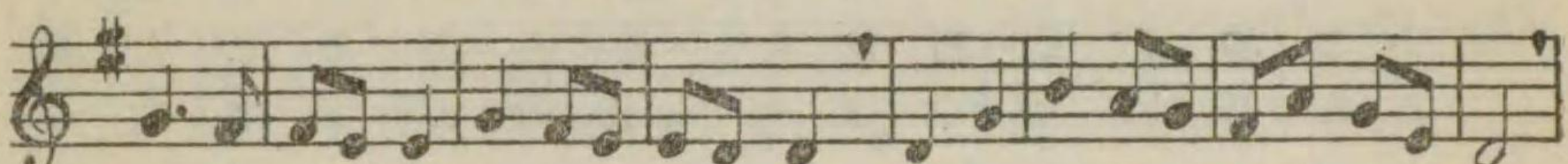


われらのためにこそ かくありまししか
あたへつゆだねつつ こときれたまひぬ

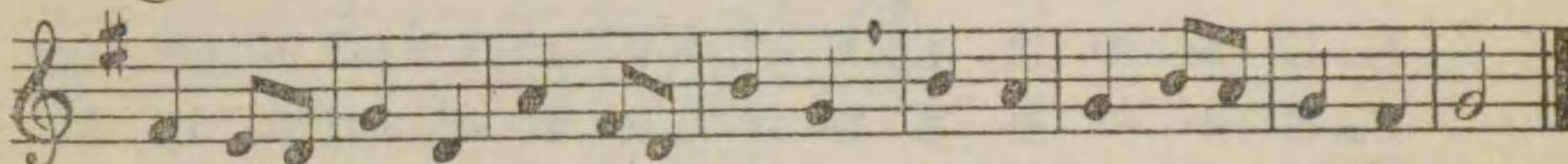
| | | |
|--|--|--|
| 三 | 二 | 一 |
| 海のごとくひろき 神のみめぐみをし み子の賜ふいのち いまもかも勤しき | 贖ひのみこころは み弟子らは打散り 主は母をみ弟子に あたへつ委ねつつ | 傷ましくも立てる たたずみ向ひます 世の罪を負ふ御子 われらの爲にこそ |
| 母ごころもちて あまねく頌ちつ われに守らひて 聖母ぞたふとき | 母のみ知ります ヨハネのみ在き 御弟子をみ母に 事切れたまひぬ | 主の十字の木に 聖母のみすがた かなしみ召す母 かく在まししか |



1. わびし-きひの-と-もすくひの-じふじ-か
2. さかえ-のみく-ら-のたかきか-し-こ-き
3. ほこり-はわが-み-にまたあら-な-く-に



うきよ-のなぐ-さ-め うへなき-ち-か-ら
すくひ-のぬし-を-ば わがしろ-と-な-し
じふじか-ぞこよ-な-き わがみち-の-と-も



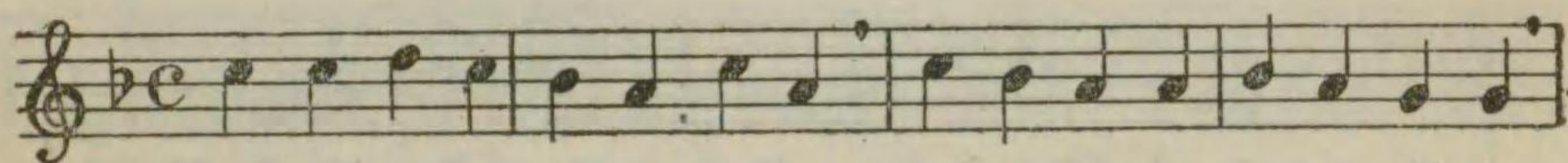
いや-とほなが-にし あがめま-つらなん
なれ-をばあふ-ぎて なやみを-さらなん
ひた-にやすが-りて しをのが-れまし

| | | | | |
|---|---|--|---|--|
| 五 | 四 | 三 | 二 | 一 |
| ひかりの子等して なれこそさかえぞ めでたし十字架よ みくへの御殿に | 主の手によるもの あめつち崩るる つひの日來なば 進みぞ入らなん | 直にや 縫りて 十字架ぞよなき 誇りは我が身に またあらなくに | さかえのみくらの すくひのぬしをば なれをばあふぎて 悩みを去らなん | 佗びしき日のとも うき世のなぐさめ いや 永久にし あがめ奉らなん |
| のぞみのひかり なれを負はまし | うるはしの木よ ころしづしづ わが道のとも 死をのがれまし | わが道のとも たかきかしこき わが城となし たかきかしこき | うへなきちから あがめ奉らなん | すくひの十字架 |

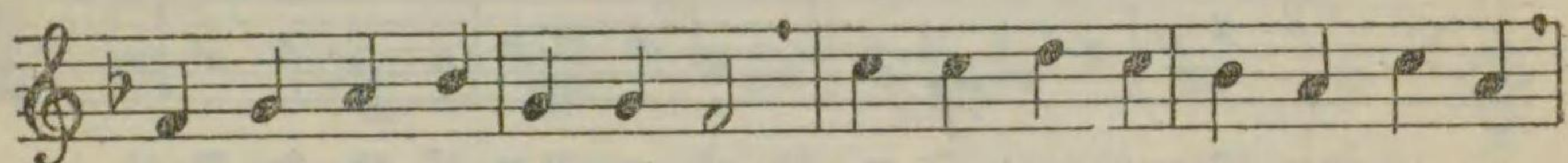
七
 世にある限りは
 み母とともにぞ
 御子を偲ばなん
 十字架のもとに
 ひれふして我や
 歎かひあらなん

八
 み母よわれはも
 みそばに侍りて
 いのりや爲まし
 いでや勇み立ち
 世と戦ひつつ
 みあとしたはな

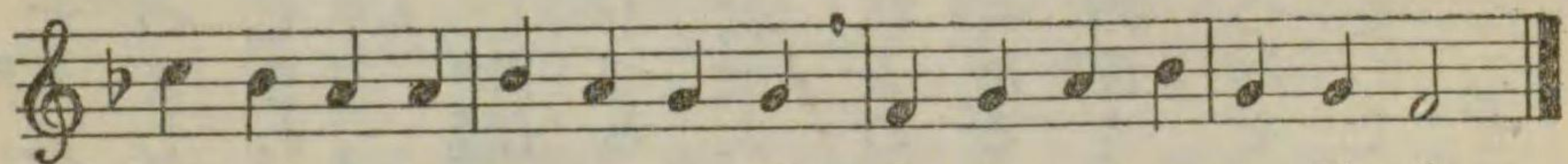
61A 悲しみの聖母



1. みこのじふじかの みもとにたたずみ
 2. うれひやいかなる みかみのまなごの
 3. みるめもいたはし しのびてたれかはやみ
 4. たとしへもあらぬ じふじかのなやみ
 5. みいのちをはりて みはははかなしみ



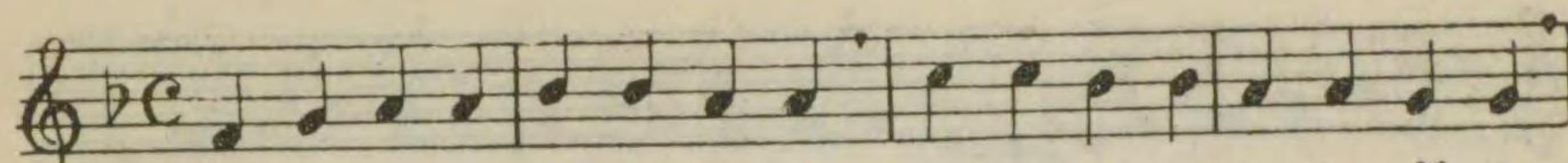
みははなげかす つるぎさしたりや
 みははのみこころ しのぶもかしこし
 みははのぬらさぬ みのこもいたましき
 みははのつちくらし みのこはよわれに



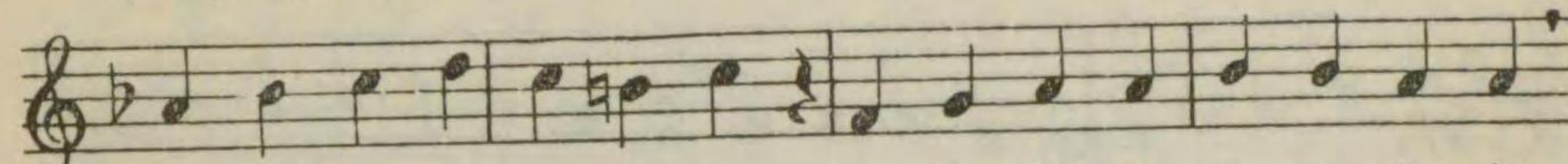
みこころのいたで えたへで おはす
 こもふみのおやの えみむねの たなせ
 こなきはすはがた えみむすはは たなせ
 こなきはすはがた えみむすはは たなせ

(歌詞は前頁の61番に同じ)

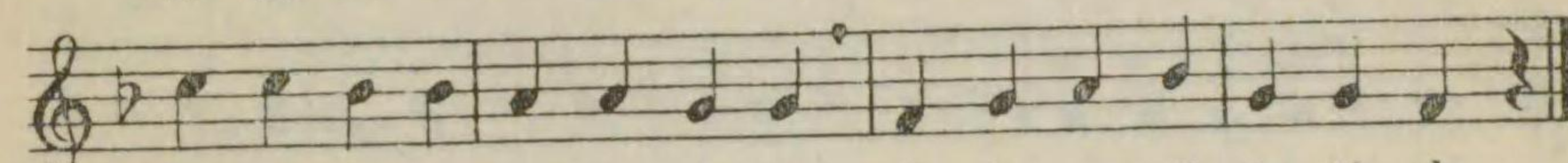
悲しみの聖母



1. みこのじふじかの みもとにたたずみ
 2. うれひやいかなる みかみのまなごの



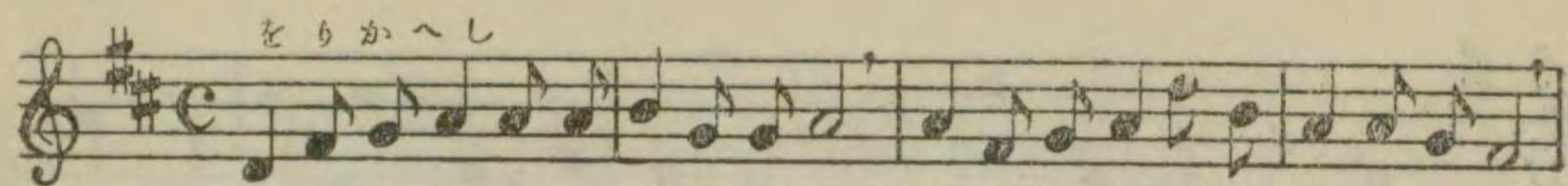
みははなげかす つるぎさしたりや
 みははのみこころ しのぶもかしこし



みこころのいたで えたへでおはす
 こをもふみおやの みむねのいたみ

六 五 四 三 二 一

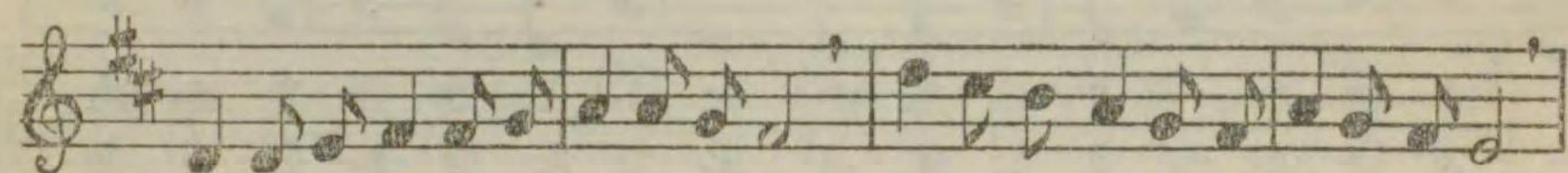
一 み子の十字架の 下に佇ずみ 母なげかす
 二 剣さしたりや 心のいたで え堪へで在す
 三 憂ひやいかなる 神の愛子の 母のみこころ
 四 偲ぶもかしこし 子を思ふみ親の み胸の痛み
 五 見る眼も傷はし 偲びて誰かは たもと濡さぬ
 六 み子のみ苦しき 歎きます母の みすがた悲し
 七 例しへもあらぬ 十字架の 母は見ませり
 八 いとも傷ましき いまはの 御姿 母は見ませり
 九 聖母よわれにも 主を思ふ心を 足らはせ給へ
 十 かくもわが爲に 主こそ苦みを うけ給ひしか
 十一 愛のいた手なる 五つのみ傷よ われに印させ



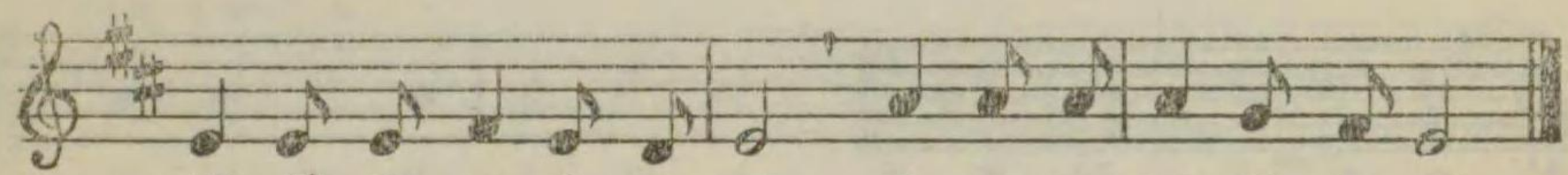
をりかへし
みさかえきみにあれや わりにますすくひのきみ



われよをさなごのごと まこともてほめまつる



1. きみイスラエルのきみ きみぞあめつちのきみ

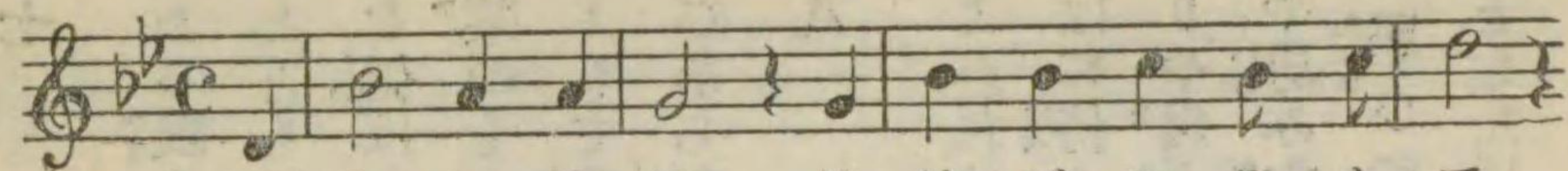


ダヴィドのすゑの そのおほぎみぞ

六 五 四 三 二 一

(をりかへし)

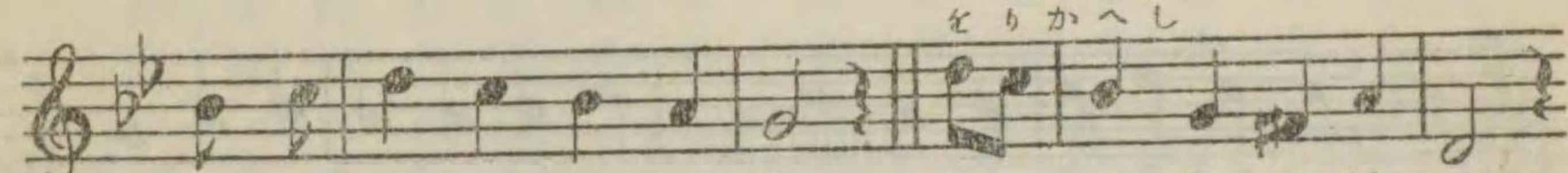
| | | | | | | |
|----------|----------|---------|----------|---------|----------|----------|
| 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 | |
| あめつちの主と | 量り知らぬ愛の主 | 石さへいまは | さあれ天地のきみ | 主とむかへしか | 悩みの待てる君を | 尊とき天の集ひの |
| いまだぞ來ませる | いと高き神の子は | もだしあへぬを | 人稱へであるべき | 瞬時にしも | 斯くこそ國民はも | 友ようたはなん |
| | | | | | 王たる君の祝ぎ歌 | 地にもひびかへ |
| | | | | | 祝ぎまつりにし | ユデア人棕櫚執て |
| | | | | | 君ぞあめつちの君 | きみをむかへて |
| | | | | | 君ぞあめつちの君 | ダヴィドの裔の |
| | | | | | 君ぞあめつちの君 | 君イスラエルの君 |
| | | | | | 誠もて讚めまつる | われよ幼児のごと |
| | | | | | 王にます救ひの君 | み榮え君にあれや |



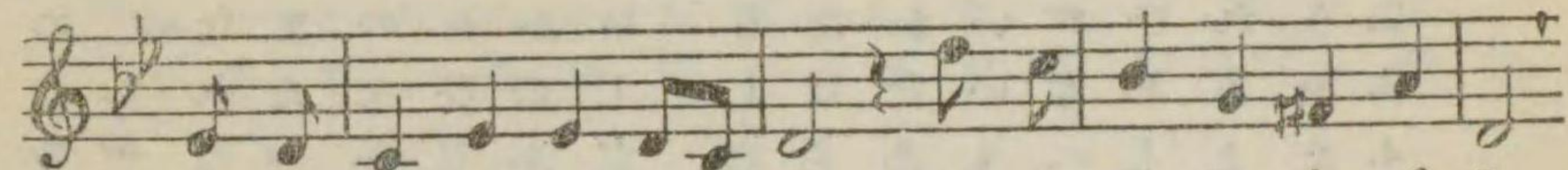
1. あさにけにははごころもて



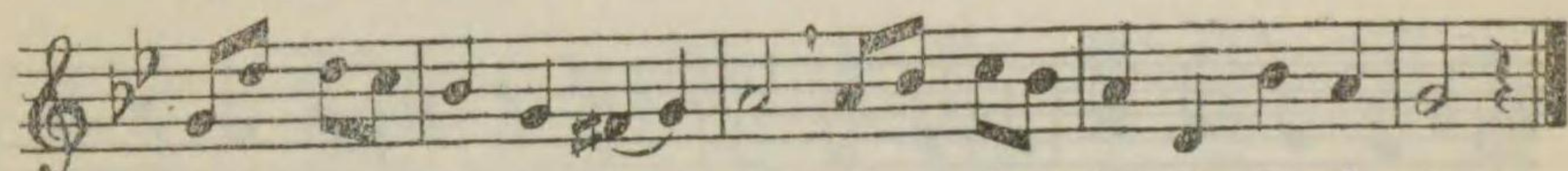
かしづきし そのまなごはも



をりかへし
かなしきわかれ かなしみはは



じぶじかのもとに なみだにしづみ



みこーのいたーみしーのーばせたまふ

(をりかへし)

| | | |
|---------|---------|---------|
| 一 | 二 | 三 |
| あさに日に | 世のひとの | 世のつみを |
| ははごころもて | すくひのために | 負ひしこひつじ |
| かしづきし | かむりはいたし | いたましく |
| そのまなごはも | 涙にしづみ | みははのむねに |
| かなしきわかれ | 御子のいたみ | さすつるぎはも |
| | しのはせたまふ | |
| | かなし御母 | |
| | 十字架のもとに | |

1. しろたへのきぬに ところさーやけく
 しゆるのはかざして よろこびーをどれ
 主はしにうちかーち よみがへりましーぬ
をりかへし
 あめつちこそぞり さけび うたへ
 主のみーさーかえを

| | | | |
|---|--|---|---|
| <p>四 わが 大君をぞ かみの都をば 仰げやもろびと み空し高く 統知らします 思ひ偲びつつ</p> | <p>三 今のはのぼりまし かくるる方なく かく甦がへりて 神の右へに 主の御榮えは とりのし主</p> | <p>二 黄泉路の門をし 死のま悲しみを 朽ちざる生命を 世に備へんと うち消し給ひ 毀ち給ひけり</p> | <p>一 しろたへの衣に 心さやけく 棕櫚の葉翳して よろこび躍れ 主は死に打勝ち 甦へりましぬ あめつちこそぞり さけびうたへ 主のみさかえを</p> <p>(をりかへし)</p> |
|---|--|---|---|

1. いはへやうたへしとよみにかち
 2. みつかひたちもともにうたはなん
 3. やよマダレナなぞやなきます
 よみがへりし主のたふときみさかえ
 よみがへりし主のめでたきかちうた
 よろこびうたへよ主よみがへりしぞ
 アレールヤ
 アレールヤ
 アレールヤ

| | | | | |
|---|---|--|--|--|
| <p>五 また甦がへりて アレルヤ よろこびうたへ 主のごとわれら 天にこそ往かめ</p> | <p>四 墓を出でましし アレルヤ すくひの偉業を 成し遂げまして 主を讃め稱へよ</p> | <p>三 やよマダレナ アレルヤ よろこび歌へよ 主甦がへりしぞ なぞや泣きます 主甦がへりしぞ</p> | <p>二 甦がへりし主の アレルヤ みつかひたちも ともに歌はなん めでたき凱歌</p> | <p>一 いはへやうたへ 死と陰府に勝ち 甦がへりし主の たふとき御榮え</p> |
|---|---|--|--|--|

1. よろこべけふぞ わがきみはしにか
ちたまへり よろこべけふぞ よみ
のかどこぼちぬ よのひとのつみ
とがをつぐのはんためにかぎりなきくる
しみしのぎまししメシアこそこのきみ

三 あめつちのきみ 我等のため命を興へ
あめつちのきみ よみがへりたまへり
我等は等しく死を み軍に捧げまつりて
勝ち人のその冠 御手より得まほしき

二 やよもろびとよ 聲を合せ歌ひ奉れや
やよもろびとよ 身も魂もささげて
高き賤しき總て 御旗の下に集へかし
上もなきその榮 いま汝をかこめば

一 よろこべけふぞ 我君は死に勝給へり
よろこべけふぞ 陰府の門こぼちぬ
世の人の罪咎を 償はん爲に限りなき
苦み凌ぎましし 救世主こそこの君

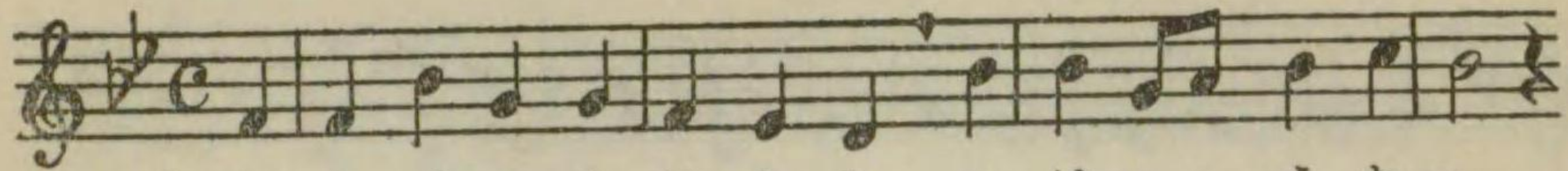
をりかへし

いざいざよろこべ わがすくひ
ぬしはよみにかちしにかちはか
うちひーらーきてよみがへりたり
1. このよにくだりて つーみびとーのーため
いけにへとなりて くるしみたまひき

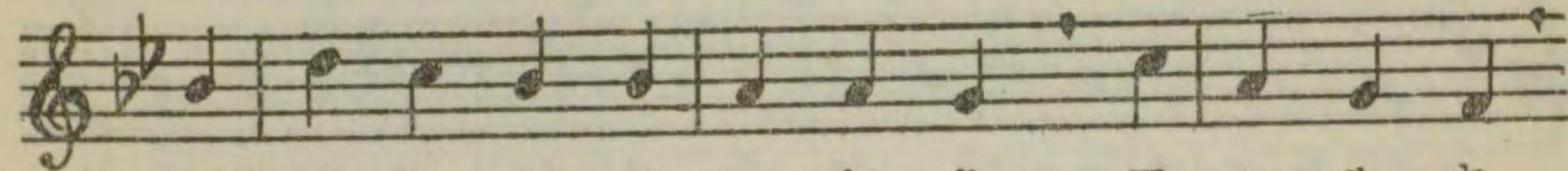
(をりかへし)

一 この世に降りて つみびとのため
犠牲となりて 苦しみたまひき
責め辱かしめて つみびとのごと
鞭うちあざけり 死にさへ仕置ど
三日目の朝開に 日もなほ未明
正義のひかりは 躍りてぞ出でし
主は現はれまし 手足のきずを
み弟子に示して 「われぞ」と宣ふ
トマこそひと度 うたがひしてか
みきずのみ痕を 見てぞ慄きし
六 「我主わが神よ」 信ずるものは
永世のいのちに 勇み進み行かん

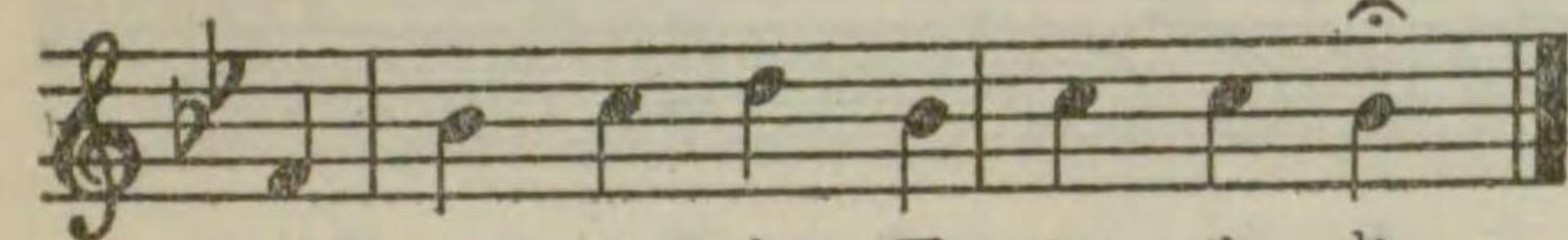
わが救主は
幕打開きて



1. よろづのくにたみいはへうたへ
 2. しのかせくだきてみはかひらき
 3. あいなるみきずはひにもまさり



主はよみがへれりアレルヤ
 主はよみがへりぬアレルヤ
 てりいでかがやくアレルヤ



アレルヤアレルヤ
 アレルヤアレルヤ
 アレルヤアレルヤ

四

陰府にうち捷ちしわれらの主に
 世々みさかえあれアレルヤ

三

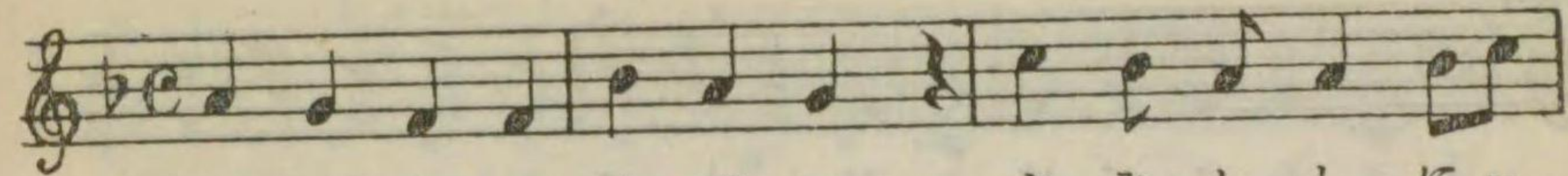
あいなるみきずは陽にもまさり
 照りいでかがやくアレルヤ

二

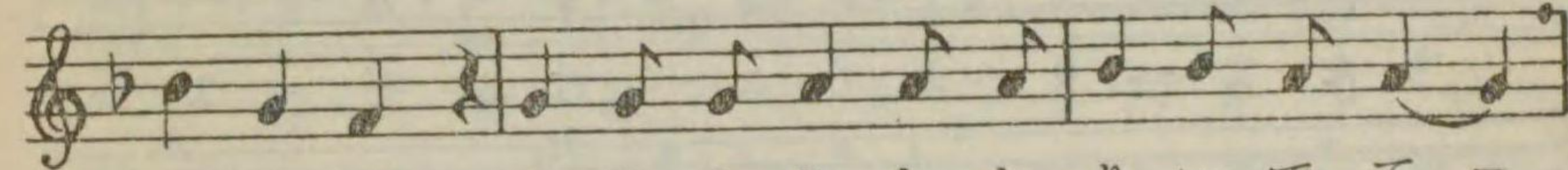
死の桎梏くだきてみはかひらき
 主はよみがへりぬアレルヤ

一

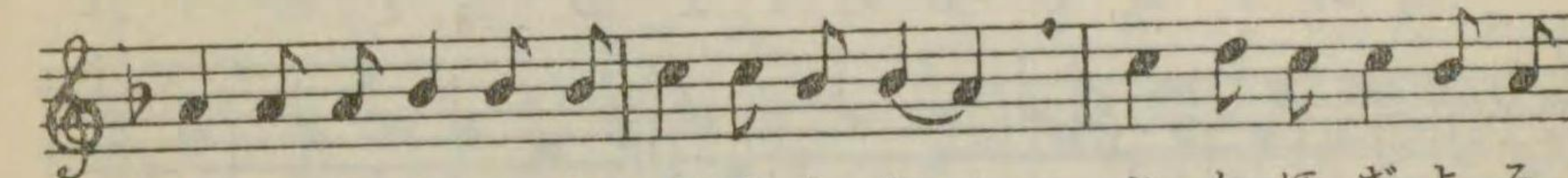
よろづのくにたみいはへうたへ
 主はよみがへりアレルヤ



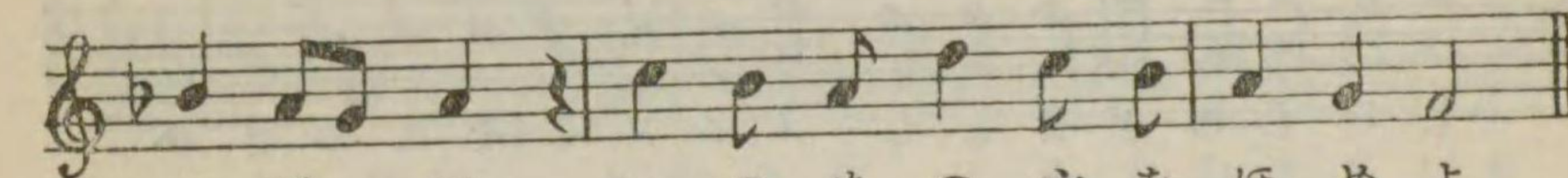
1. わがきみイエズスよみとしに
 2. わがきみイエズスタふときち



かちてよみよりしよりいでて
 をもてよのつみのあがなひを



はかうちひらきましぬことほぎよろ
 いまやなしとげましぬわれらも主に



こびていのちの主をほめよ
 よりていでやよにかちこそ

二

わがきみイエズス
 たふとき血をもて
 世の罪の贖なひを
 今や成し遂ましぬ
 我等も主によりて
 いでや世に勝こそ

一

わがきみイエズス
 陰府と死に勝ちて
 陰府より死より出て
 墓うち開きましぬ
 言祝ぎよろこびて
 生命の主をほめよ

1. ああみはは マリア アレルヤ
 なみだぬぐひませ アレルヤ
 よろこびましませ アレルヤ
 みこよみがへりぬ アレルヤ
 アレルヤ アレルヤ アレルヤ

三
 ああ御子イエズス
 死のちからくだき
 陰府の門やぶりて
 み墓よ出でます
 アレルヤアレルヤ
 アレルヤ

二
 憂きよかなしみよ
 いまはいづこぞや
 見よ勝ちうたこそ
 果つるを知らえね
 アレルヤアレルヤ
 アレルヤ

一
 ああみははマリア
 なみだぬぐひませ
 よろこびましませ
 御子よみがへりぬ
 アレルヤアレルヤ
 アレルヤ

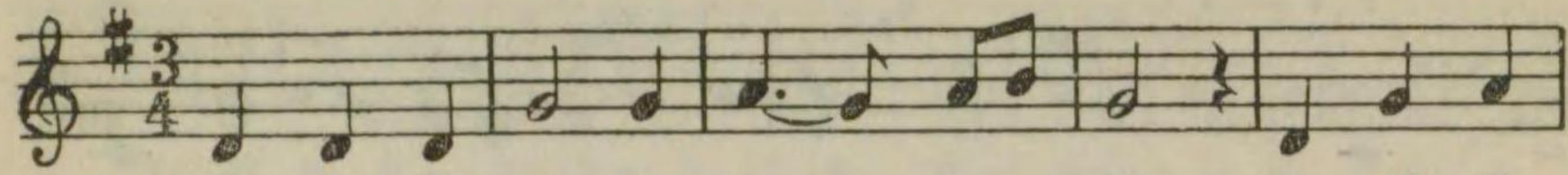
(次頁に續く)

1. よろこびたたへよ わがすくひぬしは
 2. あめよりくだりてひとみなのため
 3. みちかひたがはずしののめととも
 よみのちからにぞうちかちたまへる
 しのとをひらきてよみがへりましぬ
 つはもののまもるはかをいでましぬ
 うたへよ たたへよ アレルヤ
 主をほぎ たつへよ アレルヤ
 あなたふと きかな アレルヤ

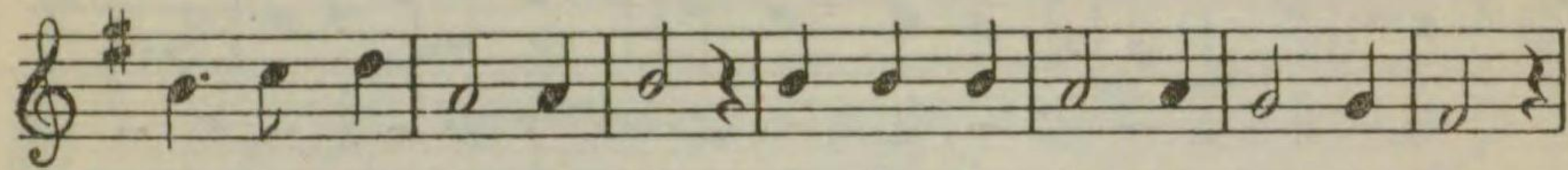
一
 よろこび稱へよ わが救ひぬしは
 陰府の力にぞ うち勝ち給へる
 歌へよたたへよ アレルヤ

二
 天よりくだりて 人みなのために
 死の戸を開きて 甦がへりましぬ

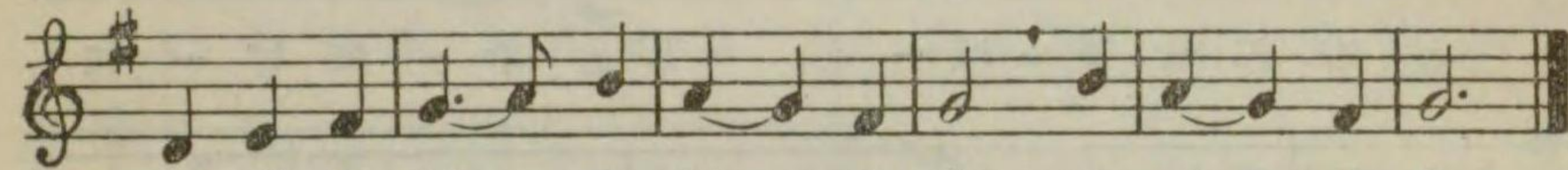
三
 み誓ひたがはず しののめと共に
 つはものの守る 墓を出でましぬ
 あな尊ときかな アレルヤ



1. オリヴのやまーよーりのぼり
 2. ガリレアびとーらーよなどや



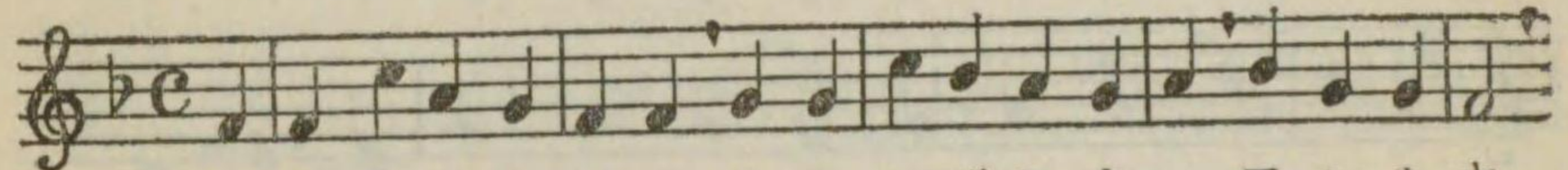
まししくににちちなるみかみの
 かなしみつつそらあふぎたてる



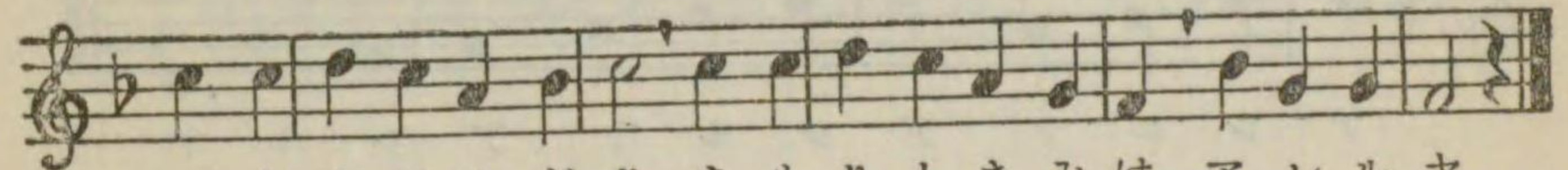
みぎにぞーましーますアレールヤ
 主はのぼーりまーしぬアレールヤ

| | | | |
|----------------------|----------------------|----------------------|-------------------------|
| 四 | 三 | 二 | 一 |
| ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ |
| われらもあめにて みむねにかなひて | ふたたび来ますと われらをはなれて | 空あふぎ立てる ガリレアびと等よ | ちちなるみかみの オリヴのやまよりのぼり |
| 主にぞ會ひ奉らん この憂世を経なば | みつかひぞ告らす あめに昇りし主は | 主はのぼりましぬ などや悲しみつつ | みぎにぞ在します のぼりましし國に |

| | | | | | | |
|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ |
| ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ |
| ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ |
| ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ | ア レ ル ヤ |

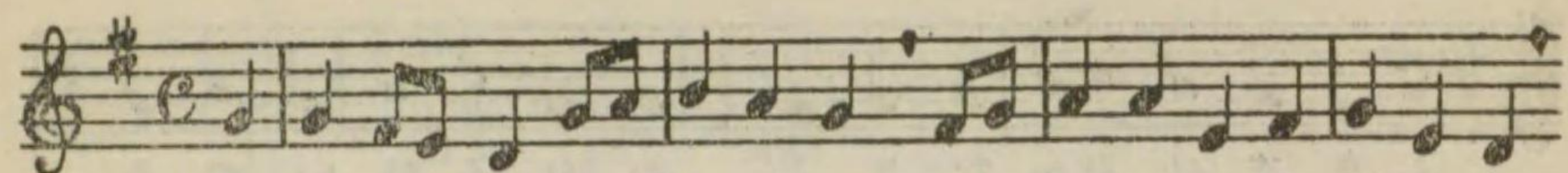


1. あめなるきさいよろこびたまへアレルヤ
 2. みことのごとくよみがへりたりアレルヤ

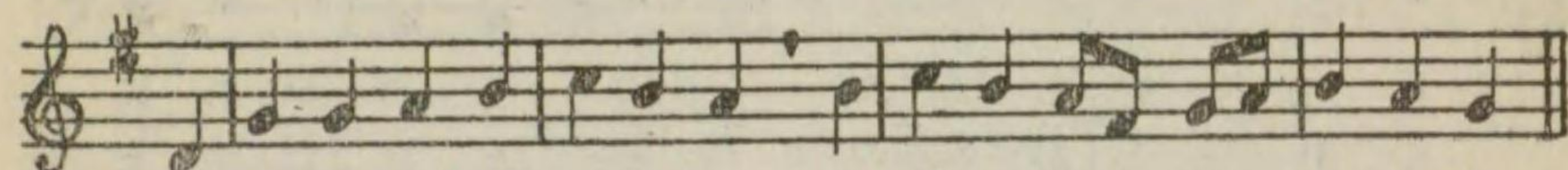


いましにやどりあもりしきみはアレルヤ
 よろこびいさみいはひまつらなんアレルヤ

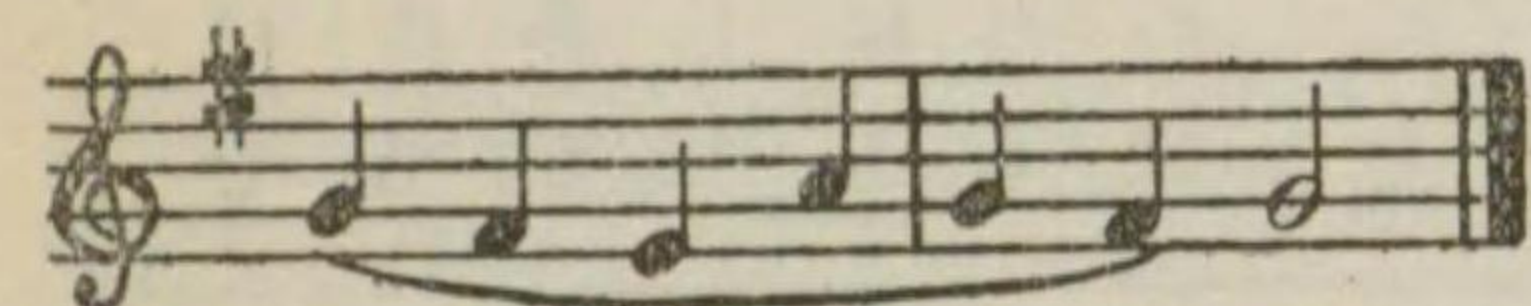
| | |
|---------------------------------|--------------------------------------|
| 二 | 一 |
| 二 み 言 の ご と く | 一 あ め な る き さ い |
| よろこびいさみ 祝ひまつらなん | よろこびたまへ アレルヤ |
| よみがへりたり アレルヤ | あめなるきさい アレルヤ |
| いましにやどり アレルヤ | あめなるきさい アレルヤ |



1. み た まー よ ゆー た け き きー み が み め ぐ み を
 2. あ め よー り たー ま は る なー ぐ さ め の み た ま
 3. こ こ ろー や まー づ し き ねー ぎ ご と や し げ き



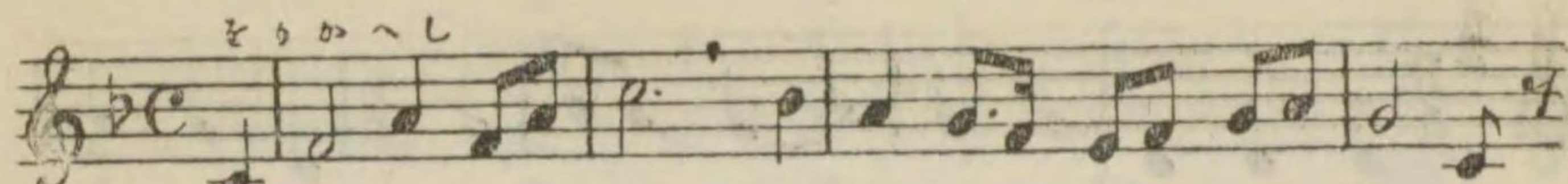
あ さ な さ な し め に な げ か ひー いー の ら な
 け が し き こ こ ろ を は ぐ く みー たー ま へ る
 い や し き こ の み に 主 は き たー りー た ま ふ



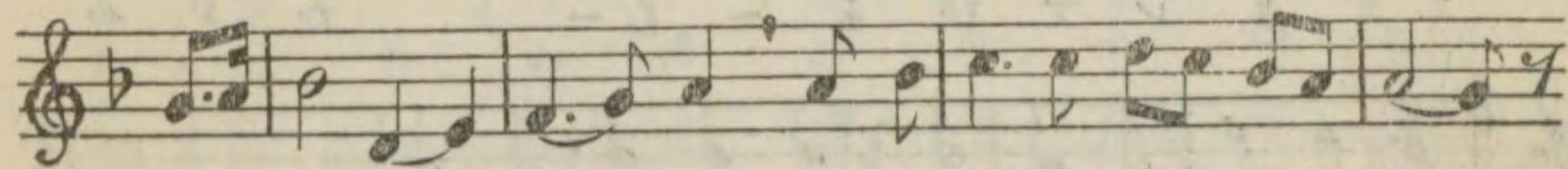
(ア - - - - - メン)

七 六 五 四 三 二 一

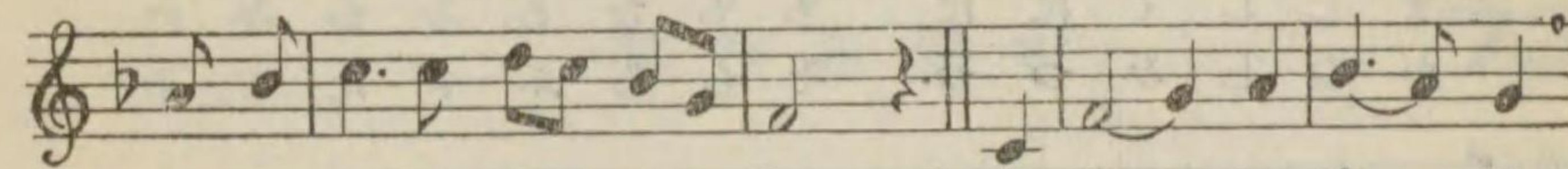
一 み た ま よ 豊 け き き み が み め ぐ み を
 朝 な 朝 な 靡 に な げ か ひ い の ら な
 二 天 より た ま は る な ぐ さ め の み た ま
 汚 し き こ こ ろ を は ぐ く み た ま へ る
 三 こ こ ろ や 貧 し き ね ぎ ご と や 繁 き
 卑 し き こ の 身 に 主 は き た り た ま ふ
 四 天 より 降 り くる み め ぐ み の つ ゆ ぞ
 日 に け に 繁 け く 身 ぞ う る ほ ひ ける
 五 七 つ の た ま も の は る さ め に ま さ り
 色 も 香 も き よ く 地 に 花 咲 か せ よ
 六 悪 し き は 暫 し ぞ い 往 け る を み れ ど
 つ よ き 七 鬼 を ば ひ き 具 し こ そ 來 め
 七 主 よ わ が 心 を た か ぶ り な さ せ そ
 守 ら ひ た ま へ や み か ど に 入 る ま で
 ア メ ン



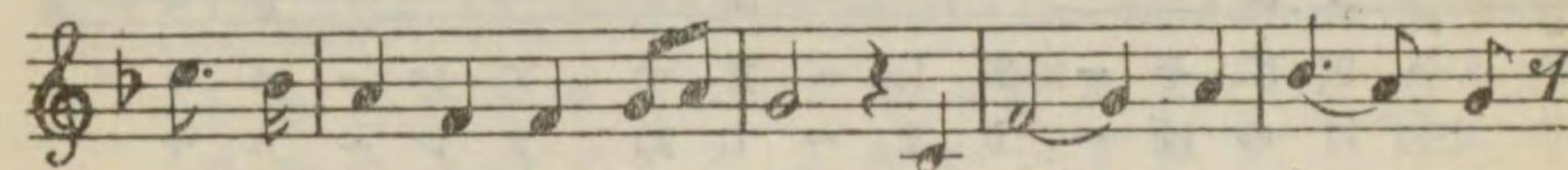
ひ さ か たー の く も るー をー はー る か



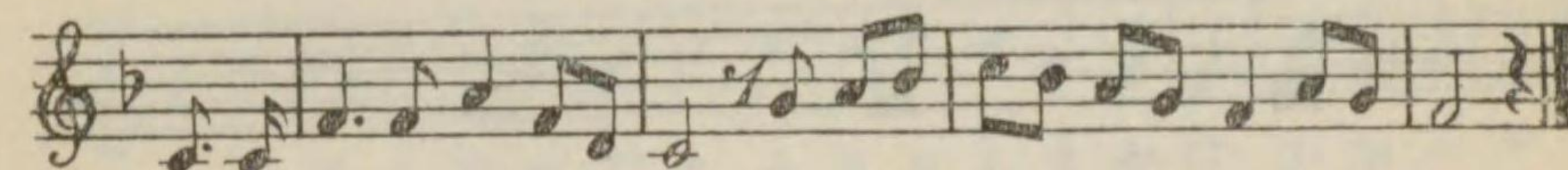
みー あ るー じー と つ ひ の す みー かー やー



と も に せ まー ほー し 1. あ さー に けー に



お も ひ た え せー ぬ あ まー つ くー に



の ぼ れ る き みー の あ とー なー つー か しー み

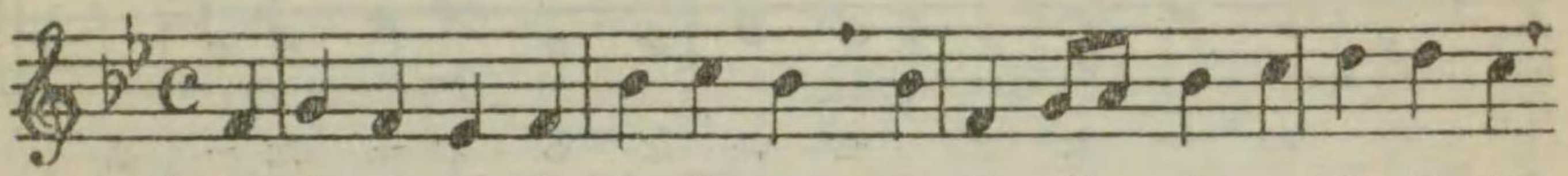
三 二 一

(をりかへし)
 ひ さ か た の
 雲 井 を は る か
 終 の 住 み 家 や
 共 に せ ま ほ し
 一 あ さ に 日 に
 思 ひ 絶 え せ ぬ
 昇 れ る き み の
 あ と 懐 か し み
 二 主 の い ま す
 御 國 戀 ほ し け
 過 難 て に す る
 我 な ら な く に
 う き 世 を ば
 三 お や た ち も
 妹 背 友 ど ち
 變 ら で 住 ま む
 と こ と は に
 み く に 偲 ば ゆ

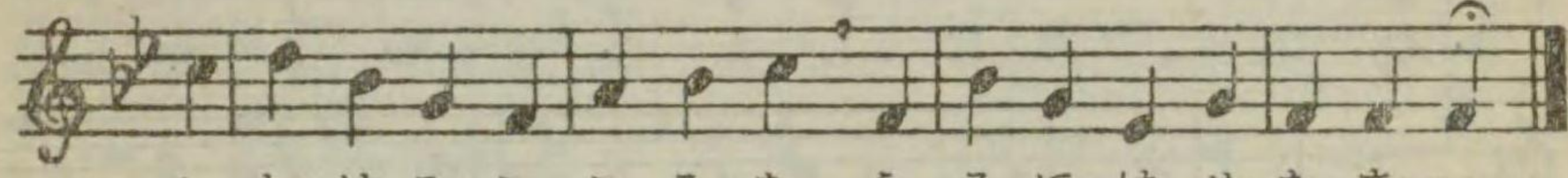


37
 五
 きませみたまよ
 きず癒やしませ
 かわきはてたる
 こころの焔も
 めぐみのあめに
 霊こそ育て
 みのりゆたけく
 アメン

77 聖 霊 (ゲエニクレアトル)



1. みたまよあもりて みめぐみのあめに
 2. みたまよあもりて かよわきわれらを

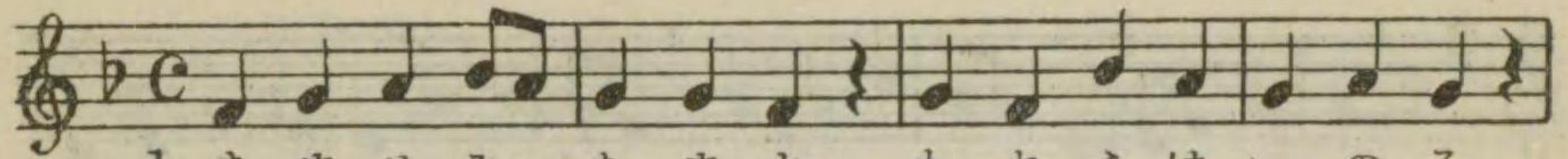


かわけるこころを うるほはせたまへ
 たすけつつよめつ みちびかせたまへ

六 五 四 三 二 一

聖霊よ天降りて み恵みのあめに
 乾けるこころを うるほはせ給へ
 聖霊よあもりて か弱きわれらを
 たすけつ強めつ みちびかせ給へ
 聖霊よあもりて み光りを照らし
 たへなる御教を さとらしめ給へ
 聖霊よあもりて 厳くしきほのほ
 眠れるこころに 燃えたたせ給へ
 聖霊よあもりて いにしへの如く
 くすしき御業を 世に満たし給へ
 聖父聖子聖霊の 位ぞ三つなる
 ひとりの御神に 世々み榮えあれ

聖 霊 76



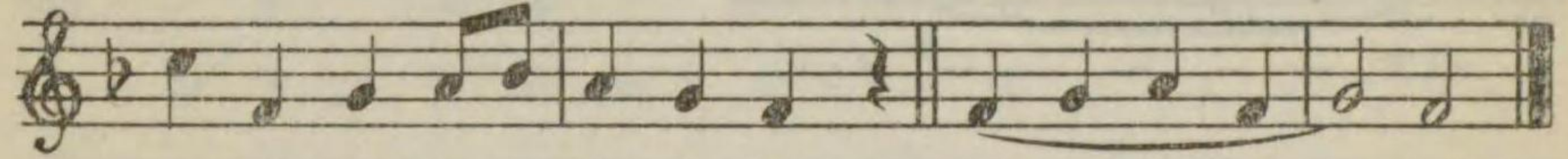
1. きませみたまよ われらはいのる
 2. なぐさめぬしよ つみにけがれて



あめにいむかふ いのちのみちに
 われあらがねの つちとひくけど



たどきもしらぬ われにしあれば
 くちせぬたまをはらむちからを



てらせみひかり (アメン)
 あめよりたまへ

四 三 二 一

来ませ聖霊よ われらはいのる
 天にむかふ いのちのみちに
 方便も知らぬ われにしあれば
 照らせみ光り
 ながさめ主よ つみにけがれて
 我あらがねの 土と卑けど
 朽ちせぬ珠を はらむちからを
 天よりたまへ
 ま夏のたびの いこひの木かけ
 かぜを涼しむ ちからたまひて
 ながさめの君 ちからたまひて
 我こそはゆけ
 君しあらずば などわが旅の
 樂しくあらめ 憂きことなべて
 めぐみと變り うつせみの世は
 又なくうれし

をりかへし

ひさかたのそのみやこさし
わがこころいさみたてり たびぢのかてと
ななつのたまものたまへ せいなるみたま
1. しかのかはべにあへぐがどとく
すべもなみこふる あまつましみづ

(をりかへし)

| | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--|
| 三 | 二 | 一 | |
| あらしや猛る われやは撓む 力や失せぬる 神たすけませ | 止む時しなく 我が靈魂は 鳩のごと來にし 君をしぞ思ふ | 鹿の河邊に あへぐが如く 術も無み戀ふる あまつ眞清水 | ひさかたの その都指し 我が心勇み立ち たび路の糧と 七の靈賜たまへ 聖なるみたま |

をりかへし

ひさかたのあまつみそらより
かがやきいでてらさせたまへ
そのみたませいなるみたま
1. わびしらにしたひまつるも
やるせなきわがたまのあへぐやまぢの
こえがたみ なげくにこそ

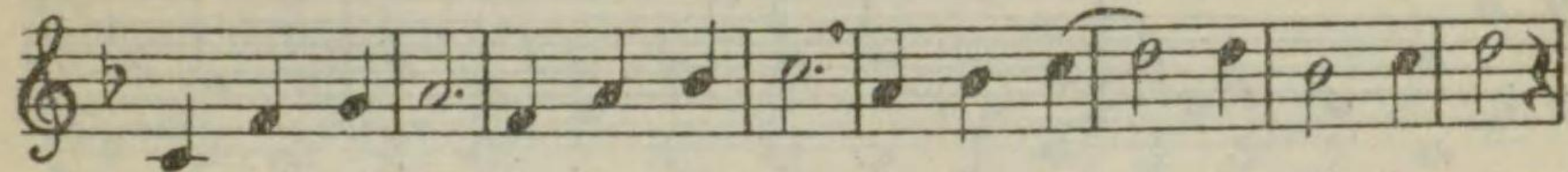
(をりかへし)

| | | | |
|--|--|---|--|
| 三 | 二 | 一 | |
| かにかくにみ誓ひ思へば 天地は滅ぶとも我恐れじと たのむかげ主にしあれば | みあるじの御法を枝折に 進行く我なれど禍事しげく 行きなやみみかほあふぐ | わびしらに慕ひまつるも 遣瀨なき我靈の喘ぐ山路の 越え難みなげくにこそ | ひさかたの天つみ空より かがやきいでて照らせ給へ そのみたま聖なるみたま |

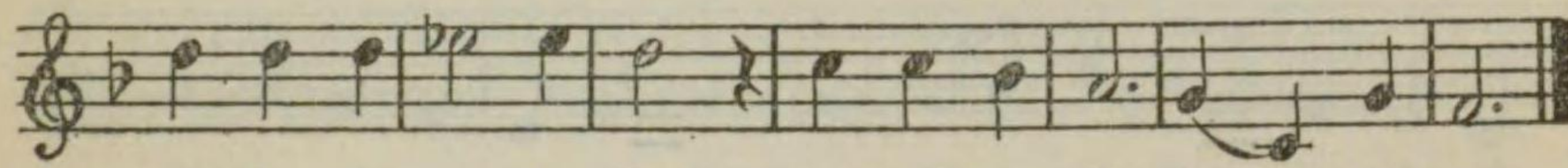
我^{われ}ならなくに
 たのみ^{なづ}昵^{なづ}ふ
 かみをのみ
 親^{した}しみあつき
 うらやすに
 五
 靈^{たま}のゆくがね
 みちびけ^{ひか}光^{ひか}り
 たびならむ
 あすは何^{いづこ}處^この
 けふけふと
 四



1. みたまよくだりて一つみにけがれし一
 2. みひかりあらずば一な一どわがたまの一



このみをきよめてあらた一なるよの
 たふときみあとをならひ一ゆかめや



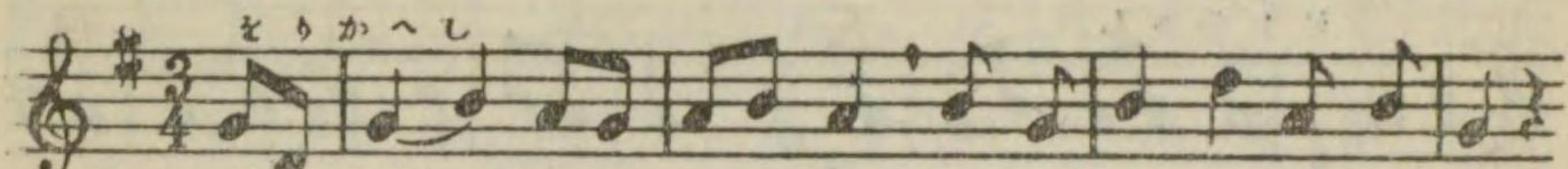
とこしへなる いのちをたまへ
 みたまきませ まちぞわづらふ

二

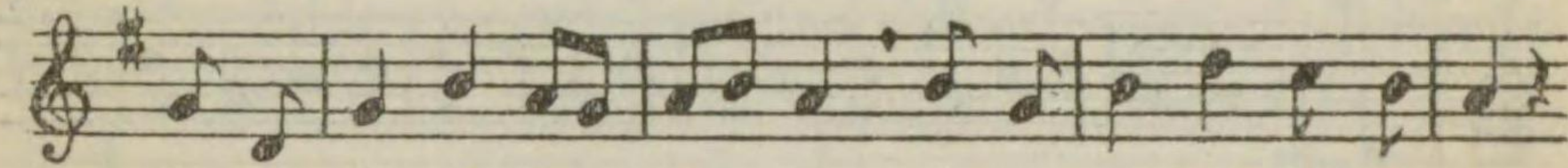
み光^{ひか}りあらずば
 たふとき御^み跡^{あと}を
 ならひ行^ゆかめや
 みたま來^きませ
 待^まちぞわづらふ

一

みたまよ降^{くだ}りて
 つみにけがれし
 この身を潔^{きよ}めて
 あらたなる世^よの
 とこしへなる
 いのちをたまへ



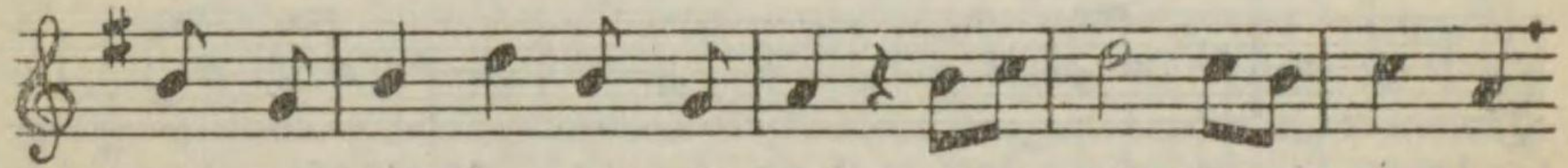
ちーよーろーづーにちからぞたまふ



わがおほみ一か一みけふもたまへや



こころのかてを 1. く一もゐ一なす



こころいざよひさ一すら一ひの



くるふたまはもかみてらしませ

三

あきらけく
 強く言^いひませ
 たかき教^{いさめ}訓^めを
 大^{おほ}御^み神^{かみ}
 否^{いな}といはめや

二

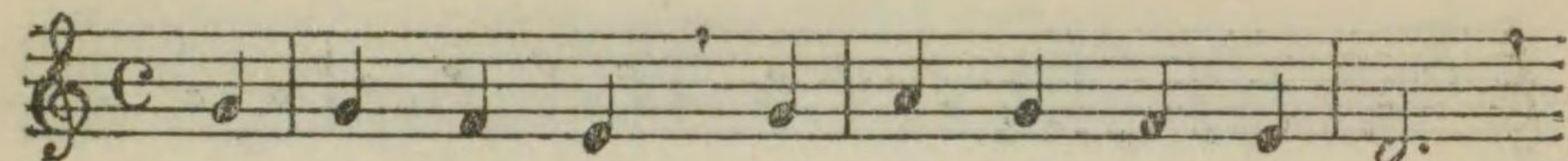
かしのみの
 ひとり勝^すれし
 言^{こと}と行^{わざ}爲^なとの
 神^{かみ}なれや
 しるべ示^{しめ}させ

一

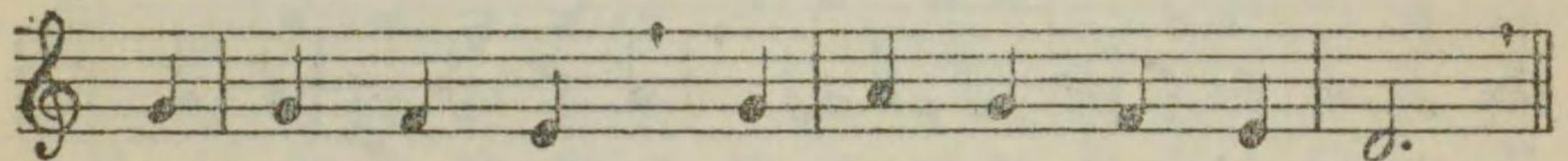
くもゐなす
 心^{こころ}いざよひ
 くるふ靈^{たま}はも
 さすらひの
 神^{かみ}照^{あて}らしませ

(をりかへし)

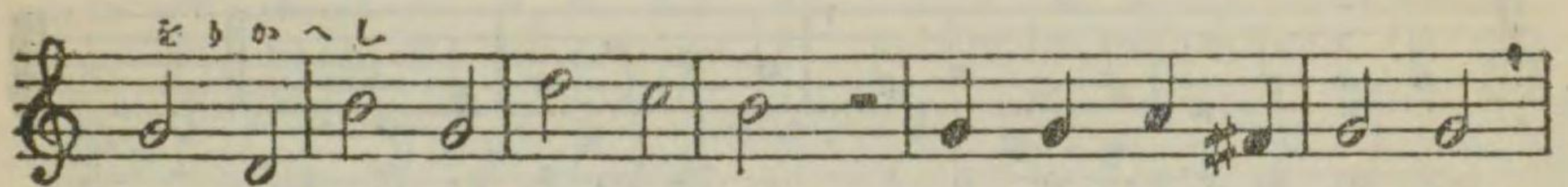
ちよろづに
 力^{ちから}ぞたまふ
 今日^{けふ}も賜^{たま}へや
 わが大^{おほ}御^み神^{かみ}
 こころの糧^{かて}を



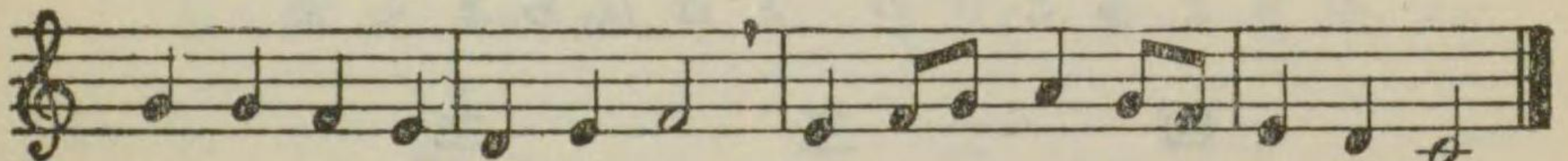
1. か み こ そ こ こ に い ま せ
 2. み か た ち み ま つ ら ね ど
 3. こ こ ろ を さ さ げ ま つ り



ぬ か づ き を が み ま つ る
 も だ し て ま ち お は す を
 お と な ふ よ る こ び は も

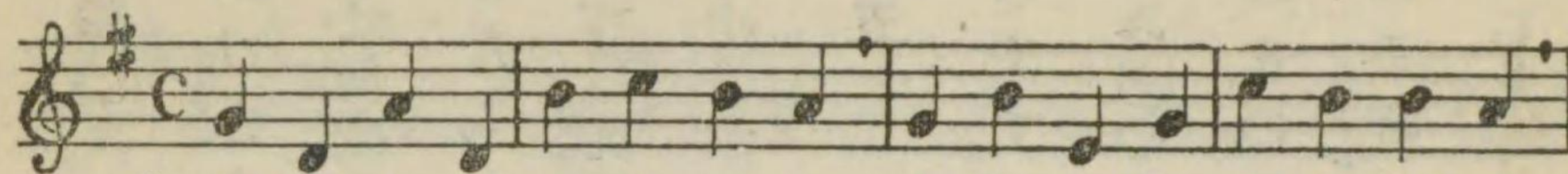


ひとりかへし
 ひ と と な り し 主 せ い ひ つ ぬ ち

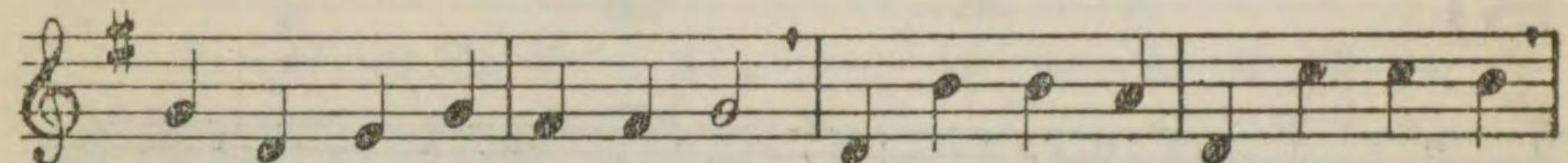


ひ せ き に や ど り お は し ま し ま す

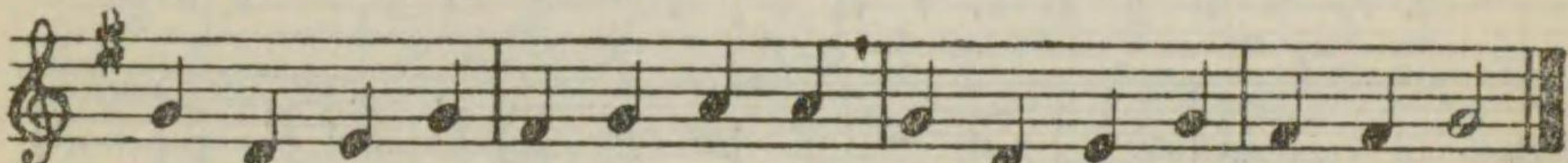
一 神こそ 此處にいませ
 ぬかづき をがみまつる
 (をりかへし)
 人となりし主 聖櫃ぬち
 秘蹟にやどり 座し在す
 二 みかたち 見まつらねど
 もだして 待ちおはすを
 三 ところを ささげまつり
 おとなふ よろこびはも



1. ち ち な る み か み よ あ は れ み を た ま へ
 2. あ ま く だ り ま し し み こ わ れ ら の 主 は
 3. せ い な る み た ま よ め ぐ み の い づ み よ

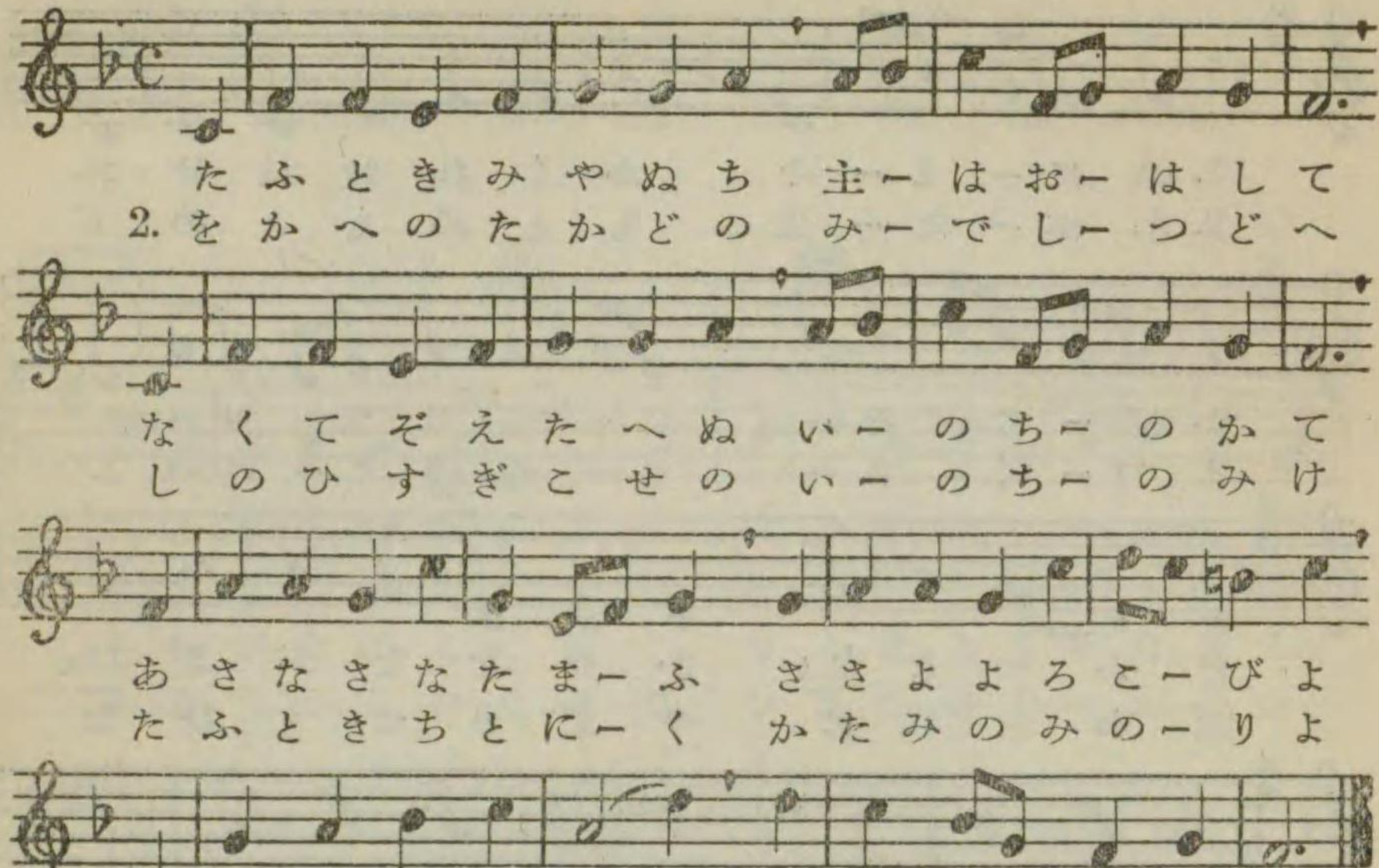


な が い と し ご は わ れ ら に か は り て
 わ れ ら を ま ね き ち し ほ も て き よ め
 わ が わ ざ を は り み く に に い る ま で



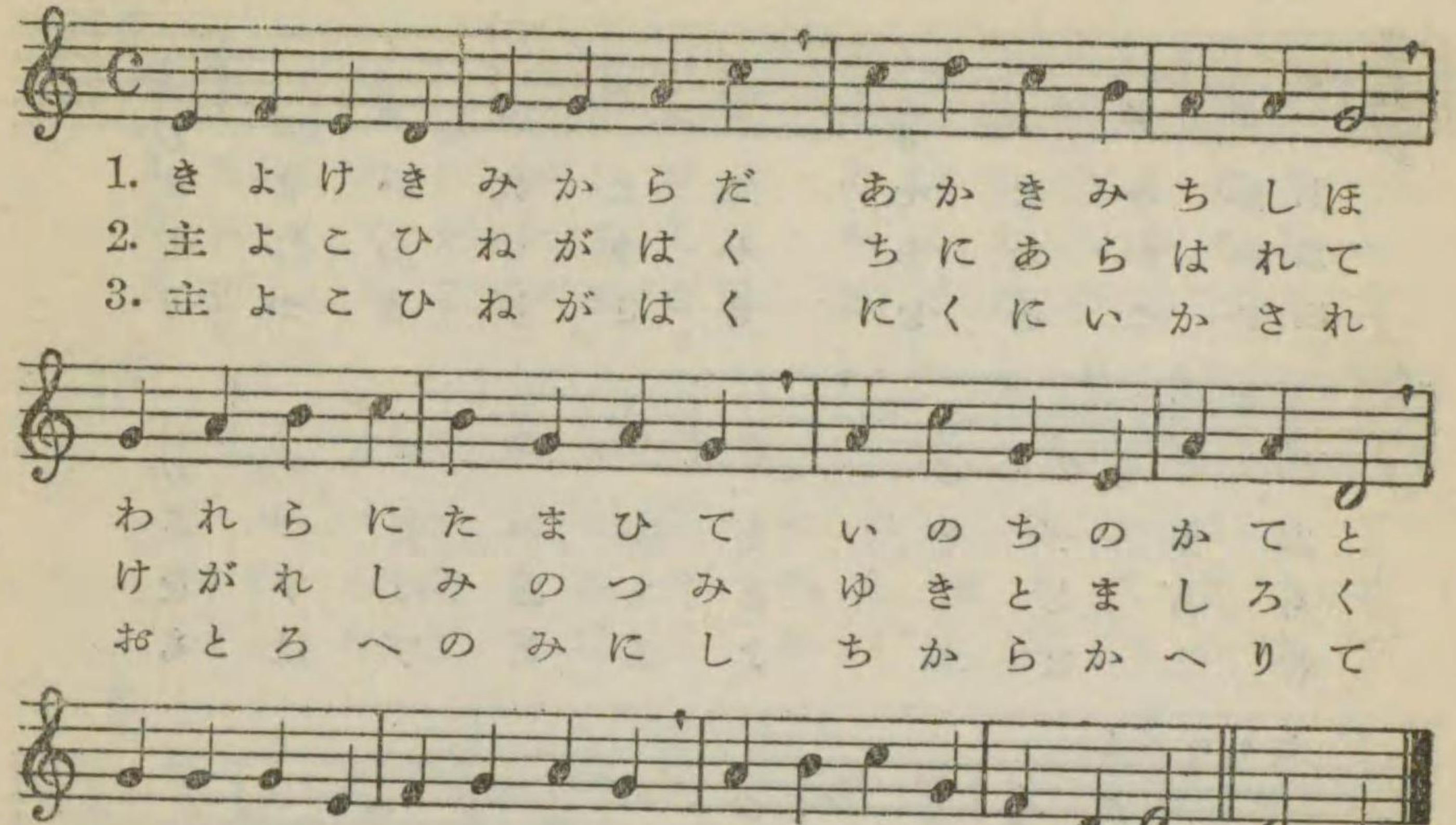
み く る し み し の び す く ひ を な せ り
 く ち ぬ よ の さ ち を め ぐ み た ま へ り
 み ひ か り さ し そ へ み ち び き た ま へ

一 父なるみかみよ あはれみを賜へ
 汝がいとし子は われらに代りて
 みくるしみ忍び すくひをなせり
 二 あま降りましし 御子我等の主は
 われらをまねき 血汐もてきよめ
 朽ちぬ世の幸を めぐみたまへり
 三 聖なるみたまよ 恵みのいづみよ
 わが業務をはり み國に入るまで
 み光りさしそへ みちびきたまへ



たふときみやぬち主はおはして
 2.をかへのたかどのみでしつどへ
 なくてぞえたへぬいのちのかて
 しのひすぎこせのいのちのみけ
 あさなさなたまふささよよろこびよ
 たふときちとにくかたみのみのりよ
 たたへうたもなみだしみみ
 つぎにつぎてなくちとせぞ

| | | |
|--|-----------------------------|---|
| 三 | 二 | 一 |
| ああみめぐみ 食す身を養なひ 今はホスチアの 霊を生したまふ うれしきかも | ことば人となり 世にくだりて みすがたもて | 尊とき聖堂ぬち 主はおはして 無くてぞえ堪ぬ いのちのかて 朝な朝なたまふ 幸よよろこびよ たたへうたも なみだ繁み |
| 岡上の高樓 み弟子つどへ 死の日過越せの いのちの御餐 たふとき血と肉 記念の御式典よ 繼ぎにつぎて いくちとせぞ | | |



1.きよけきみからだあかきみちしほ
 2.主よこひねがはくちにあらはれて
 3.主よこひねがはくにくにいかさ
 われらにたまひていのちのかてと
 けがれしみのつみゆきとましろく
 おとろへのみにしちからかへりて
 われとにへせりしかみのあいはも (アメン)
 あらひすすがれてわがあらましを
 いのちよろこびのとはならましを

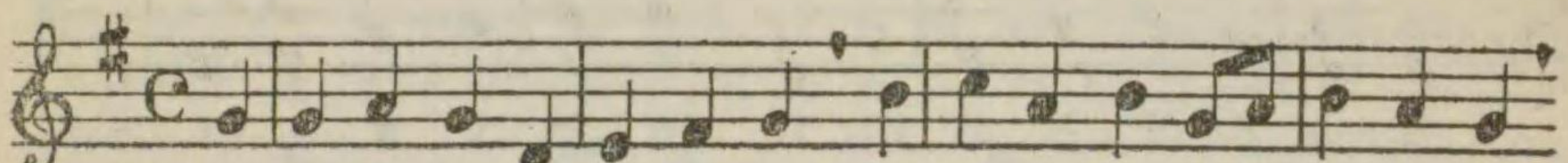
| | | | |
|---|---|--|--|
| 四 | 三 | 二 | 一 |
| 三位のみさかえ いや遠長に ひとりの御神に よろづ代つかへ 人みないのち 神に歸へらへ アメン | 主よ乞ひ願はく 肉に生かさ 衰への身にし ちから歸へりて 生命よろこびの 不斷ならましを | 主よ乞ひ願はく 血に洗はれて けがれし身の罪 雪とましろく あらひ滌がれて 吾があらましを | きよけき御身體 あかき御血潮 われらに賜ひて 生命のかてと 我と犠牲せりし 神の愛はも |

と き は の
 み 生 命 こ そ は
 わ が 身 に
 衣 せ ら れ け れ
 嶮 ・ し き
 道 な ら な く に
 お も き を
 主 に ま か せ て
 や す ら け き
 世 を す ご さ ん

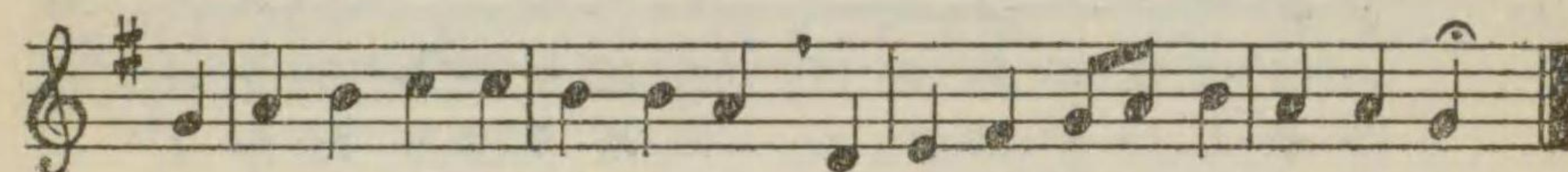
四

87

聖 體



1. い の ち の か て に と 主 の あ た へ ま し し て
 2. き ぞ の ひ う け つ る み め ぐ み に そ へ て
 3. わ が た め し に ま し き よ き ち を な が し
 4. ち ち み こ み た ま の ひ と つ の み か み よ



た ふ と き ち と に く な ど う け ぎ ら め や
 ま た も あ ら た な り 主 の た ま ふ ち か ら
 い の ち を う け よ と み こ こ こ に い ま す
 ひ せ き に あ も り て わ れ を い か し ま せ

四

三

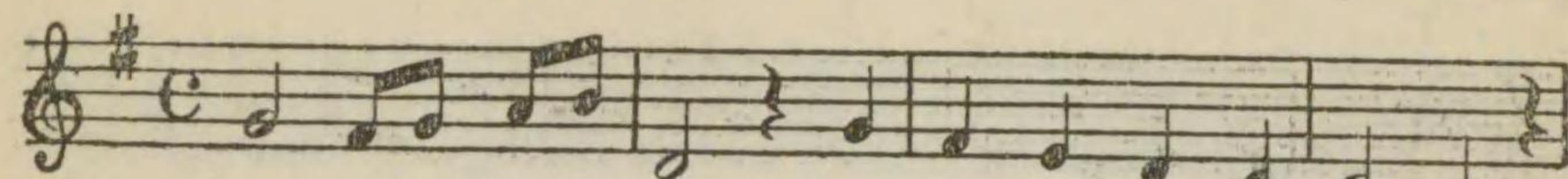
二

一

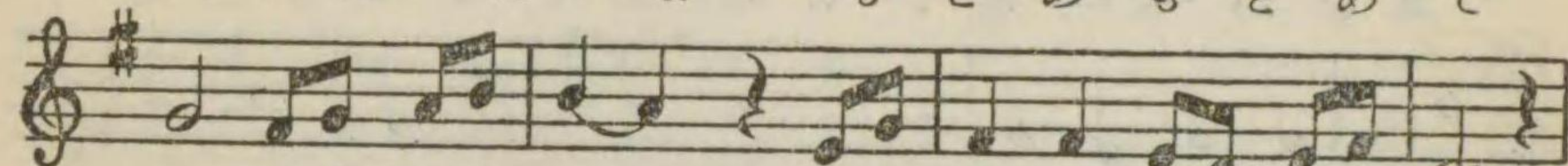
いのちの糧にと
 主のあたへましし
 たふとき血と肉
 など受けざらめや
 昨日の日受ける
 みめぐみに添へて
 またも新たなり
 主のたまふちから
 我が爲死にまし
 きよき血をながし
 「命をうけよ」と
 み子此處にいます
 聖父聖子聖靈の
 ひとつのみかみよ
 秘蹟にありて
 われを生かしませ

體 聖

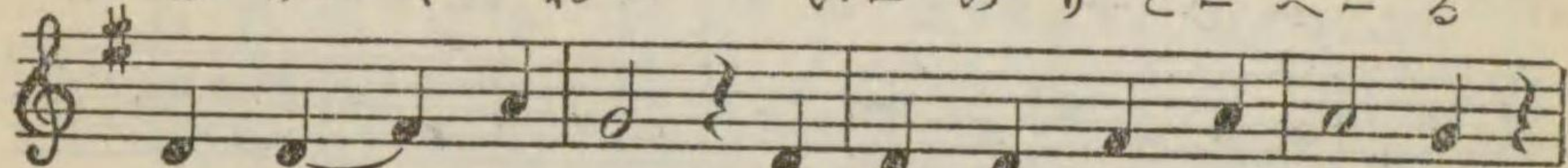
86



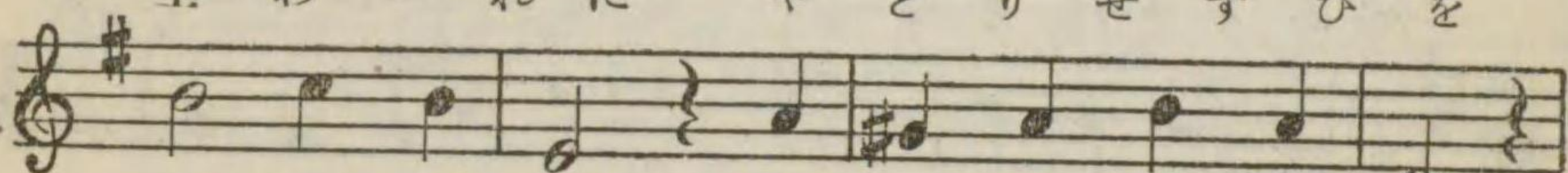
1. め に こ そ か く れ お は せ れ て
 2. わ が た ま も と め も と め て



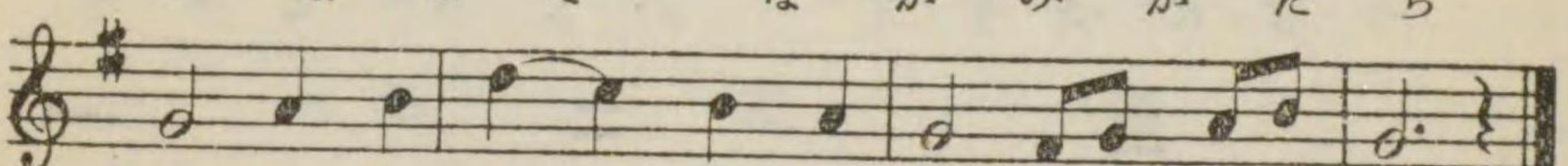
か み こ そ こ も り ま せ れ
 あ け く れ い の り こ へ る



を が ま な ん か み を を が ま な ん
 主 わ れ に や ど り せ す ひ を



わ が み は け が れ ぬ れ ど
 い ま こ そ な が み か た ち



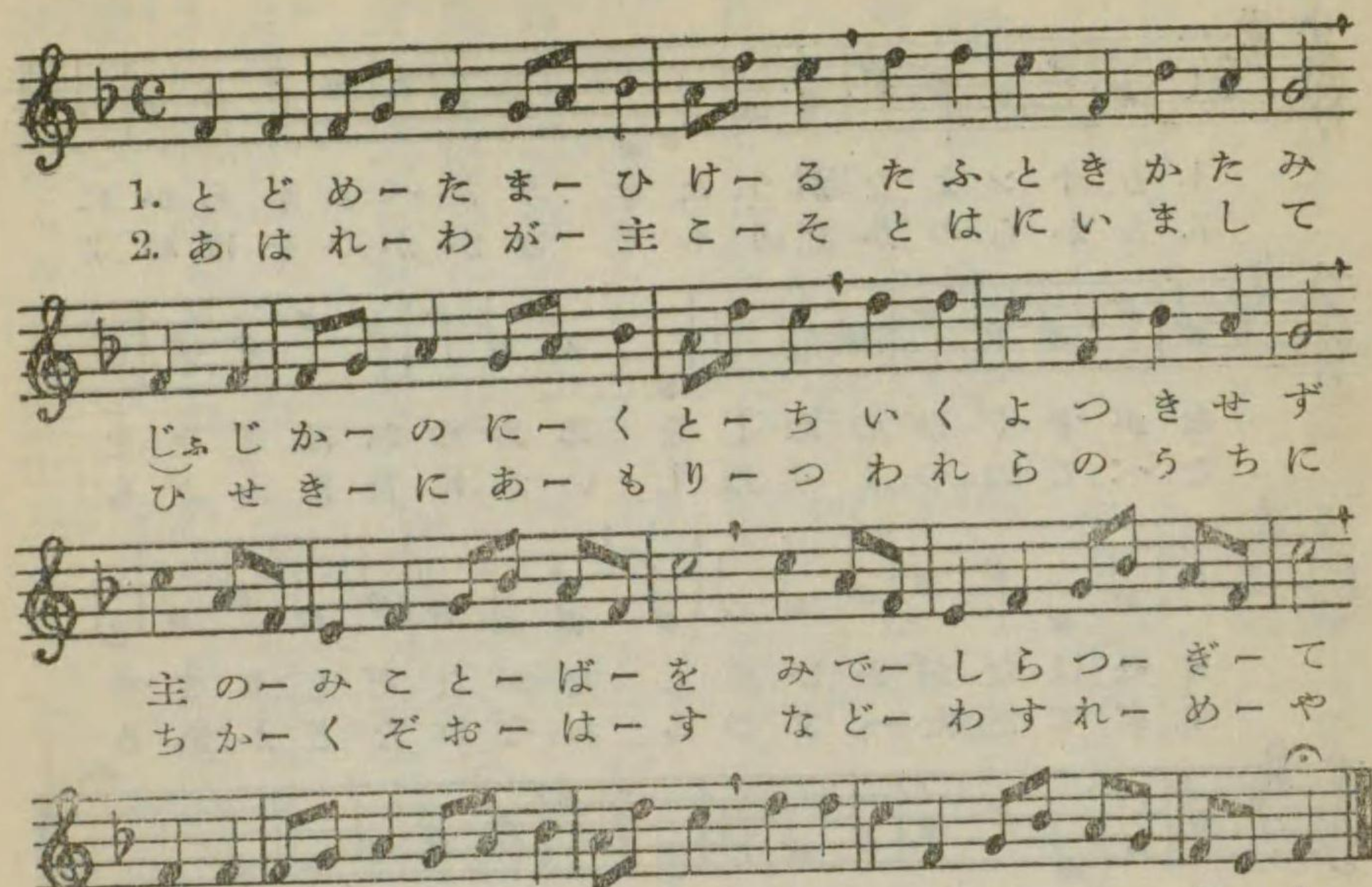
か み ぞ こ こ に き ま せ る
 い や し き み に き ま せ れ

一

二

三

眼にこそ 隠れおはせれ
 神こそ こもりませれ
 拜まなん 神を拜まなん
 わが身は けがれぬれど
 神ぞここに來ませる
 わが靈魂 もとめ求めて
 明けくれ いのり乞へる
 主われに 宿りせず日を
 いまこそ 汝がみかたち
 賤しき身に來ませれ
 わが思ふ たふとき君よ
 なれをば 食しまつらで
 われには 生命なしとふ
 みことば われかしこみ
 禮まひむかへまつる



1. とどめ-たま-ひけ-る たふときかたみ
 2. あはれ-わが-主こ-そ とはにいまして

じふじか-のに-くと-ちいくよつきせず
 ひせき-にあ-もり-つわれらのうちに

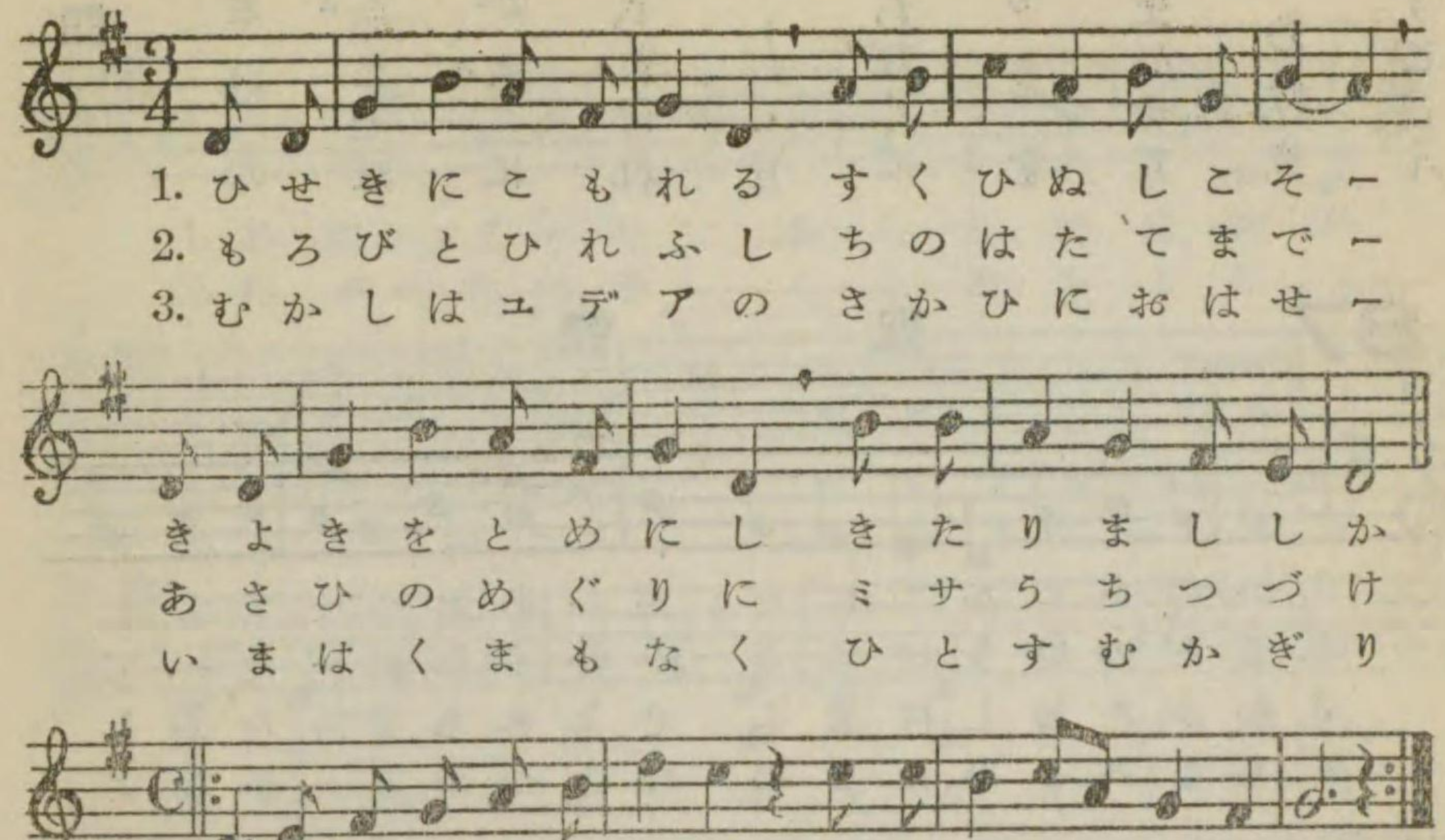
主の-みこと-ば-を みで-しらつ-ぎ-て
 ちか-くぞお-は-す など-わすれ-め-や

ひせき-につ-かへ-つよをやしな-ひ-ゆ-く
 めにみ-まつ-らね-どなどうたが-ひ-せ-め

一 留^{とど}めたまひける たふとき形^{かたみ}見
 十^{じふじ}字^じ架^かの肉^{にく}と血^ち いく代^よつきせず
 主^{しゆ}の御^みことばを 御^み弟子^{でし}ら繼^つぎて
 秘^ひ蹟^{せき}につかへつ 世^よを養^{やし}なひゆく

二 あはれ我^{わが}主^{しゆ}こそ 永^と久^はにいまして
 秘^ひ蹟^{せき}にあまりつ われ等^らのうちに
 ちかくぞおはす などわすれめや
 眼^めに見^み奉^{まう}らねど など疑^{うた}がひせめ

三 うつせみの人^{ひと}と なりましし日は
 神^{かみ}のみすがたは かくれおはしき
 いま秘^ひ蹟^{せき}には ひとの性^{さが}さへ
 見^みえ給^{たま}はねども 奇^{あや}にぞ戀^こほしき



1. ひせきにこもれる すくひぬしこそ
 2. もろびとひれふし ちのはたてまで
 3. むかしはユデアの さかひにおはせ

きよきをとめにし きたりまししか
 あさひのめぐりに ミサうちつづけ
 いまはくまもなく ひとすむかぎり

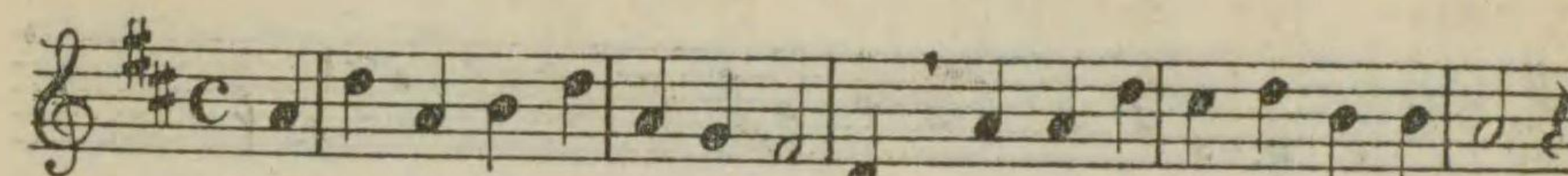
いまはそのみをば ちにやど-りせす
 みやるいやさかえ ほめうた-たかし
 ちかくおはしまし めぐみを-ぞたまふ

一 秘^ひ蹟^{せき}にこもれる 救^{すく}ひぬしこそ
 きよき處^{とどめ}女^{むすめ}にし 來^{きた}りまししか
 今^{いま}はその身^みをば 地^ちに宿^{やど}りせず

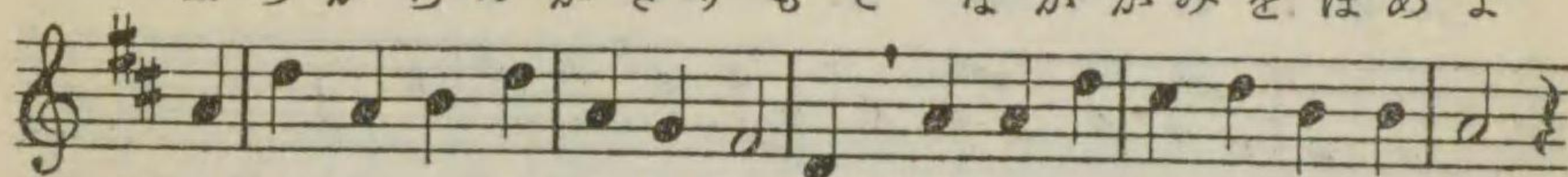
二 もろ人^{びと}ひれ伏^ふし 地^ちの果^{はたて}まで
 朝^{あさひ}日のめぐりに ミサうち續^{つづ}け
 宮^{みや}居^ゐいやさかえ ほめ歌^{うた}たかし

三 昔^{むか}しはユデアの 境^{さかひ}域^ひにおはせ
 いまは隈^{くま}もなく 人^{ひと}棲^すむかぎり
 近^{ちか}くおはしまし 惠^{めぐみ}をぞたまふ

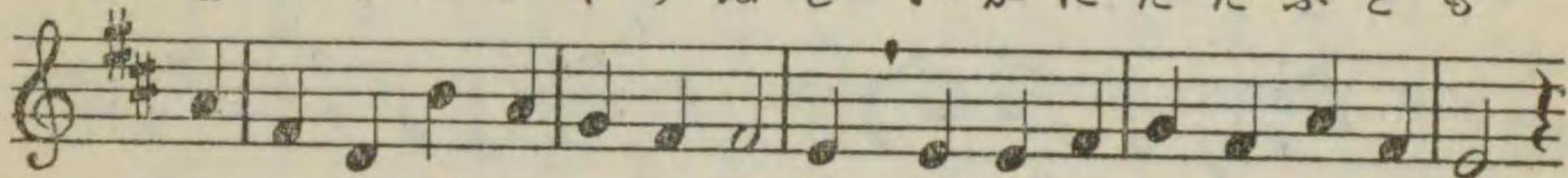
(復唱) 今^{いま}はその身^みをば 地に宿^{やど}りせず
 (復唱) 宮^{みや}居^ゐいやさかえ ほめ歌^{うた}たかし
 (復唱) 近^{ちか}くおはしまし 惠^{めぐみ}をぞたまふ



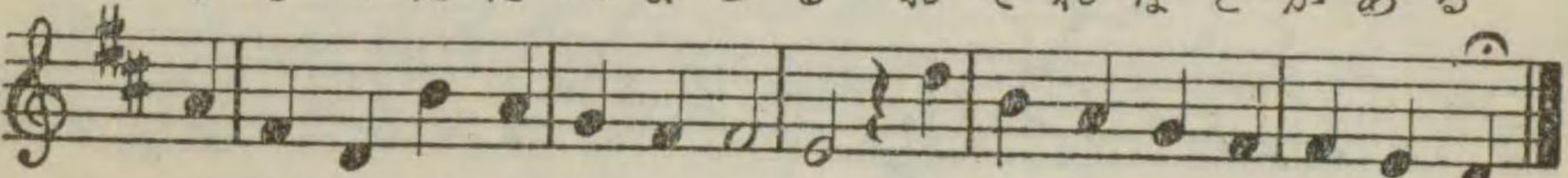
1. シオンよながうたをうたへたからかに
2. ちからのかぎりもてながかみをほめよ



ながすくひのぬしをあめのおほぎみを
なべてのつくりぬしにかいたたふとも



きみはながかひぬしながなぞしります
すぎてたたへまつるおそれなどかある



うたへそのほめうたあめにひびくまで
こらよながもださばいしぞたちさげばん

| | | | |
|--|---|--|--|
| <p>四 すぎこしの祭りは いのち契りましし ながれ流れゆきて すくひ生かし給ふ</p> | <p>三 照る高樓に主は きよき肉と血もて いのち活くる糧と</p> | <p>二 ちからの限りもて なべてのつくり主 超えて稱へまつる 子らよ汝が黙さば</p> | <p>一 シオンよ汝が歌を 汝がすくひの主を 君はなが牧ひぬし うたへそのほめ歌</p> |
| <p>いまぞ新らしき 新約の血 あまねく人の世 み恵みぞかしこ</p> | <p>ニサン<small>ゆふぎ</small>の夕月 十二の御弟子に おのが身を願ち 法典定めましぬ</p> | <p>ながかみをほめよ いかに稱ふとも 畏れなどかある 石ぞ立ち叫ばん</p> | <p>うたへ高らかに あめの大神を 汝が名ぞ知ます 天にひびくまで</p> |

五

世のあがなひ爲まく
のぼりてみからだを
ゆだねまかせて血を
いざや主のいけにへ

主は詛ひの木に
悪しきものの手に
ながさせたまひき
あふぎ偲びゆかん

六

「斯くなして我をば
御宣の血と肉の
パンの肉血の御酒
日のめぐり行くなべ

「覚え言ひ繼げ」と
祭りは繼ぎつぎ
われらをやしなひ
間なくたえまなし

七

日毎ささぐるミサ
御酒は血にかはりて
眼に見ゆるならねど
食しまつらねばなど

主のことはにより
パンは肉となる
そは主のみからだ
主の御弟子ならめ

八

見ゆるはホスチアの
さとの智慧もあらぬ
燃えたつころもて
秘蹟にありたまふ

みかたちのみなり
われらにしあれど
信じまつり來ぬ
主をなつかしみつ

九

いみじきたからこそ
お坐しかくれたりと
かてよ飲みものよと
みくにのそのいづみ

かたちの蔭にし
きみを思ふころ
靈魂はうゑかわき
汲む我がさちはひ

十

ホスチアのくだけよ
主はうちにこもりて
われらにぞたまはる
食しまつるホスチア

御酒のしたたりよ
全きみからだを
みこころよたふと
御血汐ぞこもる

十一

みつかひのパンなり
イサクのいけにへ
善きひつじかひなる
いく千代かはりなき

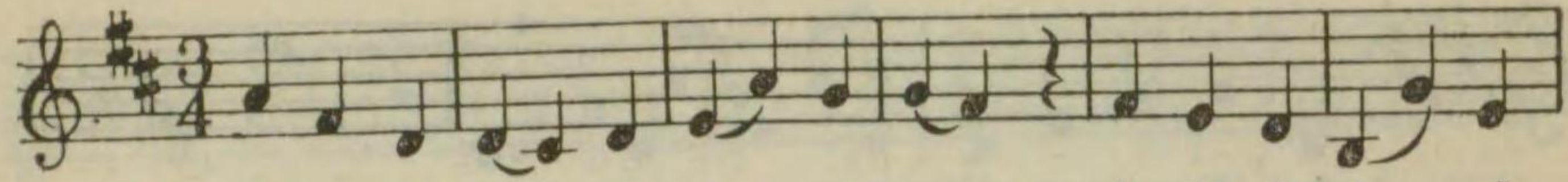
祖先のマンナなり
すぎこしのちしほ
おほぎみの御手に
みやしなひ受けめ

十二

手負ひし小牡鹿の
つかれいきづきつ
傷手いやしたまふ
みかて身にうけつ

谷にあへぐごと
主を戀ひにこひて
愛によるこの身
いさみ立ちてゆく

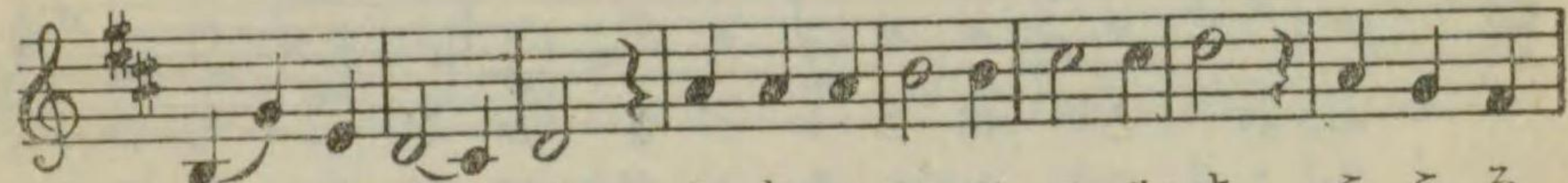
(次頁に續く)



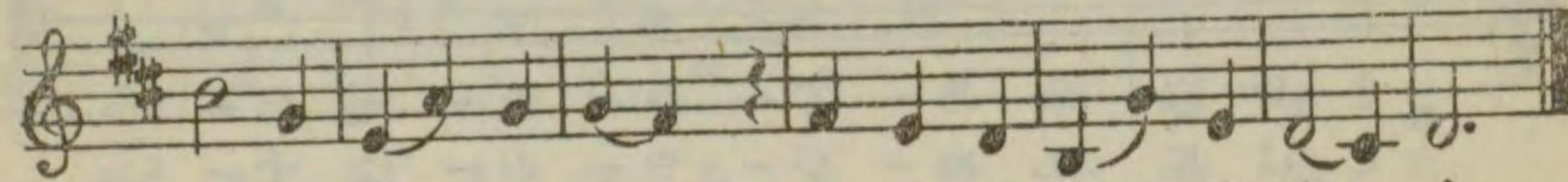
1. ひせきに—こも—りて— われらの—う
2. あやにな—つか—しき— なぐさめ—ぬ



ち—に とどまり—たま—へる— をがみ
し—よ さみしき—ひの—とも— ころ



ま—つれ—ば ああエマヌエルよ ころ
の—かて—よ きみしましまさば よにお



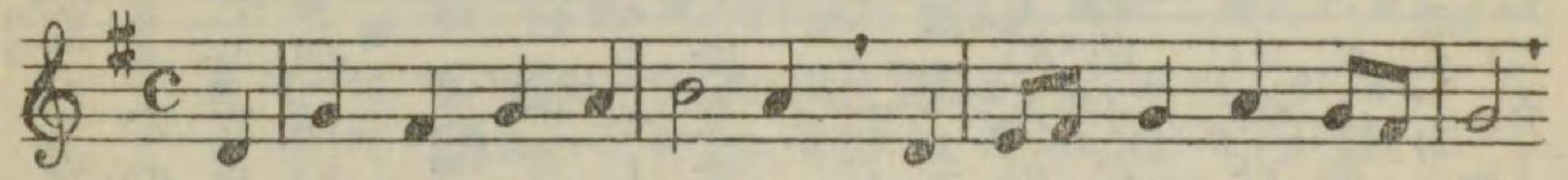
にただ—よふ— くしきや—すけ—さ
それあ—らず— くしきへ—いわ—よ

二

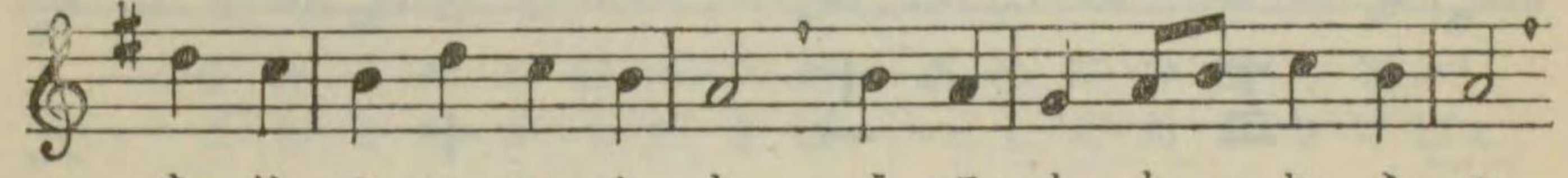
一

秘蹟ひせきにこもりて
 止まりたまへる
 噫あゝエマヌエルよ
 奇しきやすけさ
 二 あやに懐なつかしき
 さみしき日ひの友とも
 君きみしまさば
 奇しき平和へいわよ
 われらのうちに
 をがみまつれば
 心にただよふ
 ながさめぬしよ
 ころのかてよ
 世よに怖おそれあらず

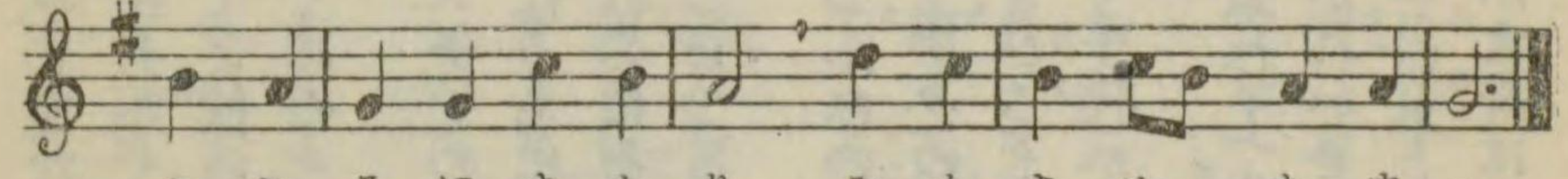
主しゆよ御國みくに入いる時とき
 わが靈魂たましひをば
 聖きよけき餐筵うたげにぞ
 迎むかへたまへかし
 心禮裝こころのやととのへ
 みまへに進すすみて
 かがやきの聖姿みすがた
 喜びよろこびこをがまん
 友ともよほめうたへ
 世よを知召しよめす主しゆを
 わがたき城しろよ
 わがつよき砦とりでよ
 上うへなきよろこび
 あなや主しゆは我歌わがうた
 聲こゑのかぎりして
 いざや舉こぞり歌うたへ



1. みつかひのパン たび—ぢのか—て
2. キリストいまは この—みか—て—に



あめのマンナよ うゑしわ—れらの
かくれやおはせ みくにい—りせば



こころにきたる みちさせ—たまへに
こまみえぞまつる ただにさ—やか

二

一

天使てんしのパン
 たび路ぢのかて
 あめの靈饌マンナよ
 饑うえし我等われらの
 二 キリスト今は
 このみかてに
 隠かくれやおはせ
 み國入みくにいりせば
 見まえぞまつる
 直ただに分明さやかに
 ころに來きたり
 満みちさせ給たまへ

1. ああ主よめにこそみえねど
 2. じふじかにかみのさがかくれ

いまよせいいたいぬちおはすも
 パンぬちひとのさがさへ

こもりみかくりみかしこし
 みかくりかくろひ主おはす

をがみまつるそのみかしらだ
 みことかしこみわれしん

一 噫主よ 眼にこそ見ねど
 いまよ聖體ぬちおはす
 籠りみ 隠りみ 畏こし
 拜みまつるその御身體

二 十字架に 神の性かくれ
 麵麩ぬち人の性さへも
 身隠り 隠ろひ 主在す
 御言かしこみわれ信す

三 トマスの 疑雲うち晴れ
 見ずて信する神の子の
 聖なる 生命よ 籠りて
 いざ弱き我を生かせよ
 (聖トマの祈りより)

1. よろこびのくにのおほぎみに
 2. わがしたひまつるきみがみか

ます主みもろにおはして
 らだよかりほはいぶせし

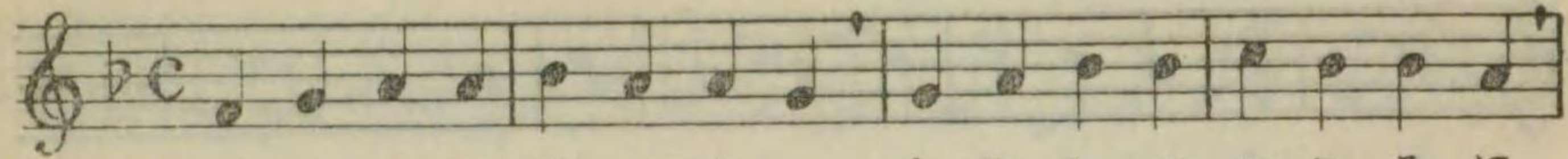
われらにちかづきかぞへもつ
 かしこみもあらずはづかしめ

きせぬみめぐみぞたまふ
 さはにしぬびやおはすらん

一 よろこびの國の 大君にます主
 聖櫃におはして われらに近づき
 數へもつきせぬ み恵をぞたまふ

二 わが慕ひまつる 君がみからだよ
 假宮はいぶせし 畏こみもあらず
 はづかしめ多に 忍びや在すらん

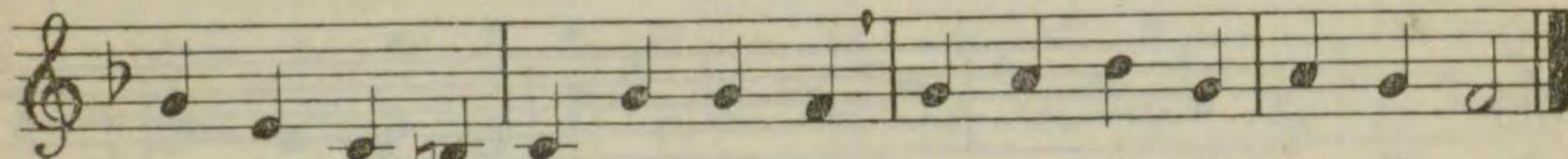
三 いざ謙り下りて 禮まひ奉らなん
 數多主を無みし 畏れなきひとに
 つぐのひ祈りて 主に仕へ奉らん



1. きよけき主のあい われらのこころに
 2. 主とともにいき そのあいのほのほ
 3. あいのひはげしく もえずてやはある



も え し め た ま へ こ の み と た ま と を
 あ が れ そ ら へ に あ ま つ み く に に て
 み こ こ ろ の く に ひ え や す き こ こ ろ



み て に さ さ ぐ れ ば 主 よ う け た ま へ に
 よ ろ こ び の か さ れ て ひ び か ふ ま で く
 こ こ に い か さ れ て と は に か が や く

三

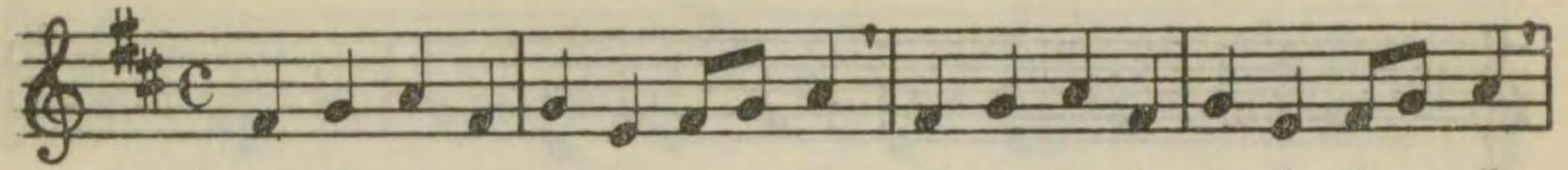
愛の火はげしく 燃すてやはある
 みこころのくに 冷え易きところ
 茲に生かされて 永久にかがやく

二

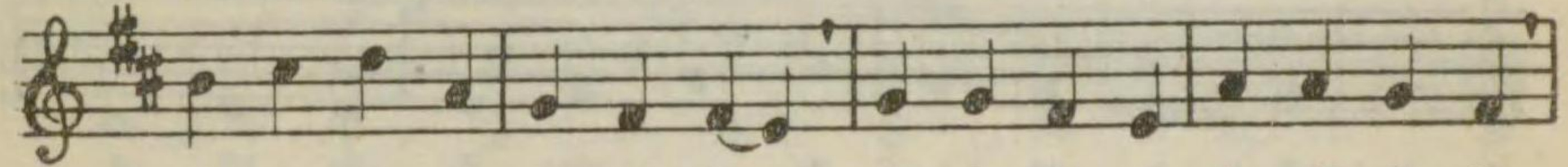
主と共に生きて その愛のほのほ
 あがれ空へに あまつ御國にて
 よろこびの歌の ひびかふまでに

一

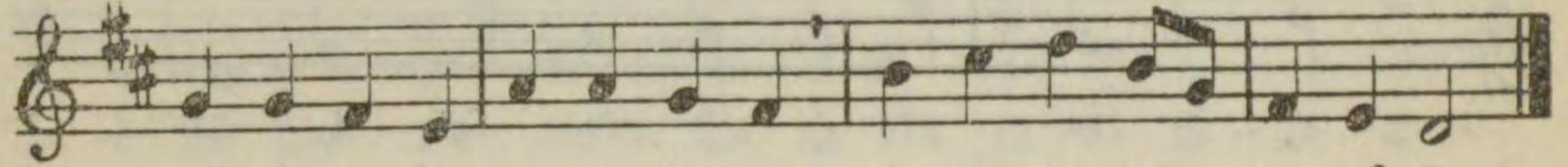
きよけき主の愛 我等のこころに
 燃えしめたまへ この身と靈とを
 みに捧ぐれば 主よ受けたまへ



1. あいのいけにへの主のみこころこそ
 2. つみとがけがれをたふときちしほに
 3. きみがみこころをかがみとあふぎて



われらのぞみうきよのなぐさめ
 あらひきよめてわがすくひぬし
 おもひをきよめあゆみをただして



つきぬよろこびのくをんのいづみ
 おほみこころをばかしくみゆか
 さかえのかむりをえまくほりする

四

我等は祈らなん 國々島々
 聖教のひかりを かしこみ仰ぎて
 君がみこころに 添ひまつる日を

三

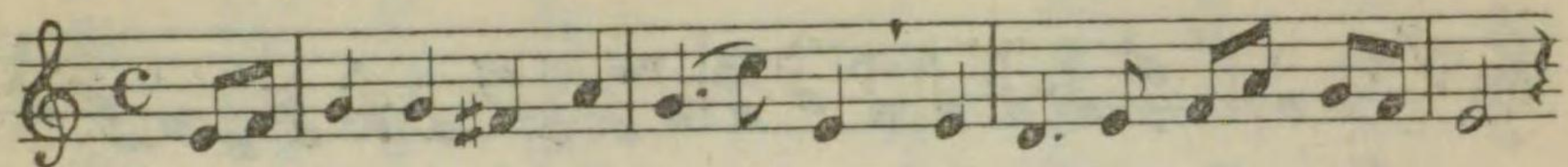
君がみこころを かがみと仰ぎて
 おもひを浄め あゆみを匡して
 榮光のかむりを 得まく欲りする

二

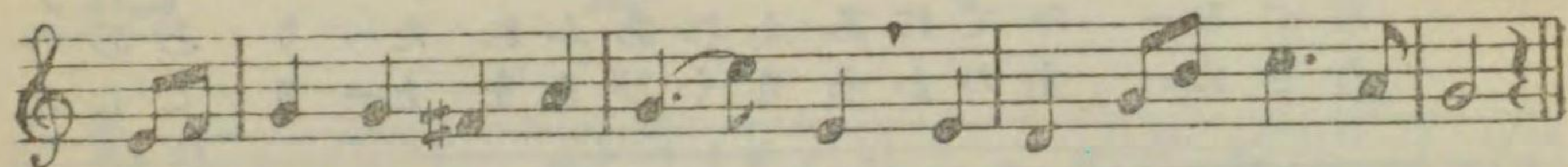
つみとが穢れを たふとき血汐に
 大御心をば 畏こみゆかなん
 あらひきよめて 我がすくひ主の

一

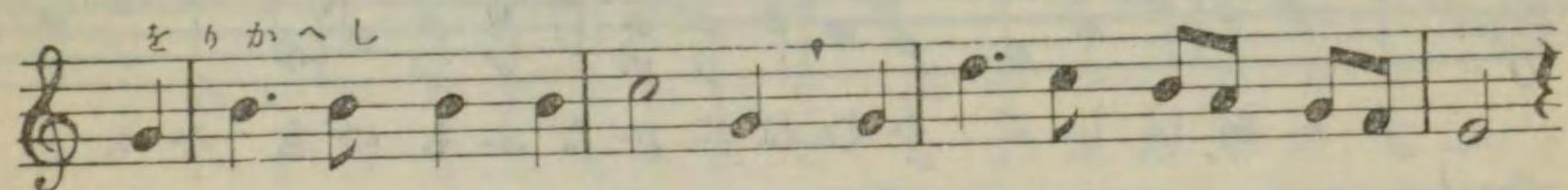
愛のいけにへの 主の聖心こそ
 われらのぞみ 憂世のなぐさめ
 盡きぬ喜びの 久遠のいづみ



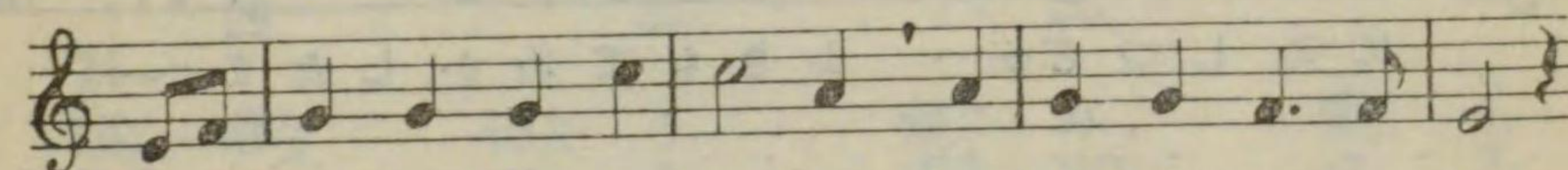
1. しーらべもたへーに こゑたかーらーに
 2. なーやみくるしーみ ながためーにーし
 3. あーいのひもゆーる 主のみこーこーる



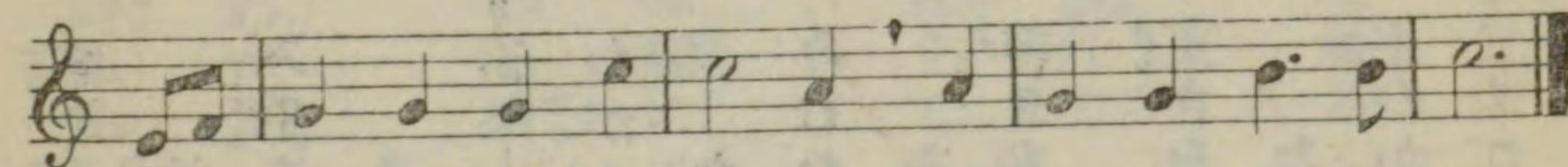
主ーのみこころーを ほめたーたへよ
 みーこころこそーは らけまーしけれ
 めーぐみあふれーて なれをーみたす



いざやもろびと とこしなへーに



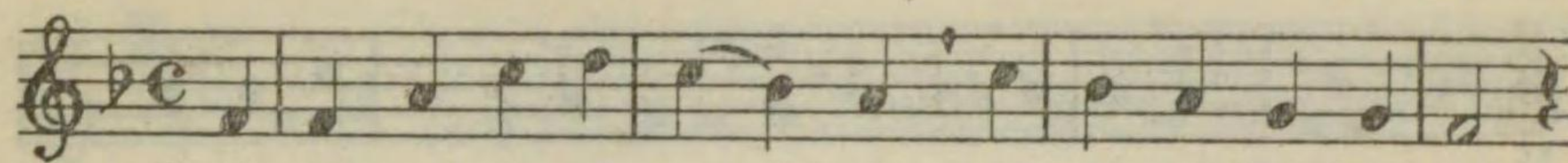
ほーめよたたへよ 主のみこころ



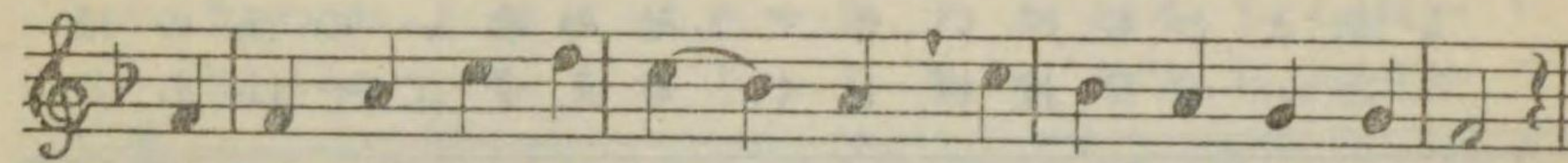
ほーめよたたへよ 主のみこころ

歌詞は前頁に同じ

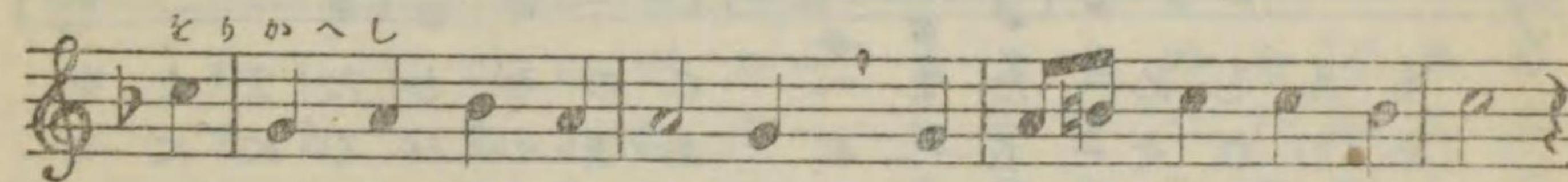
(但し「をりかへし」の最後の一行のみ相違)



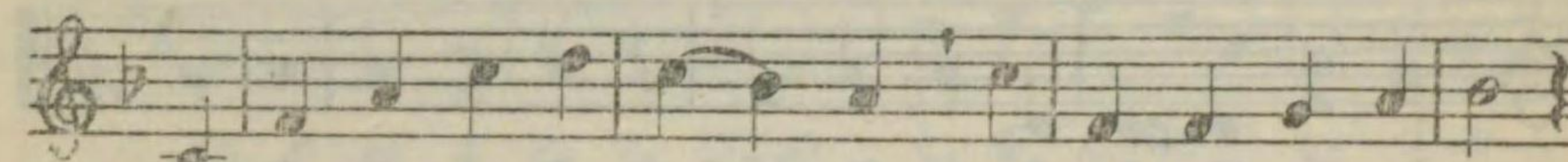
1. しらべもたへーに こゑたからに



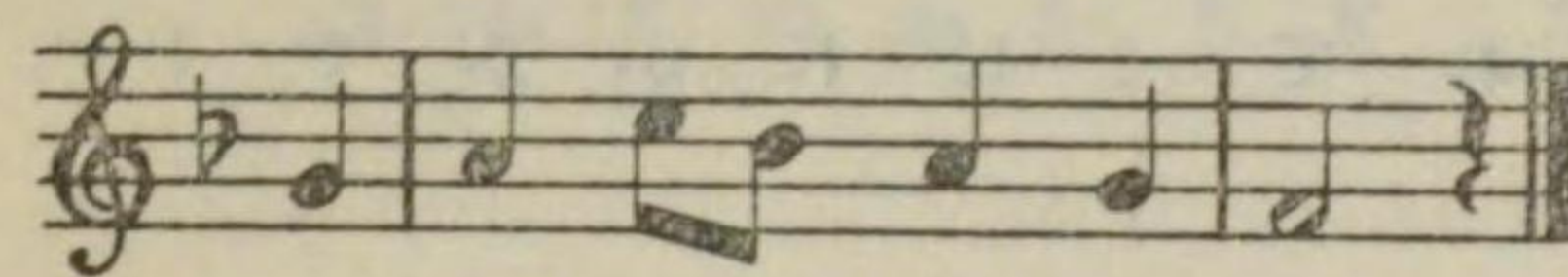
主・のみこころーを ほめたたへよ



いざやもろびと とこしなへに



ほめよたたへーよ 主のみこころ



主のみこころ

三

恵みあふれて
なれを充たす

愛の火もゆる
主のみこころ

聖心こそは
受けましけれ

二

なやみ苦し
汝がためにし

主のみこころ

ほめよ稱へよ
主のみこころ

いざや諸びと
とこしなへに

(をりかへし)

主の聖心を
ほめたたへよ

一
しらべも妙に
こゑたからに

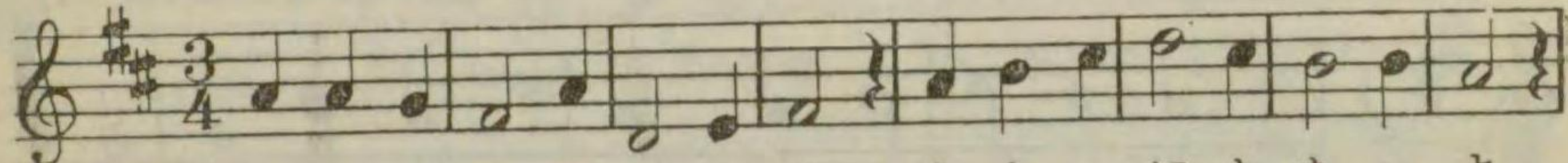
汝が贏ち得し寶
誰か掠め奪ふべき
永久につきせぬ幸
主にある歡こそは

渡津海の荒き波も
宣ります一こゑに
風の共きき従がひ
静けくぞなりける

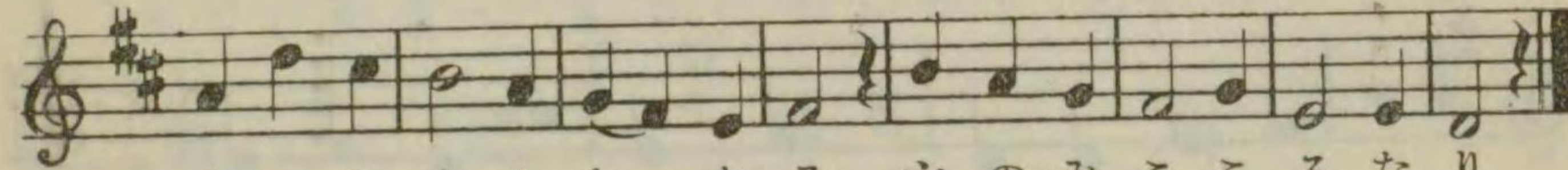
三

四

聖心



1. もろびとこぞりて たたへにたたへよ
2. みめぐみあふれて かみのみこころよ



あいになかなれる 主のみこころなり
いくちよわた一りて なぐさめぞたまふ

四

尊ときわが友 救ひのみこころ
臨終の時にも みちびきを賜へ

三

うららの朝に わびしき夕べに
偲びまつる君 イエズスの聖心

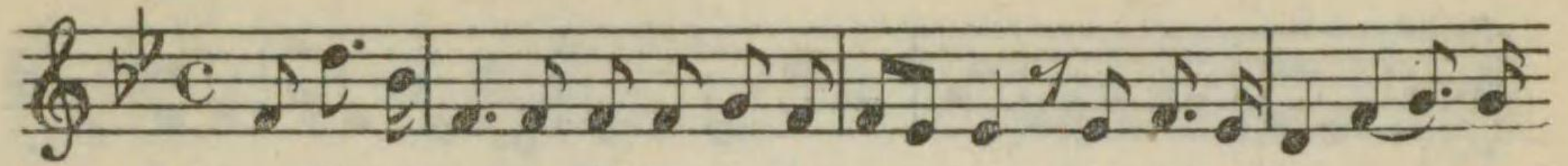
二

み恵み溢れて 神のみこころよ
幾千代亘りて なぐさめぞ賜ふ

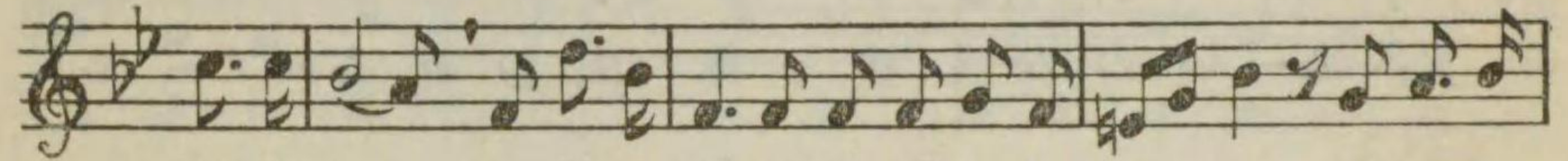
一

もろ人擧りて たたへに稱へよ
愛に高鳴れる 主の聖心なり

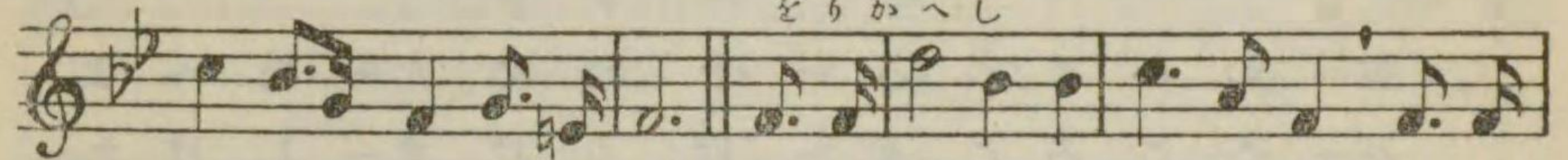
聖心



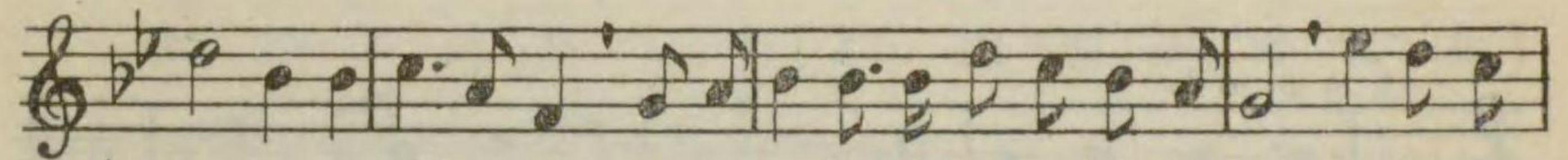
1. いざやこよ主のみもと一に ながうくべき
2. おもきをおひなやむも一の などきたり一お



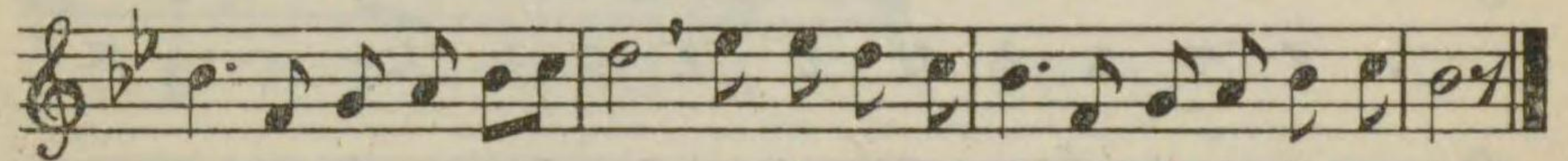
めぐみ一みてにあふれあふれた一り あめの
ろさぬ一主のかるきくびきをと一り ころ



うま一しきかて わが主のみこころ わが
やす一けくあれ



よにおはして みむねにかなふものを みもと



にめしつど一へ よきもてあかしたまへば

一

率や来よ主の御許に
汝がうくべき恵み
み手に溢れ溢れたり
あめの美しき糧

(をりかへし)

わが主のみこころ

わが世におはして

みむねにかなふ者を

み許に召しつどへ

善きもて飽し給へば

二

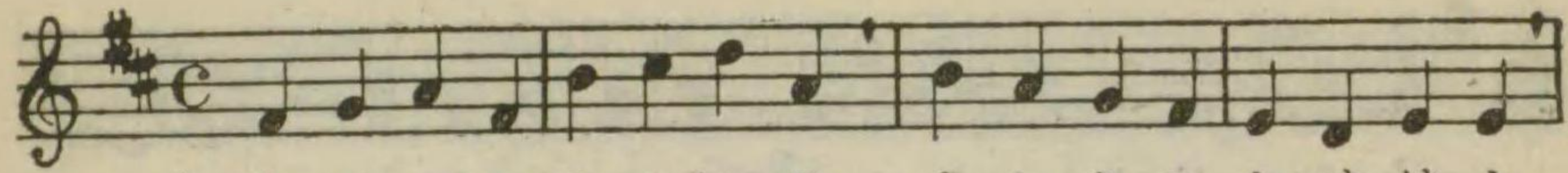
重きを負ひなやむ者
など來たり下さぬ
主のかるき鞭をとり
こころ安けくあれ

1. なやみしげきたびなれや ころもどはすきりの
 ゆくてにたちこめつや わがたまのなげかふ
 をりかへし
 うつしみのいくべき みちのしるべと
 てらしたまへ きよけきひかり あいのみかほ

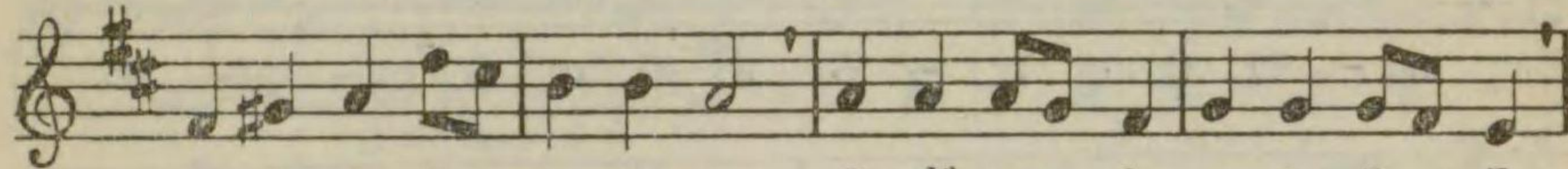
一 悩^{なや}みしげき旅^{たび}なれや ころも惑^{まど}はす霧^{きり}の
 行^{ゆくて}手に立^たち罩^こめつや わが靈^{たま}のなげかふ
 (をりかへし)
 うつし身^みの生^いくべき 道^{みち}のしるべと
 照^てらしたまへ きよけき光^{ひか}り 愛^{あい}の御^み顔^{かほ}
 二 君^{きみ}は世^よの悪^あしき中^{なか}に 傷^{きず}つき倒^{たふ}れましき
 されど聖^{みこころ}心^{こころ}こそは にこやかに在^まし
 三 など恐^{おそ}るる小^ちさき群^{むれ} み國^{くに}汝^{なれ}にあればと
 なぐさめの御^み聲^{こゑ}して 望^{のぞ}みぞあらたなる
 四 正^{ただ}しく清^{きよ}く雄^{むね}々^をしく 歩^{あゆ}みを主^{しゆ}に倣^{なら}ひて
 君^{きみ}のみむねのままに 喜^{よろこ}びつつすすまん

1. はるはうばらよ はなさきいで
 2. あたはうばらの とげをあみて
 みこころかざる よきかむりと
 さすやみかほの ちにはそめど
 こころのはなの かをりたかく
 あかきみこころ われをいかし
 みくらのさかえ いやがなりぬ
 かからきうきよは そのとがなりぬ

一 春^{はる}はうばらよ はな咲^さきいで
 みこころ飾^{かざ}る よきかむりと
 こころの華^{はな}の かをりたかく
 み國^{くに}のさかえ いやかがやく
 二 仇^{あだ}は茨^{うばら}の 蕨^{あじ}を編^あみて
 刺^さすや御^み顔^{かほ}の 血^ちには染^そめど
 赤^{あか}きみこころ われを活^いかし
 辛^{から}きうき世^よは 園^{その}となりぬ
 三 我^{われ}よこの世^よに はづかしめを
 いかに忍^{しの}ぶも わがみこころ
 祝^{しゆく}したまへば 蕨^{あじ}は花^{はな}の
 臺^{うたな}となりて われを幸^{さち}はふ



1. イエズスのみこころ われらのたすけよ
 2. いったのみきずは あげにそみたまひ
 3. みてにつくわれぞ いざいさみたてよ

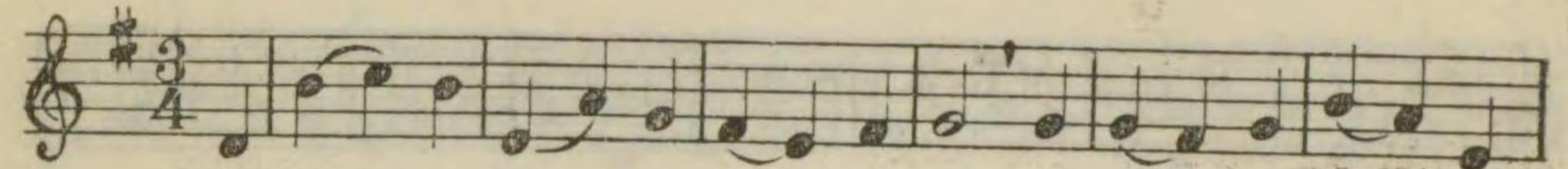


よのたたかひに きずつきつかるる
 われらのために いたみくるしみて
 みむねのままたたかひふるひて

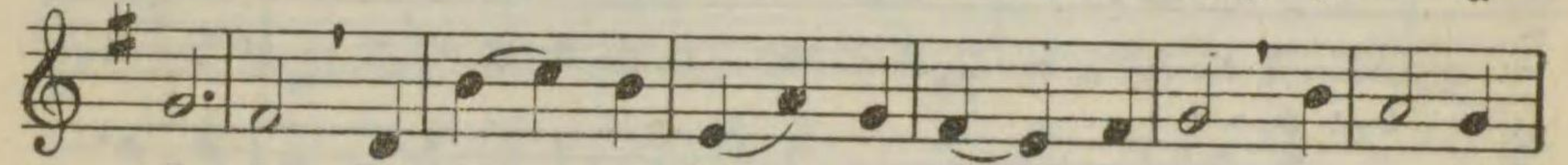


このみとりでと きみやたせ
 にぶれるころを はげまし
 かちのかむりをば あめにうけ

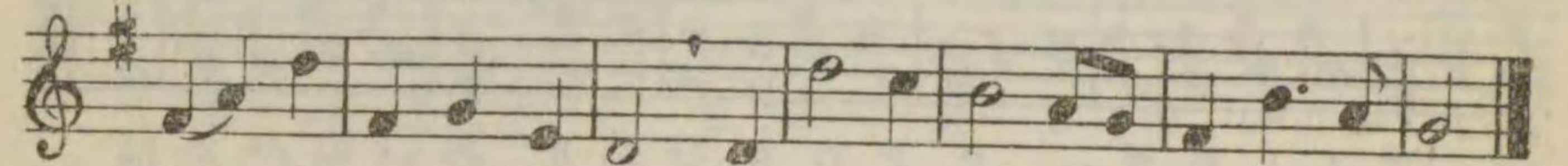
| | | | |
|---|---|---|---|
| 四 | 三 | 二 | 一 |
| 君はわがのぞみ いのちの清水 裂かれし御脇に ほとばしる泉 汲めども盡せず 我が愛にこそ | みむねのままに 勝利の冠をば あめに受けまし み手につく我ぞ いざ勇み立てよ たたかひ奮ひて | 鈍れるころを われらの爲めに 痛みくるしみて はげましたまふ 五つの御きずは あげに染み給ひ | この身の堡と 世のたたかひに 傷つきつかるる きみや立たせる イエズスの聖心 われらの助けよ |



1. あふぐもかしこし主のみこころ
 2. さかえかがやけばよものくに
 3. たぎつましみづととこよにな

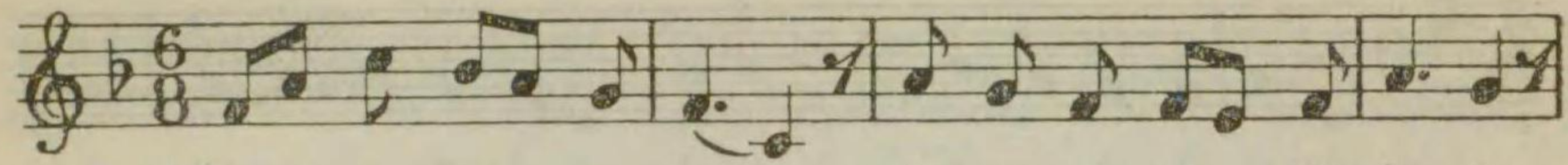


るよひにけにみたみはみなを
 たみとはのさちもとめみもと
 がれいためるこころをいかし

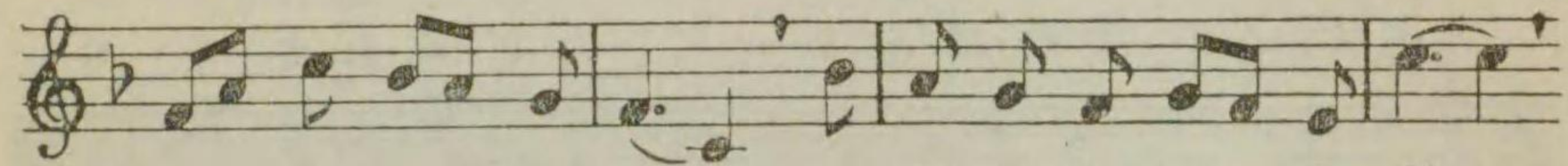


こそたのみてまなくぞよびまつる
 につどひきてつみのゆるしこへり
 ゆくいのちぞなぐさめのみこころ

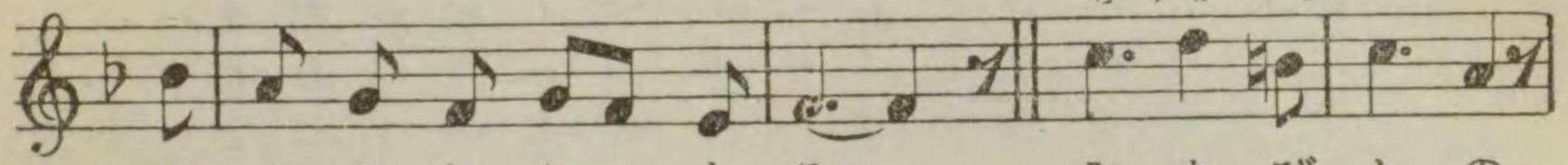
| | | | |
|--|--|--|--|
| 四 | 三 | 二 | 一 |
| いまはの床にも 偕にぞいまして 導きたまへかし あいのみこころ 永遠の旅やすけく | たぎつ眞清水と 慰めるみこころ 傷めるみこころ とこ世にながれ 活しゆくいのちぞ | 罪の赦し乞へり 永遠の幸もとめ 栄えかがやけば みもとに集ひきて 四方のくにたみ | あふぐも畏かし 日にけに御民は 間なくぞ呼奉る 主のみこころよ 御名をこそ頼みて |



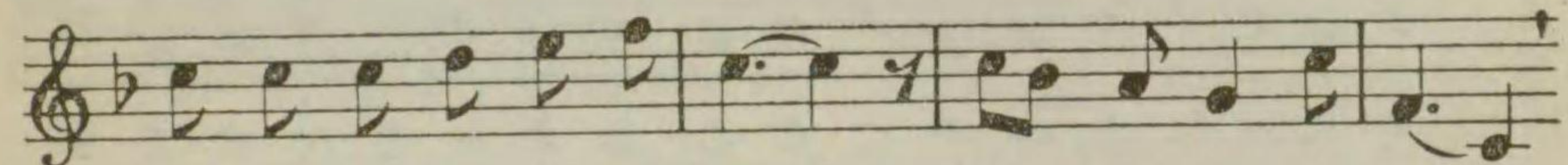
1. やーすみーししー わがおほーぎみは



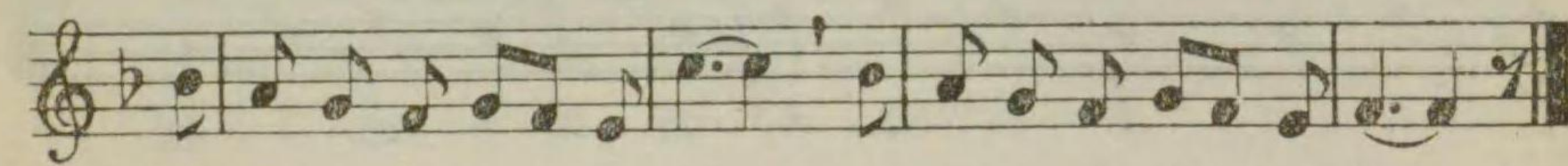
めーにみーえずー ふれずきこーえずー
をりかへし



さあれわれーしるー みなびとの



こふるみこころー おーとなへばー



うべもこひーけりー たまのさやーけみー

四 三 二 一

（をりかへし）

八^や隅^{すみ}しし わが^{おほ}大^{ぎみ}君^{きみ}は
眼^めに見^みえず 觸^ふれず聞^きこえず
さあれわれ知^しる

みな人^{びと}の 戀^こふるみこころ
おとなへば うべも戀^こひけり
靈^{たま}のさやけみ

地^ちのはたて 陰^{よみ}府^みの澳^{おき}へに
我がゆくも 君^{きみ}はおほせれ
たふときろかも

やすけさは 死^しねるこころの
黙^{もく}ならず ひとりし君^{きみ}が
かたりおはす日^ひ

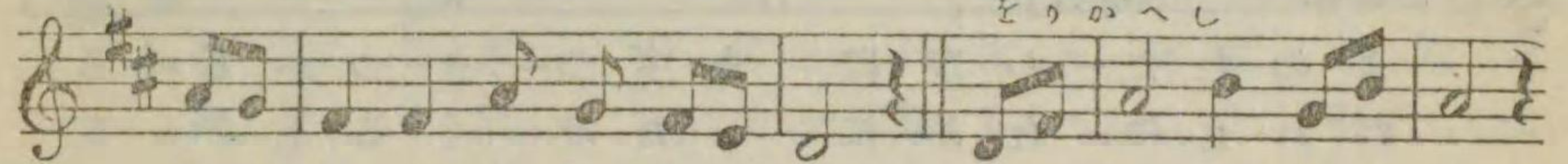
みこころや 照^てらしおはさめ
世^よのひとは にくみ合^あへるを
われやすきあり



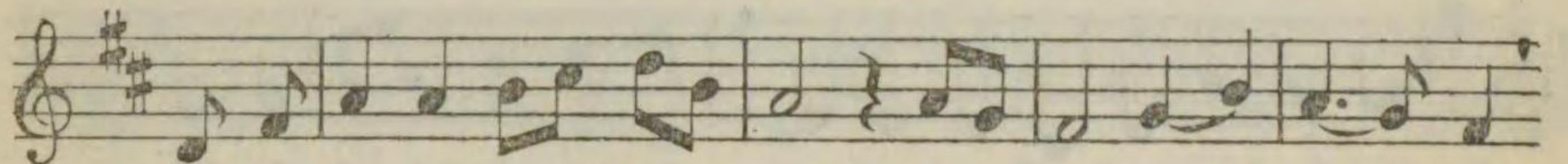
1. ひーじりーらーを うみしきみーはーも



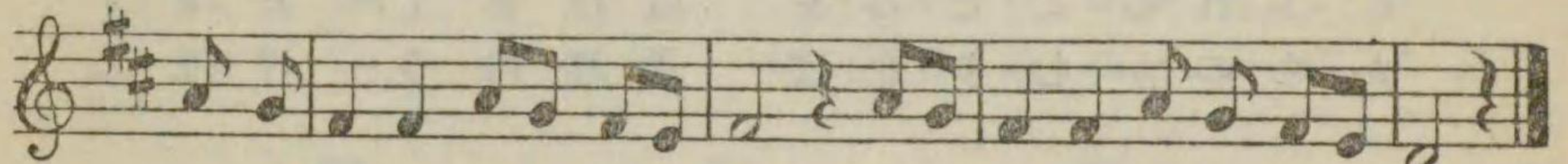
おーほきーなーる あめのちかーらーの
をりかへし



たーかくこもれーる あーるをあーり



なきをぞなーしーと まーさやーけーく



こといひなーせーと のーりしみここーる

三 二 一

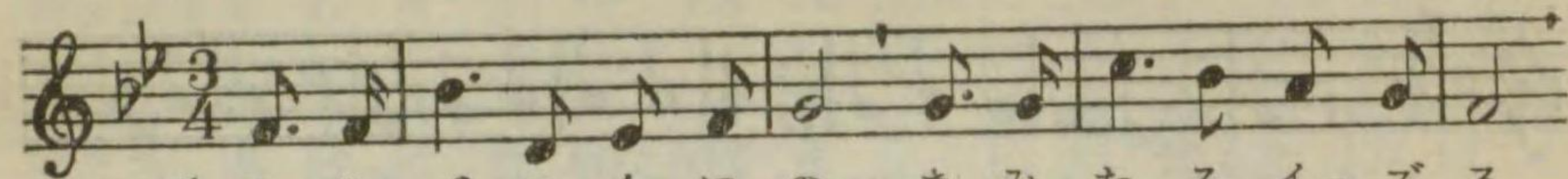
（をりかへし）

ひじりらを 生^うみし君^{きみ}はも
大^{おほ}きななる あめのちからの
たかくこもれる

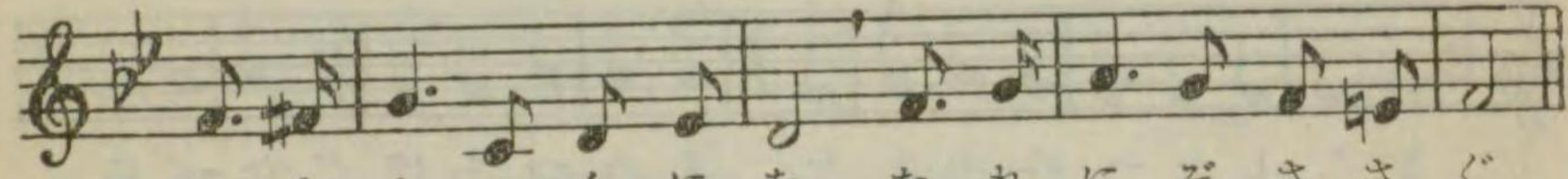
あるをあり なきをぞなしと
まさやけく 言^{こと}いひ爲^なせと
宣^のりしみこころ

あいこそは 神^{かみ}のみこころ
日^か々なべて 彌^{いや}しきゆかむ
おとづれぞよき

こころこそ まづしかりけれ
きみが手^てに なびきしわれぞ
禮^{みや}やわするる

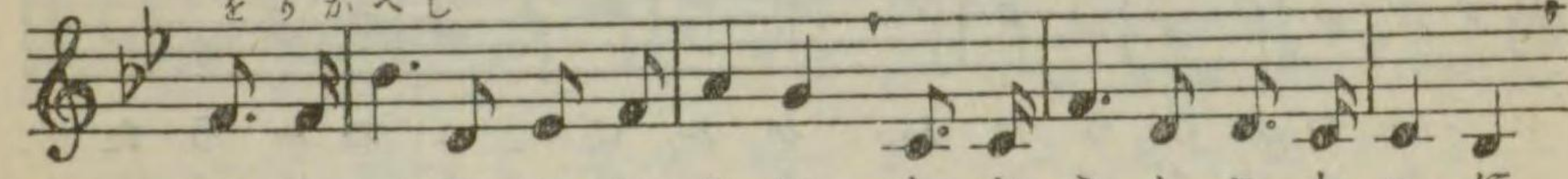


1. よろづのくにのきみたるイエズス
2. わがひのものとくにをさきはひ

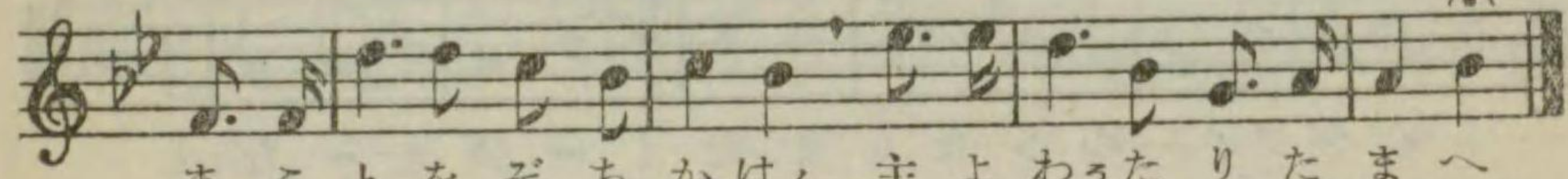


やまとのくにをなれにぞささぐ
かみのみくにとなさしめたまへ

(をりかへし)

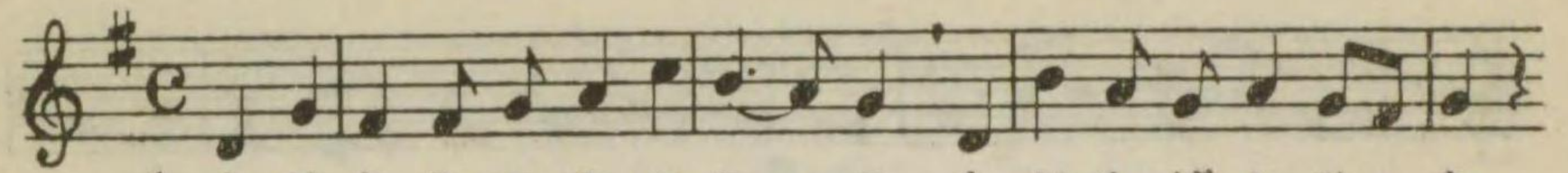


きみのみこころにわれらとこしへに

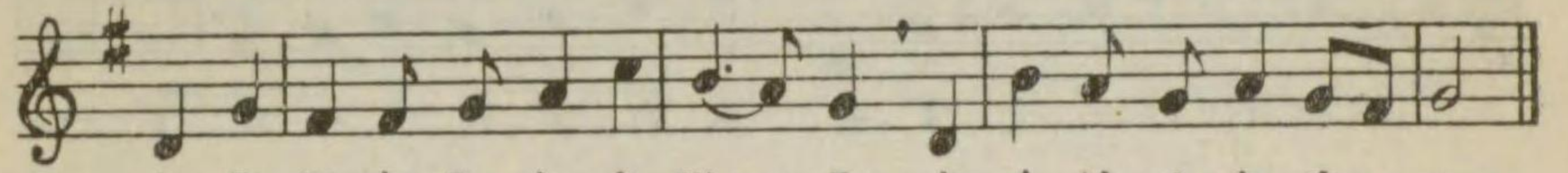


まことをぞちかはん主よわたりたまへ

- 一 よろづの國の君たるイエズス
やまとのくにをなれにぞささぐ
 - 二 わが日のもとの國を幸はひ
神のみくにとなさしめたまへ
 - 三 闇にむか伏す敵をくじきて
み旗のもとにかちうたあがる
- (をりかへし)
- 君のみこころに我等とこしへに
忠誠をぞ誓はん主よ王たり給へ

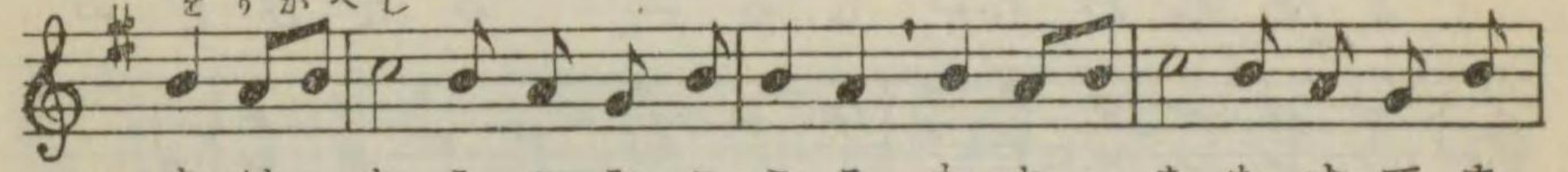


1. あはれみのみこころわがなげかひを
2. ちちようたてわれはくさぐさのつみ
3. くいのみだふりてたぎるたきつせ

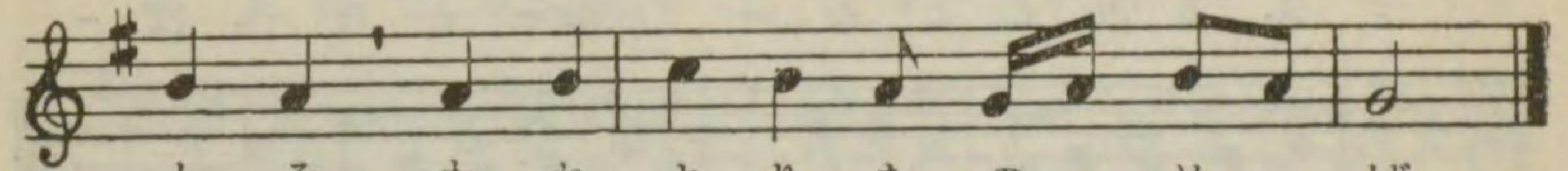


よそになみたまひそすくはせたまへ
みにしげけきをくゆかへりみたまへ
みなよびまつるさへわれやくづを

(をりかへし)

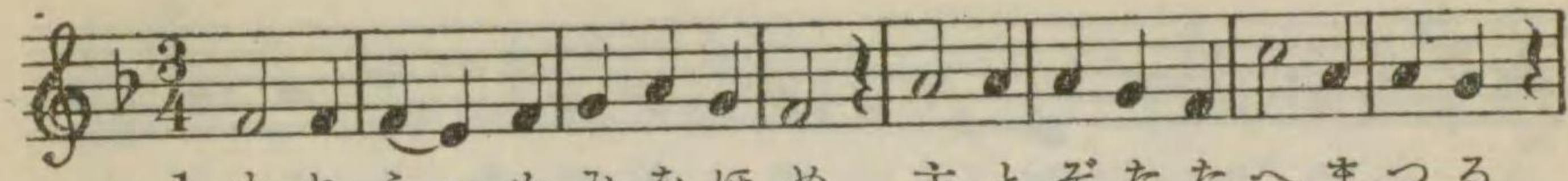


あはれみのみこころわれをなすてま



しそわれよりたのめば

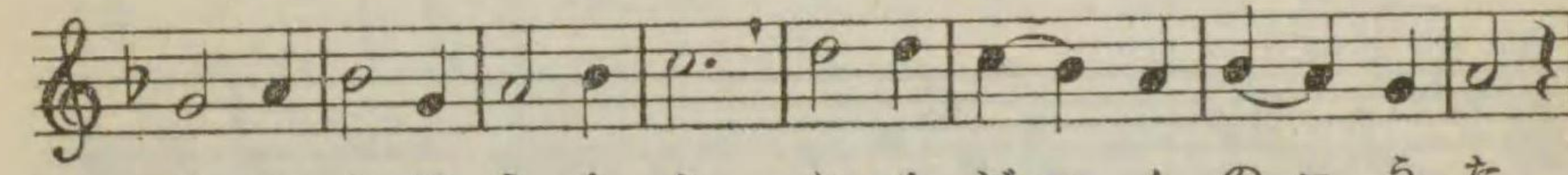
- 一 あはれみの聖心 わが歎かひを
よそにな見給ひそ 救はせたまへ
 - 二 父よ憂たてわれは くさぐさの罪
身に繁けきを悔ゆ かへりみ給へ
 - 三 悔いの涙霏りて たぎる瀧つせ
み名よび奉るさへ 我やくづを
 - 四 たふときみ救ひに 萎えたる足を
いまやい立たし我 み許にぞゆく
- (をりかへし)
- あはれみの聖心 我をな捨ましそ
われ依り頼めば



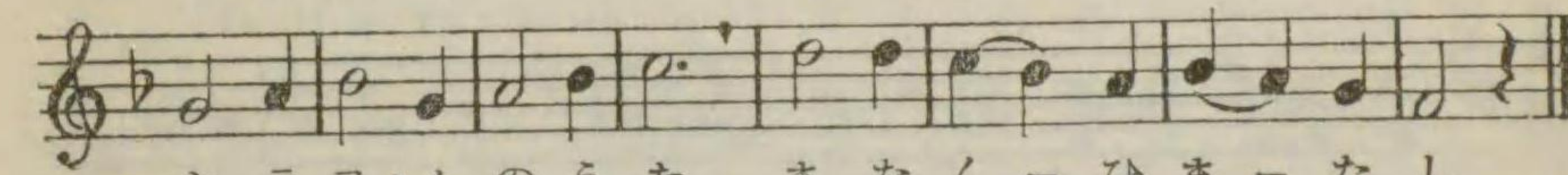
1. われら - かみをほめ 主とぞたたへまつる
2. せいなるせいなる せいなるわがみかみ



としへのちちを あめつちほぐなべに
ちよる - づのいくさ ひきゐきたまふわが主



みつかひうたふ ケルビム の - うた
あめつちにみつ そのみ - さか - えと



セラフイムのうた まなく - ひま - なし
さけぶそのこゑ みそら - にと - よむ

四 三 二 一

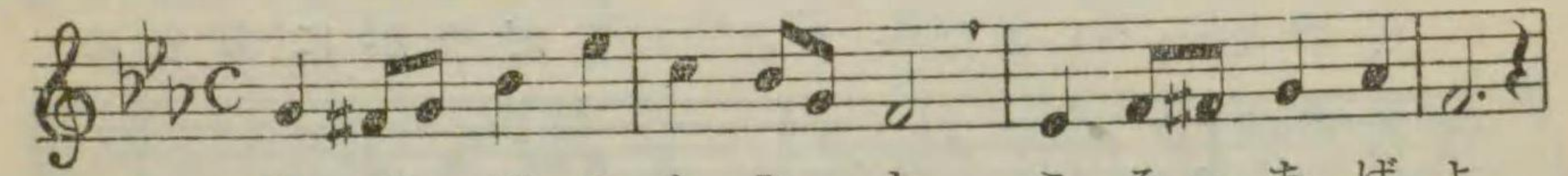
われら神を讃め
とこしへの父を
みつかひうたふ
セラフイムの歌
「せいなるせいなる
ちよるづの軍勢
あめつちに満つ
さけぶそのこゑ

主とぞ稱へ奉る
天地祝ぐなべに
ケルビムのうた
間なくひまなし
せいなるわが御神
率來たまふ我主
その御榮え」と
みそらに響む
榮譽ある聖者ら
證し人らこぞり
競ひ歌へば
御稜威かがやく
三つに御座せど
世を救ひの爲に
くるしみしのび
天にゆきたまふ

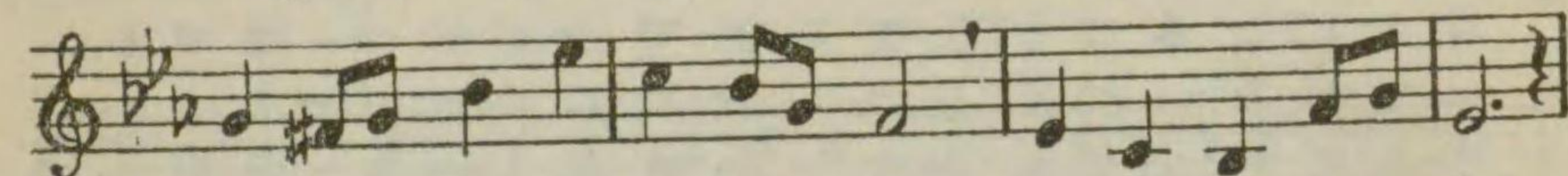
五

御門をばひらき
生るをば求めつ
主はまた來りて
世を審給ひなん
主よなが血もて
あがひしを受け
聖徒のむれに
入れたまへかし
主よ御民のため
み國の榮光をば
かぎりなく保ち
日にけに守ませ
われらはいのる
きみのあはれみ
主によるわれに
罪な賜ひそ

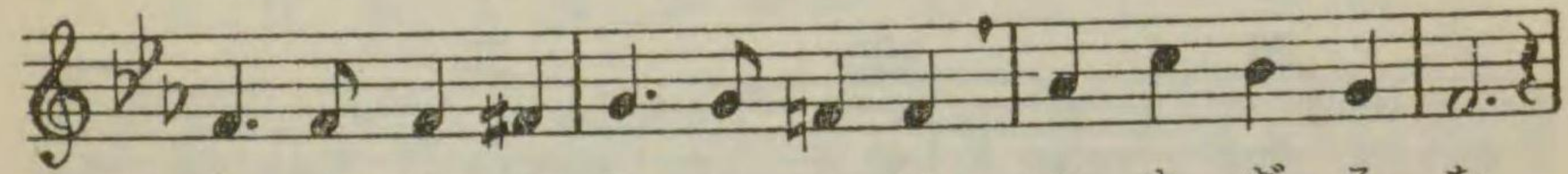
主に對する讚美



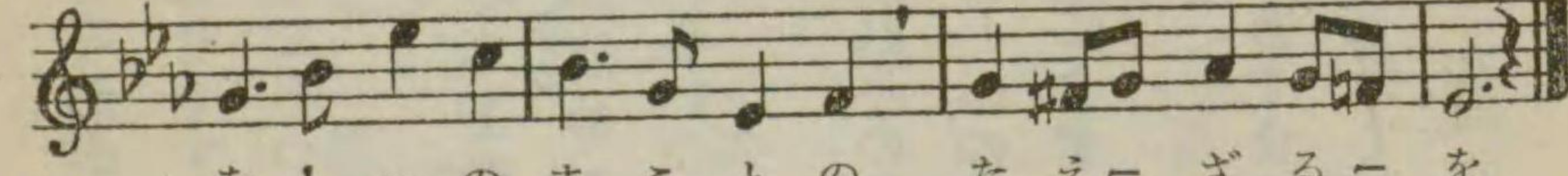
なべ - てのたみ - よ こゑ - あげよ



なべ - てのくに - よ うたへ - か - し



みかみのみいつのつきざるを



をしへのまことのたえざるを

二

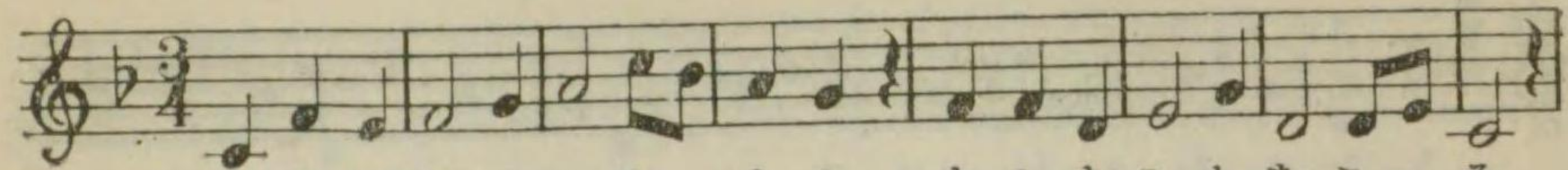
なべての民よ
こゑあげよ
なべての國よ
うたへかし
御神の稜威の
盡さざるを
教への眞理の
たえざるを
三位にいます
ひとりの主
とはのみ榮え
はじめに在し
今も後の世も
とこしへに

1. なみだのかわくひまなく うきよ
 のなげきしげし ただきみのみぞかは
 らぬ たのみにますぞうれし
 りかへし
 うつせみの はかなきよに は
 なげきよるかげもなし つみの
 ゆるしやいかで きみならでこひえめや

一 なみだのかわく隙なく
 うき世のなげきしげし
 ただ君のみぞかはらぬ
 たのみにますぞうれし
 (をりかへし)
 うつせみの儂き世には
 なげきよるかげもなし
 つみのゆるしやいかで
 きみならでこひ得めや
 み足のもとにうちふし
 おのがつみおもひ出で
 みあはれみを乞につつ
 いのるこころもかなし
 父のみいかりをなだめ
 身は十字架にかかりて
 罪の子をば召したまふ
 みいつくしみたふとし

1. 主こそわがほまれよ ひかりよたからよ
 2. いのちよよろこびよ ちからよたすけよ
 3. あはれみのみかみよ あめのみたすけに
 うましきやすらひよ たぐひなきともよ
 ながぐさめをこそ われはまぢのぞめ
 とこしへのさちこそ さだやかにあらめ
 まごころつくして めでつかへまつらん
 ながみいつくしみ なににかはたとへん
 あだにすぎしひの みゆるしをねがふ

一 主こそわが榮譽よ 光りよたからよ
 美しきやすらひよ たぐひなき友よ
 まごころつくして 愛で仕へ奉らん
 二 いのちよ歡喜よ ちからよ助けよ
 汝が慰めをこそ 我は待ちのぞめ
 ながみいつくしみ 何にかは譬へん
 三 あはれみの御神よ 天のみたすけに
 とこしへの幸こそ 定やかにあらめ
 徒空にすぎし日の み赦しをねがふ
 四 數多あやまちてし 罪のつぐのひを
 のこりなく果して み許にぞ歸らん
 燃えよ愛の火よ 恵みにこたへて
 (聖アウグスティノの言葉より)



1. あめにますみちーちよ きよきみなをこーそ
 2. あはれ主のみくーによ のぞみきたれかーし
 3. ゆるしませわがーつみ さわれひとにせーば
 4. みめぐみたらひーなば ところのすさみーに



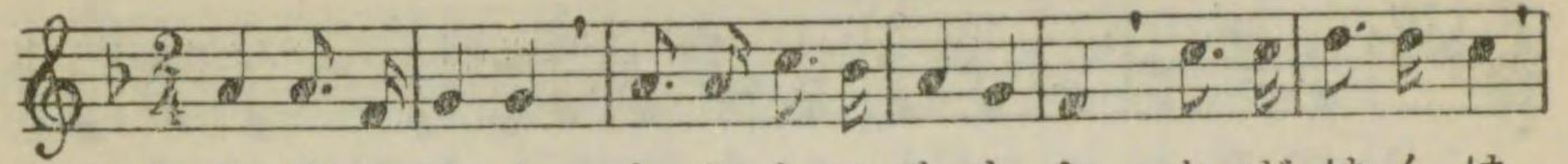
あめつちーしもーこーぞり あがめせさせたまーへ
 みむねよーなさーれーかし ちにもあめのごとーく
 めぐみたーまへーけふしも ひびのいのちのかーて
 ところみーやおーそーひなん あくよりすくひまーせ

一 天あめにますみちちよ きよき御名みなをこそ
 あめつちしも擧こぞり 崇あがめせさせたまへ

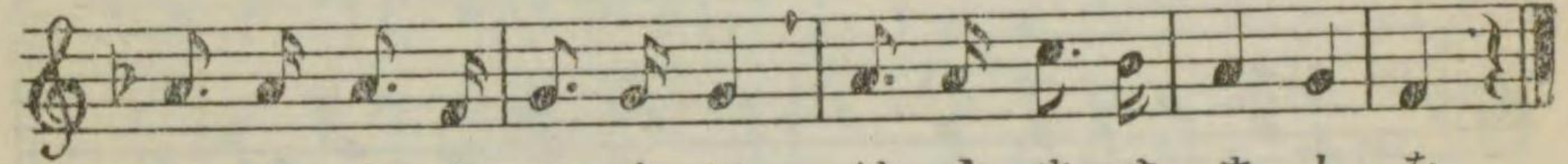
二 あはれ主しゆの御國みくによ のぞみ來きたれかし
 聖旨みむねよなされかし 地ちにも天あめのごとく

三 ゆるしませわが罪つみ 然さ吾われ他人ひとにせば
 恵めぐみ給たまへ今日けふしも 日ひ々のいのちの糧かて

四 み恵めぐみ足たらひなば ところの荒すさみに
 試こころみやおそひなん 惡あくよりすくひませ



1. あめにます われらのちちよ ねがはくは
 2. みくにきて みこころここに おこなはれ
 3. けふこのひ またもたまへや みとたまの
 4. そむきぬる つみゆるしませ われもまた



み ながめ つち に は え ま さ ま し を
 さ な が ら に し て あ ま つ く に み む て
 な く て ゴ た へ ぬ ひ び の わ が せ ば
 わ れ に お ひ ぬ る ひ と を ゆ る

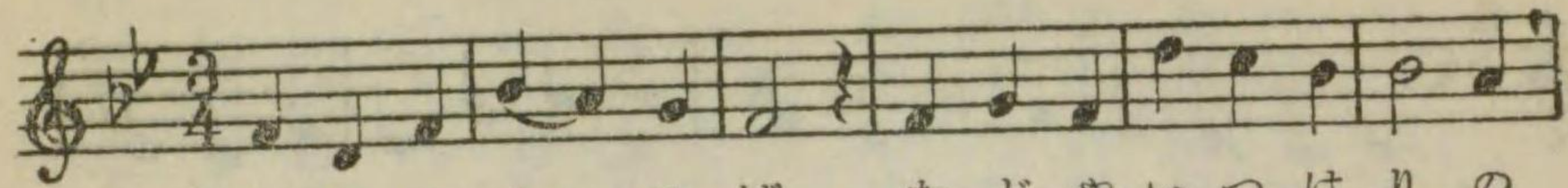
一 天あめにます 我等われらの父ちちよ 願ねがはくは
 御名みなあめつちに 映はえまさましを

二 御國みくに來きて 御心みこころここに 行おこなはれ
 さながらにして あまつくに見みむ

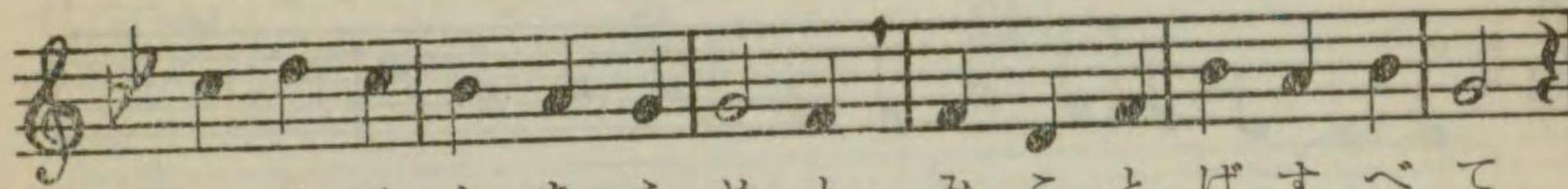
三 今日けふこの日ひ 又またも賜たまへや 身みと靈たまの
 なくてぞ堪たへぬ 日ひ々のわががて

四 背そむきぬる 罪つみ赦ゆるしませ 我われもまた
 われに負おひぬる ひとをゆるせば

五 世よにあれば 有ありの荒すさびに 誘さそはれて
 惡あくきに入りなん 主しゆよまもりませ



1. かみにま—せば 　　などやいつはりの
 2. みちかひ—こそ 　　つゆもたがはじと
 3. かみのあ—いに 　　ならへるわれらぞ



みさとしあらめとみことばすべて
 みあるじのたふととはのいのちの
 こころをつくしてかみをばあいし



われうたがはず　　うづなるひまきつるし
 すくひのぞみ　　きゆるともあいなせん

三

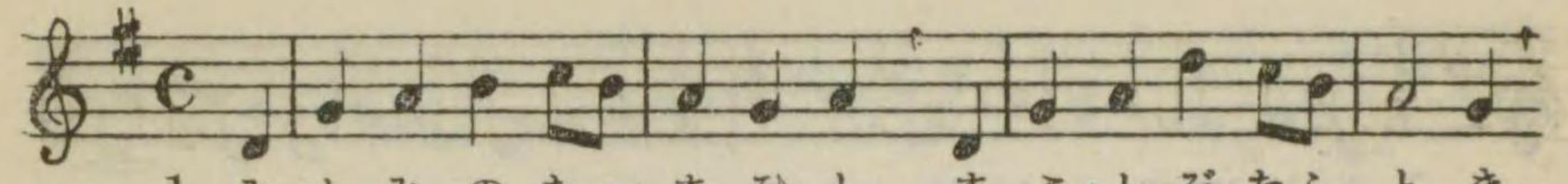
かみの愛に　　ならへる我等ぞ
 ころを盡して　　かみをばあいし
 わが身のごとく　　人をもあいせん

二

み誓ひこそ　　つゆも違はじと
 みあるじの賜ふ　　とはのいのちの
 すくひのぞみ　　消ゆるときなし

一

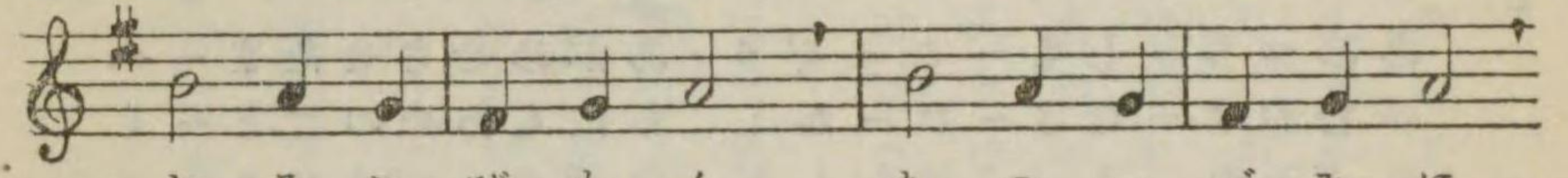
神にませば　　などや虚偽の
 み啓示あらめと　　みことばすべて
 われうたがはず　　うづなひまつる



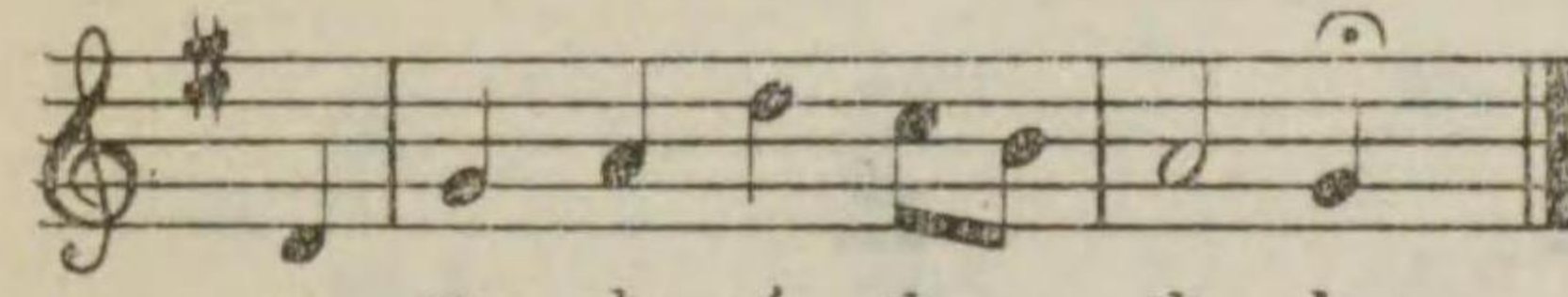
1. みかみのた—まひしまことぞたふとき
 2. みいつくし—みこそあふれにあ—ふれ



とはにかは—りなき　　みめぐみの—もと
 のぞみはか—がやく　　そのあけぼ—のよ



よるこびわく　　ちのいづみにて
 主のみちかひ　　おもひいでて



いのちくま—まし
 みそらをあ—ふぐ

三

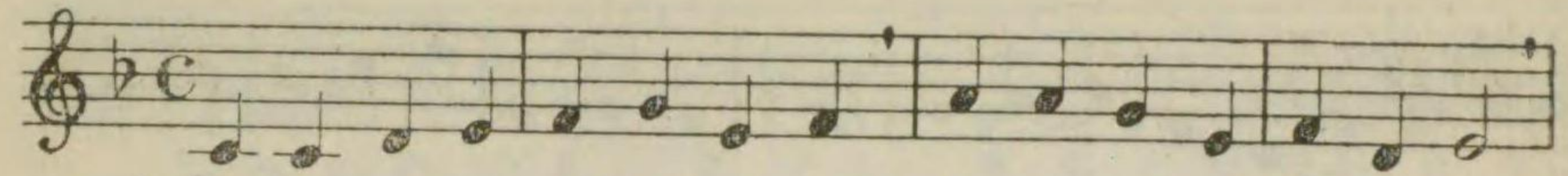
わがつくり主に　　ころを盡し
 世の人ことごと　　愛もて睦ぶ
 愛もて知る　　愛のくにに
 身をや捧げなん

二

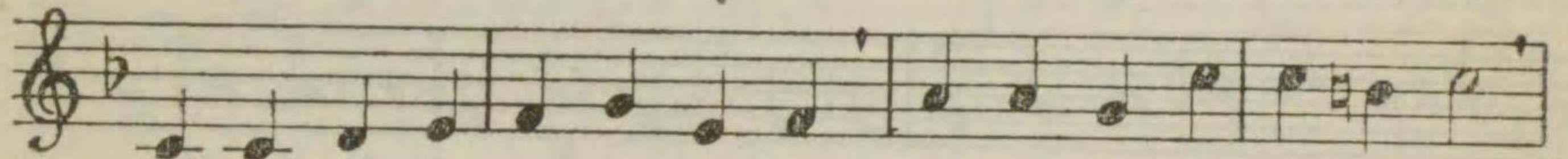
み愛くしみこそ　　溢れにあふれ
 希望はかがやく　　その曙よ
 主のみちかひ　　おもひ出でて
 みそらをあふぐ

一

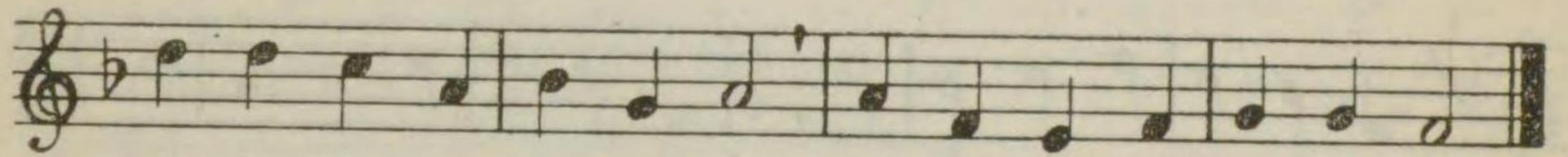
み神のたまひし　　眞理ぞ尊とき
 永久に變りなき　　み恵みのもと
 よるこび湧く　　智のいづみに
 いのち汲ままし



1. わがともよなべてかみにゆだねよ
 2. まがとさちいかにかみぞしりねすも
 3. かなしみなやみにかみはしづむと



みかみのまさみちゆくひとびとに
 あたふるもとるも主のあいなれ
 そこひはかりなきかみのあいなれ



さちはいはほのけなくをあらむ
 みにてにあみるみはけこのやすき
 なれをみちびけそこのよきと

一

わが友よなべて
 神にゆだねよ
 神のまさみち
 ゆく人々に
 幸福は巖の
 消なくをあらむ

二

禍福いかにか
 神ぞ知ります
 與ふるも取るも
 主の愛なれば
 み手にある身は
 とこ安らけし

三

かなしみ悩みに
 身はしづむとも
 底ひ量りなき
 神の愛こそ
 汝をみちびけ
 そのよき殿に

四

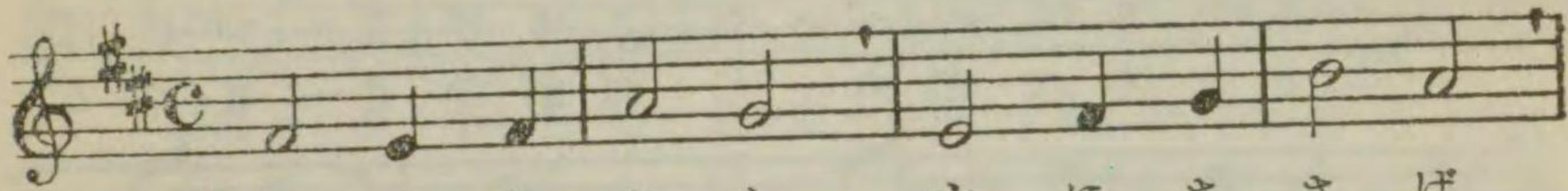
あらゆる苦しき
 道ゆきましし
 すくひの君こそ
 みちびきませば
 まかせつる身に
 おそれやはある

五

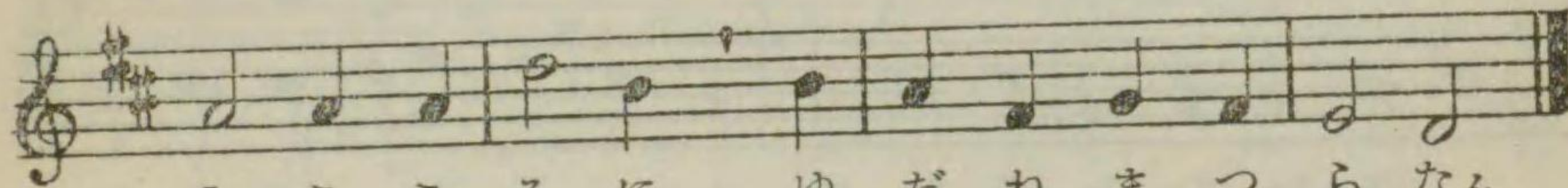
髪の毛のことごと
 かぞへたまへる
 主はわが隠れし
 よわき知れば
 なぞ善きたすけ
 わすれやおはす

六

神よたかぶれる
 われにむちうち
 祈りどころもて
 みはかりに倚り
 雄々しくきよく
 生かしめたまへ



1. みもたまも主にささげ
 2. よにあるもよをささるも
 3. あめにゆくそひま



みこころにゆだねまつらなん
 とこしへにみてにたまへ
 いときよくまもらせたまへ

一

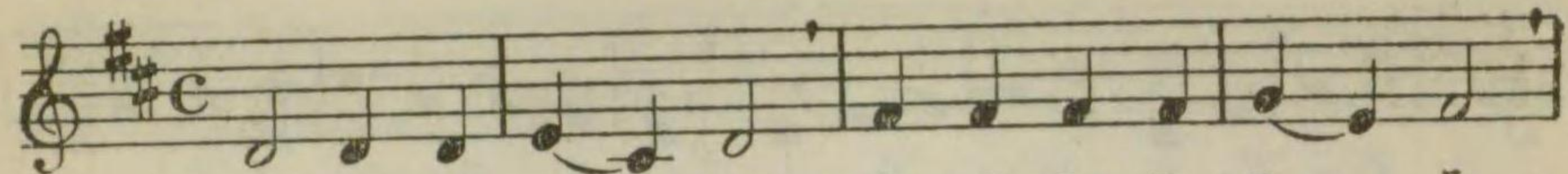
身もたまも
 主にささげ
 みこころに
 委ねまつらなん

二

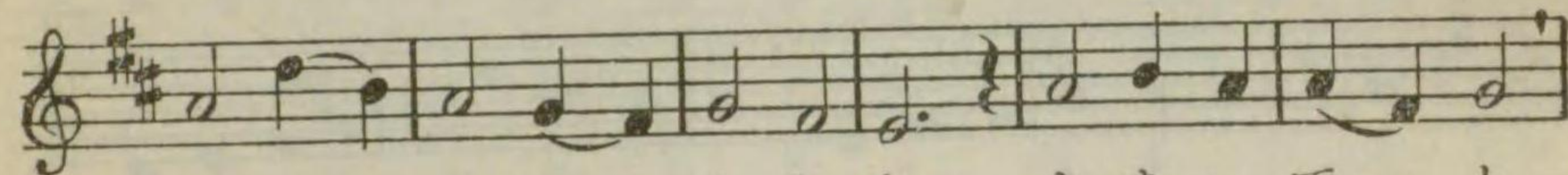
世にあるも
 世をさるも
 とこしへに
 御手に頼らなん

三

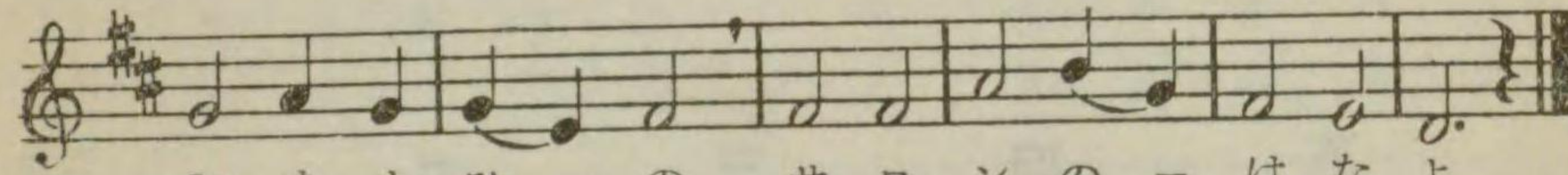
あめにゆく
 その日まで
 いときよく
 まもらせたまへ



1. うるはしーの主のみこころ
 2. カルメルーの森のこころ
 3. ヘルモンーのつゆとくだり

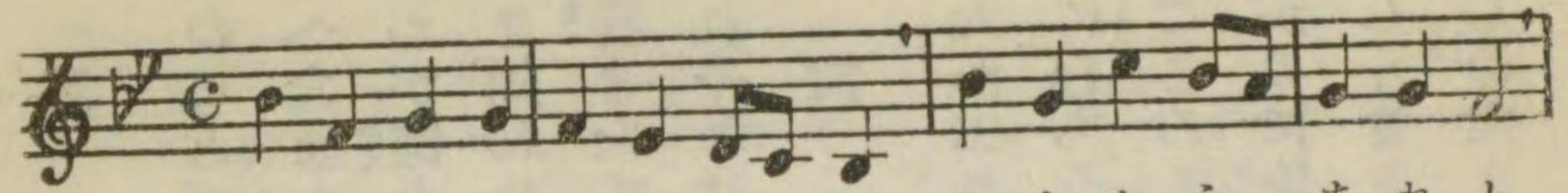


たとへしへーもなし さきいでし
 さへーづるなべに おもほゆる
 わがーようーるほす みこころーの

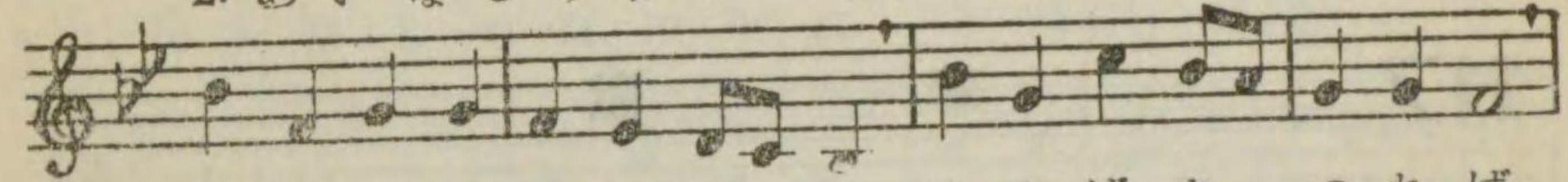


みちかひーのサロンのーはなよ
 いにしへーのみたみらーのうた
 あいのみーづさやにさーやけし

| | | |
|--|---|--|
| <p>三 ヘルモンの 露とくだり 我世うるほす みこころの あいのみづ さやに冴けし</p> | <p>二 カルメルの 森の<small>こ</small>とり 轉づるなべに 思ほゆる いにしへの み民<small>たみ</small>らのうた</p> | <p>一 うるはしの 主のみこころ 例しへもなし 咲きいでし みちかひの サロンの花<small>はな</small>よ</p> |
|--|---|--|



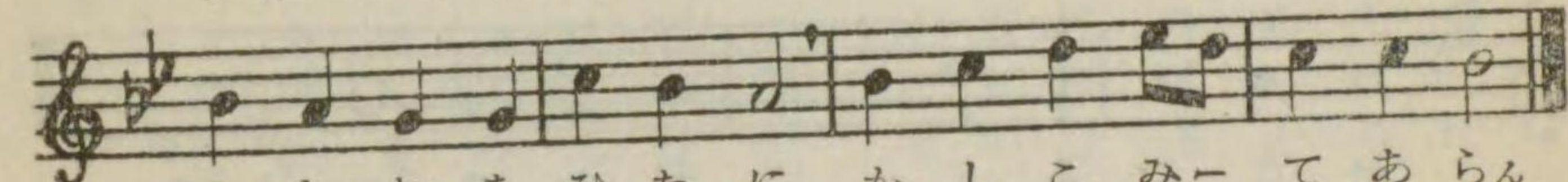
1. あめなるみかみーに みさかえーあれと
 2. あいなるみかみーよ ささぐるーいのり



みもたまもなべーて ささげまーつれば
 ことたらであれーどねがひさーさぐる



つとめといこひーの いづれのきはにーも
 うれしきかなしーき くさぐさのこころ



みむねをひたにかしこみーてあらん
 しのびあはれみきこしめーしませ

| | |
|---|---|
| <p>二 愛なるみかみよ ささぐる祈り 言足らであれど ねがひ捧ぐる 嬉しき悲しき くさぐさの心 しのびあはれみ 聞き召しませ</p> | <p>一 あめなるみ神に み榮えあれと 身も靈もなべて 捧げまつれば 務めと憩ひの 何れの際にも みむねをひたに 畏みてあらん</p> |
|---|---|

1. われをあいして わがために
2. あたびといかに たけくとも

みいのちたまふ いくしみ
主のてによりて われやかたん

などわすれめやおのがみも
わがよろこびとわがほまれ

かみのみため さいさげま
あめつちしらす 主に

一 われを愛して わがために
みいのちたまふ いくしみ
などわすれめやおのが身も
神のみために ささげまし

二 仇人いかに たけくとも
主の手によりて 我や勝たん
わがよろこびと わがほまれ
あめつち統らす 主にぞある

1. わがためじふじかに つきまししはたぞ
2. われは主をあいす ひねもすよすがら
3. わがためにぞ主は みさかえすてまし

みかみのひとりご 主イエズスキリスト
わするるひまなく われは主をあーいする
なやみくるしみて いきたえたまへ

一 わが爲十字架に つきまししは誰ぞ
み神のひとり子 主イエズス・キリスト

二 われは主を愛す ひねもす夜すがら
忘るるひまなく われは主を愛す

三 わが爲にぞ主は み榮え棄てまし
なやみ苦しみて 息絶えたまへる

四 ふかきその愛に 天をも陰府をも
忘れてひたぶる きみをのみ慕ふ

五 わが主わが神よ 我とはに愛せん
量りも知ら得ぬ み愛にこたへて

(聖フランシスコ・ザベリオの言葉より)

1. 1. ふりさけみればめもはるかに
2. きららほしかげてらすみれば

主のみひかりのてるおもほゆ
かなたにさちのまつおもほゆ

ちちのくにこそはえにはえと
くらきよはにものぞみあれと

くらきうきよもややにあか
すぎがてにするわれぞいのる

三 二 一

振放け見れば 眼もはるかに
主のみ光りの 照る思ほゆ
父の國こそ 映えに映えて
くらき憂世も ややに明し

きらら星かげ てらす見れば
かなたに幸の 待つ思ほゆ
暗き夜半にも のぞみあれと
過難てにする われぞいのる

うれひの狭霧 晴れてや見る
救ひの御子の 愛のみかほ
寂しむわれを 待ちたまひて
そなへし國に 君やむかへん

1. みこころにきよめられ
2. みくろしみにみしめられ
3. はげみたまわがたまを

みかからだにやしなはれ
みかかきぶずこのそわかこめはか
みちしろほにるこころもえ
あしきなものしりぞがきたて

みづみわきゆきたりのあ
みえこよかるしのみわしるいめ

四 三 二 一

みこころに きよめられ
みからだに やしなはれ
みちしほに こころ燃え
水み脇ゆ 来りあらふ

みくるしみ みしのびに
たかぶりの われを耻ぢ
こころなる 憂きすがた
消よかしと わがいのる

はげみたま わがたまを
みきすこそ かこめかし
悪しきもの しりぞきて
聖心のみ しろしめせ

とこしへの やすみ處は
主のみとの あなたたと
ひじり等の そのみくに
止む時なく 戀ひしたふ

(聖イグナチオの祈り)

1. よ き ま き も り の す く ひ ぬ し よ さ
 2. あ し た に は は む み ど り の く さ も
 3. よ し や し の た に さ ま よ ふ と も

み て に か は れ て の に い く と せ り
 み ゆ べ は い こ ふ み づ の か ほ と そ れ ん
 よ み の ま が ど と な ど か お そ れ

こ か ぜ す ず か ぜ に こ こ ろ し な ぐ さ ら む
 こ 主 き と み し ま も り せ ば し も し た ら し

四 めぐみの膏油 額にながれ
 わがさかづきは あふれあふる
 我やとこしへに 主の宮に住はん

三 よしや死の谷 さまよふとも
 陰府のまがごと などかおそれん
 君し守りせば 咎またうれし

二 あしたには食む みどりのくさ
 ゆふべは憩ふ みづのほとり
 主共にし在せば 乏しきを知らず

一 よき牧守の すくひぬしよ
 御手に飼はれて 野にいくとせ
 微風涼風に 心しなぐさむ

1. わ れ こ そ ひ と き の ぶ だ う の い の ち と
 2. み そ ら を か ざ し て か か れ る み ど り よ
 3. う ま し き み の り と か か れ る そ の ふ

の り ま す き み は も わ れ よ そ の え だ
 し げ り に し げ れ る え だ の み の り に
 い に し へ も い ま も か は ら ぬ い の ち

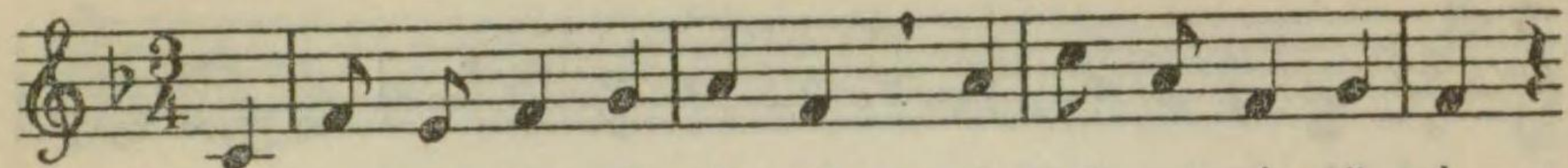
あ り や し な は れ て へ し や い く と せ
 こ り る ゆ く か ぎ て か み や め で ま す
 み か み に む す び て よ の う る い や

四 さあれ聖心を 枝のはなれせば
 生命もかれ木の 悲しくをあらん
 主よわが靈をば 切りな放ちそ

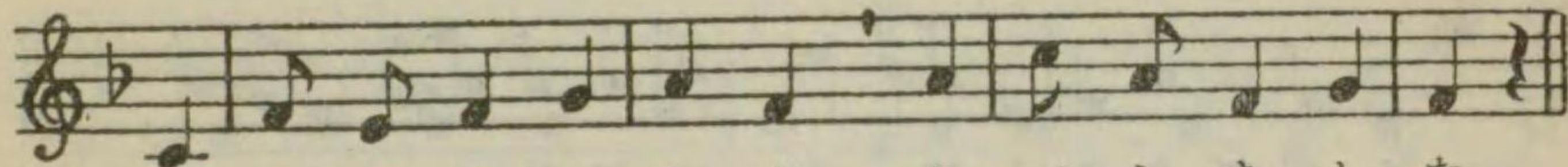
三 美しき結實と かかれるその房
 いにしへも今も かはらぬいのち
 み神にむすびて 世の飢いやす

二 み空をかざして 懸れるみどりよ
 しげりに繁れる えだのみのりに
 こころゆく限り 神や愛でます

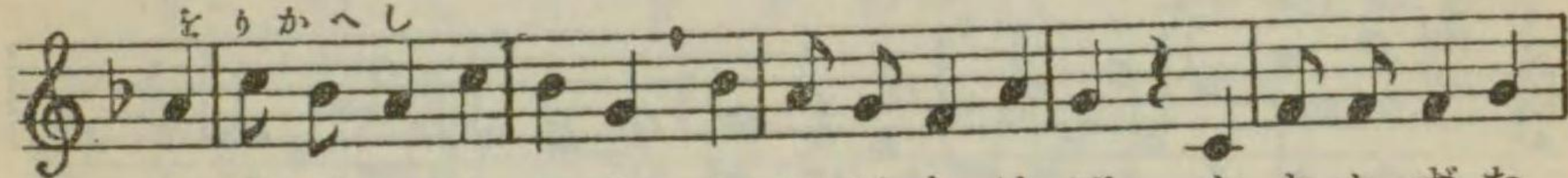
一 我こそひと樹の 葡萄のいのちと
 宣ります君はも われよその枝
 在り養なはれて 経しやいくとせ



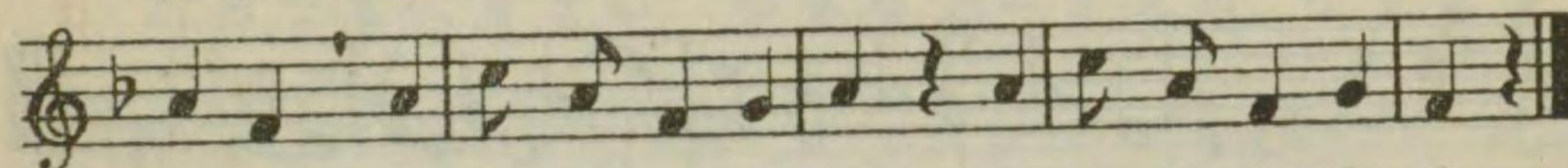
1. わがみわがたま たがつくりし
 2. こころすきみて あしきなさば
 3. よのよるこびを もとめなさば



わが主に つくす うべよきかな
 あいのむちをぞ あたへたまへ
 主のみいたでをしめしたまへ

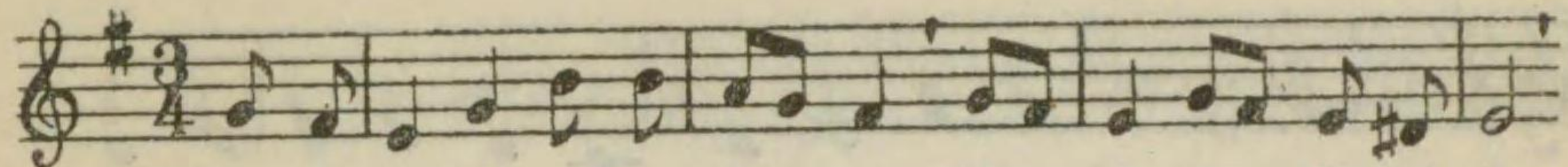


わがこころもえなみだわけば 主よかすな

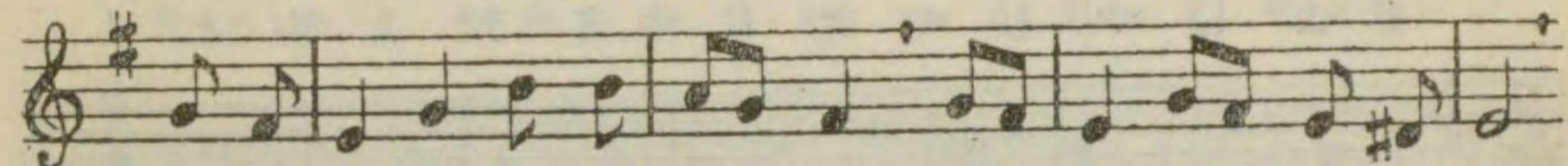


らぬみにしあれど かへりみませ

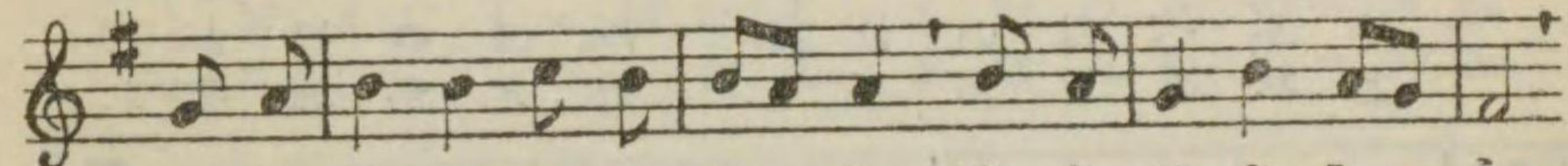
| | | | | |
|--|---------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------|--|
| 五 | 四 | 三 | 二 | 一 |
| 主のみさかえを むくいもとめす 善きをなして 仰ぎゆかなん | 主よ汝が贖ひ ひとのよわきを かなしみせば しめしたまへ | 世のよろこびを 主の御痛手を しめしたまへ | 愛の鞭をぞ こころすきみて あたへたまへ 悪しきなさば | わが身わがたま わが主につくす うべ善きかな 誰がつくりし |
| | | | | (をりかへし) |
| | | | | 我がこころ燃え 主よ數ならぬ 身にしあれど なみだ湧けば |



1. みそらにきこゆる うれしきこゑ
 2. おもにをおろして われにこよと



わがなをよびてぞ まねかせたまふ
 いこひのみぎはに主はまちたまふ

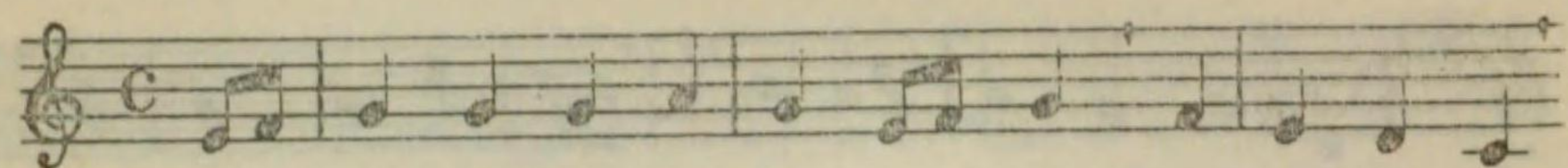


いざわがともどち ゆきてまみえん
 かるき主のくびき ころよけく

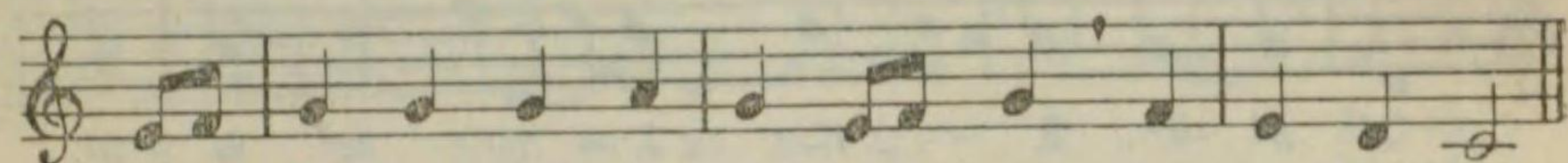


われらのかひぬし すくひのきみ
 いまはおひつゆかん みくにのたび

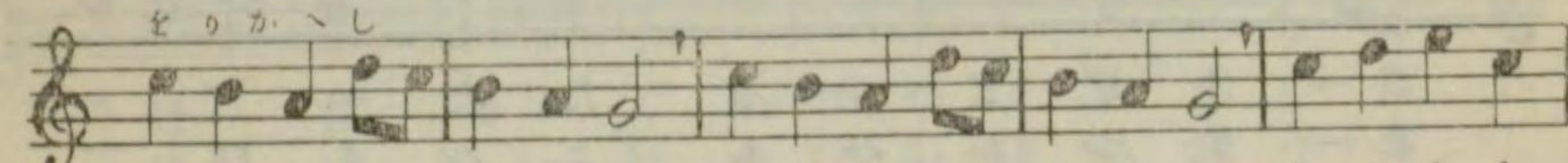
| | |
|-------------------|-------------------|
| 二 | 一 |
| 重荷をおろして われに來よと | みそらに聞ゆる うれしきこゑ |
| いこひの水際に 主は待たまふ | 我名を呼びてぞ 招かせたまふ |
| かるき主の鞭 ころよけく | いざわが友どち ゆきて見えん |
| 今は負つ行かん みくにのたび | われらの牧者 すくひのきみ |



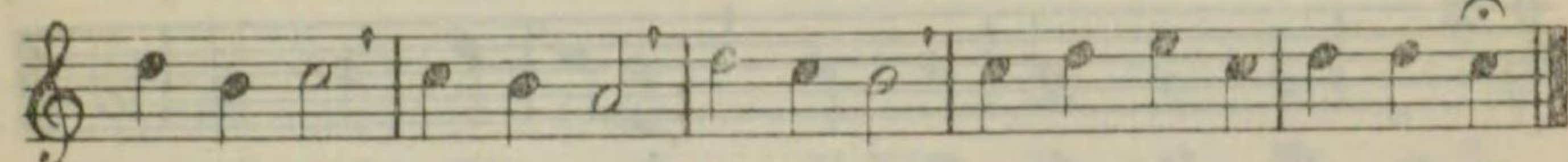
1. あなめでたきかな 主のはは
 2. けがれなきみはは われらを
 3. きみばらのはなと かをりて



かみのみめぐみぞ あふるる
 みくにむかへて まもらへ
 うつしよをまねく さきはへ

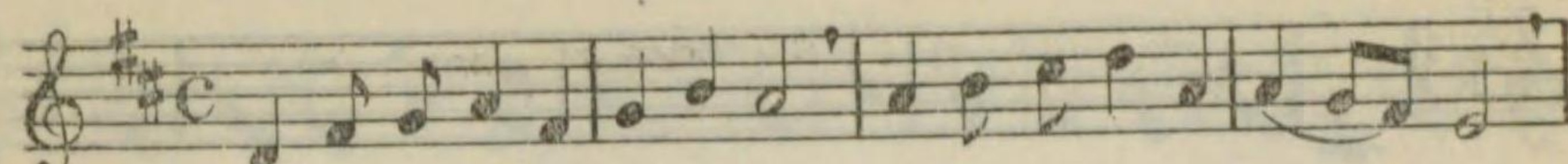


あめなるきさい つきせぬさちの うましき

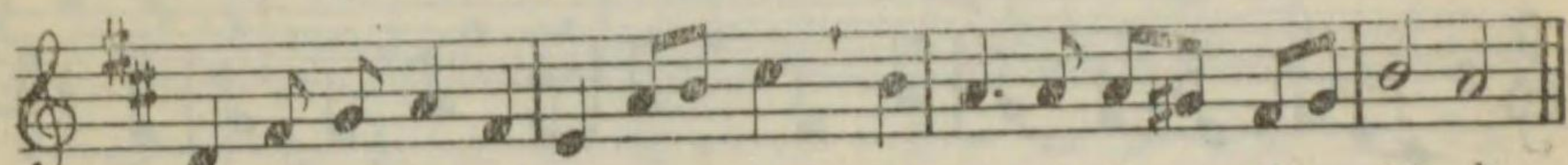


いづみあめのくにとはのよるこび

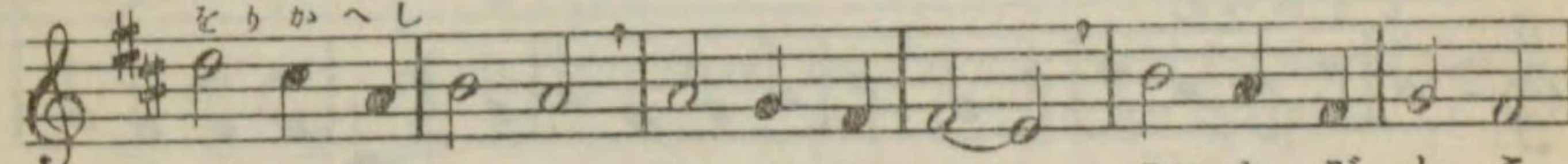
四 嬉しき御名をば 稱へなん
 三 きみ薔薇の花と かをりて
 二 けがれなき聖母 われらを
 一 あな慶たきかな 主の聖母
 神のみめぐみぞ あふるる
 (をりかへし)
 あめなる后 つきせぬ幸の
 美しき泉 天の 聖國の
 不斷の歡喜



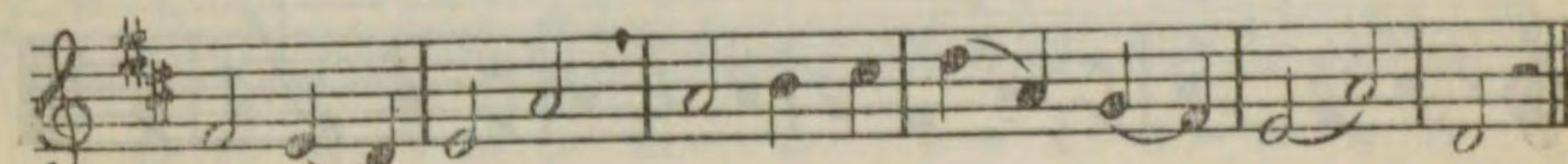
1. あめつちをつくり しろしめすかーみ
 2. まつろはぬやある みなきみのたーみ
 3. いざやわれまたく みをうちすてーて



かがやきのくにを はじめたまひき
 あいのみつるぎよ たましひをさせ
 ぎのみはたかざし たたかひにい

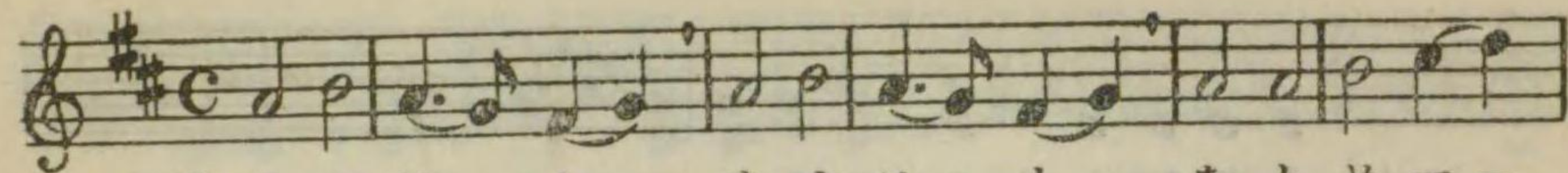


主なるきみ おほぎみみよぞとこ

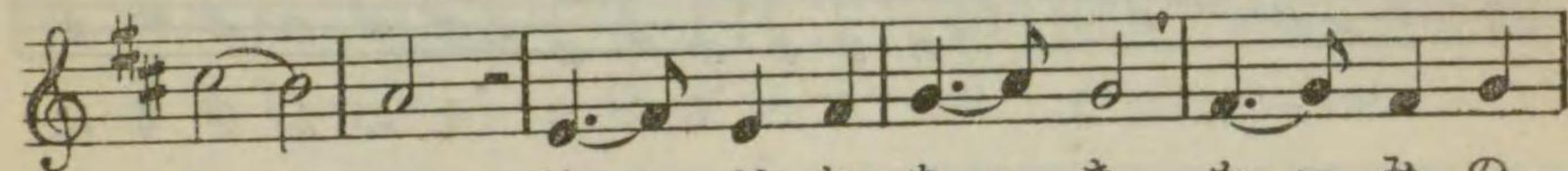


しなへに いやさかえかし

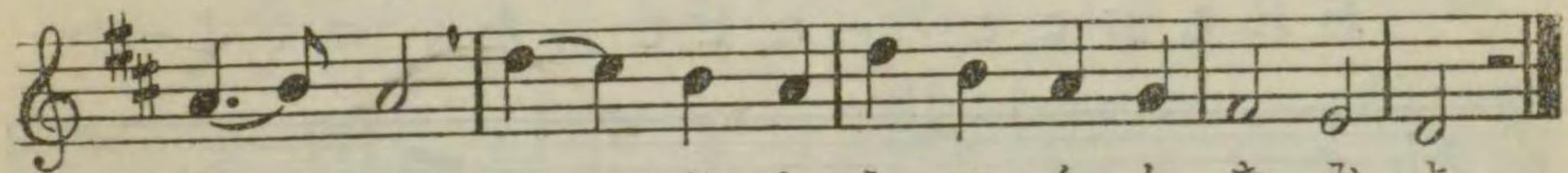
四 聖靈のみつるぎ 友よ執り持て
 三 いざやわれ全く 身を打棄てて
 二 服はぬやある みな君の民
 一 愛のみつるぎよ 靈魂を刺せ
 主なる君 大君
 御代ぞ永遠に いや榮えかし
 (をりかへし)
 あめつちを造り 知らしめす神
 かがやきの國を 肇めたまひき



1. うるはしきよけしをとめマ
 2. なげきとかなしみいまはき
 3. みこころづくしのよはあけ

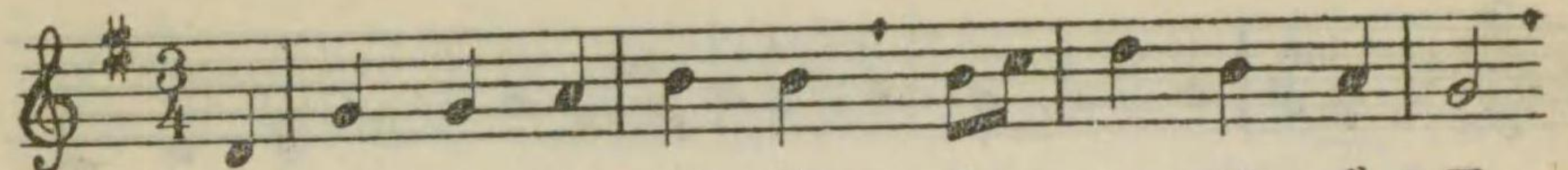


リアけがれなきかみのゆ
 えてつみのやみさきりゆ
 ゆきみこはいきよみは

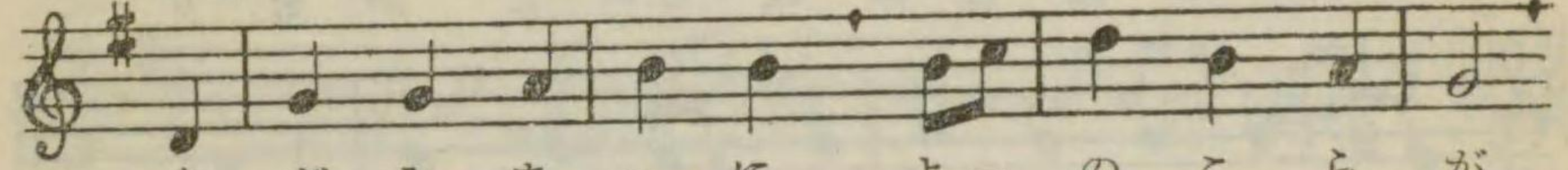


ははめぐしうつかくしきみよく
 けはばとほのひかつりかしがみやは
 うせおもわうつくしみは

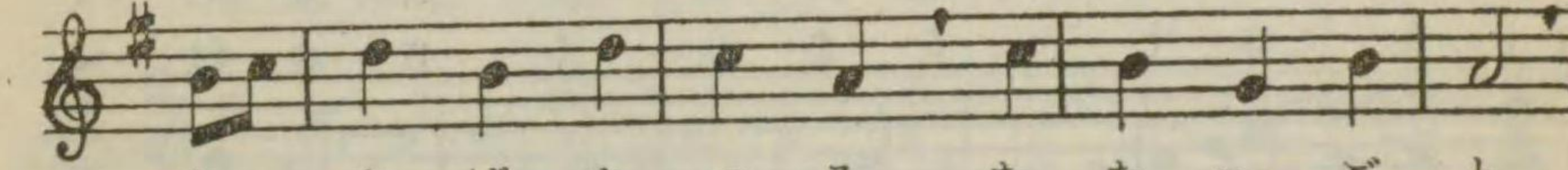
| | | | |
|------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 四 | 三 | 二 | 一 |
| 主の聖母執り成せば 神の恵み繁し | 御子は活き 陰府は失せ 面影美し聖母 | 罪のやみ 去りゆけば 永久の光輝く | けがれなき かみの母 愛し美し君よ |
| なぐさめ たのしみ 充ちあふれよ | みこころ 盡くしの 夜は明けゆき | なげきと かなしみ いまは消えて | うるはし きよけし をとめマリア |



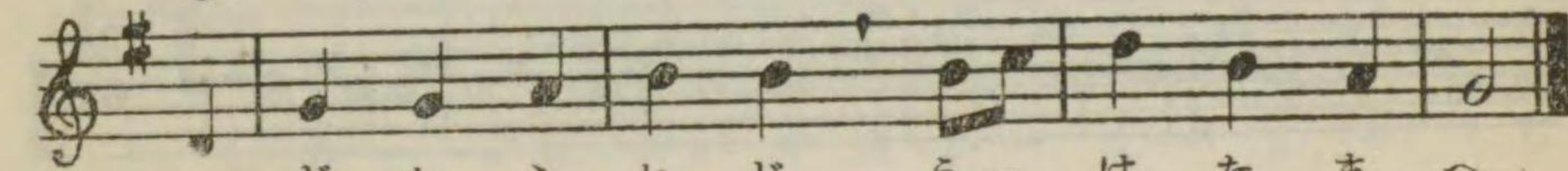
1. あまつみははせいマリ
 2. まごころもてみどり
 3. みこイエズス
 みもたま



ながみまたへによのこらが
 おほしまたへしよのつくらし
 そだちませば主にめされ



ささげまつるたたるへどと
 あまがさきみもしよみやはばし
 かながさきみもしよみやはばし



かた
 ずふ
 なたも
 らきの
 ねなち
 どをも
 うたさ
 けまか
 たひえ
 まけゆ
 へりく

| | | | |
|-------------------------|-------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 四 | 三 | 二 | 一 |
| あまつくに 神のみむね あまつくに | わが身と きみにならひ 神のみむね | 御子イエズス そだちませば 汝がささげし いまものちも | あまつみはは 汝がみまへに ささげまつる かすならねど |
| 昇りゆかん おこなひて | いまささげ いやふかく おこなひて | 身も靈も 主に召され 宮に召され さかえゆく | 聖マリア 世の子等が たたへ言 うけたまへ |
| | | みどり兒を いつくしみ よろこびて たまひけり | |

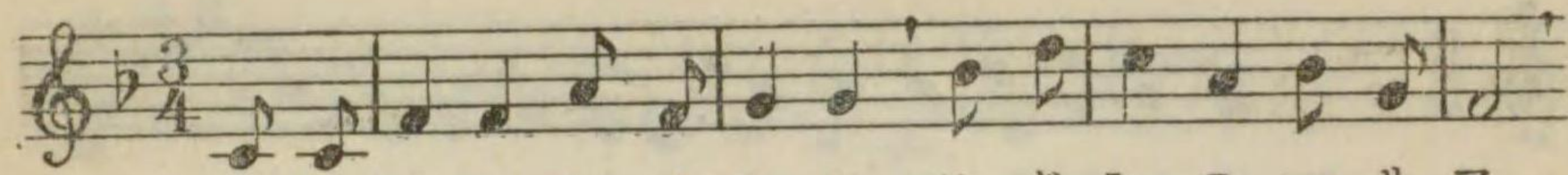
アンナのーみこ はしきーひめ かぐはーしく
 さきいーでし にはのーべの ゆりのーはな
 いーろもかーも かむさーびーて きよけーくも
 みえにーけり たがうゑーし みさをかーも
 いやたーかく みおもーひの あまかけーる
 あまをとーめ かみのーはは たたへーまし

アンナの御子はしき姫
 かぐはしく 咲き出し
 庭の邊の百合の花
 色も香も 神さびて
 きよけくも 見にけり
 誰が植ゑし 操かも
 いやたかく み思ひの
 あま翔ける 天をとめ
 かみの母 讃へまし

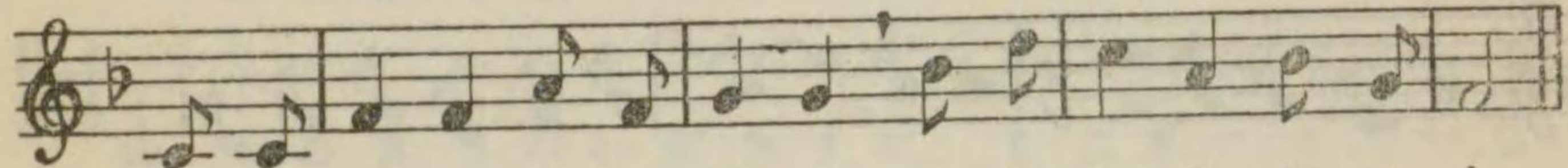
うるはしくも さきいでにしとげなきばら
 のーはなよ たぐひもなき そのかをりに
 われらがこころーなごむ みいつくしーみ
 みちあふるーる もろびーとのはー
 はマリア ときはにたたへまつる

一
 うるはしくも 咲きいでにし
 とげなき薔薇のはなよ
 たぐひもなき そのかをりに
 われらがこころ和む
 みいつくしみ みちあふるる
 もろびとののははマリア
 ときはにたたへまつる

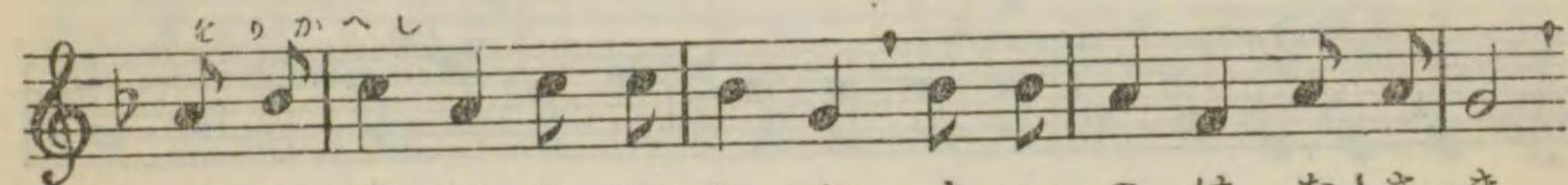
二
 みちのほとり みどりさはに
 かざせるそのときは木
 あへぎあへぐ わがたび路の
 やすらひのすずかけよ
 みははマリア 汝がまもりに
 憂さ晴れころいさみ
 ふるさと指してぞゆく



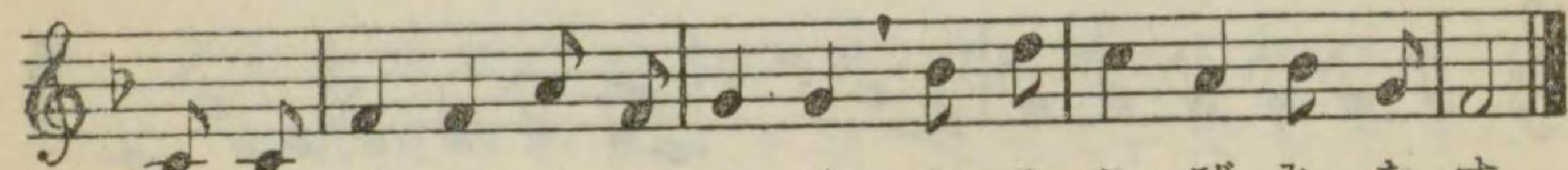
1. われらははなるめぐみのマリア
2. みこはものろひのきにあげられつ



みもとにむつびてはらからたのし
みはははつるぎをしのびたまへば



なみだのたににもあいのはな^りさき



かをりもゆかしくよろこびみたす

四

めでたし恵み みち満てる母
いまはの際にも いのりぞ賜はん

三

かなしき憂世の 悪しきは去りて
かちうた祝ぎ歌 間なくひまなし

二

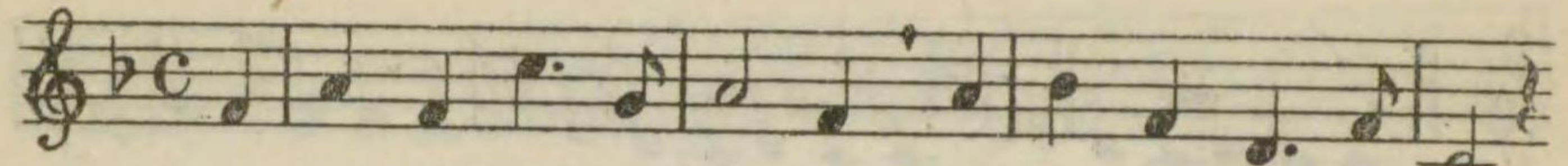
御子はも呪ひの 木にあげられつ
み母はつるぎを しのびたまへば

(をりかへし)

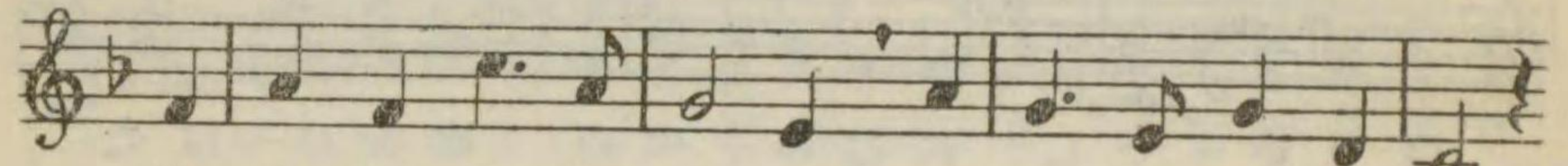
なみだの谷にも 愛のはな咲き
香りもゆかしく よろこび充たす

一

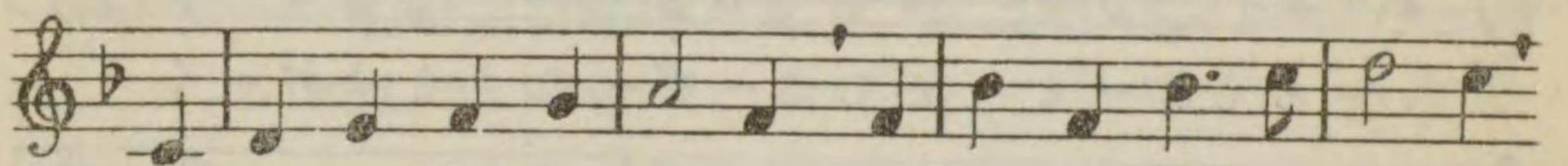
われらの母なる めぐみのマリア
み許にむつびて はらからたのし



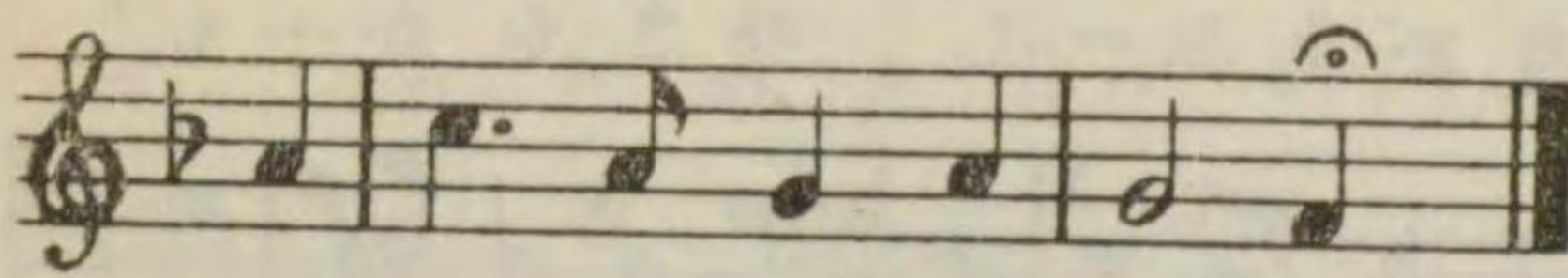
1. たかくたふとくゆりはかをる
2. イエッセのめばえのときしきたり



みさをただしきながはなかも
みづきうれしきみどりなしぬ



きよきをとめよそのかぐはしさ
ときはのいろにわがこころをも



われにとめませ
かみよそめませ

一

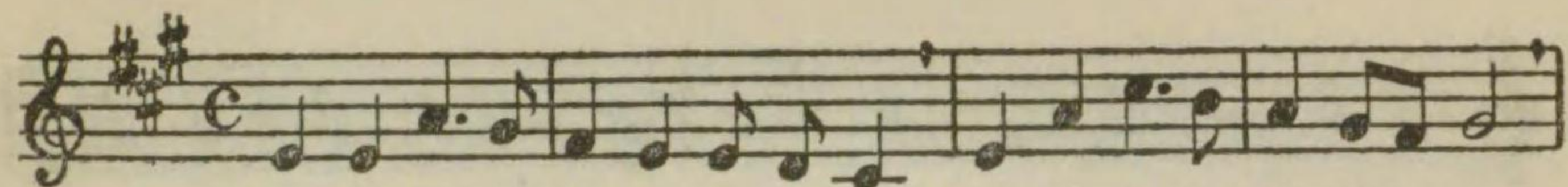
たかくたふとく 百合は薫る
みさをただしき 汝が花かも
きよきをとめよ その芳しさ
われに留めませ

二

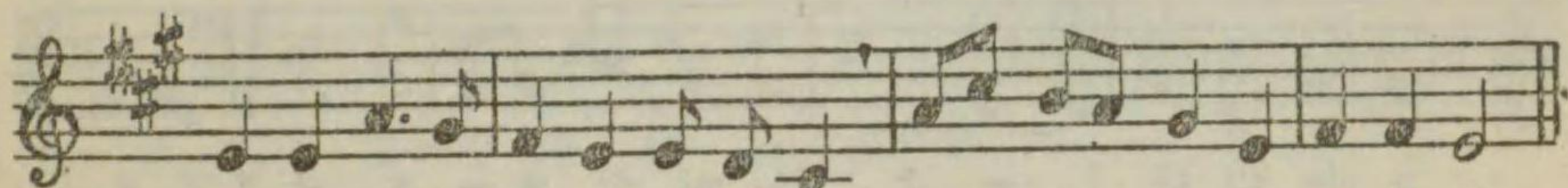
イエッセの芽生の 時し來たり
稚木うれしき 緑なしぬ
ときはの色に わが心をも
神よ染めませ

三

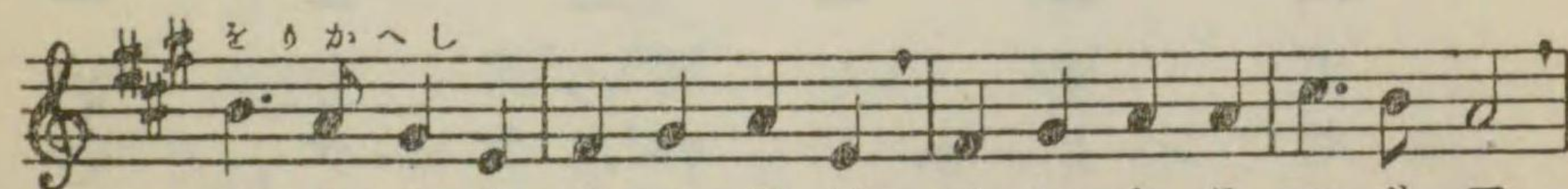
御子を呪ひの 木に送りつ
おのがみむねに 双受けし
みははのしのび わが心にも
主よ印しませ



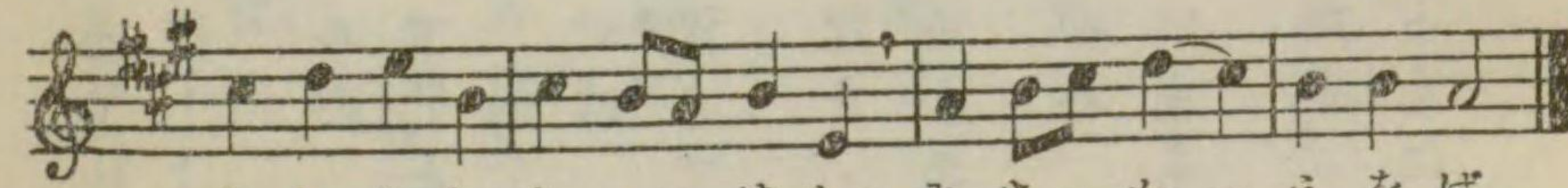
1. いとたかきみははよ くすしきばらーよ
 2. わがたまのよろこび みははマリアーよ
 3. たぐひなくめでたき かみのみははーよ
 4. あまぢのわがたすけ きよきマリアーよ



エワはきよめられぬ おんみによりて
 よはよみがへりきて みこのなにいる
 をみなのはたかみ きみによりきぬ
 われらのいのりをばとりにしたまへ



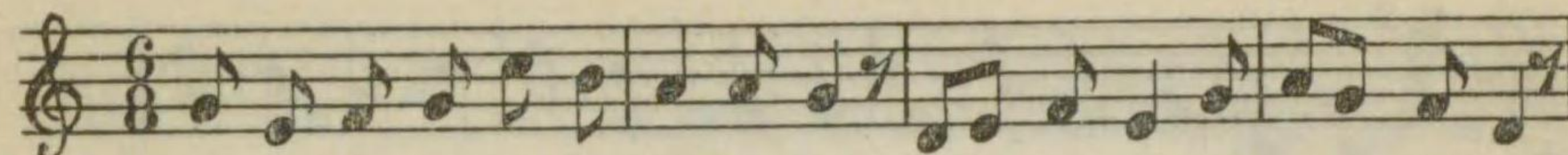
あまねきよのははせいなるマリア



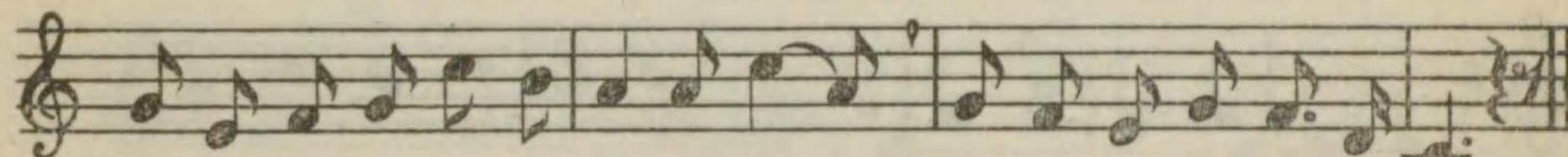
われらたたへゆかんみさかえをば

歌詞は前頁に同じ

(但し「をりかへし」の最初の一句のみ相違)

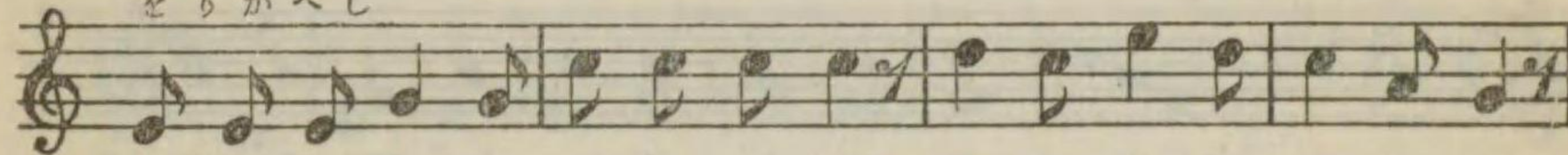


1. いとたかきみははよ くすしきばらよ
 2. わがたまのよろこび みははマリアよ

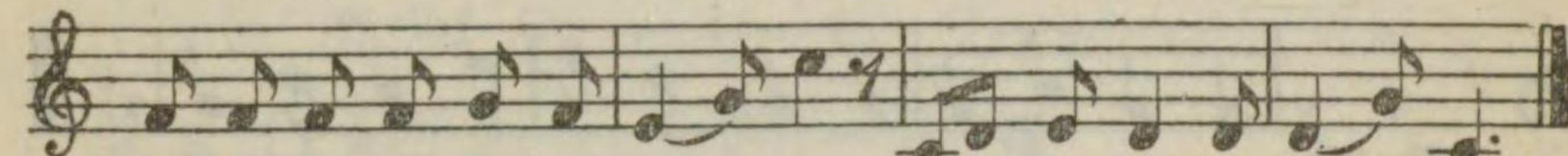


エワはきよめられぬ おんみによりて
 よはよみがへりきて みこのなにいる

をりかへし

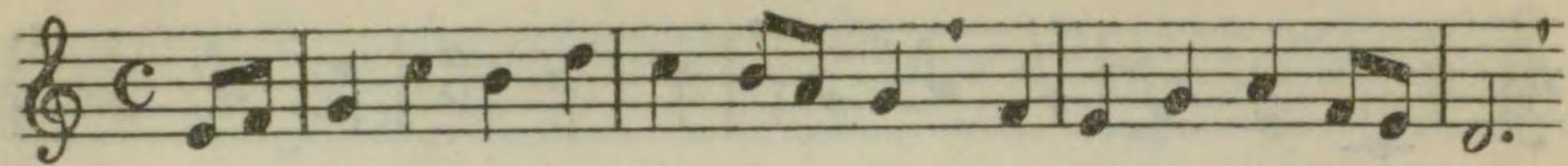


あまねきよのみははせいなるマリア

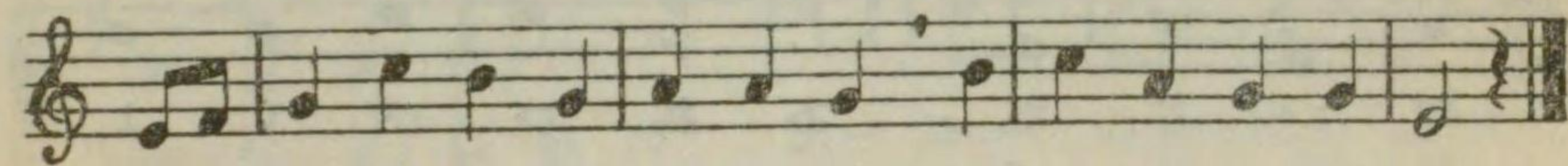


われらたたへゆかんみさかえをば

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 四 | 三 | 二 | 一 |
| われらの祈りをば | 女の名はたかみ | 世は甦へり来て | いとたかき聖母よ |
| 天路のわがたすけ | たぐひなく慶たき | わが靈のよろこび | エワは浄められぬ |
| われらの祈りをば | 女の名はたかみ | 世は甦へり来て | (をりかへし) |
| 執り成したまへ | きみに倚り來ぬ | 御子の名に入る | あまねき世の聖母 |
| きよきマリアよ | 神のみははよ | みははマリアよ | われら稱へゆかん |
| | | | みさかえをば |
| | | | 聖なるマリア |
| | | | 御身によりて |
| | | | くすしき薔薇よ |

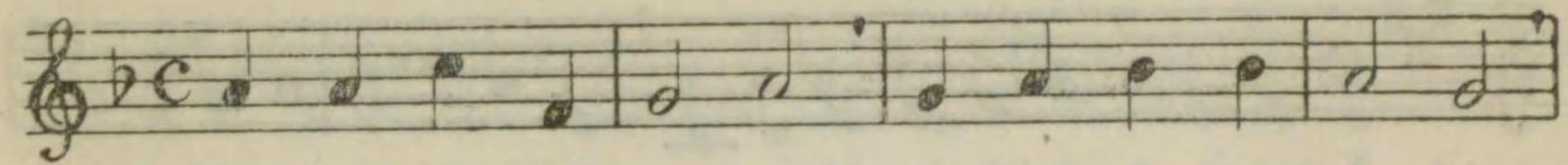


1. さーきぐるうたこーそまづしくあーれ
 2. みーここそきたりーてサタンをうーち
 3. みーかどはひらけーてみくにきたーり
 4. みーかみのみのりーにみははとなーり

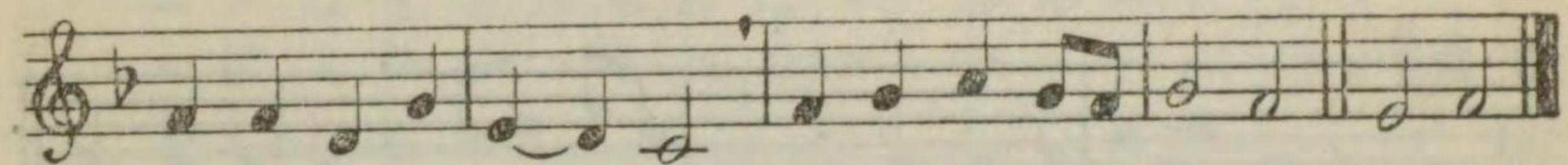


こーころぞみははにそなくへまつる
 かーしらをくだきてすなくひとげぬ
 うーせにしみめぐみまたもえたり
 みーこをはぐくみしきみたふとし

| | | | | |
|--------------------------------------|--|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------------|
| | 四 | 三 | 二 | 一 |
| み子 ^こ を育 ^{はぐ} くみし | み神 ^{かみ} の御 ^み 宣 ^{のり} に | 失 ^う せにしみ恵 ^{めぐ} み | み子 ^こ こそ來 ^{きた} りて | ささぐる歌 ^{うた} こそ |
| きみたふとし | みははとなり | またも得 ^え たり | サタンを打 ^う ち | まづしくあれ |
| | | みくに來 ^き たり | すくひ遂 ^と げぬ | そなへまつる |



1. めでたきかなかみのみはは
 2. ガブリエルのみつげにより
 3. つみのかせはうちくだかれ
 4. たぐひもなきへいわのみち

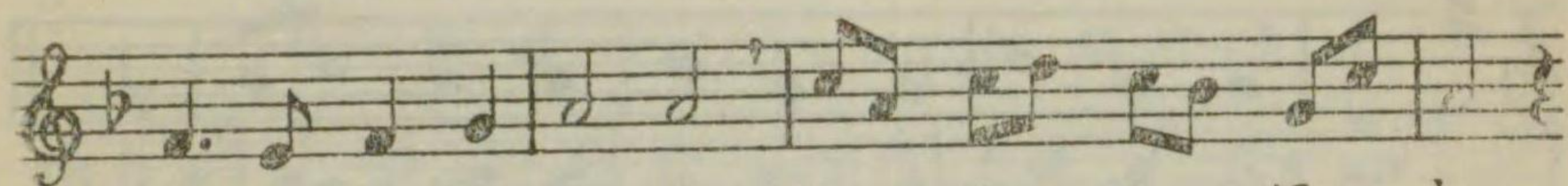


うみのほしーよかがやきーませ(アメン)
 エワはアヴエーとさきははーれぬ
 やみはきえーてひかりいーでぬ
 かをりさかーえこころなーどむ

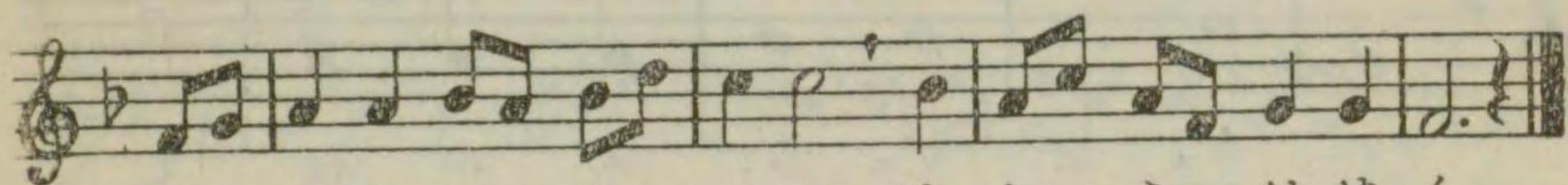
| | | | | | | |
|-----------------------|----------------------|--------|-----------------------|----------------------|-----------------------|--------|
| | 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 |
| みははとも | み子 ^こ をいまも | きよきあゆみ | たぐひもなき | つみのかせは | ガブリエルの | めでたきかな |
| われら歌 ^{うた} はん | みさかえあれ | のこししきみ | かをりさかえ | やみは消 ^き えて | エワはアヴエ ^エ と | うみのほしよ |
| アメン | | しめしたまへ | 平和 ^{へいわ} のみち | うちくだかれ | み告 ^つ げにより | かみのみはは |
| | | | こころなごむ | ひかり出 ^い でぬ | さきははれぬ | かがやきませ |



1. そらのかなた まーさーやーけーく
 2. あしたゆかば あーけーのーほーし
 3. こどしきいは かーくーれーいーは



ふなぢしめす うーみーのーほーし
 ゆふべゆかば うーみーのーほーし
 たゆたふふね みーづーさーきーに

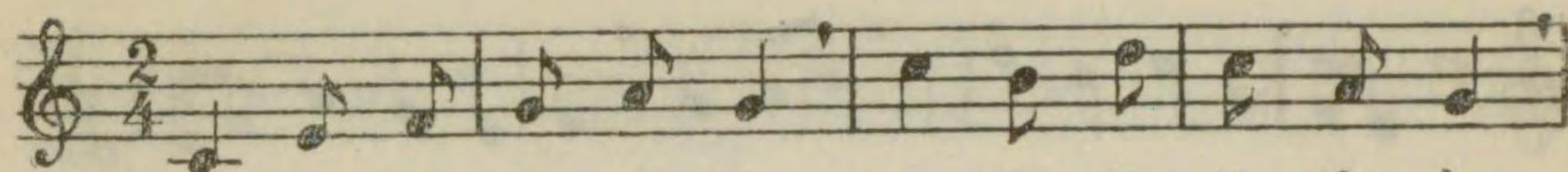


なーみをけーたーてて われーらーはゆく
 こーぐにどーりーえの みちーもーなほし
 なーみにうーつーらふ のぞーみーのほし

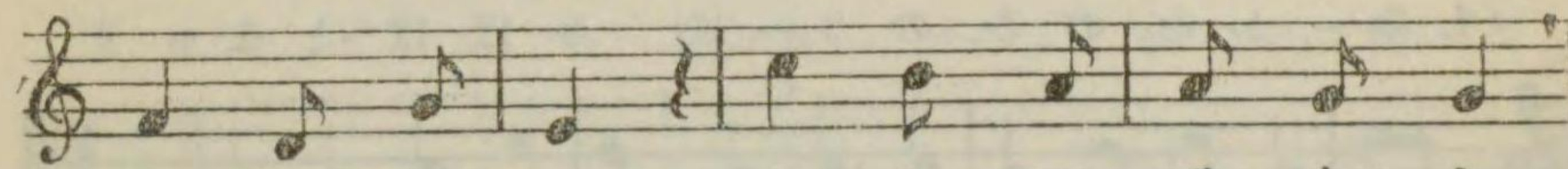
一 そらのかなた まさやけく
 ふな路しめす うみのほし
 波をけたてて 我等はゆく

二 あしたゆかば あけのほし
 ゆふべゆかば うみのほし
 漕ぐ濁り江の 道もなほし

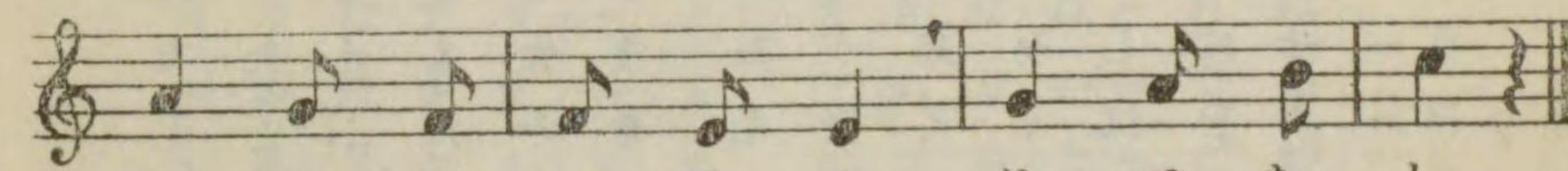
三 峻しき岩 かくれ礁
 たゆたふ舟 みづさきに
 波にうつらふ のぞみの星



1. かのをかこえ このかはゆき
 2. くものうへに みははマリア
 3. アヴェーマリア いまもいつも



おつげが あれひびくよ
 みみをば かたむけまし
 われらの よわきこころ



みははマリア めでたりし
 ききやおはす いのりを
 まもりたまへ アヴェアヴェ

一 彼の丘こえ この川ゆき
 お告げが あれひびくよ
 「聖母マリア めでたし」

二 雲のうへに みははマリア
 耳をば かたむけまし
 ききやおはす いのりを

三 アヴェマリア いまもいつも
 われらの よわきこころ
 まもりたまへ アヴェアヴェ

をりかへし

ああなつかしーき みはーはマリア

うーみのほしーとかがやきませ

1. よもかきくらしつばーさをなみ
 2. ただよふをぶねなみーをまーくらば
 3. ところくもりてやすーきさーらば

われーやいづーこ とびーゆくーみぞ
 わみちーびくきーこみかへーりみーませは
 などーわがたーま いくーべしーやは

- (をりかへし)
- 一 四面よもかき暗くらし つばさを無なみ
 - 二 ただよふ小舟せぶね なみをまくら
 - 三 みちびくきみ かへりみませ
 - 四 ところ雲くもりて やすき去さらば
 - 五 など我がたま 生いくべしやは
 - 六 やよ浮うき雲ぐもよ ところあらば
 - 七 わが舟路ふなぢに 君きみな隠かくし

1. あめのかどきみはのほーり
 2. みつかひもひかりそへーて
 3. やみびとをなぐさめまーし

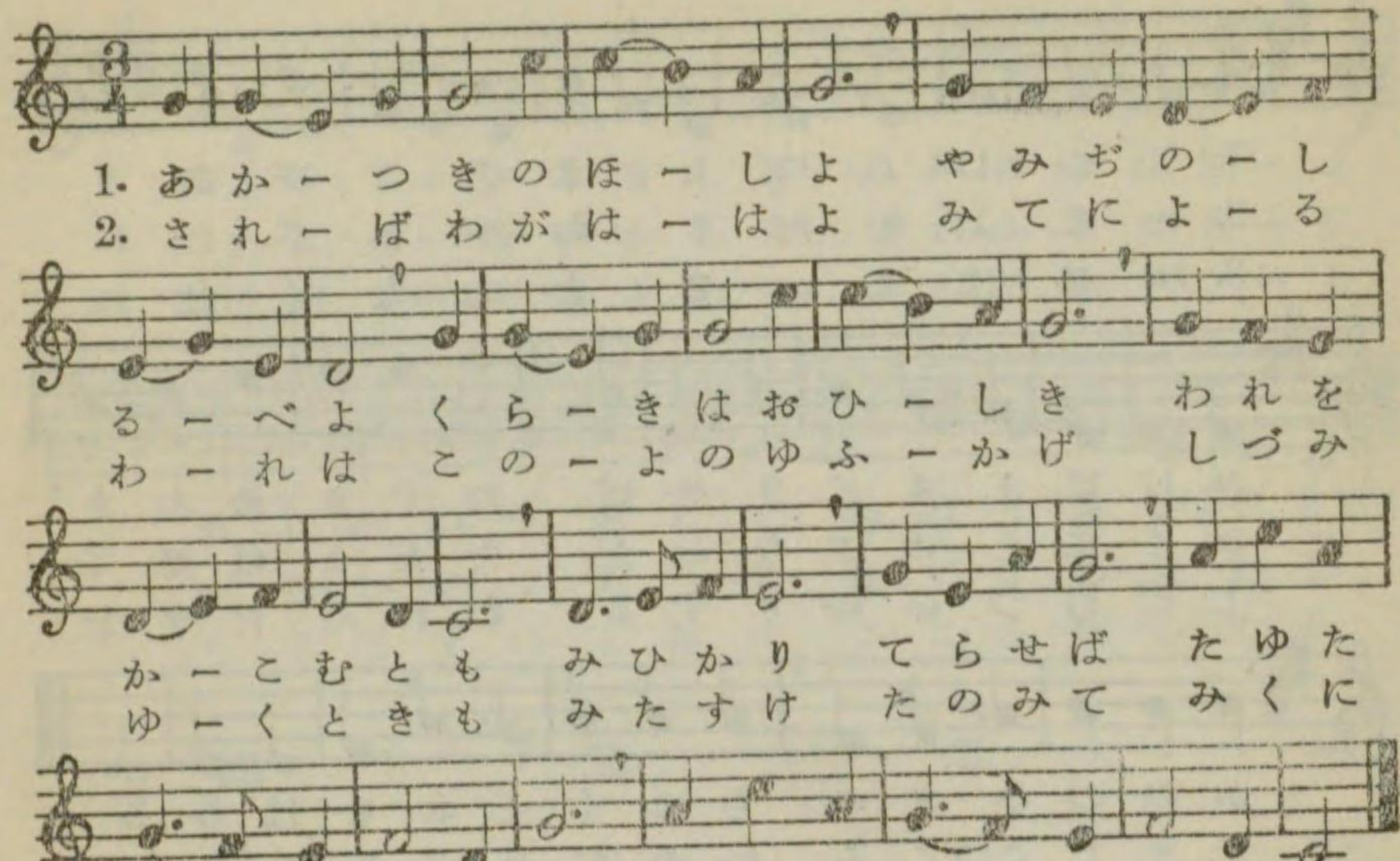
ゆかしくもかがよひまーす
 きみぞわがよみそなはーす
 めぐみふらしたまふはーは

をりかへし

ア ヲヱ ア ヲヱ うみのほし

ア ヲヱ ア ヲヱ うみのほーし

- (をりかへし)
- 一 天あめの門かどきみはのほり
 ゆかしくも耀かがよひます
 - 二 アヅエ アヅエ 海うみの星ほし
 アヅエ アヅエ 海うみのほし
 - 三 み使つかひも光ひかり添そへて
 君きみぞわが世よみそなはす
 - 四 病人やまびとをなぐさめまし
 めぐみ零ふらしたまふ母はは
 - 五 罪人つみびとを主しゆにかへらせ
 かなしむを勞いたはりたまふ
 - 六 きよき御姿みすがたしたはし
 早はやも御手みでに歸かへりゆかん
 波路なみぢくらく寂さびしきを
 のぞみの星照ほしてらしませ



1. あか - つきのほ - しよ やみぢの - し
 2. され - ばわがは - はよ みてによ - る

る - べよ くら - きは おひ - しき われを
 わ - れは この - よの ゆふ - かげ しづみ

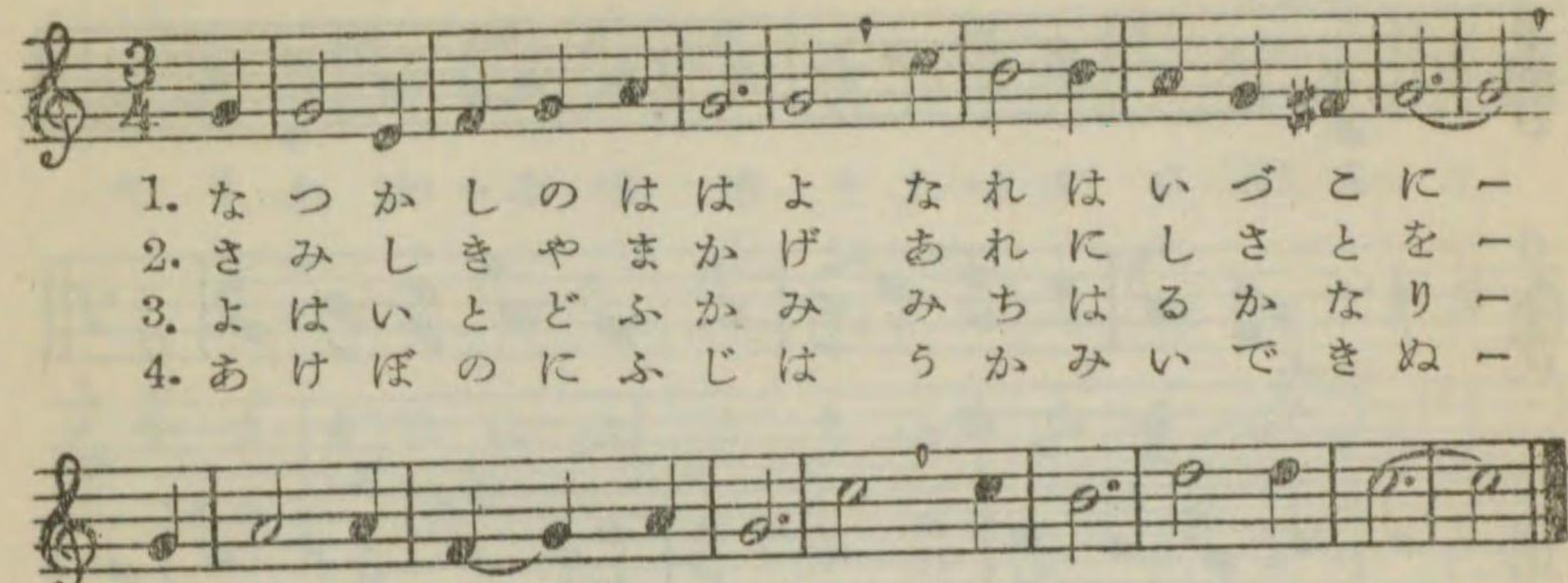
か - こむとも みひかり てらせば たゆた
 ゆ - くときも みたすけ たのみて みくに

ふ - わが たま はげ み た - ちすすま
 の - みすが た し の び つ - つすま

一 あかつきの星よ 闇路のしるべよ
 暗きは追ひしき われを圍むとも
 み光り 照せば たゆたふわが靈
 勵みたち進まん

二 さればわが母よ み手に倚る我は
 この世の夕影 しづみゆく時も
 み助け 頼みて 御國のみすがた
 偲びつつ進まん

三 世の旅終らば きみの祈りにて
 こころの空はれ なみだも跡なく
 み國の門邊に 入りて樂しけく
 主に見え奉らん



1. なつ かし の は は よ な れ は い づ こ に -
 2. き み し き や ま か げ あ れ に し さ と を -
 3. よ は い と ど ふ か み み ち は る か な り -
 4. あ げ ぼ の に ふ じ は う か み い で き ぬ -

く に み そ - な は し ま し ま す や -
 の ぞ み そ の - こ ら は し か い し け で た し -
 あ か は つ き の ほ し 出 で た ま へ

一 なつかしの母よ 汝は何處に
 くに見そなはし ましますや

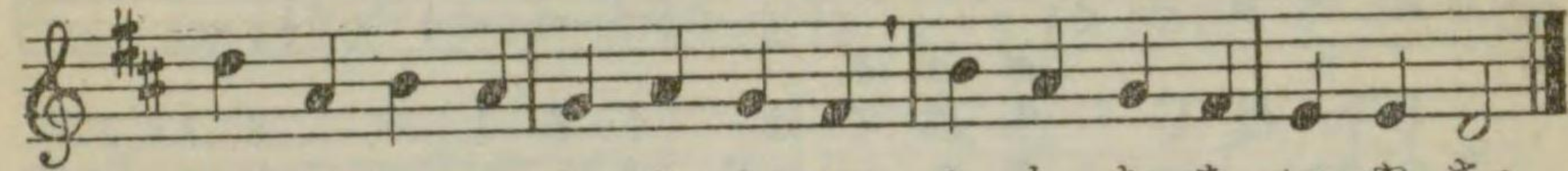
二 さみしき山かげ 荒にし里を
 のぞみの子等は 驅けるかも

三 夜はいとど深み 路遙かなり
 あかつきのほし 出でたまへ

四 曙光に富士は 浮出で來ぬ
 みははマリアよ 祝しませ

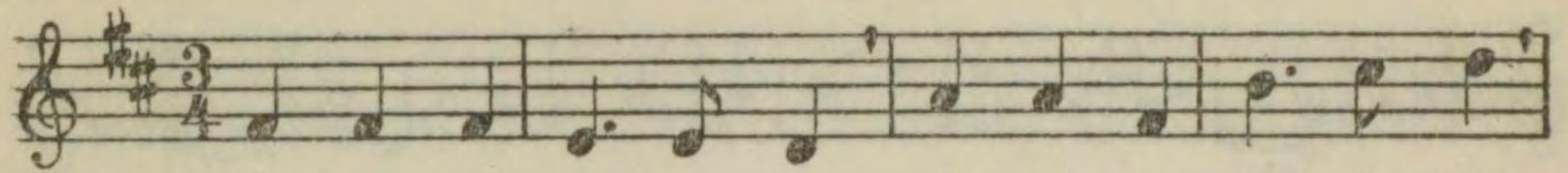


1. おマリーア うましき かみのみははーよ
 2. われらぞゆかしき ながふところーに
 3. まがさーちさだめの いかにありとーも

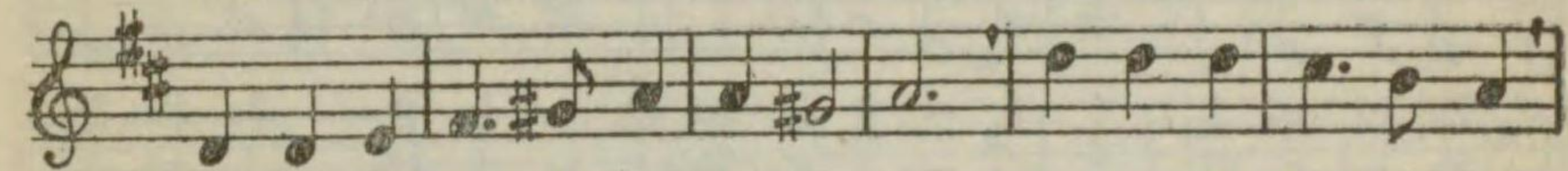


めぐみのみちちにかわきをいやすん
 いこひやすらひてなぐさめえまる
 もりますひとみにこころたのめ

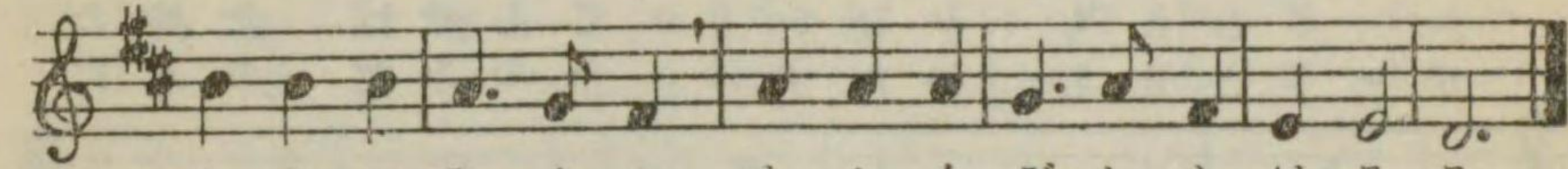
| | | | |
|----------|----------|----------|------------|
| 四 | 三 | 二 | 一 |
| あめのみかどなり | まがさちさだめの | われらぞゆかしき | お(お)マリア美しき |
| われらのははなり | 守りますひとみに | いこひやすらひて | めぐみの御乳に |
| あがめ奉らなん | 御きさいなり | なぐさめ得まし | かみのみははよ |
| | 如何にありとも | 汝がふところに | |
| | こころたのめる | | |
| | | 渴きをいやすん | |



1. うつしよにもよるこびあり
 2. みこよきたりわがまぶたに
 3. みははよいまわななくむね

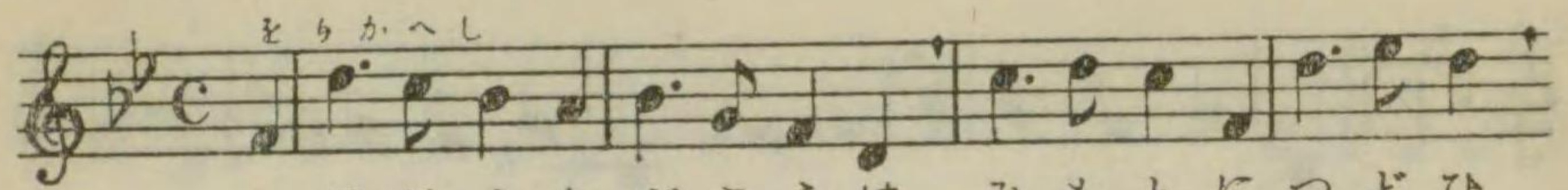


みははともになぐさめわきて
 みくにしのぶなみだただよはせて
 しづめついのりするわれのたまを



かみのみとのちかくぞおもはるる
 うましこころわかれにめぐみはたまへせ
 みてにまもりよもひもかれ

| | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 三 | 二 | 一 |
| み母よいまわななくむね | 御子よ來りわがまぶたに | 現し世にもよるこびあり |
| 沈めつ祈りするわれのたまを | みくにしのぶ涙ただよはせて | 聖母共に在せばなぐさめ湧き |
| 美しこころわれに恵みたまへ | 神の御殿近くぞおもはるる | |
| み手に守り | | |
| 夜も日も離すませ | | |



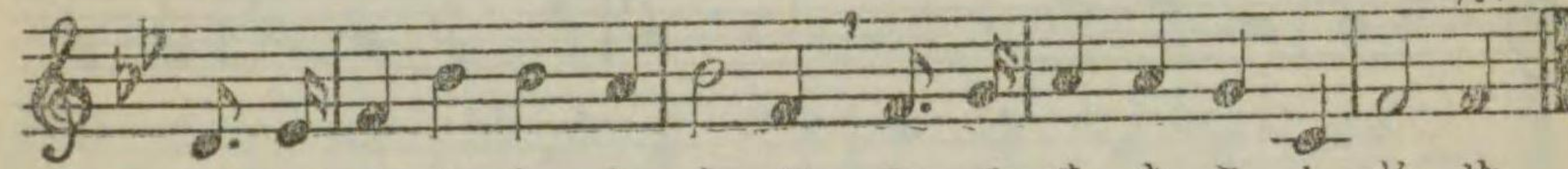
みははよながこらは みもとにつどひ



あはれみのみぎに いのりをささぐ



1. わがいのちたのしみ たのみなるマリア
2. ここはなみだのたに ながみなをよびて



エワのこわれらの こゑをきこしめせ
みたすけのいのり あふぎこひねがふ

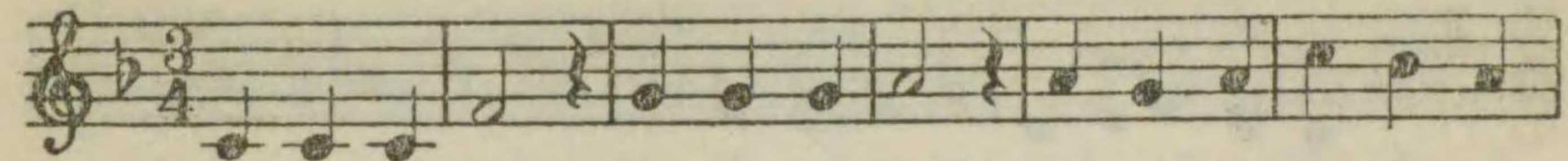
(をりかへし)

聖母よ汝が子等は みもとにつどひ
あはれみの御座に いのりをささぐ

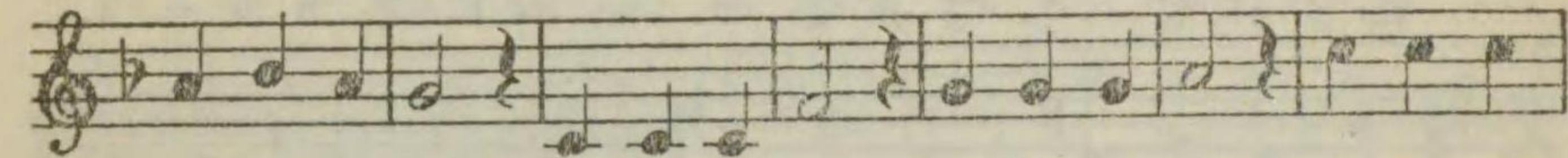
一 わが生命たのしみ 頼みなるマリア
エワの子われらの 聲をきこしめせ

二 ここはなみだの谷 汝が御名を呼て
みたすけのいのり 仰ぎこひねがふ

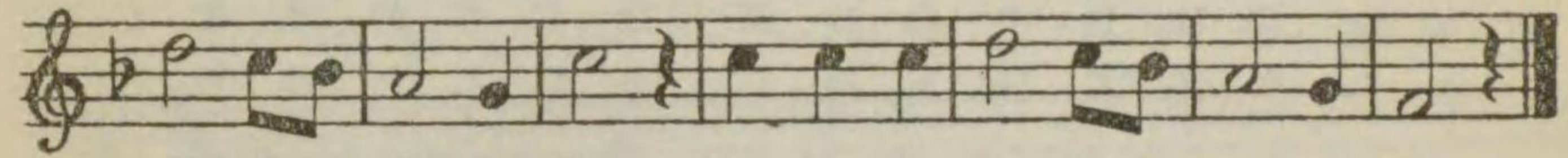
三 この流離の世を 終なんその日に
たふとき御子をば しめさせ給へや
(サルヴェレチナ上り)



1. あめなる きさいの みははマリア
2. みつかひ こぞりて きよきみなを



したはし ちにては くるしみ あめに
たたへつ あさなに ゆふなに みうた



てはさかゆ ゆかしよそ のみ
をささげて みそばよはなれず

一 あめなる きさいの 聖母マリア慕はし
地にては くるしみ あめにてはさかゆ
ゆかしよその御名

二 みつかひ こぞりて 聖きみ名を稱へつ
あさなに ゆふなに みうたをささげて
みそばよはなれず

三 なみだも しぬぬに み側戀る世の子等
まみゆる 日をのみ よろこびしのびて
いや増すのぞみや

四 のぞみは みそらの 暁の星とかがやき
日にけに あふぎて みははぞなつかし
みたすけ乞ひつつ

五 みははよ 汝が子は 涙の谷いぶせく
したひに したひて みたすけ乞ひ禱む
とりなしたまへや

をりかへし

うーれしきこのとのにまたもむれつどひきぬ

いーざともどちよたのしくーうたへ

1. あまつみにくをよもさながら
 2. みくにのそのはいまよくだり
 3. みはははゆりよいきよくかをり

うつしてわれらむつびうたはん
 にほひもゆかしてはなまひきたほふ
 けだかたくちてゑまひたまふ

(をりかへし)

四 われらは小鳥 膝に群れて 樂しきうたを 捧げまつらん

三 み母は百合よ 氣高く立ちて 笑まひたまふ

二 みくにの苑は 今よくだり 旬ひもゆかし はなぞ競ふ

一 あまつ御國を 世もさながら うつして我等 睦びうたはん

嬉しき此殿に 又も群集來ぬ いざ友どちよ 樂しくうたへ

1. あいのみははよわがよろこびよ
 2. くらきよあれてかぜふきすさみて
 3. なみだのたにもあとなくきえて

われのたのみよきみしのびきぬ
 わななくたはまはみてにやたよる
 きみのみすがたかがやくをまたん

をりかへし

いつのひにかーまみえまーつらん

はなさきかをるそのみそのはも

(をりかへし)

四 その日我身も 汚れとどめず 靈得てしがな

三 なみだの谷も 跡なく消えて 輝くを待たん

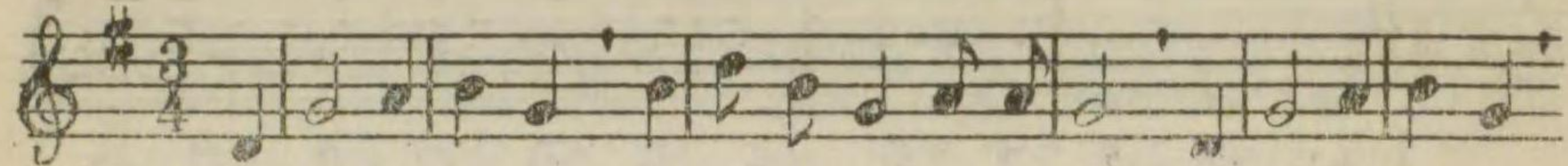
二 暗き夜あれて 風ふきすさみ み手にや頼る

一 愛のみははよ わが喜びよ われ頼みよ 君しのび來ぬ

いつの日にか 見えまつらん

花咲きかをる その御苑はも

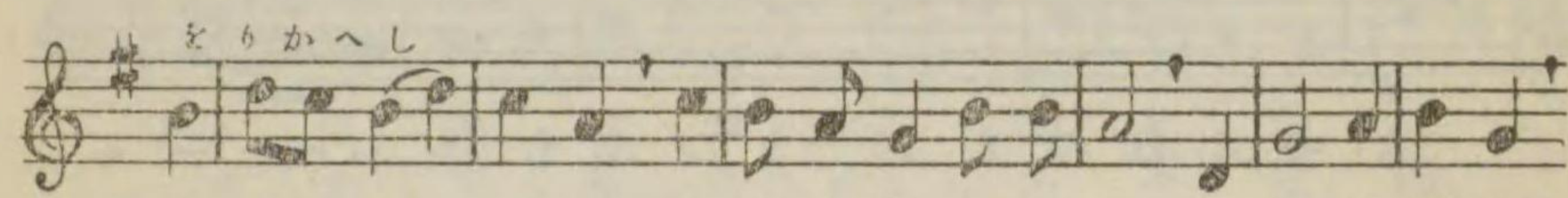
わななく靈は



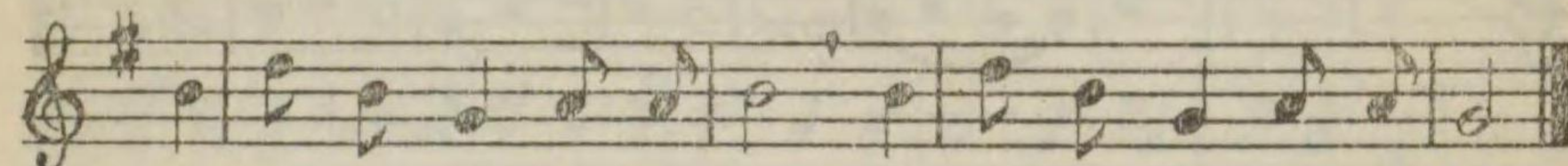
1. やまとははよるこびのいるさはなれど
 2. うきひとのうきのうせまくうきつるぎ
 3. つみびとのよりにかくらふそでなれや



あかときほしにしくものぞなき
 しのびいけりしつよききみはも
 やさしきみかげたまのきよけみ

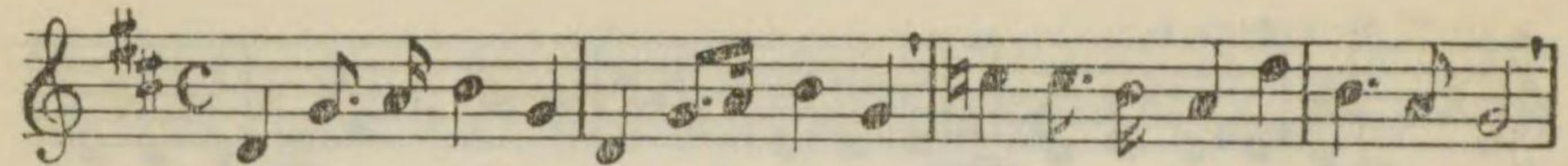


わがこころなぐさめかねつたまちはふ

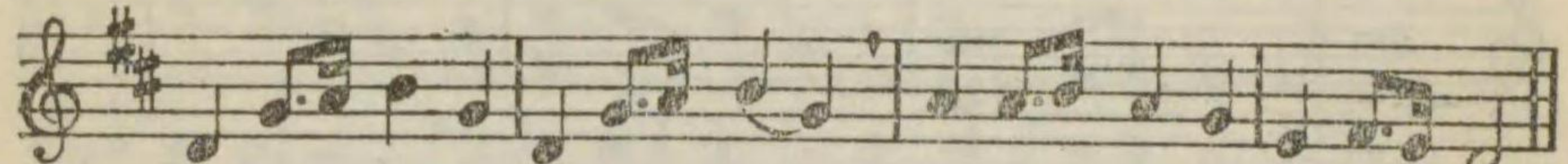


かみのたすけをみははのりませ

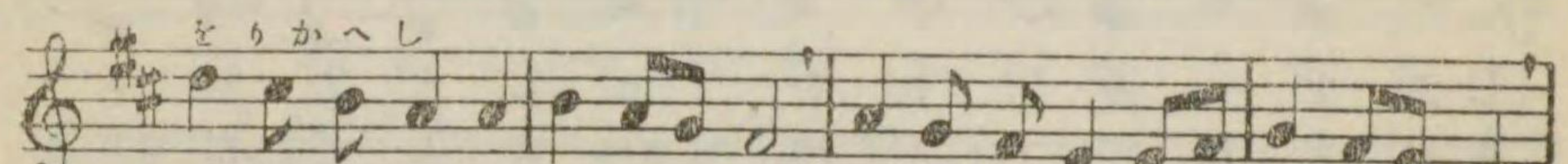
| | | | |
|------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 四 | 三 | 二 | 一 |
| 薬師とい倚る いためる傷を | つみびとの 依りて隠らふ やさしき御蔭 | 憂きひとの 憂の失せまく 忍び生けりし | やまとはは よるこびの あかとき星に |
| 御手なれや 仄に觸れませ | 袖なれや 靈のきよけみ | 憂きつるぎ つよき君はも | さはなれど 如ものぞなき |
| | | たま幸はふ み母祈りませ | わがこころ なぐさめ兼つ 神のたすけを |



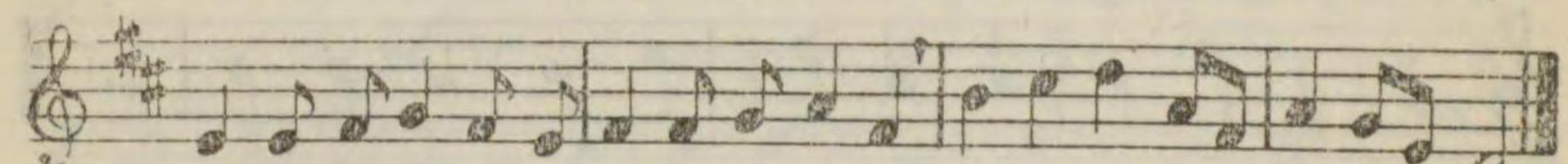
1. わがたまのひとりしをればたまゆらの
 2. さにづらふきみこそいませあまつくに



さそひにもおちむははよりませ
 わがねぎごとをちちにこふべく



めぐみのいづみよたぎちながれゆき



あまねくよのひとぐさをうるほしたまへ

| | | | |
|---------------------|---------------------|----------------------|----------------------|
| 三 | 二 | (をりかへし) | 一 |
| 稚ければこころや みははよまもれ | さにづらふ君こそ わがねぎごとを | めぐみのいづみよ 治ねく世の人草を | わが靈のひとりし さそひにも陥ちむ |
| 愛のひとみに | 父に乞ふべく | うるほし給へ | 居れば玉響の 母よ守りませ |
| | | 激ち流れゆき | |
| | | | |

1. かをしたかみみくにのかげ
 2. やすきこころもゆるあいの
 3. あめのみめときよききみは

かがよひてあなわがははは
 かりそひてあかみのみはは
 のぼりましわがよまもり

きよきはなとさきでぬ
 シアをこそうみせれ
 あけのほしとかがやく

とりかへし
 うるはしのゆりのはなとこをとめ

一 香をし高み みの国のかげ
 かがよひて あな我が母
 きよき花と 咲き出ぬ

(をりかへし)
 うるはしの 百合の花
 とこをとめ

二 安きこころ 燃ゆる愛の
 照りそひて かみの御母
 救主をこそ 産みせれ

三 あめの后と きよき君は
 のぼりまし わが世守り
 あけの星と かがやく

1. いのりするこころのきはみ

ほのにしてともにのりーまーす
 とりかへし
 きみをしどもふ わがははひとーり

よのこらのためきのふもけふーも

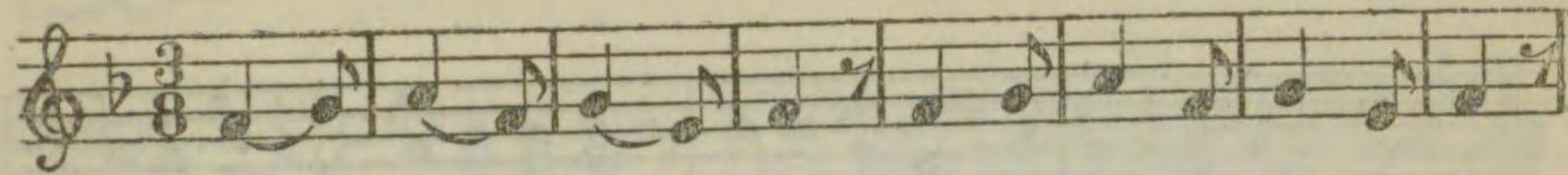
いのりしませーり たまさきくあれーとー

一 いのりする ころのきはみ
 仄にして ともに禱ります
 君をしぞ思ふ

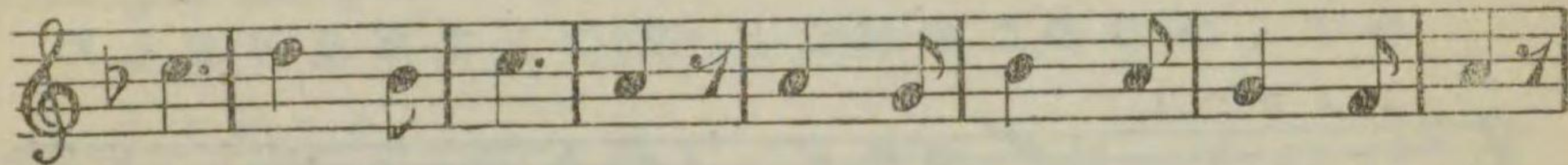
(をりかへし)
 わが母ひとり 世の子等のため
 昨日も今日も いのりしませり
 靈幸くあれと

二 われからと まよひ出でぬる
 たまなれや おほにしてのみ
 御國おもへる

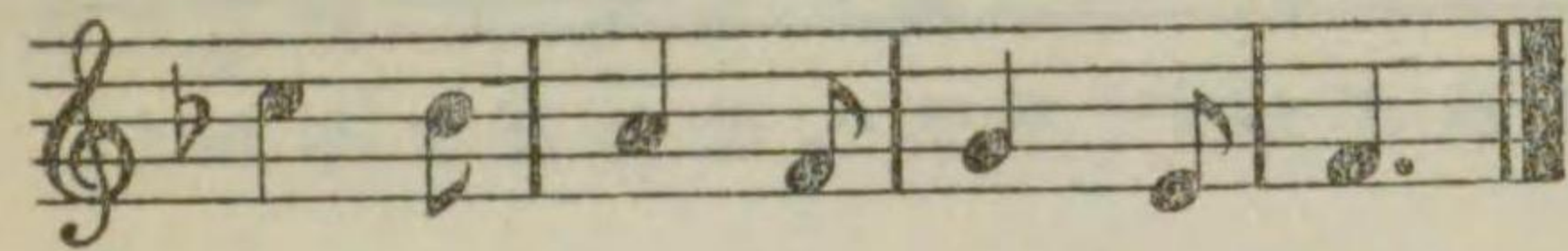
三 悔いに悔い なげきになげく
 こころはも 神にとりなせ
 たらちねの母



1. めーでーたーし みめぐみみてる
 2. そーのーみーこ しゆくせられかし

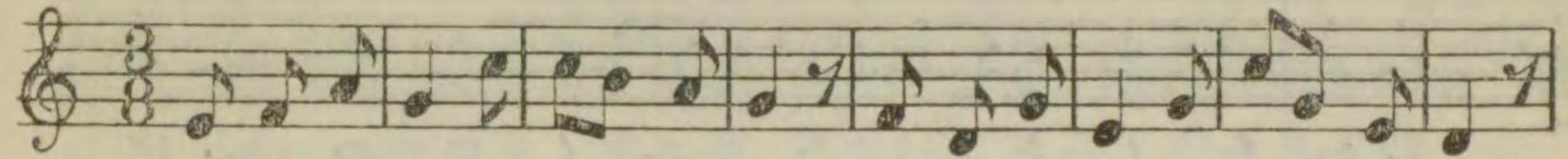


せいマリア 主ぞともにます
 かみの ははいのりをたまへ

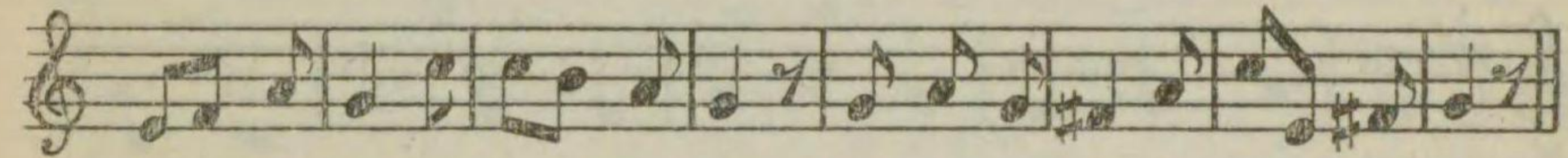


をみなのをみな
 をはりのひまで

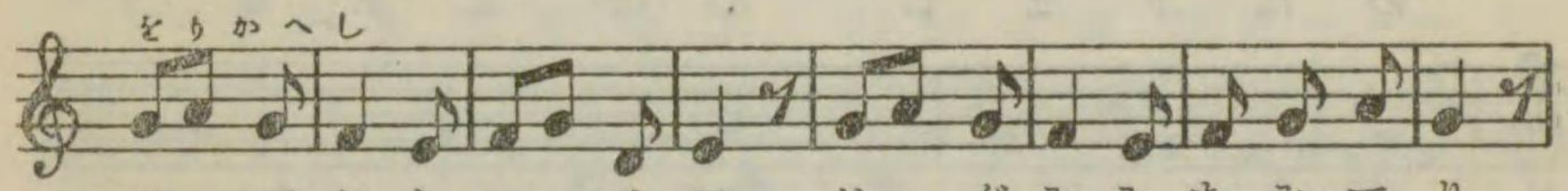
| | | | | | | | | | |
|--------|--------|------|--------|--------|------|--------|------|--------|--------|
| 臨終の日まで | いのりを賜へ | かみの母 | 祝せられかし | 二 そのみ子 | をみな女 | 主ぞ共にます | 聖マリア | み恵み充てる | 一 めでたし |
|--------|--------|------|--------|--------|------|--------|------|--------|--------|



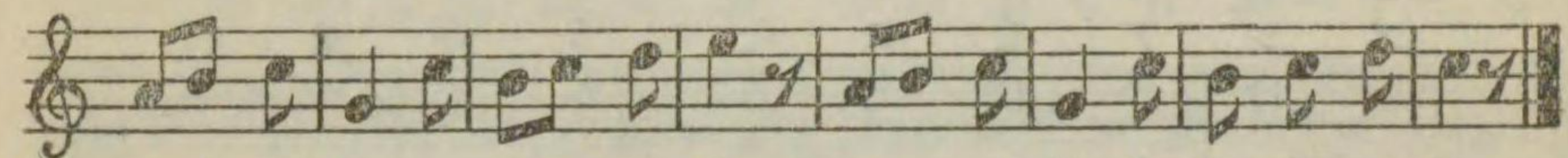
1. きよきをとめとて をみなのうちより
 2. やどりけるみこぞ よをあがなふかみ



えらびわかたれ みははとなりけり
 ほろびゆくみを すくひたまひけり



めーでたしマリア めぐみみちみてり



いーまもいまはも いーのりたまひてよ

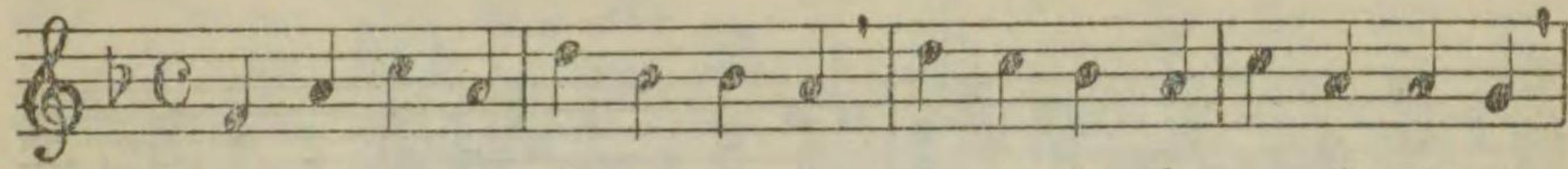
| | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 四 | 三 | 二 | (をりかへし) | 一 |
| み告げのかねの | 神の御名よぶ | 孕りける御子ぞ | めでたしマリア | きよき處女とて |
| あかときに暮に | 世の終りまでも | ほろびゆく身を | いまもいまはも | えらびわかたれ |
| 眞晝にうれしき | み子とみ母こそ | 救ひたまひけり | 恵み満ちみてり | をみなの中より |
| いのりの一時 | かはりなき方便 | 世をあがなふ神 | いのり給ひてよ | 聖母となりけり |

1. みよやゲツセマニのその みこはちのあせしげく
 たがためぞいのりませる わがこころもささるる
 むりかへし
 みははよわがーたーめに みこにとりつぎたまひ
 せちなるわがいのりをば なせそむなしきこゑと

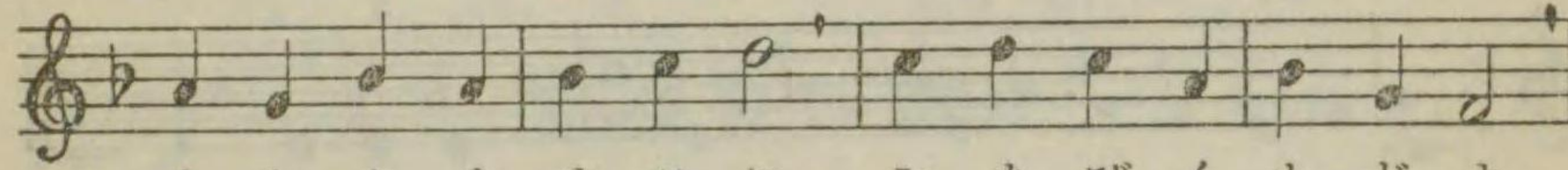
一 見よやゲツセマニの園 (をりかへし) 誰が爲ぞ祈りませる
 二 罪なきさへ鞭打たれ わがために償ひせす
 三 人の嘲み茨なる 主の御名を誰かは恥
 四 生木はおもし十字架 いたましき主の道行
 五 われからと御壽捨て あやに尊ときその釘
 一 見よやゲツセマニの園 誰が爲ぞ祈りませる
 二 罪なきさへ鞭打たれ わがために償ひせす
 三 人の嘲み茨なる 主の御名を誰かは恥
 四 生木はおもし十字架 いたましき主の道行
 五 われからと御壽捨て あやに尊ときその釘
 一 見よやゲツセマニの園 誰が爲ぞ祈りませる
 二 罪なきさへ鞭打たれ わがために償ひせす
 三 人の嘲み茨なる 主の御名を誰かは恥
 四 生木はおもし十字架 いたましき主の道行
 五 われからと御壽捨て あやに尊ときその釘

1. みつかひののりたまへば へりくだりますーマリア
 みすくひのみこのははと まことさだまりましぬ
 むりかへし
 みかむりはローザリオ ばらのはなうちかをり
 いのりはたまのかずかず みまへにただよへかし

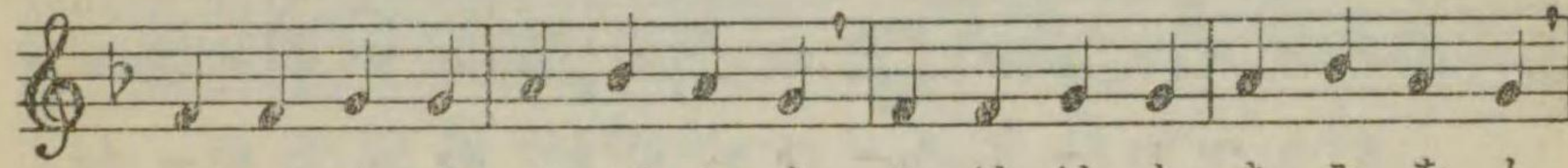
一 天使の宣りたまへば 謙下りますマリア
 二 救ひの聖子と母と まこと定りましぬ
 三 冠りはロザリオ 薔薇の花うち香り
 四 いのりは珠の數々 みまへに漂へかし
 五 やまざとにその友垣 恵み訪なひませば
 一 天使の宣りたまへば 謙下りますマリア
 二 救ひの聖子と母と まこと定りましぬ
 三 冠りはロザリオ 薔薇の花うち香り
 四 いのりは珠の數々 みまへに漂へかし
 五 やまざとにその友垣 恵み訪なひませば
 一 天使の宣りたまへば 謙下りますマリア
 二 救ひの聖子と母と まこと定りましぬ
 三 冠りはロザリオ 薔薇の花うち香り
 四 いのりは珠の數々 みまへに漂へかし
 五 やまざとにその友垣 恵み訪なひませば



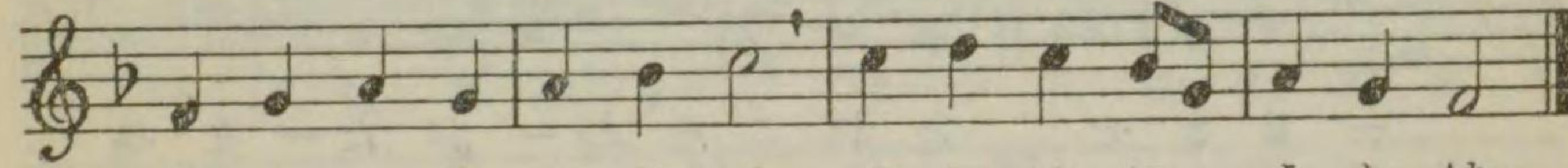
1. ころもきよけき つみなきマリアよ
2. おもひもことばも ひごとのしわざも



われらをあめに みちびくかどよ
ながみてにより きよめわかちつ



こよなくめでたき みははときみをし
サタンのいざなひ ををしくはらひて



たへあがめ て ひにけにーうたはん
みあとただしく たのしくーい きなん

三

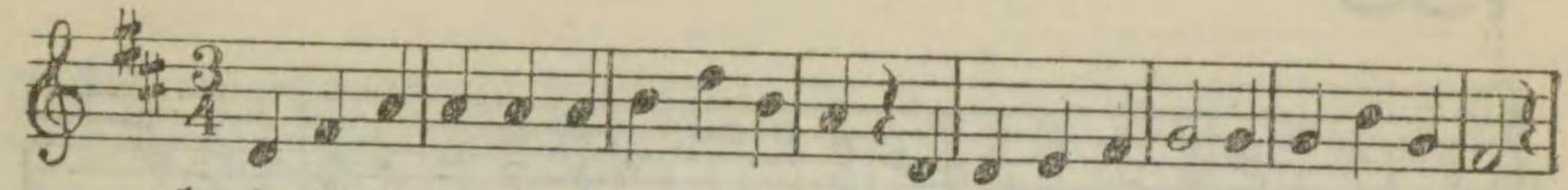
汚れを知らざる 聖母のまな子と
いやしきわれも ころろ足らひて
み神のみははに 祈ごと捧げつ
こひねがはまし きよきみたすけ

二

思ひもことばも 日ごとの仕業も
汝が御手により きよめわかちつ
悪魔のいざなひ 雄々しく拂ひて
みあとただしく 楽しく生きなん

一

ころろも清けき 罪なきマリアよ
われらをあめに みちびくかどよ
こよなく愛たき みははと君をし
たたへあがめて 日に日に歌はん



1. したのはりよいまいづこ 主こそなはめをときて
2. あれみよくもはひらけ みそらに主はのぼりて
3. みたまはゆたにくだり みでしにやどりせすを



よみがへりまししか われもまたかくぞあらん
みくにのそのさかえ われにもやたまはりなん
などわれにいなみて きまさでやはあるべき

五

あまつ後のかむり 聖母うけましませば
我等もまた小さき 終のかむり得まほし

四

御子のみ許に昇り よろこびます聖母に
いざ御歌ささげて 死の日の幸を祈らん

三

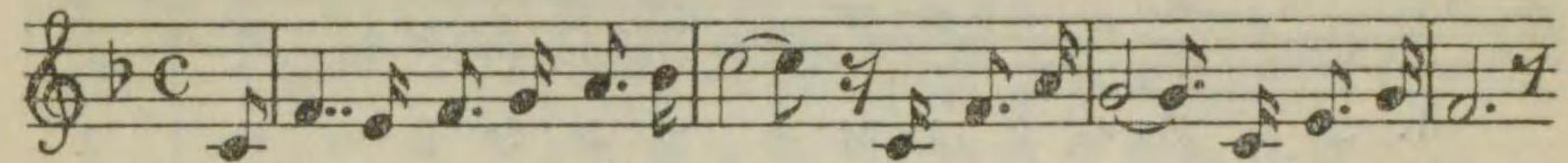
聖霊は豊にくだり み弟子に宿りせすを
などわれに否みて 來さでやはあるべき

二

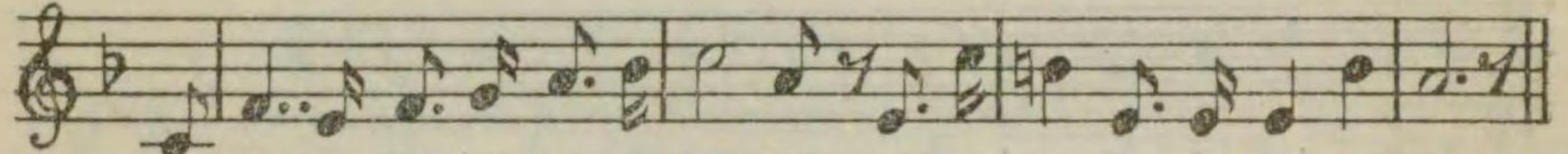
あれ見よ雲は開け みそらに主は昇りて
み國のそのさかえ 我にもや賜はりなん

一

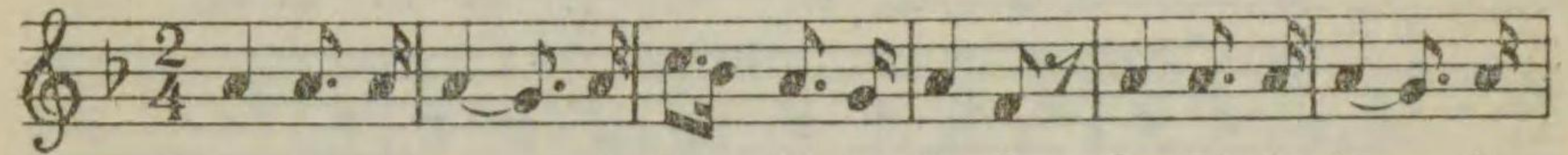
死の刺よ今いづこ 主こそ束縛を解きて
甦へりまししか 我も亦かくぞあらん



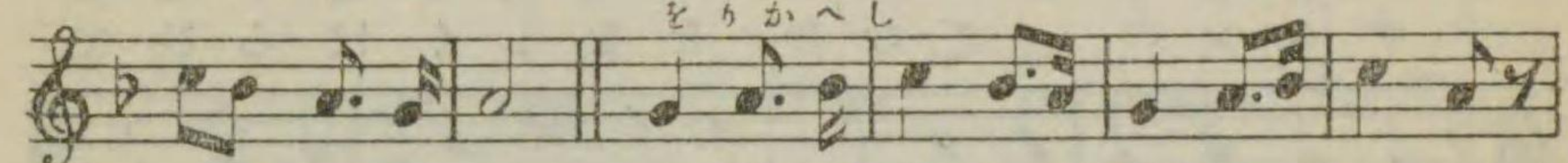
1. けがれもあらく— あれまし— しをとめ



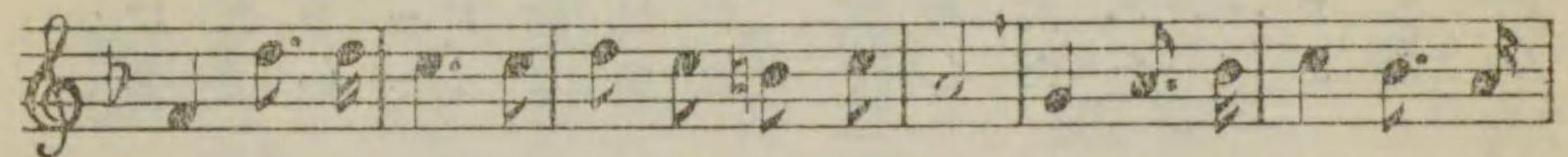
いまよあめにませばほしとかがやきて



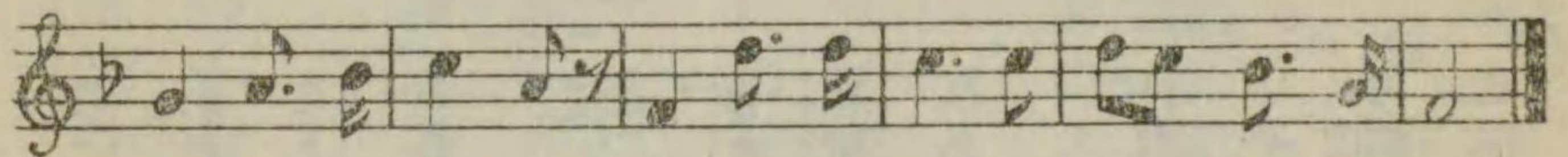
まさやけ— くみ— ひかりを わがよに— お



く— りませ なれこそわ— がた— まの



たらちねのははなればみたすけをぞ



たまへかしわがあやふき— ときし

一 けがれもあらく

生れまししをとめ

いまよ天にませば

ほしとかがやきて

分明けくみ光りを

我が世に送りませ

(をりかへし)

なれこそわが靈の

垂乳根の母なれば

み助をぞ賜へかし

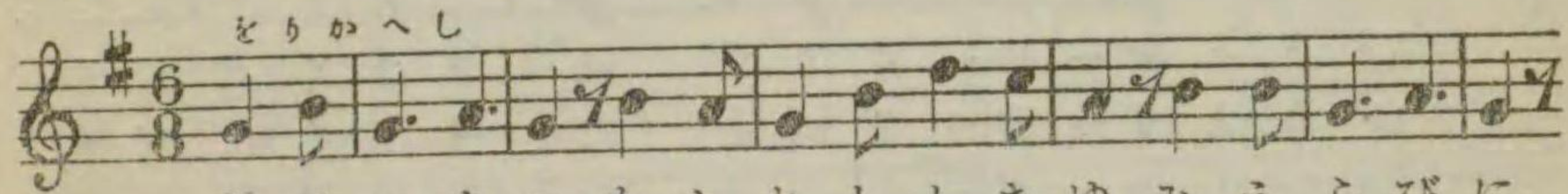
わがあやふき時し

夜はなほ降ちて
 あかつき夙きに
 波かぜも荒磯の
 われよ捨小舟
 照らせ海の星影
 望みのわが光り

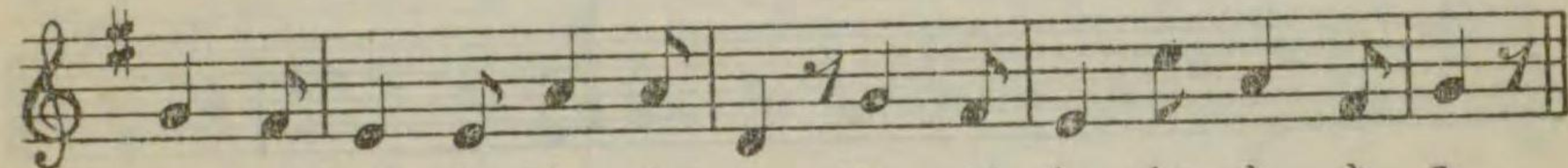
三

稲妻ひらめき
 雷電とどろに
 我主臨み來ます
 時しいたりなば
 暁の星影よ
 我靈まもれかし

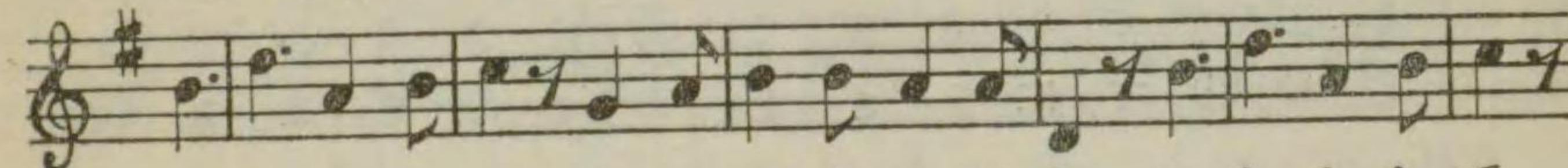
無原罪の聖母



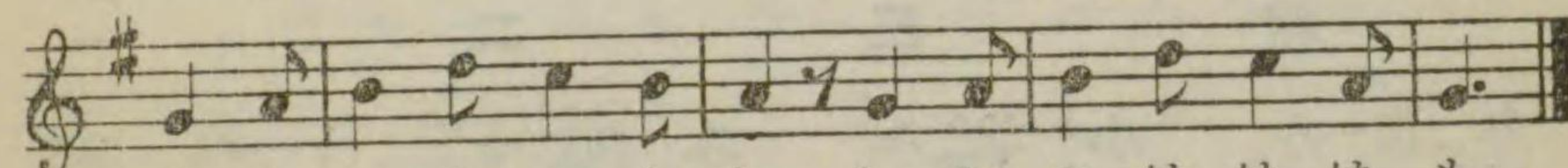
あめつちのわかれしときゆみえらびに



みははためりしけがれなききみ



1. みなびとのうけつぐけがれもちまさで



めぐしうつくしかみのはははも

(をりかへし)

あめつちの

わかれし時ゆ
聖母ためりし

みえらびに
汚れなき君

一 みなびとの

うけつぐ汚れ
めぐし美し

もちまさで
神の母はも

二 たかくあり

きよく荒磯の
きさいの花の

百合のはな
白百合の花

三 ははのあい

處女のみさを
君はまたなき

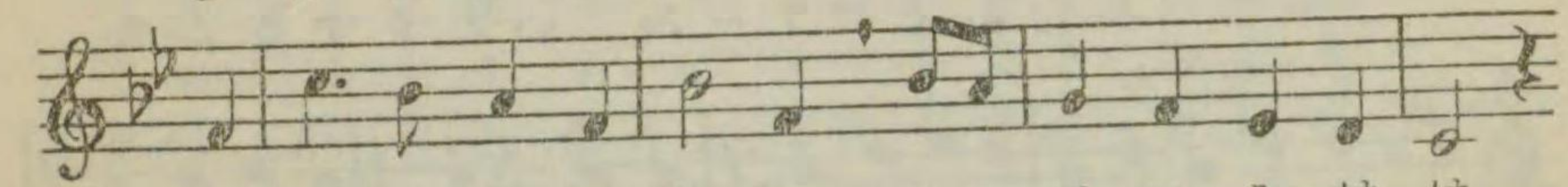
ならびもち
母なる處女



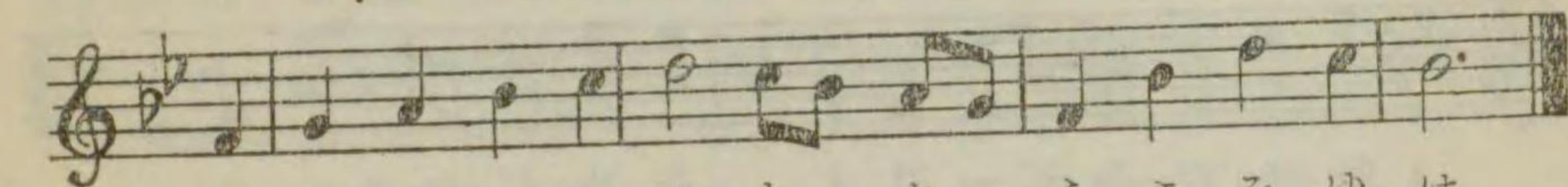
1. かげもか-を-り-て あをばわ-か-ば
2. わかくさ-も-ゆ-る ののつか-さ-に



さつきせせら-ぎ くしきしらべ
ひともとさけ-る そのしらゆり

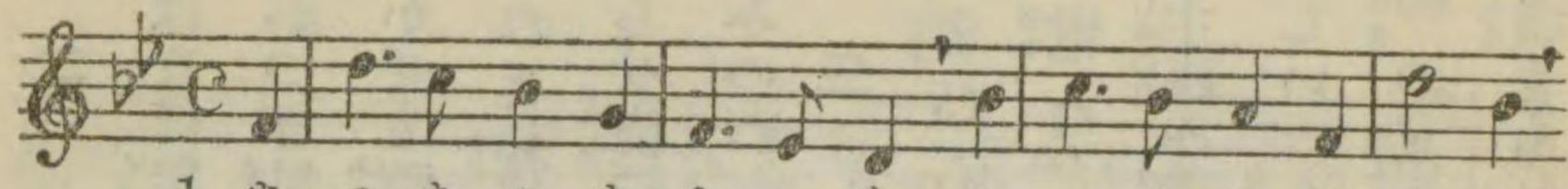


こかげにたす と-はのみはは
みさをかぐはし と-はのをとめ

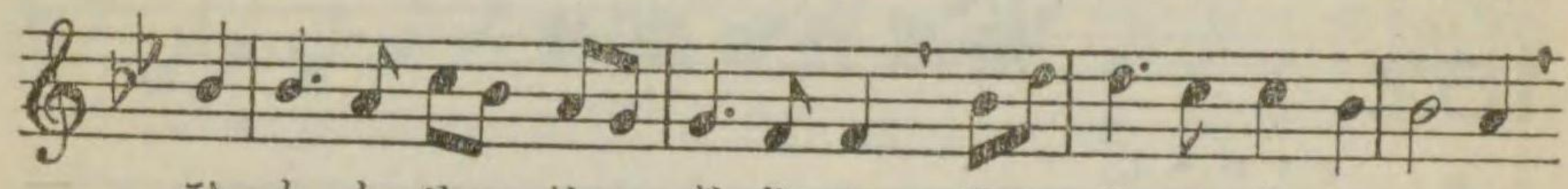


みかげしたひわ-れ-らこそゆけ
いざたたへ(なん)ひ-と-のかがみと

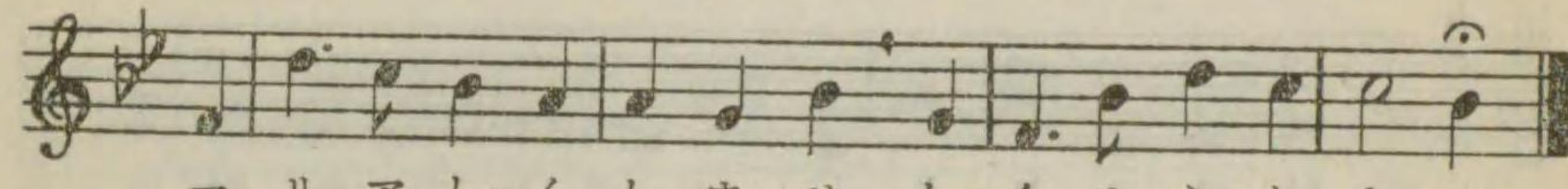
| | | |
|--|---|---|
| <p>三</p> <p>あめや慕へる あがれる雲雀 あふぎあふぎ</p> | <p>二</p> <p>わか草萌ゆる 一本咲ける 操かぐはし いざ稱へ(なん)</p> | <p>一</p> <p>風もかをりて 五月せせらぎ 木蔭に立たす みかげしたひ</p> |
| <p>御名や呼べる かそけきそら とはのきさい 御榮うたはん</p> | <p>野の高處に そのしらゆり とはのをとめ 人のかがみと</p> | <p>あを葉わか葉 奇しきしらべ とはのみはは 我等こそ行け</p> |



1. さつきのきさいを さつきはうたふ
2. マリアのみまへに ちぐさみだれて
3. みどりのまきばに みははのこらは



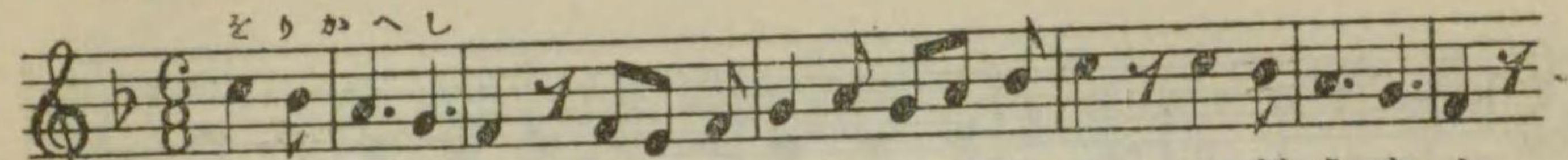
ひととせ-め-ぐりて ゆ-りさくどがつ
いるとり-ど-りにぞ に-ほふくにばら
ひつじの-ご-とくぞ む-れつどひつ



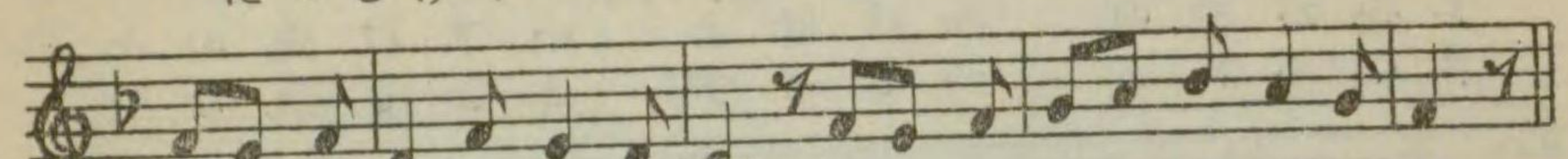
マリアしゆくしませ しゆくせられませ
みかざりにせまくちはさきいませぬ
さゆりてにかざし ことほぎまつ

| | | | |
|---|---|---|---|
| <p>四</p> <p>み母立ちませば 世は宛がらなる みははの御恵み</p> | <p>三</p> <p>みどりの牧場に 羊の如くぞ 小百合手に翳し</p> | <p>二</p> <p>マリアの御前に 色とりどりにぞ み飾りに爲まく</p> | <p>一</p> <p>皐月のきさいを ひと年めぐりて マリア祝しませ</p> |
| <p>あまつかぜ吹き 常春なして 地に満ち足らふ</p> | <p>みははの子等は 群れつどひつ ことほぎまつる</p> | <p>千草みだれて にほふ國原 地は咲き出でぬ</p> | <p>さつきはうたふ 百合さく五月 祝せられませ</p> |

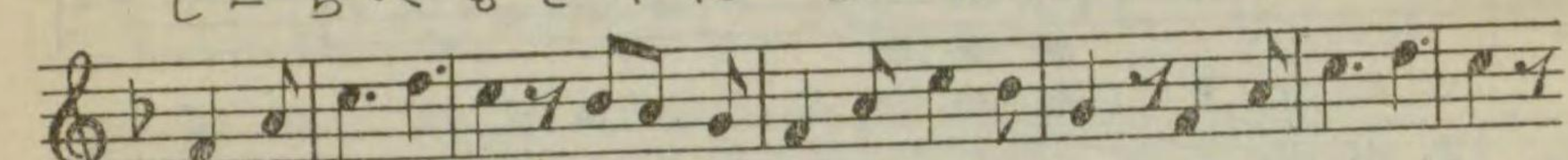
をりかへし



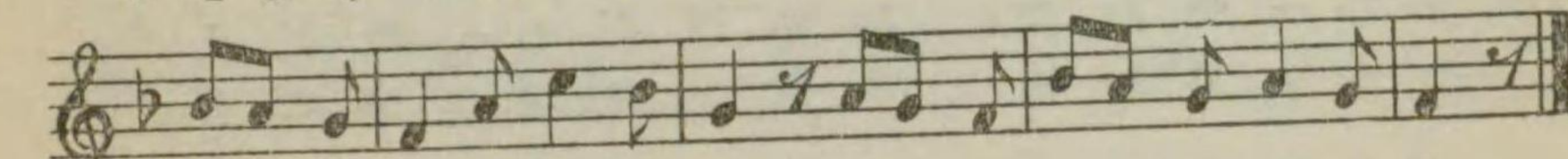
たのしけく まつるさつき の ほぎうたよ



しーらべもさやに あーめにーひびかへ



1. みそらには みつかひうたひ ゆきかひて
 2. みたたしに ちぐさやちぐさ みどりなし
 3. きよけさよ みははのころ きぬにみて



みーたみのははを たーたへーあへるも
 みーけしなづさひき たーむけーするかも
 あーやにきほしき そーのみーけしはも

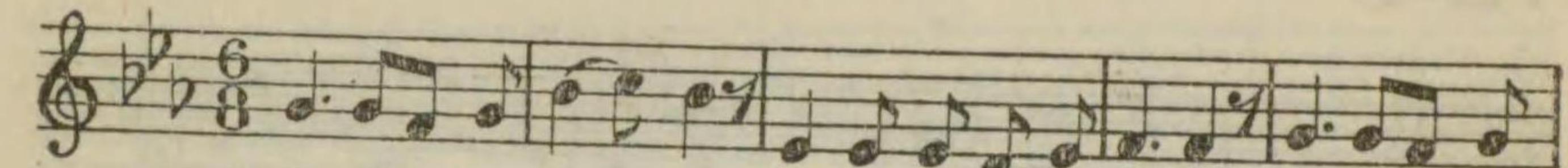
(をりかへし)

一 たのしけく まつる五月の ほぎうたよ
 調べもさやに 天にひびかへ


二 みそらには 御民のははを 稱へあへるも
 みつかひ歌ひ 御衣なづさひ 手向するかも

三 きよけさよ 聖母のころ 衣に見て
 あやに着欲き そのみ衣はも

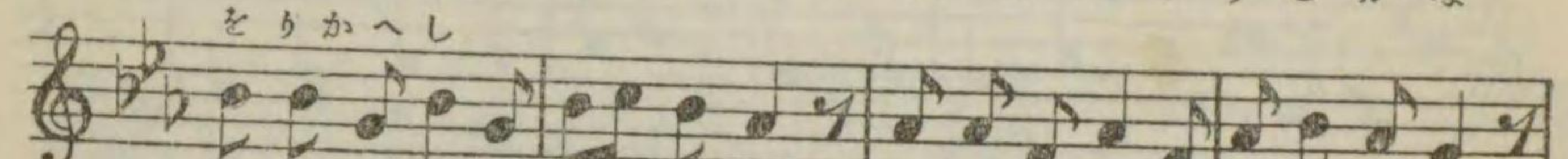
四 みははこそ わが垂乳根の 母に似ほしき
 その母の子は ははなれや



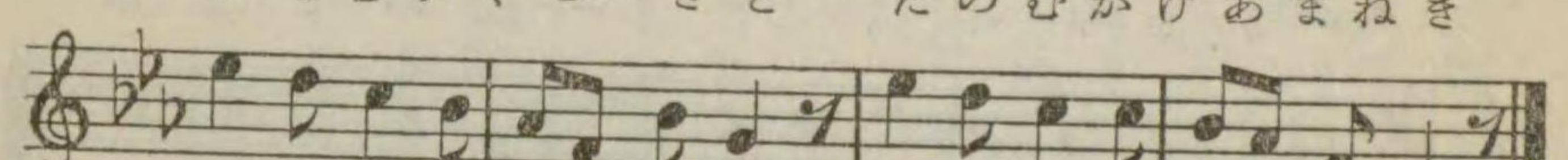
1. うるーはしーみ みははなぞへて ゆりーの
 2. かをーたかーみ かくらふべくも ゆりーの
 3. さゆーりばーな ゆりはまみえむ ははーに



はーな さつきのもりーに ながめするかも
 はーな さつきやみさーへ かくさふべしや
 こーひ みなかぐはしーみ いのりするかな
 をりかへし



みそらゆくつーきと たのむかげあまねき



かみのみはーはよ みめぐみたーまへ

一 うるはしみ 聖母なぞへて 百合のはな
 さつきの森に ながめするかも

二 香をたかみ 隠らふべくも ゆりのはな
 さつき闇さへ 隠さふべしや

三 さゆりばな 後はまみえむ ははに戀ひ
 御名芳はしみ いのりするかな

(をりかへし)

み空ゆく月と 頼むかけ治ねき
 かみの聖母よ みめぐみたまへ

みつ か ひ あ き の み や る に
い み じ く い つ く み れ ば
み は は の - あ め の ぼ り ま す
と き き ぬ あ れ き こ ゆ る
ほ ぎ う た た か し き よ し

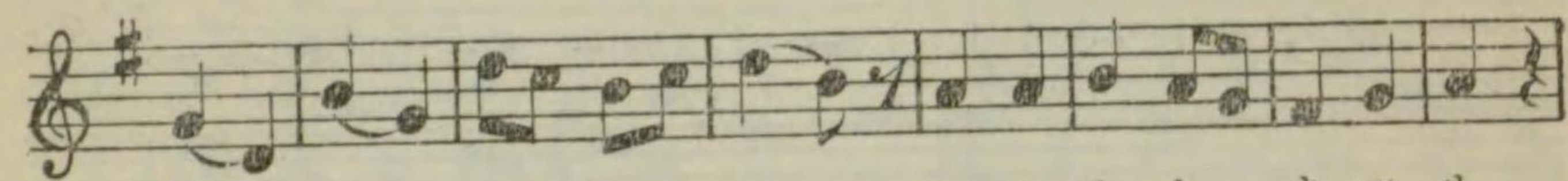
| | | |
|--------|-----|--------|
| 三 | 二 | 一 |
| きみはも | ゆきま | みつかひ |
| けふこそ | さだめ | いみじく |
| ひくきを | かきは | みははの |
| たかきを | かしこ | とき來ぬ |
| かのとき | かみこ | ほぎうた |
| 君はうたひ | かみこ | 秋の宮居に |
| 神はおろし | かみこ | いつくみれば |
| 高きに擧ぐと | かみこ | あめ昇ります |
| あまつきさい | かみこ | あれきこゆる |
| い往せたまふ | かみこ | たかしきよし |

1. わが主の みははよ いまは主のみ
2. こふれど つきせず きよきみなを
てにより あめなる さかえに のぼり
あがめて このよの あゆみを みはは
ゆか-せたまふ みかげぞし-たはし
にあ-やかり たたへつつ-すごさん

| | | | |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| 四 | 三 | 二 | 一 |
| みくににひびかへ | みくにに入るまで | たたへつつ過さん | わが主の |
| うたへど | みははよ | この世の | みははよ |
| うたへど | マリヤよ | あゆみを | あめなる |
| うたへど | 汝にたよるこの身は | みははに | さかえに |
| うたへど | みとりなしのる | あやかり | みかげぞしたはし |
| うたへど | 後マリヤみははよ | きよき御名を崇めて | 今は主の御手により |
| うたへど | つきせぬ我がうた | | 昇りゆかせたまふ |



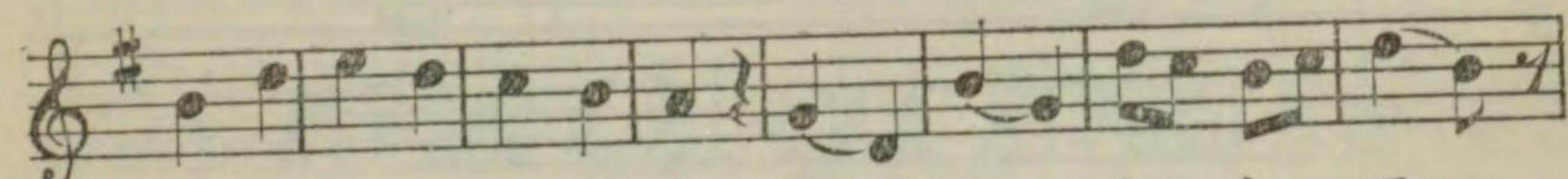
1. いーざーゆーかーなー きみしまーもらば



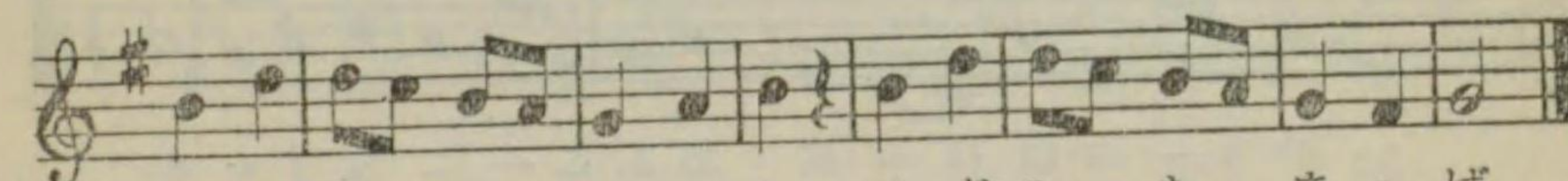
わーがーたーまーのー なやましーきひも



ををしきーわれぞ たーらーちねのー



みははの MARIA よーりーまーしーてー



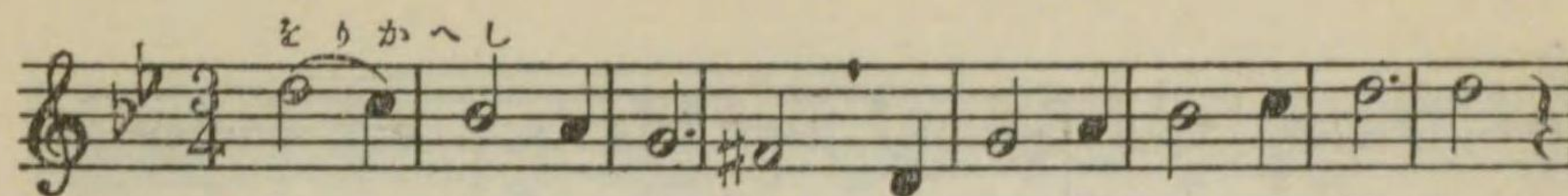
たけきーこーころし めぐみーたーまへば

三 つるぎ太刀 折れなば折れよ
ぬばたまの やみのちからは
君し消ちます

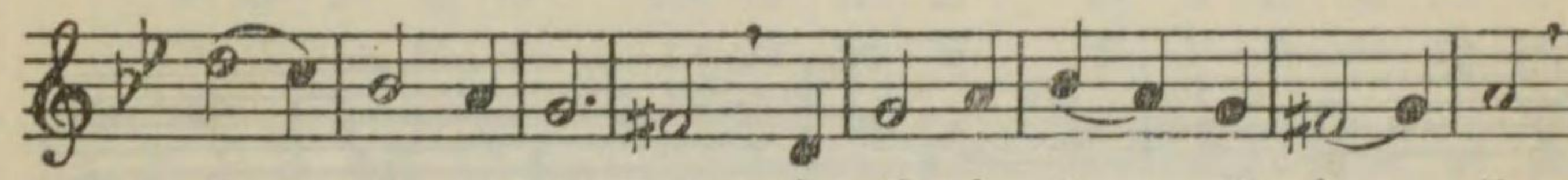
二 呼びまつる 御名はかくはし
いとよなき このころはも
あめにい向ふ

(をりかへし)
一 いざ行かな 君しまもらば
わがたまの なやましき日も
雄々しき我ぞ

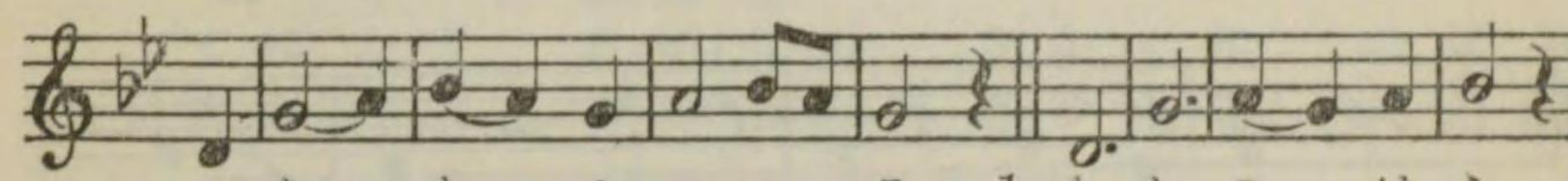
三 たらちねの みははの MARIA
寄りまして たけきころし
めぐみ給へば



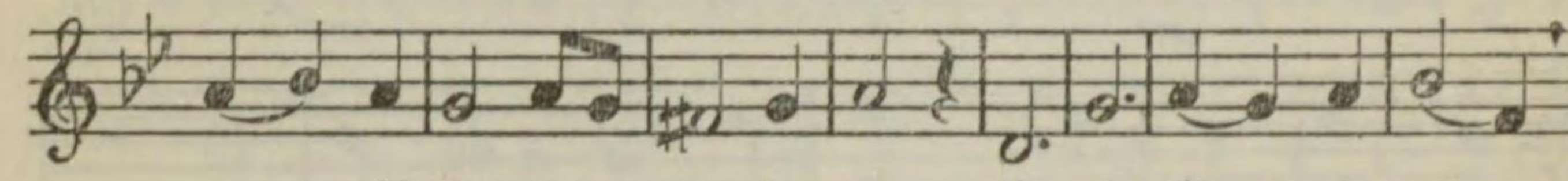
わーがみはは みななつかしみ



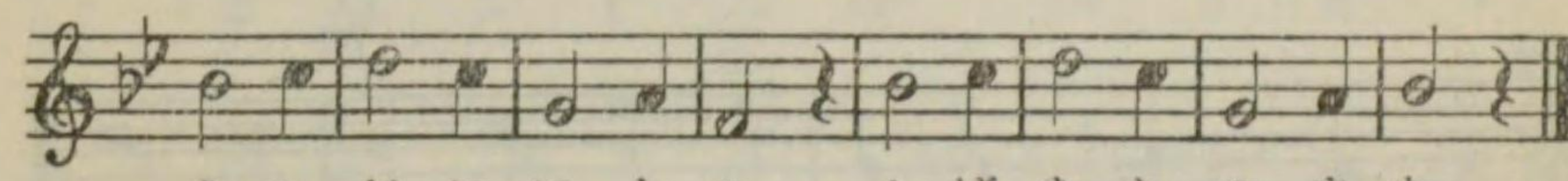
こーひにつつ あはむひーのたーめ



みたーすーけいのーる 1.わたのーはら



こーぎたむーふねの ゆふぐーれてー



うみぢにほしの かげをたのまな

三 いざみはは
のぞみの星と
ひかりな隠し

二 わがふねの
漕ぎの進みに
覆りもやせむ

一 わたのはら
漕ぎたむ舟の
うみ路に星の

(をりかへし)
一 わがみはは
御名懐かしみ
逢はむ日の爲

二 わが依れば
岩に觸り
君しあらずば

三 わがたまの
夕ぐれて
影をたのまな

二 戀ひにつつ
みたすけ祈る